

陸前高田市文化財調査報告第16集

門 前 貝 塚

—県道広田半島線の改修に伴う緊急発掘—

平成4年3月

岩手県大船渡土木事務所
陸前高田市教育委員会

陸前高田市文化財調査報告第16集

門 前 貝 塚

—県道広田半島線の改修に伴う緊急発掘—

発刊にあたり

門前貝塚は、明治33年日本考古学会において、岩手県沿岸及び気仙地区で最初に認知された記念すべき貝塚であります。この地域は縄文時代を知る上で重要な地域となっております。

門前貝塚は、縄文時代後期初頭の標式遺跡となっており昭和29年に盛岡市中央公民館によって発掘調査が行われ、その際に出土した縄文時代後期の土器に「門前式土器」と命名されております。標式遺跡は考古学上重要であり、その知名度は全国的なものとなっております。

今回の調査は、県道広田半島線の改良整備路線に門前貝塚が所在し、平成元年11月岩手県から発掘調査の委託を受け、大船渡土木事務所と調整をはかる一方、岩手県教育委員会文化課の指導を受けながら調査を行なったものであります。

門前貝塚からは「弓矢」の形をした配石遺構など縄文時代後期の遺物が数多く発見され、これまでの調査の成果を報告書としてまとめましたので、地域の方々や研究者の方々にご活用いただきますと共に文化財愛護思想の普及、啓蒙に役立てば幸いに存じます。

この調査に際しまして、常にご指導、ご協力をいただきました岩手県教育委員会文化課と地域の方々並びに作業に従事してくださった多くの方々に厚く御礼を申し上げます。また、学問的見地からご教示を賜りました名古屋大学教授、渡辺先生はじめ諸先生方に対し、深く感謝を申し上げますと共に今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成4年3月

陸前高田市教育委員会
教育長 大澤太郎

例　　言

1 本書は、岩手県陸前高田市小友町字門前地内に所在する門前貝塚の発掘調査概報である。

2 調査は、県道広田半島線の改修に伴う事前の緊急発掘で、大船渡土木事務所より依頼を受け、陸前高田市教育委員会社会教育課が担当した。調査期間、調査体制は次のとおりである。

調査期間　第一次調査 平成元年11月1日～平成元年12月6日

第二次調査 平成2年3月19日～平成2年12月17日

第三次調査 平成3年5月20日～平成3年7月9日

調査体制

団　長　陸前高田市教育委員会教育長　　大澤太郎

総　括　社会教育課長　佐々木幸雄（平成元年・平成2年）、及川清（平成3年）

事　務　局　同　課長補佐　村上安見　　同　主事　吉田功

　　同　臨時職員　金野妙子、佐藤アサ子

調査担当者　陸前高田市立博物館学芸員　佐藤正彦

調査補助員　佐々木睦男　高橋一成　村上武也　村上豊繁　松田啓司

3 野外調査・室内整理は佐藤が行った。

4 執筆は調査に至る経過は、佐々木が、他は佐藤が行った。

5 調査及び整理に際しては、次の方々のご指導、ご助言を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（順不同 敬称略）

渡辺誠　西本豊弘　高橋信雄　佐々木勝　熊谷常正　百々幸雄　木田雅彦　松村博文

細谷英男　菅原弘太郎　小田野哲憲　金野良一　遠藤勝博　菊池苞　中山雅之　熊谷賢

臼井順子

6 調査に際しては次の方々の協力をいただいた。（敬称略・50音順）

青山道子　石川マサ子　伊藤光子　上野節子　上野立子　及川敏江　及川トシ子　及川則子

及川米子　近江きよみ　小山典子　菅野一子　菅野春子　菅野禮子　黄川田澄子　金君子

金野留美　熊谷和美　細野志賀子　金野文　後藤悦子　佐々木恵美子　佐々木静子

佐々木俊子　佐々木伸子　佐々木睦男　佐藤アサ子　佐藤イチ子　佐藤勝俊　佐藤紀代子

佐藤多恵子　佐藤タカ子　佐藤たみ子　佐藤トミ　佐藤とも子　佐藤マサ　佐藤ヤス子

佐藤ヨシ子　菅原均　平カツミ　高橋一成　高橋ハチ子　高橋真理　千田礼子　千葉カズ子

千葉たか子　鳥羽攝　仲野フサ子　中野フチノ　畠山園枝　藤畠ミサオ　本多準一郎

松田啓司　水野龍子　村上カチヨ　村上スミ子　村上孝子　村上武也　村上豊繁　村上典子

村上秀子　村上美代　山口博史　山田美津子　吉田祥子　吉田ヨコ子　吉田安子

吉田ルリ子　渡辺和子

- 7 室内整理および報告書の作成にあたっては、次の方々の協力をいただいた。
- 青山道子 上野立子 及川敏江 及川トシ子 及川則子 小山典子 菅野春子 黄川田澄子
金野留美 熊谷和美 紺野志賀子 後藤悦子 佐々木静子 佐々木俊子 佐藤アサ子
佐藤勝俊 佐藤紀代子 佐藤多恵子 佐藤たみ子 佐藤とも子 高橋一成 千葉カズ子
千葉たか子 鳥羽攝 畑山園枝 松田啓司 村上武也 村上豊繁 村上典子 村上美代
吉田チヨ子 吉田ルリ子
- 8 下記の分析・鑑定は次の個人・機関に委託した。（敬称略）
- 石材鑑定 佐藤次郎（地質コンサルタント）
人骨 百々幸雄 木田雅彦 塙原恒彦 松村博文（札幌医科大学解剖学教室）
花粉分析 ジオサイエンス株式会社
動物遺存体 熊谷 賢
- 9 一部、概報の記載と異なるものがあるが、本書をもって正とする。
- 10 出土した資料があまりに膨大であるため、写真図版においては、主な遺物のみ掲載した。
また、写真図版では掲載したが、本文中で図化していない遺物もある。
- 11 掲載した土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著「新版標準土色帳」第4版によった。

目 次

発刊にあたり	G12-1 ビット	54
例 言	B13-1, C13-1 ビット	57
目 次	C13-2 ビット	60
I 調査に至る経過	D13-1, D13-2 ビット	61
II 調査と室内整理の方法	E13-1 ビット	63
III 遺跡の立地と環境	E13-2 ビット	65
1. 遺跡の位置と地形	F13-1 ビット	66
2. 基本層序	F13-2, F13-3 ビット	68
IV 発見された遺構	F13-4, G13-1 ビット	69
1. フラスコ型、ピーカー型、皿型ビット	G13-2 ビット	72
D 8-11・H 8-14 ビット	G13-3, G13-4 ビット	73
C 9-1 ビット	C14-1 ビット	74
F 9-1 ビット	D14-1 ビット	76
F 9-2, H 9-1 ビット	D14-2 ビット	77
A 10-1 ビット	E14-1 ビット	78
B 10-1 ビット	E14-2, F14-1, F14-2 ビット	79
C 10-1 ビット	F14-3 ビット	81
C 10-1, D 10-2 ビット	F14-4, F14-5 ビット	83
D 10-3, D 10-4 ビット	G14-1, G14-2, G14-3 ビット	85
F 10-1 ビット	H14-1, H14-2 ビット	87
B 11-1 ビット	H14-3 ビット	88
C 11-1 ビット	H14-4 ビット	90
C 11-2 ビット	H14-5 ビット	94
D 11-1 ビット	D15-1, D15-2 ビット	96
E 11-2 ビット	E15-1 ビット	97
E 11-3 ビット	E15-2, E15-3, E15-4	
E 11-4 ビット	F15-1 ビット	98
G 11-1 ビット	F15-2 ビット	99
B 12-1 ビット	C16-1, D16-1 ビット	101
B 12-2 ビット	E16-1 ビット	103
C 12-1 ビット	D17-1 ビット	104
C 12-2, 12-3 ビット	2. 柱穴状ビット群	115
C 12-4 ビット	3. 燃土遺構	121
F 12-1 ビット	19-2 燃土遺構	121
F 12-2 ビット	4. 溝状遺構	123

挿 図 目 次

H 6溝	123	第1図 岩手県図	4
H 8溝	125	第2図 門前貝塚位置図	5
E 9溝	127	第3図 通路分布図	6
F 11溝	129	第4図 門前貝塚地形図	7
I 13-1溝	133	第5図 土層柱状図	9
I 13-1ピット	142	第6図 遺構配置図	10
I 13-2溝	142	第7図 D 8-11, H 8-14ピット	12
5. 人骨	143	第8図 D 8-11ピット出土遺物	12
6号人骨	143	第9図 C 9-1ピット	13
8号人骨	143	第10図 C 9-1ピット出土遺物	13
12号人骨	143	第11図 F 9-1, F 9-2ピット	15
6. 配石遺構	143	第12図 F 9-1, F 9-2ピット出土	16
帶状の配石	144	第13図 H 9-1ピット	18
E 7集石	144	第14図 H 9-1ピット出土遺物	19
列状の配石	145	第15図 A 10-1ピット	19
大型礫	145	第16図 B 10-1ピット	21
G 7大型礫	145	第17図 B 10-1ピット出土遺物	21
E 9大型礫	147	第18図 C 10-1ピット	22
C 8大型礫	147	第19図 C 10-1ピット出土遺物	22
弓矢状の配石	147	第20図 D 10-1, D 10-2, D 10-3,	
V. 出土遺物	150	D 10-4ピット	23
1. 土器	150	第21図 D 10-1ピット出土遺物	24
2. 土製品	153	第22図 D 10-2ピット出土遺物	24
3. 石器	164	第23図 F 10-1ピット	27
付編		第24図 F 10-1ピット出土遺物	27
門前貝塚出土人骨 1990年度資料	224	第25図 B 11-1ピット	28
門前貝塚出土人骨 1991年度資料	237	第26図 C 11-1ピット	29
門前貝塚出土人骨(9号・12号)		第27図 C 11-1ピット出土遺物	29
の歯について	251	第28図 C 11-1ピット	31
花粉分析・珪藻分析	255	第29図 D 11-1ピット	31
		第30図 D 11-1ピット出土遺物	32
		第31図 E 11-2, E 11-4ピット	33
		第32図 E 11-2ピット出土遺物	36
		第33図 E 11-2ピット出土遺物	37
		第34図 E 11-2ピット出土遺物	38

第35図 E11-3 ピット	38	第69図 F13-1 ピット出土遺物	68
第36図 E11-3 ピット出土遺物	39	第70図 F13-2 ピット出土遺物	68
第37図 E11-3 ピット出土遺物	40	第71図 F13-3 ピット出土遺物	69
第38図 E11-4 ピット出土遺物	42	第72図 F13-4 ピット出土遺物	69
第39図 E11-4 ピット出土遺物	43	第73図 G13-1, G13-2, G13-3, G13-4 ピット	70
第40図 G11-1 ピット	43	第74図 G13-2 ピット出土遺物	73
第41図 G1-1 ピット出土遺物	44	第75図 G13-3 ピット出土遺物	73
第42図 B12-1 ピット	45	第76図 G13-4 ピット 3号人骨検出状況	
第43図 B12-2 ピット	46	第77図 G13-4 ピット出土遺物	74
第44図 B12-2 ピット出土遺物	47	第78図 C14-1 ピット	75
第45図 C12-1, C12-2 ピット	47	第79図 C14-1 ピット出土遺物	76
第46図 C12-1 ピット出土遺物	49	第80図 D14-1 ピット	76
第47図 C12-3 ピット	50	第81図 D14-2 ピット	77
第48図 C12-4 ピット	51	第82図 E14-1 ピット	77
第49図 C12-4 ピット出土遺物	51	第83図 E14-1 ピット出土遺物	78
第50図 F12-1 ピット	52	第84図 E14-2 ピット	78
第51図 F12-1 ピット出土遺物	52	第85図 E14-2 ピット出土遺物	79
第52図 F12-2 ピット	53	第86図 F14-1, F14-2, F14-4 ピット	80
第53図 F12-2 ピット出土遺物	53	第87図 F14-1 ピット 2号人骨検出状況	81
第54図 G12-1 ピット	54	第88図 F14-2 ピット出土遺物	82
第55図 G12-1 ピット出土遺物	56	第89図 F14-3 ピット	82
第56図 G12-1 ピット出土遺物	57	第90図 F14-5 ピット	83
第57図 B13-1 ピット	57	第91図 F14-5 ピット出土遺物	84
第58図 C13-1, C13-2	58	第92図 G14-1 ピット	84
第59図 C13-1 ピット出土遺物	59	第93図 G14-1 ピット出土遺物	85
第60図 C13-2 ピット出土遺物	60	第94図 G14-2, H14-1, H14-2 ピット	86
第61図 D13-1 ピット	60	第95図 G14-3 ピット	87
第62図 D13-2 ピット	61	第96図 H14-2 ピット出土遺物	88
第63図 D13-2 出土遺物	63	第97図 H14-3 ピット、7号, 9号人骨検出状況	89
第64図 E13-1 ピット	63		
第65図 E13-1 ピット出土遺物	64		
第66図 E13-2 ピット	65		
第67図 E13-2 ピット出土遺物	65		
第68図 F13-1, F13-2, F13-3, F13-4 ピット	66		

第98図 H14-3 ピット出土遺物	90	I 13-1 ピット	136
第99図 H14-4, H14-5 ピット	91	第131図 貝層の抜がり	137
第100図 H14-4 ピット出土遺物	93	第132図 I 13-1溝出土遺物	141
第101図 H14-5 ピット出土遺物	94	第133図 I 13-1, I 13-2溝出土遺物	
第102図 D15-1, D15-2 ピット	95		142
第103図 E15-1, E15-3, E15-4, F15-1 ピット	96	第134図 12号人骨及び出土骨角器	143
第104図 E15-2 ピット	97	第135図 E 7 集石	145
第105図 E15-2 ピット出土遺物	98	第136図 列状の配石, G 7 大型礫, E 9 大型礫	
第106図 F15-1 ピット出土遺物	99	第137図 C 8 大型礫	146
第107図 F15-2 ピット	100	第138図 弓矢状配石出土石器	147
第108図 F15-2 ピット出土遺物	100	第139図 弓矢状配石	148
第109図 C16-1, D16-1 ピット	101	第140図 II層出土土器	154
第110図 D16-1 ピット出土遺物	102	第141図 II層出土土器	155
第111図 E16-1 ピット	103	第142図 II層外出土土器	156
第112図 D17-1 ピット及び4号人骨検出状況		第143図 II層外出土土器	157
	104	第144図 II層出土土器	158
第113図 柱穴状ピット群	105	第145図 II層出土土器	159
第114図 柱穴状ピット群	106	第146図 II層出土・II層外出土土器	160
第115図 柱穴状ピット群	107	第147図 II層外出土土器	161
第116図 柱穴状ピット群	108	第148図 II層外出土土器	162
第117図 柱穴状ピット群	109	第149図 II層外出土土器, II層,	
第118図 柱穴状ピット群	110	II層外出土製品	163
第119図 柱穴状ピット出土遺物	118	第150図 石錐分類図	166
第120図 柱穴状ピット出土遺物	119	第151図 石錐分類別長さ、幅相関図	168
第121図 I 9-2 烧土遺構	121		
第122図 I 9-2 烧土遺構出土遺物	122		
第123図 H 6 溝出土遺物	123		
第124図 H 6, H 8 溝	124		
第125図 H 8 溝出土遺物	126		
第126図 E 9 溝出土遺物	127		
第127図 E 9 溝, F 11 溝	128		
第128図 F 11 溝出土遺物	131		
第129図 F 11 溝出土遺物	132		
第130図 I 13-1, I 13-2 溝			

表

第1表 D 8-11, H 8-14, C 9-1 ピット	14	第32表 D 14-1 ピット	77
			第33表 D 14-2 ピット	77
第2表 F 9-1, F 9-2 ピット	17	第34表 E 14-1 ピット	78
第3表 H 9-1, A 10-1 ピット	20	第35表 E 14-2 ピット	79
第4表 B 10-1 ピット	22	第36表 F 14-1, F 14-2, F 14-4 ピット		
第5表 C 10-1 ピット	23			80
第6表 D 10-1, D 10-2, D 10-3,			第37表 F 14-3 ピット	83
D 10-4 ピット	25	第38表 F 14-5 ピット	84
第7表 F 10-1 ピット	27	第39表 G 14-1 ピット	85
第8表 B 11-1 ピット	28	第40表 G 14-2, H 14-1, H 14-2 ピット		
第9表 C 11-1 ピット	30			86
第10表 C 11-2 ピット	31	第41表 G 14-3 ピット	87
第11表 D 11-1 ピット	32	第42表 H 14-3 ピット	90
第12表 E 11-2, E 11-4 ピット	33	第43表 H 14-4, H 14-5 ピット	91
第13表 E 11-3 ピット	38	第44表-1 貝層	92
第14表 G 11-1 ピット	44	第44表-2 貝層	92
第15表 B 12-1 ピット	45	第44表-3 貝層	92
第16表 B 12-2 ピット	46	第45表 D 15-1, D 15-2 ピット	95
第17表 C 12-1, C 12-2 ピット	48	第46表 E 15-1, E 15-3, E 15-4,		
第18表 C 12-3 ピット	50	F 15-1 ピット	97
第19表 C 12-4 ピット	51	第47表 E 15-2 ピット	97
第20表 F 12-1 ピット	52	第48表 F 15-2 ピット	100
第21表 F 12-2 ピット	53	第49表 C 16-1, D 16-1 ピット	102
第22表 G 12-1 ピット	54	第50表 E 16-1 ピット	103
第23表 B 13-1 ピット	58	第51表 D 17-1 ピット	104
第24表 C 13-2, C 13-1 ピット	59	第52表 柱穴状ピット	111
第25表 D 13-1 ピット	61	第53表 I 9-2 ピット焼土遺構	122
第26表 D 13-2 ピット	62	第54表 H 6溝, H 8溝	124
第27表 E 13-1 ピット	64	第55表 F 11溝	128
第28表 E 13-2 ピット	65	第56表 I 13-1, I 13-2溝	137
第29表 F 13-1, F 13-2, F 13-3,			第57表-1 201層出土魚骨	137
F 13-4 ピット	67	第57表-2 203層出土魚骨	137
第30表 G 13-1, G 13-2, G 13-3,			第57表-3 205層出土魚骨	138
G 13-4 ピット	71	第57表-4 206層出土魚骨	138
第31表 C 14-1 ピット	75	第57表-5 204層出土魚骨	138

第57表－6	250 層出土魚骨	138
第57表－7	209 層出土魚骨	138
第57表－8	207 層出土魚骨	139
第57表－9	208 層出土魚骨	139
第57表－10	210 層出土魚骨	139
第57表－11	211 層出土魚骨	139
第57表－12	貝層出土動物遺存体	139
第57表－13	I 13-1 ピット出土魚類	139
第57表－14	I 13-1 溝出土貝	140
第57表－15	貝層フルイ分析結果	140
第58表	配石群出土櫛	144
第59表	B 7 集石	145
第60表	出土石器一覧表	164
第61表	有茎繖分類表	165
第62表	凹基繖分類表	167
第63表	平基繖分類	167
第64表	円基繖分類表	167
第65表	尖基繖分類表	167
第66表	石質分類表	169
第67表	尖頭器分類表	169

付図1 配石遺構群

I 調査に至る経過

- 平成元年3月 県道広田半島線は小友町門前貝塚を縦断しているが、地域住民の生活主要道路として利用されている。そのため道路の改良が地区住民の永年の要望であったことから、緊急地方整備工事が施行されることに伴い岩手県大船渡土木事務所長より当教育委員会に発掘調査依頼申し出があった。
- 平成元年4月20日 埋蔵文化財発掘の通知が岩手県知事から提出があった。
- 平成元年5月26日 岩手県教育委員会教育長より発掘調査通知があった。同日大船渡土木事務所と調査について協議した。
- 平成元年6月14日 現地にて大船渡土木事務所長と調査方法等について確認した。
- 平成元年10月9日 大船渡土木事務所長より門前貝塚発掘調査依頼があった。
- 平成元年10月13日 岩手県教育委員会教育長へ埋蔵文化財発掘調査の通知をした。
- 平成元年11月1日 大船渡土木事務所長と発掘調査委託契約を締結し同日より調査を開始した。
- 平成元年11月21日 岩手県教育委員会事務局文化課から調査方法等について現地指導を受けた。
- 平成2年4月1日 調査未了分について、大船渡土木事務所長と発掘調査委託契約を締結した。同日より平成2年度分の調査を開始した。
- 平成2年度において札幌医科大学松村博文先生、岩手県教育委員会事務局文化課文化財主査佐々木勝先生、国立歴史民俗博物館助教授西本豊弘先生、名古屋大学文学部教授渡辺誠先生の指導を受けた。
- 平成2年12月20日 地元からの要望により、検出した遺構のうち弓矢状配石、大型礫、フ拉斯コ型ピット等、埋め戻し保存を決定した。
- 平成3年3月31日 県道広田半島線緊急地方整備工事に伴う門前貝塚発掘調査の平成元年度及び平成2年度分の発掘結果を、『門前貝塚発掘調査概報』として発刊した。
- 平成3年度の発掘は、現道部分を調査対象とし、平成3年5月20日～7月9日まで行った。

(佐々木 幸 雄)

II 調査と室内整理の方法

1 調査方法

- (1) 調査区域は、改修部分の遺跡の西側斜面とその下部の平坦面と、現道で削平される部分を対象とし、現道で畑地に代替えされる部分と、現道で盛り土によって取りつけ道路となる部分に関しては、調査から除外した。調査面積はおよそ1200m²で、ほぼ三角形状の調査区である。
- (2) 基軸線の設定は、県道広田半島線の改修部分が直線であるため、道路の任意の中心杭を原点とし、それと他の中心杭の2点間を結んだ直線と、原点に直交する直線を基軸線とした。中心杭を結んだ基軸線は北より約37°東偏している。グリットの設定は、基軸線をもとに3m四方の調査区を設け、北西から南東にA～Kのアルファベットを、南西から北東を1～28のアラビア数字によって線の名称とし、各区画内における北西方向の交点によりA1・B1・C1というように表わした。

座標はX=-112, 019. 66 X=-112, 086. 63

Y= 75, 682. 61 Y= 75, 729. 15

H= 8. 158 H= 9. 376 である

- (3) 遺物の取り上げは原則として、配石遺構群を除く遺構内出土のものは、遺跡記号(MZ)、出土年月日、遺構名、出土層位を記録のうえ取り上げた。配石遺構群及び、遺構外出土の遺物はグリットごとに、遺跡記号、出土年月日、出土層位を記録の上取り上げた。グリット名は、各グリットの北に位置する杭の番号を用いた。

出土遺物のうち、攢乱層出土のものと、土器細片を除く遺物は、原則として、平面図や遺物カードに、出土レベル、位置、層位を付して取り上げた。また、石鏡、石錐については、主軸方向も記録のうえ取り上げた。

貝層出土の土は、分析のためすべて土嚢袋に入れ、持ち帰った。

- (4) 遺構の番号は、発掘時においては通し番号により遺構名を冠し、整理の段階で、グリットごとの番号に変更した。
- (5) 写真記録は、35mm版モノクロ、カラースライド、6×7cmモノクロ、カラースライドを用い、重要なものについてはビデオでの記録にもつとめた。

2 室内整理

(1)土器・土製品

発掘調査後、室内に持ち帰り整理をおこなった。ダンボール箱で約200箱程度の出土量がある。水洗後、各遺物に注記を行ない、復元、拓本、実測、写真撮影の手順で整理をおこなった。

(2)石器

発掘現場において、調査に並行して水洗、フレーク類からの石器の抜き取り、台帳登録をおこなった。発掘終了後、室内においては実測、計測、写真撮影を行なった。石器は、6000点を越える出土が有り、データーはすべてコンピューターに入力し、管理した。

(3)骨角器・動物依存体

貝層の土はすべて土嚢に入れ持ち帰った。水洗後、骨角器、骨の抜き取りを行ない、実測、同定を行なった。脆い骨については、パラロイドや水性ボンドを用いて、補強した。

(4)図面

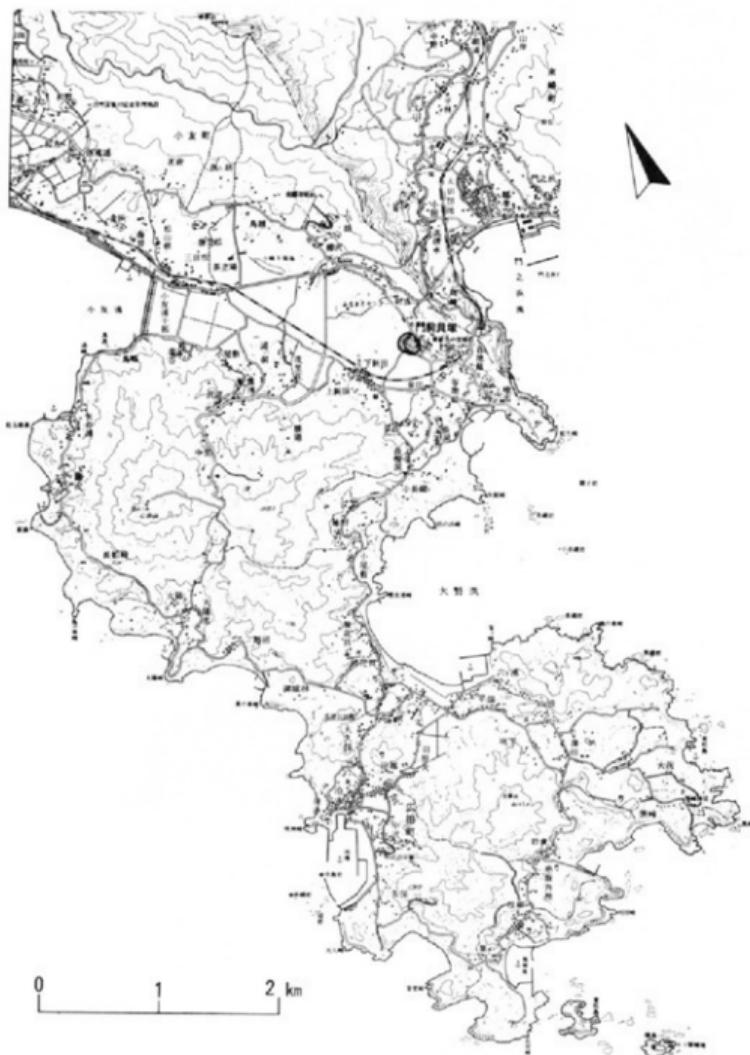
図面は登録番号を付した後、トレース、コピーにより第二原図を作成し、それを用いた。

(5)写真

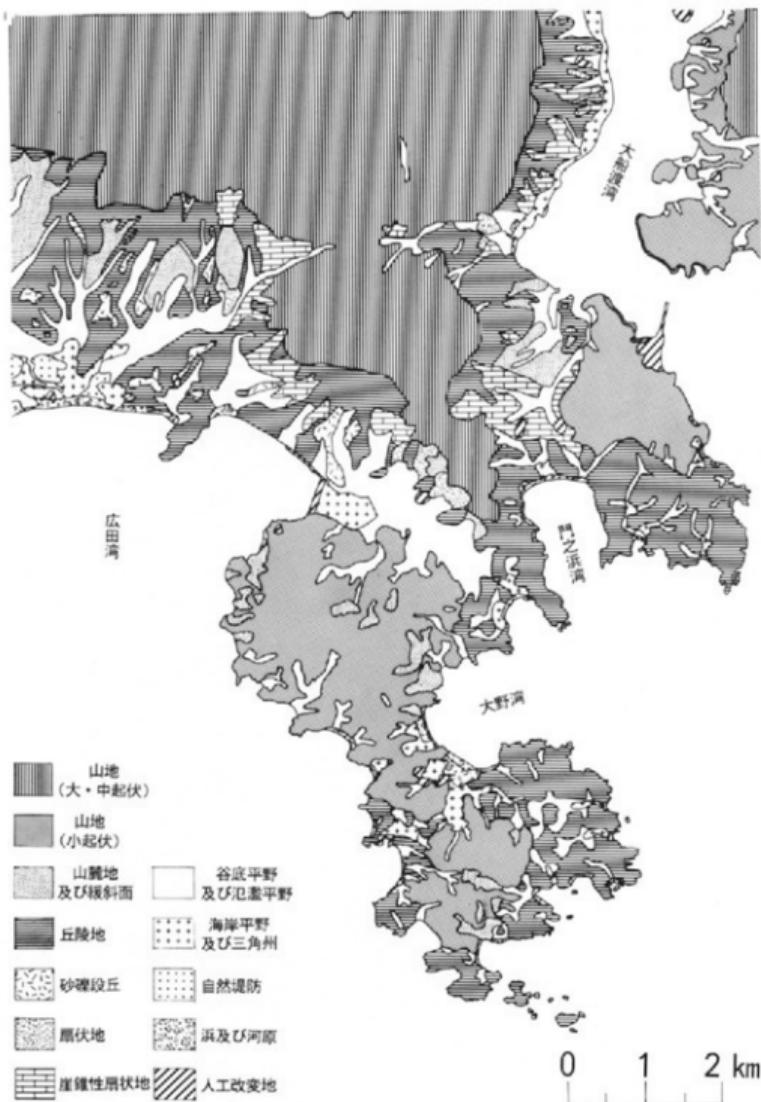
写真はネガと密着焼き付けのものをアルバムに貼付し整理した。



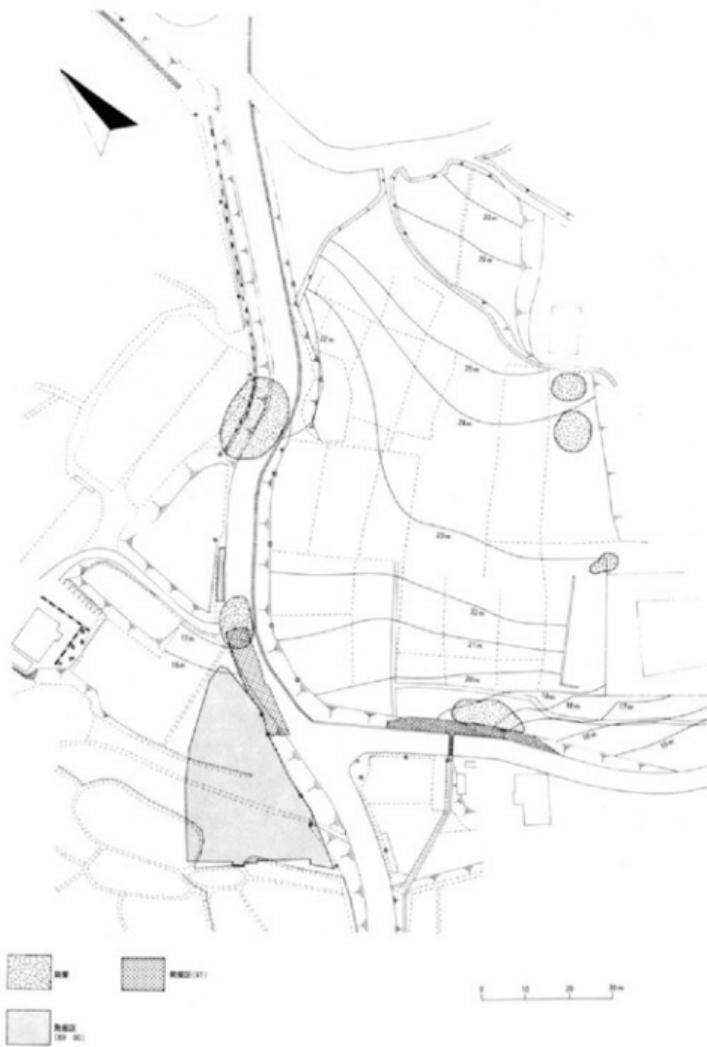
第1図 岩手県図



第2図 門前貝塚位置図



第3図 遺跡分布図



第4図 門前貝塚地形図

III 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と地形

門前貝塚は、岩手県陸前高田市小友町字門前地内に所在し、JR大船渡線小友駅より北東へ約500mの地点に位置している。

陸前高田市は、岩手県の東南端、東経 $141^{\circ}44'$ ～ $141^{\circ}28'$ 、北緯 $38^{\circ}56'$ ～ $39^{\circ}07'$ の範囲に位置し、宮城県に隣接している。市境は、南は宮城県本吉郡唐桑町及び気仙沼市と、西は岩手県東磐井郡大東町、北は同気仙郡住田町、東は同大船渡市と隣接し、東南は太平洋に面している。

地勢を概観すると、周辺の海岸線は、リアス式海岸特有の複雑な海岸線をなし、本市においては市域の東側に位置する広田半島が東南方向の太平洋に大きく突き出し、西方には、湾口部約3.5km、湾奥まで約7kmの逆U字状の広田湾を作っている。この広田湾の湾奥部は、住田町北境の土倉峰に源を発し、北上山地の山並みをめうように南流する総延長40kmの気仙川が注ぎ、河口付近には沖積層の低地帯を作り、現在では市街地が形成されている。市街地の後背には北上山地の東南部に当たる水上山(874.7m)、箱根山(446.8m)、原台山(897.7m)などの起伏量の少ない山々がそびえ、場所によっては緩やかな斜面が海岸線までせり出している。遺跡は、市街地東部の大船渡市との境界にそびえる箱根山(446.8m)より東南方向に張り出す丘陵の先端部の西側小丘陵上に位置している。その前面には、広田半島とを区切るように、北西から南東方向に広がる幅500m、長さ3km程の標高7m以下の沖積部の低地帯が広がっている。低地帯は現在では水田、畠地に利用されているが、この沖積部には、ヨシ等の植物遺存体が多量に埋没しており、縄文時代においては遺跡の前面まで海が湾入りし、広田半島は島であったと考えられている。

遺跡の載る小丘陵は、標高8～25mである。縄文時代における集落は、標高20～25mの南北130m・東西100mの平坦地に埋蔵しているものと予想され、貝塚は平坦地の周縁を巡るように6箇所点在している。土地の利用状況は畠地、水田、宅地、県道である。

調査は、遺跡の西側の、県道広田半島線の下側斜面の標高9mから16mの地点をおこなった。該区は、昭和29年吉田義昭氏によって調査された第5号貝塚の西側斜面に位置する地点である。(1960年：吉田) 調査期間は、第一次が1989年11月1日から1989年12月6日、第二次が1990年3月19日から1990年12月17日で、第三次が1991年5月20日～7月9日で、調査面積は約1200m²である。

2 基本層序（第5図）

発掘区は、遺跡の西側の標高9mから16mの斜面に位置している。そのため、斜面の上位では土の流失が著しく、地山面までの層厚が20cm程度と浅く、比較的単純な層の堆積状況を示している。これに対し下位においては、上位からの土の堆積により地山面までの層厚が最大3mと非常に厚く、複雑な堆積状況をなしているが、概括するとV層に大別される。基本的な層区分は以下のとおりである。

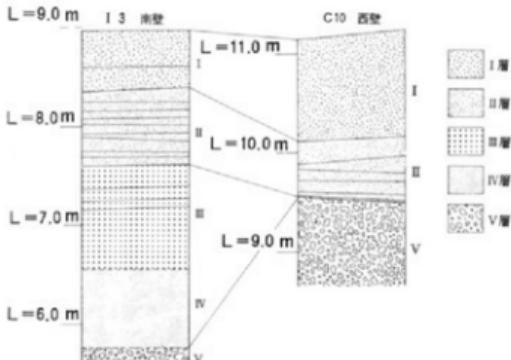
第I層 表土ないし耕作土。斜面の上位では層厚10~20cmであるが、下位では上位からの土の堆積により最大厚1mに達する地点もみられる。色調はにぶい黄褐色から褐色で、粘性ではなく、まさを多く含んでいる。遺物は、石器・土器細片を多量に含む。

第II層 斜面の中位から下位にかけて分布する。配石遺構の検出層で、土器・土製品・石器などの遺物が多量に出土した。色調は黒褐色から黒色で、粘性ではなく、まさを含みバサバサしている。最大厚は80cm程度である。

第III層 斜面の中位から下位にかけて検出した。下位ではグライ化しており、湧水が著しい。柱穴状ピットの検出層である。遺物は、土器・石器が多く出土し、若干であるが骨角器や動物遺存体も出土している。色調は黄褐色から灰白色を呈しており、概してシルト質の層であるが、部分的に砂の層も見られる。層厚は、最大厚1m程度である。

第IV層 無遺物層で、フラスコ型ピットの検出層である。斜面の上位では層厚10cmと非常に浅いが、下位では最大厚70cm程度である。色調は、黄褐色・黒色があり、黄褐色土は斜面の上位から中位に、黒色土は斜面の下位に発達している。湧水が著しい。

第V層 地山である。花崗岩の基盤で、フラスコ型ピットの検出層である。湧水が著しい。



第5図 土層柱状図



第6図 遺構配置図

IV 発見された遺構（第6図・写真図版3）

発掘調査の結果、縄文時代中期末から後期の遺構が多数発見された。その概要は下記のとおりである。

フラスコ型ピット	62	基	皿型ピット	9	基
ビーカー型ピット	5	基	溝	5	条
柱穴状ピット	168	基	配石遺構	1	群
埋甕遺構	1	基	焼土遺構	1	基

1 フラスコ型、ビーカー型、皿型ピット

D 8-11ピット（第7図-1・第1表・写真図版4-1）

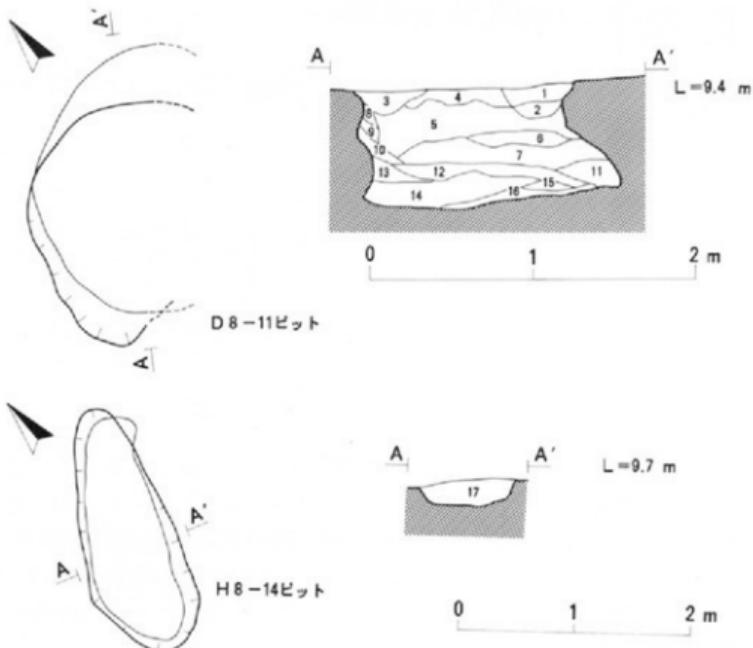
C 7・C 8・D 7・D 8グリットの地山面において検出した。C 9-1ピットの南側1mの地点にある。東側半分が発掘時におけるトレーナーのため破壊されており、平面形は不明である。断面形は、頸部で一度縮まり、頸部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、残存する開口部径は136cm土で、底部径は130cm土である。深さは西壁最深部で96cm土を測る。埋土は16層からなり自然堆積状況を示す。

[遺物]（第8図1～3、写真図版第22）

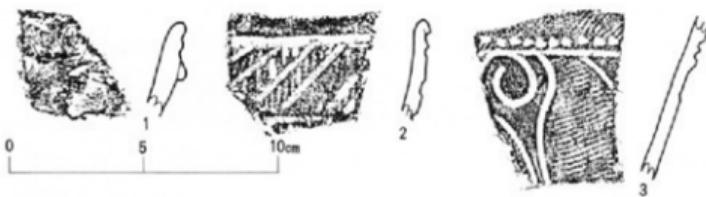
埋土中より、土器片17点が出土した。3点を図示した。1は深鉢の口縁部片である。口縁は外傾し、口唇部直下まで沈線・刺突文・刻みを有する隆線により文様が施される。胎土に粗砂を多量に含む。2は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は複合口縁をなし、内削ぎが施され、内反ぎみに立ち上がる。文様は、口唇部直下に横位沈線が巡り、横位沈線から幅1cm間隔で斜め沈線が施されている。斜め沈線間には、磨消縄文・継位沈線が施されている。胎土は細砂を多量に含む。内面には少量のタール状の付着物がみられる。3は深鉢の体部片である。刺突文・沈線・磨消縄文によって文様が意匠される。刺突文は横位沈線に沿って施文される。この横位沈線からは継位に磨消縄文と沈線による曲線文が展開している。縄文原体は結節のこまいR Lの斜縄文で継位・斜めに施文している。

H 8-14ピット（第7図-2・第1表・写真図版4-2）

H 8グリットのIV層上面において検出した。I 9-2ピットより西へ1mの地点にある。平面形は、梢円形を呈し、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部径長軸110cm土・短軸40



第7図 D8-11ピット・H8-14ピット



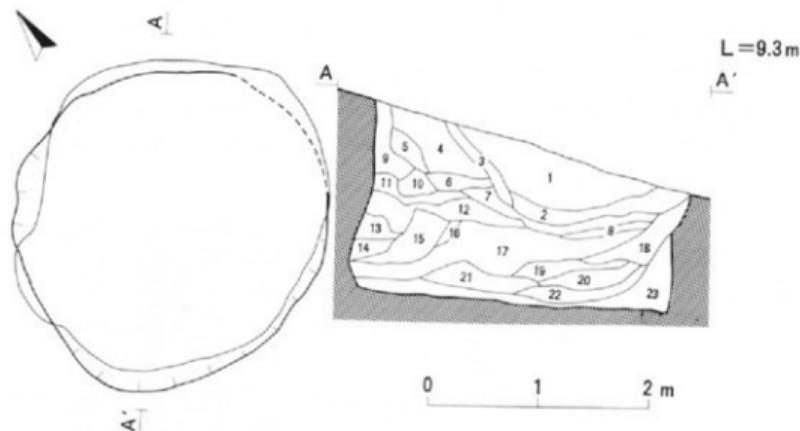
第8図 D8-11ピット出土遺物

cm土、底部径長軸100cm±・短軸34cm±で、深さは北壁最深部で30cmを測る。埋土は一層からなり色調は、にぶい黄褐色土である。

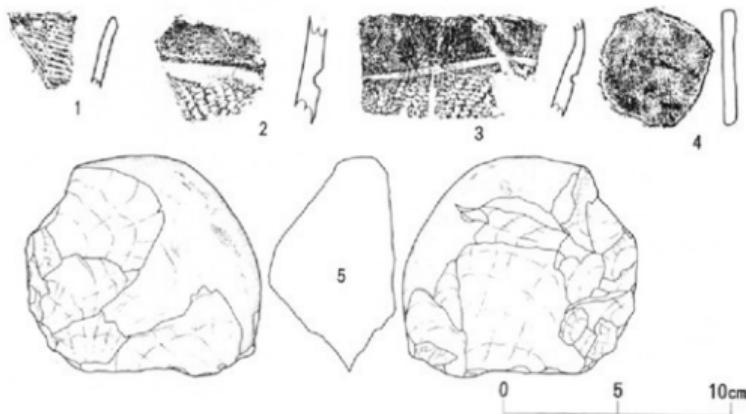
遺物の出土はない。

C9-1ピット（第9図・第1表・写真図版4-3）

C9グリットのIV層上面において検出した。D8-1-1ピットより北へ1mの地点に位置す



第9図 C 9-1 ピット



第10図 C 9-1 ピット出土遺物

る。平面形は円形を呈し、断面形は、南西壁では中位で一度縮まり、中位から底部にかけて直壁し、北東壁では開口部から中位にかけて直壁し、中位から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈し底部付近で縮まっている。規模は、開口部径215cm土・底部径220cm土で、深さは北壁最深部で121cm土を測る。埋土は23層からなり、上位では人為的な堆積状況を示す。

〔遺物〕(第10図1~4・写真図版22)

出土した遺物は、土器・土製品・石器がある。

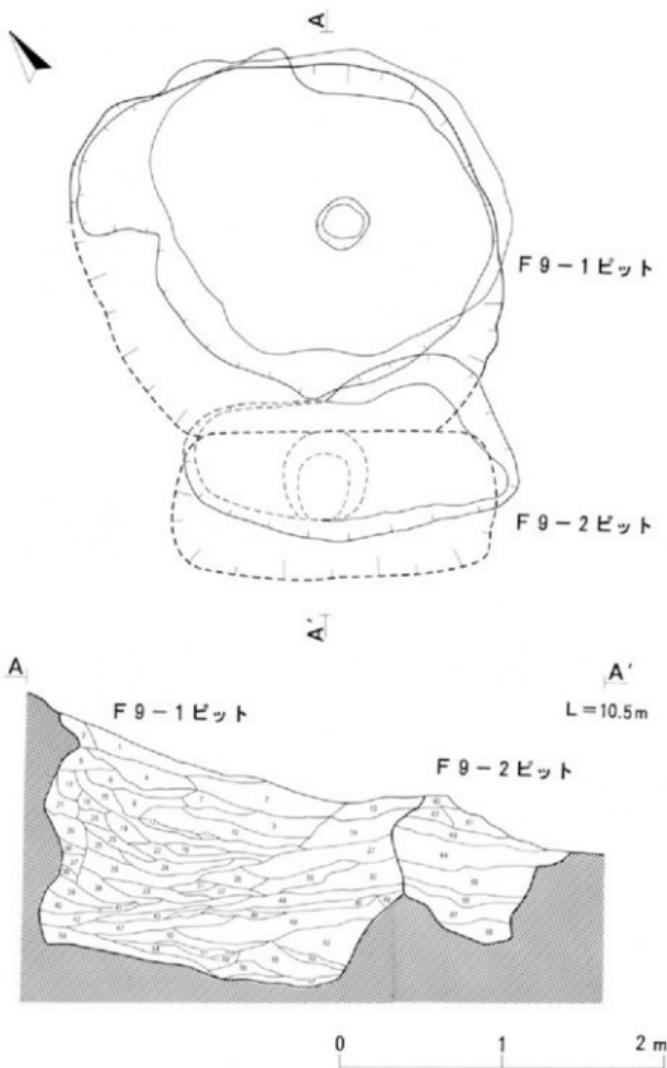
土器は、埋土中より土器片67点（うち底部2点）を得た。3点を図示した。1は平縁の深鉢の口縁部片である。口縁は外傾ぎみに立ち上がる。口唇部直下まで横位・斜めの斜繩文（LR）が施文される。2・3は深鉢の体部片である。2は沈線・磨消繩文により、3は沈線・隆線・充填繩文により文様を施文している。土製品は土製円盤2点が出土した。1点のみ図示した。石器は砾石器1点が出土した。（4）両面、自然面と一次剥離痕を大きく残し、刃部は直線的に造りだされ、片面にのみ使用痕が認められる。

第1表 DB-11ピット、H8-14ピット

番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	10YR4/3褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含まず。	3	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
2	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含まず。	4	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
3	10YR5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	5	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
4	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	6	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
5	10YR5/8黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	7	10YR4/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
6	10YR5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	8	10YR4/1褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
7	10YR5/8黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	9	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
8	10YR4/3褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	10	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
9	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	11	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
10	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	12	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
11	10YR4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	13	10YR5/4に bei 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
12	10YR4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	14	10YR5/4に bei 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
13	10YR4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	15	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
14	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	16	10YR3/2暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
15	10YR4/3に bei 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。確有り。粘性少々有り。やや固くしまる。まさを少量含む。	17	10YR6/4に bei 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。確有り。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
16	10YR5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性少々有り。固くしまる。まさを少量含む。	18	10YR3/2暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
17	10YR4/3に bei 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性少々有り。秋い。まさを少量含む。	19	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
			20	10YR5/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
			21	10YR4/1褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
			22	10YR5/1褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
			23	10YR6/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性少々有り。やや固くしまる。まさを少量含む。

F9-1ピット（第11図・第2表・写真図版4-4, 5）

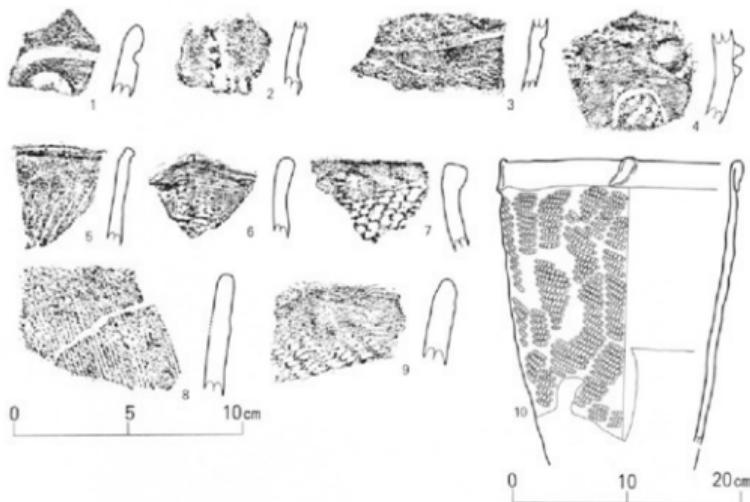
F9・G9グリットの地山面において検出した。F9-2ピットによって南壁が切られる。平面形は梢円形を呈し、断面形は北壁では頸部で一度縮まり、頸部から底部にかけて抉りのあるフ拉斯コ状を呈している。底面中央部に開口部径34cm土・底部径25cm土・深さ11cm土の小穴を有している。規模は、開口部径長軸283cm土・短軸211cm土、底部径長軸228cm土・短軸180cm土で、深さは北壁最深部で143cm土を測る。埋土は58層からなり、自然堆積である。



第11図 F9-1・F9-2 ピット

[遺物] (第12図・写真図版22)

埋土中より土器片282片(底部9点)と、口縁部から体部下半にかけての資料を得た。10点を図示した。1・5～9は口縁部資料である。口縁は1・6が波状口縁をなし、他は平縁をなす。口縁部は6が外反、7は内反、他は外傾するが、5は口唇部付近で「く」の字状に外側に折れ曲がり、7では口唇を肥厚させている。文様は1・3では沈線文、4では沈線文とボタン状の貼付文を、2では刻みを有する貼付文を施している。他は、地文のみである。10は平縁深鉢である。口縁部から体部下半にかけて残存する。埋土の上位より出土した。器形は口唇部で最大幅をとる綫長の深鉢で、計測値は器高27cm、最大幅20.5cm、器厚0.5cmである。口縁は複合口縁をなし、小突起が4個つき、口唇部には内削ぎがみられる。文様は、口縁部には小突起より「ノ」の字状の貼付文が垂下し、体部には斜繩文(LR)が施文される。調整はやや難である。胎土中に多くの粗砂を含む。



第12図 F 9-1 ピット出土遺物

第2表 F9-1 ビット

F9-2 ピット

10Y R4/4褐色	艶土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
10Y R4/4暗褐色	艶土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
10Y R3/4暗褐色	艶土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
10Y R3/3暗褐色	艶土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
10Y R3/3暗褐色	艶土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。

層番	土色	備考	層番	土色	備考
65	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少種含む。	67	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少種含む。
66	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少種含むG。	68	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少種含む。

F 9-2 ピット（第11図・第2表・写真図版4-4）

F 7・F 8・G 7・G 8 グリットのIV層上面で検出した。F 9-1 ピットを切る。平面形は楕円形を呈し、断面形は南壁ではなだらかに傾斜しており、北壁では抉りがみられフラスコ状を呈している。規模は、発掘時における掘りすぎのため不明である。残存する壁高は65cm土を測る。埋土は9層からなり、自然堆積である。

埋土中より土器片11点（うち底部1点）が出土したが、細片のため剖愛した。

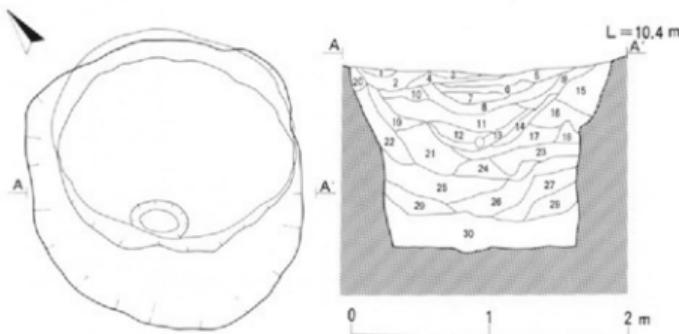
H 9-1 ピット（第13図・第3表・写真図版4-6, 7）

H 9・H 10グリットの地山面で検出した。H 8-14ピットより北へ1.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は、東壁と西壁では、開口部から中位にかけてゆるやかに傾斜し、中位から底部にかけて直壁状に立ち上がっている。北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の南壁寄りに開口部径長軸43cm土・短軸22cm土、底部径長軸28cm土・短軸15cm土、深さ10cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径223cm土・底部径180cm土で、深さは北壁最深部で160cm土を測る。埋土は30層からなり、すべて自然堆積である。

〔遺物〕（第14図・写真図版22）

出土した遺物は土器・石器がある。

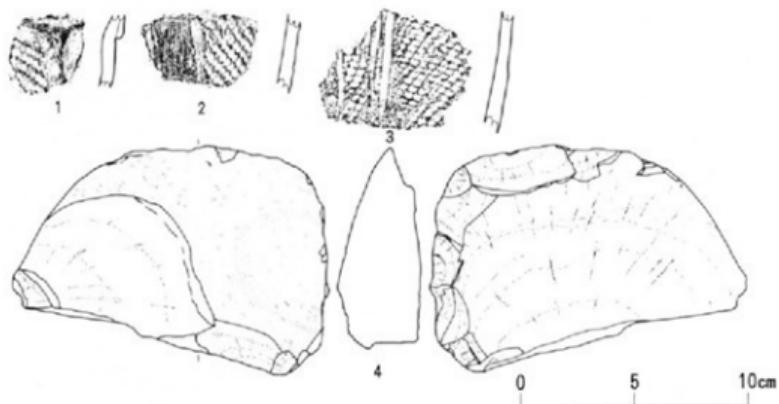
土器は、埋土中より土器片285点（底部9点）を得た。細片のため器形を知りうる資料はな



第13図 H 9-1 ピット

い。3点を図示した。ともに体部資料である。小破片のためモチーフは不明であるが、1は隆沈線により、2は沈線により、3は沈線と磨消縄文により文様を意匠している。

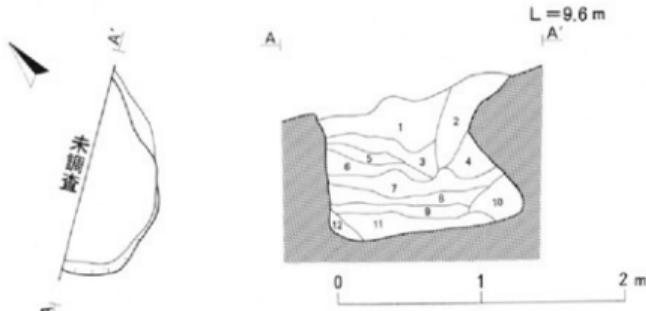
石器は礫石器1点が出土している。片面に自然面を大きく残す。刃部は片刃で、二辺に施されている。



第14図 H9-1ピット出土遺物

A 10-1ピット（第15図・第3表・写真図版4-8）

A 10グリットの地山面において検出した。2/3は未調査区へとひろがる。B 10-1ピットより西へ0.5mの地点にある。平面形は不明で、断面形は西壁では直壁ぎみに立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部



第15図 A 10-1ピット

で49cm土を測る。埋土は12層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。

第3表 H9-1ピット

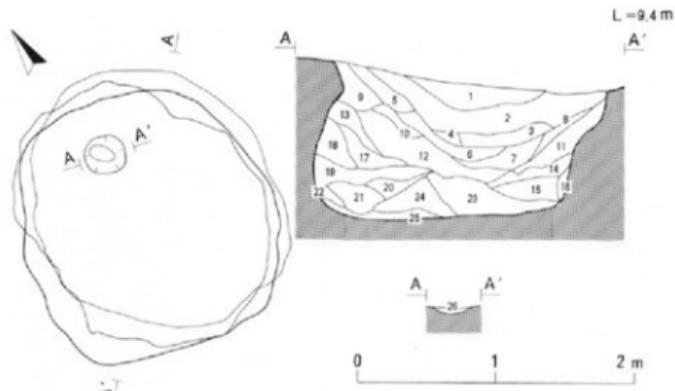
層No	土 色	備 考	層No	土 色	備 考
1	10Y R4/5暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを多量含む。	22	10Y R5/8黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。
2	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。	23	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを多量含む。
3	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。	24	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くする。まさが少量混入する。
4	10Y R3/3暗褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを少量含む。	25	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性少々 育り。軟い。まさを少量含む。
5	10Y R2/3黒褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性少々 育り。軟い。まさを少量含む。	26	10Y R5/3に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性少々 育り。軟い。まさを少量含む。
6	10Y R3/3暗褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性少々 育り。軟い。まさを少量含む。	27	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。
7	10Y R5/4に近い 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性少々 育り。軟い。まさを多量含む。	28	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。
8	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性少々 育り。やや固くする。まさを多量含む。	29	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物を微量含む。粘性なし。軟い。 まさを多量含む。
9	10Y R3/3暗褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性少々 育り。やや固くする。まさを多量含む。	30	10Y R3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを多量含む。
10	10Y R5/5黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを多量含む。			
11	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。			
12	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。レキ有り。 粘性なし。やや固くする。まさを多量含む。			
13	10Y R4/5褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。レキ有り。 粘性少々育り。軟い。まさを少量含む。			
14	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを少量含む。			
15	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。レキ有り。 粘性なし。やや固くする。まさを多量含む。			
16	10Y R6/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。			
17	10Y R6/4に近い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。			
18	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。			
19	10Y R3/4暗褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。			
20	10Y R5/8黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。			
21	10Y R3/4暗褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを多量含む。			
22	10Y R5/8黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。			

A10-1ピット

1	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片有り。 粘性なし。固くする。まさを少量含む。
2	10Y R3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。
3	10Y R3/4暗褐色 10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くする。 まさを少量含む。
4	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを少量含む。
5	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを少量含む。
6	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを少量含む。
7	10Y R6/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くする。まさを少量含む。
8	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを少量含む。
9	10Y R5/8黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くする。まさを少量含む。
10	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くする。 まさを少量含む。
11	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くする。まさを少量含む。
12	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。

B10-1ピット (第16図・第4表・写真図版5-1, 2)

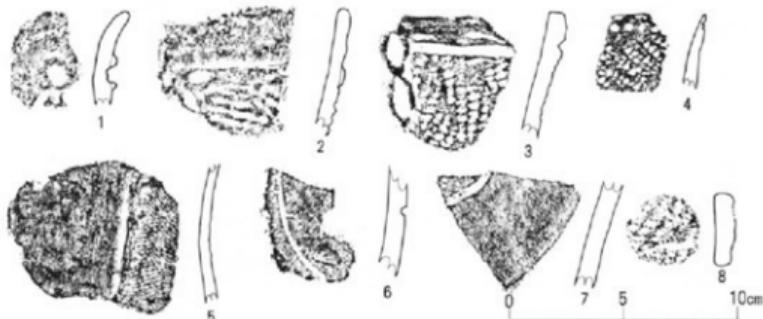
B10グリットのIV層上面において検出した。C10-1ピットの北西0.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は、南西壁では比較的ゆるやかな傾斜で立ち上がり、北東壁では頂部で一度締まり、頸部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈し、底部付近では丸みを帯びている。底面の北壁寄りに、開口部径30cm土・底部径20cm土・深さ7cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径208cm土・底部径204cm土で、深さは北壁最深部で122cm土を測る。埋土は人為的な堆積の状況を示す。



第16図 B10-1 ピット

[遺物] (第17図・写真図版22)

埋土中より土器片65点と土製円盤1点を得た。8点を図示した。1~4は口縁部資料である。口縁は平縁をなし、1では外反、2~4は外頬ぎみに立ち上がる。文様は、1~3は口縁部無文帯を有し、2は隆線により、3は沈線により体部文様部と区画する。体部には1ではボタン状の貼付文と沈線、3では継位の連鎖状貼付文、2では部分的に刺突を有する隆線によって文様が意匠されている。4では口縁部に横位の点列を有している。5~7は体部資料である。5は隆線により、6・7は沈線により文様が意匠される。5・7では磨消繩文が施される。8は土製円盤である。周縁を入念に研磨して整形している。



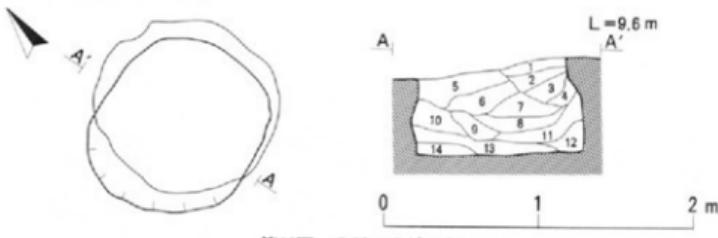
第17図 B10-1 ピット出土遺物

第4表 B10-1ビット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	13	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
2	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	14	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
3	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	15	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
4	10YR3/3褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	16	10YR4/3褐色	燒土、炭化物なし。粘性少有り。やや固くしまる。まさを少量含む。
5	10YR4/2灰黃褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	17	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
6	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	18	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
7	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片あり。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	19	10YR5/4に近い 黃褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
8	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	20	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
9	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	21	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
10	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	22	10YR5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
11	10YR2/3深褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	23	10YR5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
12	10YR3/2深褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	24	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
			25	10YR5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
			26	10YR5/6黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。

C10-1ビット (第18図・第5表・写真図版5-3)

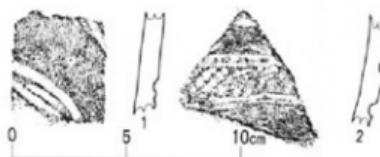
C10グリットのIV層上面において検出した。B10-1ビットより東へ0.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径124cm土・底部径123cm土で、深さは北壁最深部で53cm土を測る。埋土は14層からなり、自然堆積である。



第18図 C10-1ビット

〔遺物〕(第19図・写真図版22)

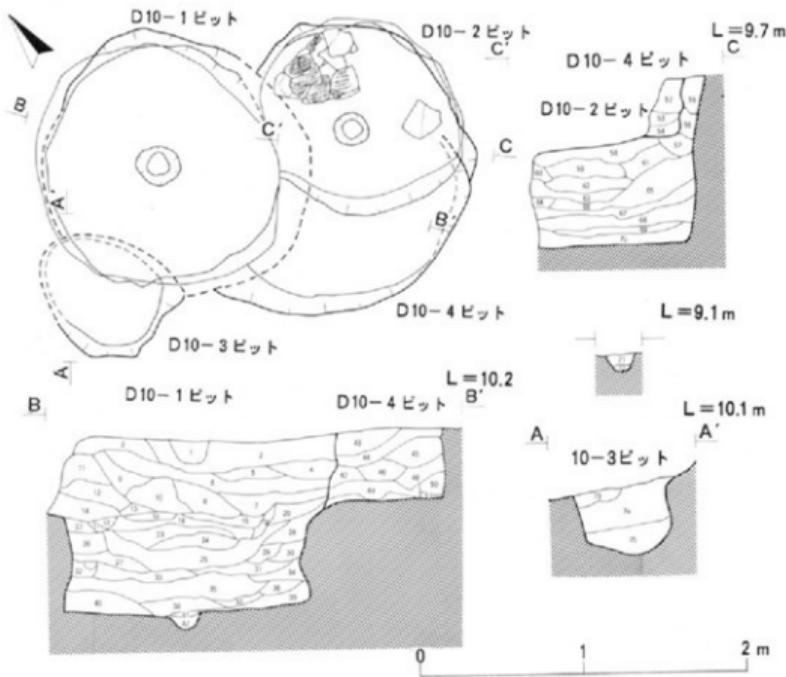
埋土中より土器片11点(底部1点)を得た。2点を図示した。1・2は体部資料である。ともに沈線・磨消網文により、曲線状の文様を意匠している。



第19図 C10-1ビット出土遺物

第5表 C10-1 ピット

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10Y R2/3重褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含まない。	8	10Y R5/3におい 黄褐色	焼土。粘性なし。やや軟らか。まさを少量含む。
2	10Y R2/3重褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。	9	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少暈含む。粘性なし。やや軟らか。まさを少暈含む。
3	10Y R3/6暗褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを微量含む。	10	10Y R4/4褐色	焼土。炭化物なし。固くしまる。まさを少暈含む。
4	10Y R4/4褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを微量含む。	11	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を少暈含む。粘性なし。軟い。まさを微量含む。
5	10Y R5/3におい 黄褐色	焼土。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	12	10Y R5/3におい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。軟い。まさを微量含む。
6	10Y R5/3におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	13	10Y R3/3暗褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性少しあり。やや固くしまる。まさを少暈含む。
7	10Y R5/4におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	14	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性少しあり。やや固くしまる。まさを少暈含む。



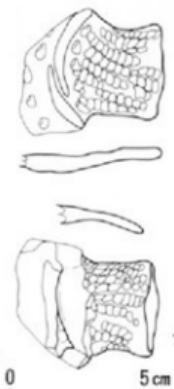
第20図 D10-1・D10-2・D10-3・D10-4 ピット

D 10-1 ピット（第20図・第6表・写真図版5-4, 6）

C10・D10グリットの地山面において検出した。西壁は、D10-3ピットによって切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径27cm±・底部径14cm±、深さ14cm±の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径158cm±・底部径167cm±で、深さは北壁最深部で115cm±を測る。埋土は42層からなり自然堆積である。

〔遺物〕（第21図）

埋土中より注口土器の注口部1点が出土した。注口部には斜縦文（LR）が充填され、付け根の部分には沈線と刺突文列が施されている。



第21図 D 10-1 ピット出土遺物

D 10-2 ピット（第20図・第6表・写真図版5-5, 6）

D10グリットの地山面において検出した。

D10-1 ピットによって西壁を、D10-4 ピットによって南壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径22cm±・底部径14cm±、深さ16cm±の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径137cm±・底部径129cm±で、深さは北壁最深部で118cm±を測る。埋土は16層からなり自然堆積である。

〔遺物〕（第22図・写真図版22）

底面より深鉢1点が横位につぶれた状態で出土した。破片の一部は、35cm離れた底面よりも出土している。他に遺物の出土はない。深鉢は口縁部と体部の一部を欠くがほぼ完存に復元できた。器形は、体部中央部より上位の部分で最大幅をとる綫長の深鉢である。計測値は、器高47.2cm、口径26cm、最大幅27.5cm、底径13cm、器厚0.8cm±である。口縁部は、体部よりやや内反気味に直立している。



第22図 D 10-2 ピット出土遺物

口唇部はへら状工具によってなでられ、平坦で若干内外に肥厚する。文様は、体部にしの撚糸文が縦位に施文されるが、口縁直下に幅1cm程の、底面直上に幅5cm程の無文帶を有している。底部には木葉痕を有している。

D 10-3 ピット（第20図・第6表・写真図版5-6）

C10・D10グリットの地山面において検出した。D10-1ピットの西壁を切る。平面形は不明で、断面形は壁がほぼ直壁状に立ち上がりビーカー状を呈している。規模は、西壁最深部で23cm土を測る。埋土は3層からなり自然堆積である。

遺物の出土は無い。

D 10-4 ピット（第20図・第6表・写真図版5-4, 5, 6）

D10グリットの地山面において検出した。D10-1ピットによって北壁を切られ、D10-2ピットの南壁を切る。平面形は不明で、断面形は東壁では直壁状に立ち上がりビーカー状を呈している。規模は、南壁最深部で23cm土を測る。埋土は9層からなり自然堆積である。

遺物の出土は無い。

第6表 D10-1ピット、D10-2ピット、D10-3ピット、D10-4ピット

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	16	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	17	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	18	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
4	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。やや固く しまる。まさを少量含む。	19	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
5	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	20	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。やや固く しまる。まさを少量含む。
6	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	21	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	22	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	23	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R4/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	24	10Y R6/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
10	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	25	10Y R3/3暗褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。
11	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	26	10Y R5/3黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
12	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	27	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。
13	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	28	10Y R6/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
14	10Y R6/6に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	29	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
15	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	30	10Y R6/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。

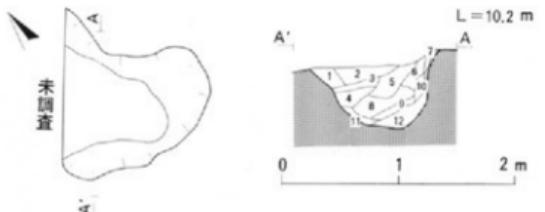
層番	土 色	備 考	層番	土 色	備 考
31	10Y R6/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	55	10Y R5/8黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
32	10Y R5/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 まさを少量含む。	56	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
33	10Y R4/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	57	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。り硬有り。粘性なし。 固くしまる。まさを微量含む。
34	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	58	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
35	10Y R4/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	59	10Y R6/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
36	10Y R6/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	60	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
37	10Y R5/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	61	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
38	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	62	10Y R6/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
39	10Y R4/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	63	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
40	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	64	10Y R3/8暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
41	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	65	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
42	10Y R6/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	66	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
43	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	67	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
44	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物を少量含む。土器片有り。 粘性なし。軟い。まさを少量含む。	68	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。
45	10Y R6/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	69	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
46	10Y R6/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物を少量含む。粘性なし。軟 い。まさを少量含む。	70	10Y R3/8暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
47	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	71	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
48	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	72	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや硬い。 まさを少量含む。
49	10Y R5/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 秋い。まさを少量含む。	73	10Y R4/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを多量含む。
50	10Y R4/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	74	10Y R3/8暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。ま さを多量含む。
51	10Y R6/3にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	75	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 やや固くしまる。まさを多量含む。
52	10Y R4/6褐色				
53	10Y R5/6にぶい 黄褐色				
54	10Y R7/6明黃褐色				

F10-1 ピット（第23図・第7表）

F9・F10グリットの地山面において検出した。E11-2ピットより南へ1.2mの地点にある。西側が未発掘区へと広がり、E9溝と同一のものである可能性を有している。断面形は皿状を呈し、深さは東壁最深部で66cm土を測る。埋土は12層からなり、人為的な堆積である。

[遺物]（第24図・写真図版22）

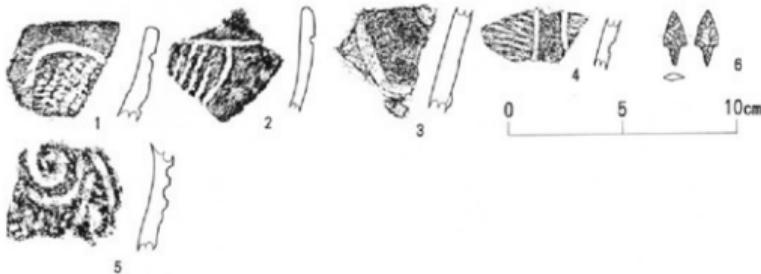
出土した遺物は土器・石器がある。土器は、埋土中より破片102片（底部2片）を得た。細片のため器形を知り得る資料はない。5点を図示した。1・2は口縁部資料である。口縁は内



第23図 F10-1ピット

第7表 F10-1ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く まさを少量含む。	7	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。
2	10YR3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。	8	10YR2/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。
3	10YR3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	9	10YR3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。
4	10YR2/3深褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。 やや固くしまる。まさを少量含む。	10	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。
5	10YR2/3深褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	11	10YR3/4暗褐色	燒土なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
6	10YR3/2深褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	12	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。

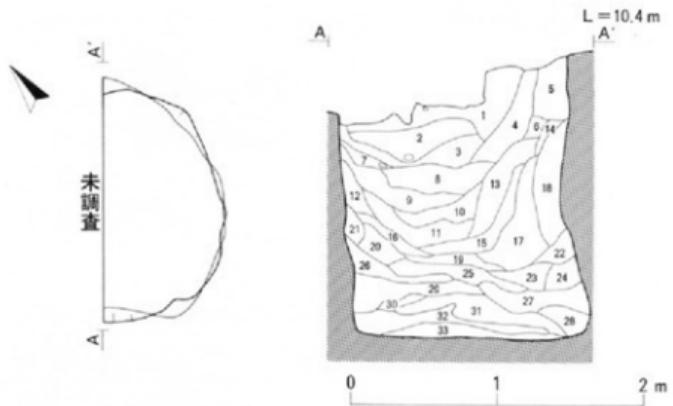


第24図 F10-1ピット出土遺物

反氣味に立ち上がる。文様は、口縁部は無文で、体部に沈線と磨消細文によって曲線文が意匠される。3~5は体部資料である。3・4は沈線と磨消細文により、5では沈線により渦巻状の文様を展開している。石器は、ほぼ完存の有形石鐵1点が出土した。(6) 鐵身は二等辯三角形をなし、側縁は若干である外弧を描く。基部は若干尖る。断面形は菱形を呈する。基部は、比較的長く作り出している。

B11-1ピット（第25図・第8表・写真図版5-7）

B11グリットの地山面において検出した。A10-1ピットより北東へ1mの地点にある。西側半分は未調査区へと広がる。平面形は、円形を呈すると思われ、断面形は南壁ではほぼ直壁



第25図 B11-1 ピット

第8表 B11-1 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	18	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
2	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	19	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
3	10Y R4/3に付い 褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	20	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
4	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	21	10Y R5/5黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
5	10Y R4/3に付い 褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	22	10Y R6/6明黄褐色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
6	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	23	10Y R3/3暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
7	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。礫有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	24	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
8	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	25	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
9	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	26	10Y R6/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
10	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	27	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
11	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	28	10Y R6/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
12	10Y R3/3暗褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	29	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。疏打り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
13	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	30	10Y R3/4暗褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含まない。
14	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	31	10Y R6/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
15	10Y R4/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	32	10Y R3/3暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含まない。
16	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	33	10Y R2/3褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
17	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。			

状に立ち上がり、北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径156cm土・底部径172cm土で、深さは北壁最深部で201cm土を測る。埋土は33層よりなり、自然堆積である。

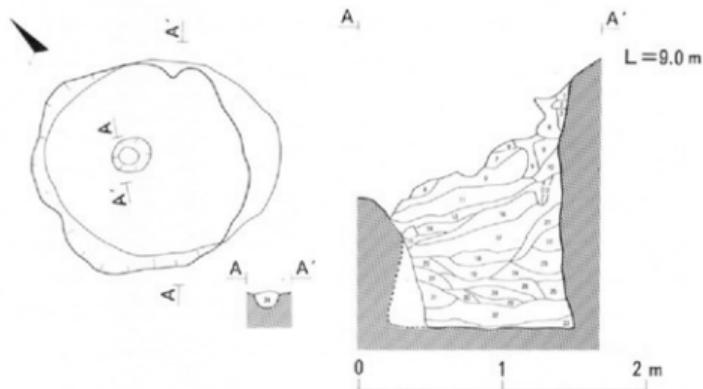
遺物の出土は無い。

C11-1ビット（第26図・第9表・写真図版5-8）

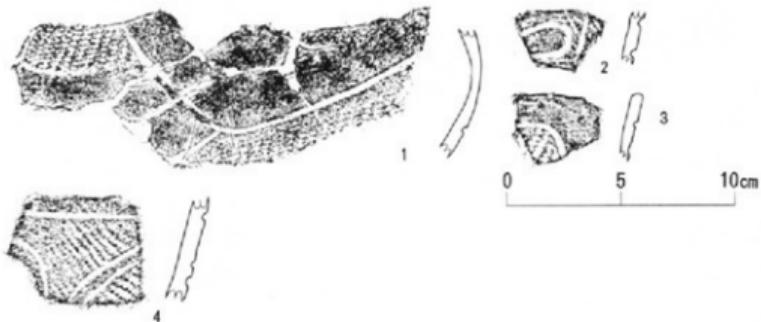
B11・C11グリットの地山面において検出した。C11-2ビットより北西に0.7mの地点に位置する。平面形は円形を呈し、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径27cm±・底部径14cm±・深さ12cm±の小穴を一基有している。規模は、開口部径156cm±・底部径165cm±で、深さは北壁最深部で155cm±を測る。埋土は38層からなり自然堆積である。

[遺物]（第27図・写真図版22）

埋土中より土器片114点（底部3点）が出土した。4点を図示した。1・2は壺の体部片で



第26図 C11-1ビット



第27図 C11-1ビット出土遺物

ある。1は沈線・隆線・磨消繩文によって、2は沈線と磨消繩文によって文様が画かれる。1では隆線は部分的に沈線上に施されている。3は平縁の鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文で、体部には沈線と磨消繩文により文様が画かれる。4は深鉢の体部片である。沈線と斜繩文(LR)が施文される。

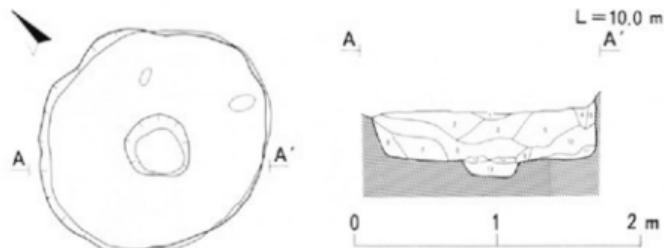
第9表 C11-1 ピット

層No.	土色	備考	層No.	土色	備考
1	10Y R7/3に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。	18	10Y R6/6に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
2	10Y R2/3混褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	19	10Y R6/6に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。	20	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
4	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	21	10Y R3/6暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
5	10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	22	10Y R6/4に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R4/3に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	23	10Y R6/6に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R4/3に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	24	10Y R5/6に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R5/4に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	25	10Y R6/4に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	26	10Y R6/3に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
10	10Y R5/4に多い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	27	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
11	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	28	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
12	10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	29	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
13	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。繊有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	30	10Y R3/6暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
14	10Y R2/3混褐色	燒土、炭化物なし。繊、土器片有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	31	10Y R3/6暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
15	10Y R4/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。	32	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
16	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	33	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
17	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	34	10Y R3/6暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。まさを含まない。

C11-2 ピット (第28図・第10表・写真図版 6-1, 2)

C11グリットのIV層上面において検出した。C11-1ピットより南東へ0.7mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状に立ち上がり、東壁では緩やかな傾斜で立ち上がり、北東壁では開口部から底部にかけて若干であるが抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径48cm土・底部径37cm土・深さ15cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径175cm土・底部径167cm土で、深さは西壁最深部で32cm土を測る。埋土は13回からなり、上位は人為的な堆積である。

遺物は埋土中より土器片28点が出土したが、細片のため割愛した。



第28図 C11-2 ピット

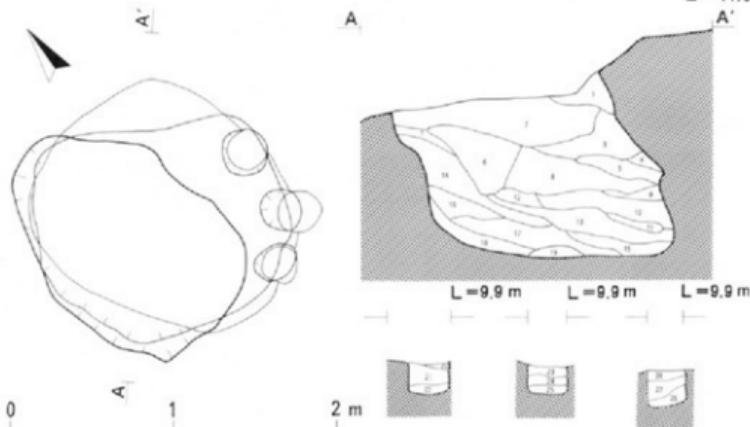
第10表 C11-2 ピット

番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	10Y R2/2墨褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや堅く。まさを少量化。	8	10Y赤	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや強く。まさを少量化。
2	10Y R4/6褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟らか。まさを少量化。	9	10Y R4/4褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや堅く。まさを少量化。
3	10Y R5/4にぶい 鉛鉱色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟らか。まさを少量化。	10	10Y R4/4褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや強く。まさを少量化。
4	10Y R7/4にぶい 鉛鉱色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟らか。まさを少量化。	11	10Y R5/4にぶい 鉛鉱色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや強く。まさを少量化。
5	10Y R4/4褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟らか。まさを少量化。	12	10Y R4/4褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや強く。まさを少量化。
6	10Y R3/2墨褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固く。まさを少量化。	13	10Y R5/4にぶい 鉛鉱色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固く。まさを少量化。
7	10Y R4/3にぶい				

D11-1 ピット (第29図・第11表・写真図版 6-3, 4)

D11グリットの地山面において検出した。D10-2ピットより北東に0.5mの地点にある。平面形は、開口部では楕円形を呈し、底部は円形を呈している。底面の東壁よりに三基の小穴を有しており、それぞれの規模は、開口部径長軸23cm土・短軸20cm土、底部径長軸25cm土・短軸22cm土、深さ21cm土、開口部径27cm土・底部径27cm土・深さ20cm土、開口部径30cm土・底部径25cm土である。

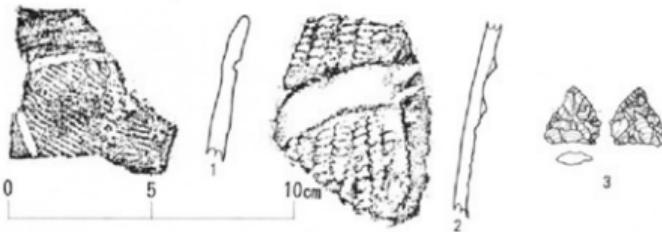
L=11.0m



第29図 D11-1 ピット

第11表 D11-1 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	15	7.5YR6/4にぶい褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。
2	10YR3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。	16	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。
3	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	17	10YR4/3褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。
4	10YR5/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	18	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
5	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	19	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
6	10YR3/3暗褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少額含む。	20	10YR6/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少額含む。
7	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。	21	10YR6/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少額含む。
8	10YR3/3暗褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。	22	10YR7/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少額含む。
9	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	23	10YR7/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
10	10YR4/4褐色	燒土なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	24	10YR7/2にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
11	10YR5/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを多量含む。	25	10YR7/2にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
12	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。	26	10YR6/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
13	10YR3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを少額含む。	27	10YR7/3にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
14	10YR5/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	28	10YR7/3にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。



第30図 D11-1 ピット出土遺物

26cm土・深さ23cm土である。断面形は、西壁ではほぼ直壁状に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径は長軸159cm土・短軸104cm土で、底部径は165cm土、深さは北壁最深部で131cmを測る。埋土は19層からなり、下位は自然堆積であるが上位は人為的な堆積である。

[遺物] (第30図・写真図版22)

出土した遺物は土器・石器がある。土器は、埋土中より土器片29点が出土した。2点を図示した。1は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。文様は沈線と磨消繩文によって画かれる。2は深鉢の体部片である。刻みを有する降線によって文様が画かれる。

石器は、無茎石鏃1点が出土した。(3) 鏃身は正三角形をなし、左右不对称である。側縁は一辺が直線状で、他は外弧をえがく。基部は若干であるが抉れる。

E 11-2 ピット (第31図・第12表・写真図版 6-5, 6)

F 10・F 11グリットの地山面において検出した。E 11-4 ピットを切る。平面形は不明で、断面形は北壁では緩やかに傾斜し、南壁では直壁状に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフ拉斯コ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で98cmを測る。埋土は13層からなり自然堆積である。

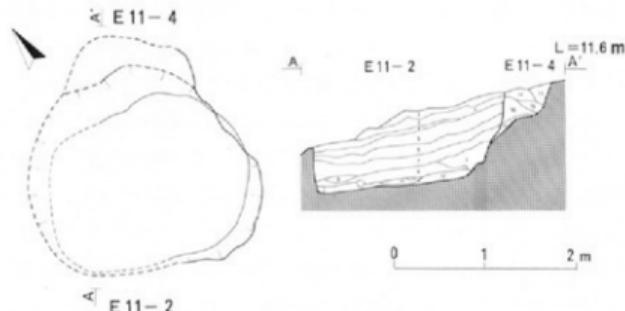
〔遺物〕(第32図～第34図・写真図版23)

出土した遺物は、土器・土製品・石器がある。

(土器)

土器片1839点（うち底部52点）が出土した。21点を図示した。

1～3は縄文時代中期のものである。1・2は口縁部資料である。ともに外反し、1では口



第31図 E 11-2・E 11-4 ピット

第12表 E 11-2 ピット E 11-4 ピット

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10YR3/2黒褐色	焼土、炭化物なし。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	9	10YR4/3に近い黄褐色	地土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。
2	10YR3/4暗褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	10	10YR4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
3	10YR4/3に近い黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	11	10YR4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
4	10YR4/3に近い黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	12	10YR5/6黄褐色	地土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
5	10YR4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	13	10YR4/3に近い黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
6	10YR4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	14	10YR4/2灰黄褐色	地土なし。炭化物を微量含む。礫有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
7	10YR4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	15	10YR3/2黒褐色	地土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
8	10YR5/6に近い黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。	16	10YR4/4褐色	地土なし。炭化物を微量含む。礫有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
			17	10YR5/6黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。

唇部に内削ぎがみられ、2では幅の狭い竈状工具によって撫でられ平坦である。文様は口縁部は無文で、頸部から体部に、1では沈線により、2では沈線と充填繩文により曲線文が意匠される。3は体部資料である。沈線と磨消繩文によって曲線文が画かれている。型的には、1は大木9式、2・3は大木10式に比定される。

4～15は縄文時代後期のものである。4～6は斜め方向からの刺突を有する隆線（5・6）や、連鎖状浮線文（4）によって文様を意匠するものである。4は口縁部資料で、口縁は波状口縁をなし、内反する。頸部に一条の隆線が巡り、口縁部無文と体部地文部を区画する。この隆線には波頂部より一条の隆線が垂下し連結している。地文は網目状撚糸文が施文される。7～9は隆線と沈線によって文様が意匠されるものである。ともに口縁は波状を呈し、内反する。8では口縁に沿って一条の隆線が巡る。7では頸部に一条の隆線が巡り、口縁部と体部を区画する。この隆線には波頂部より垂下した隆線が連結する。隆線には幅の狭い刺突が施されている。口縁部には口縁に沿って一条の沈線が巡り、その下面には沈線により曲線文と弧状の文様が画かれ、口縁部文様帯を作っている。8は口縁に沿って隆沈線の巡るものである。隆沈線には、撚糸文が施されている。文様は、綴位・斜めの沈線が意匠されるがモチーフは不明である。9は柄状把手を有するものである。口縁は内反する。隆線は把手より横位に巡り、隆線上には刺突が施してある。把手の下端には刺突痕を有し、把手状には沈線による「の」の字状の文様が意匠してある。10～13は沈線によって文様を意匠するものである。11・12は口縁部資料である。ともに口縁は波状口縁をなし、内反する。文様は、口唇部直下まで施文される。11では横位沈線と連弧文が施され、波状部下に刺突を有している。12では、曲線文が画かれ、胎土に金雲母を多量に含む。10・13は体部資料である。ともに磨消繩文により文様を画いている。14は体部資料である。沈線と、刻み目により文様を画く。太めの沈線によって区画された内側に、細い沈線と刻み目を充填し、磨消繩文的な印象を与えるものである。15は列点文・沈線・磨消繩文により文様が画かれる。型的には、11は堀之内I、12・13は十腰内Iに併行し、他は不明である。

16～21は粗製の土器である。16・18～21は口縁部資料である。口縁は16・17は平縁をなし、19～21は波状口縁をなし、21では波頂部に三個の刻み目を有している。口縁部は、16・18は外傾ぎみに立ち上がり、19・20は外反し、21では頸部で一度締まり外反している。

（土製品）（第33図22～29）

22・24～29は土製円盤である。27は側縁が入念に研磨されているが、他は難である。23は三角形土製品である。縄文時代後期前葉の連鎖状浮線文をもつ土器片を二等辺三角形状に加工したものである。いずれも周囲を研磨して整形している。

(石器) (第33図30～第34図57)

石鏃・石鏃未製品・尖頭器・不定形石器が出土した。

石鏃は13点出土した。30は有茎のものである。基部は平基をなし、側縁は外弧をえがく。茎部は比較的長く作りだされ、身部との比は1：2程度である。基部にタール状の付着物が若干認められる。31～40は無茎の石鏃である。31は基部が平基をなすものである。先端部は欠損する。32～40は基部に抉りを有するものである。32は鏃身が正三角形状をなすもので、側縁は直線状をなし、抉りは若干である。33～40は身部が二等辺三角形状をなすものである。側縁は、33が外弧をなし、34は直線的で、35～40は先端部から身部中央にかけて外弧をなし、身部中央で一度締まり基部にむかって膨らむものである。抉りは32～34は若干で、他は比較的強い。34は側縁部末端がほぼ左右対称に欠けており、意図的な打ち欠きの可能性を持っている。41は基部が尖基をなすものである。鏃身は二等辺三角形状をなし、側縁は外弧である。42は石鏃未製品である。

43・44は尖頭器である。鏃身は正三角形状をなす。基部は平基で、側縁は外弧である。

45～57は不定形石器である。45～51は一边に刃部を有するものである。45～50は片刃で、51は両刃である。刃部は45・46が曲線的、他は直線的に作り出されている。52～55は二邊に刃部を有するものである。52・53は刃部が片刃で、54・55は両刃である。刃部は52・54・55は直線的で、53は一边が曲線的で他の一辺は直線的である。56・57は、一边にマイクロフレーニングを有するものである。

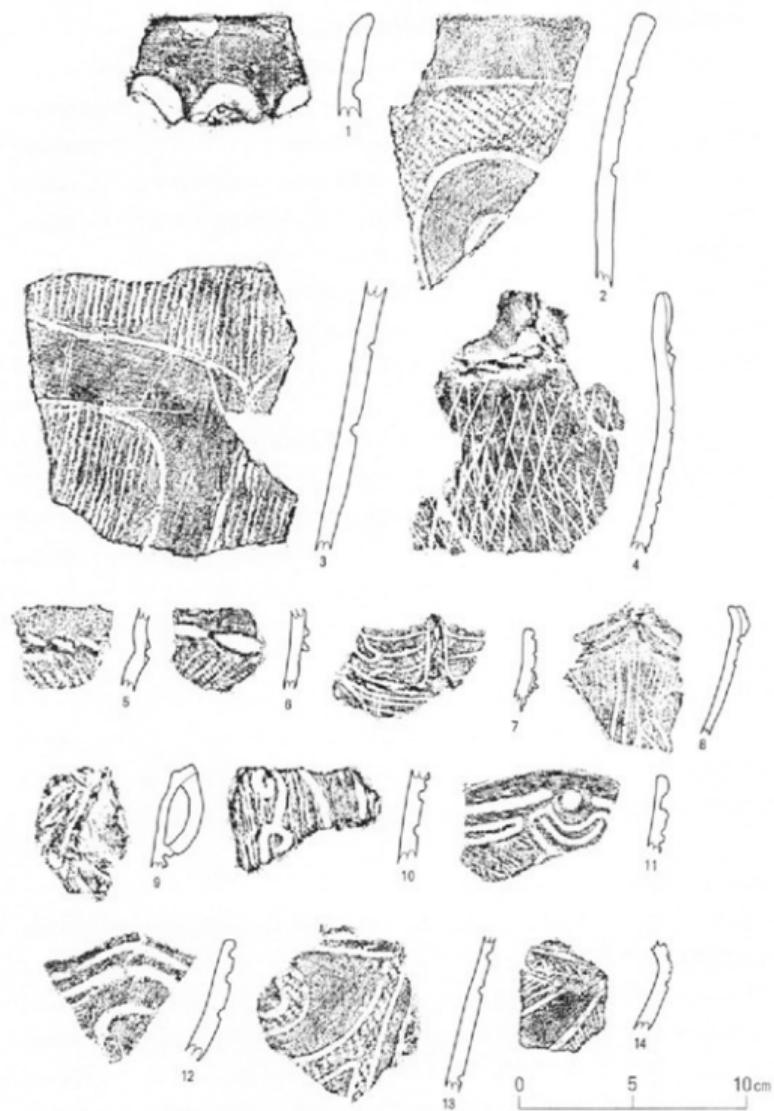
E 11-3 ピット (第35図・第13表・写真図版6-7)

E 11グリットの地山面において検出した。E 11-4 ピットとF 11溝によって切られ、北壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、残存部での深さが40cm±である。埋土は15層からなり自然堆積である。

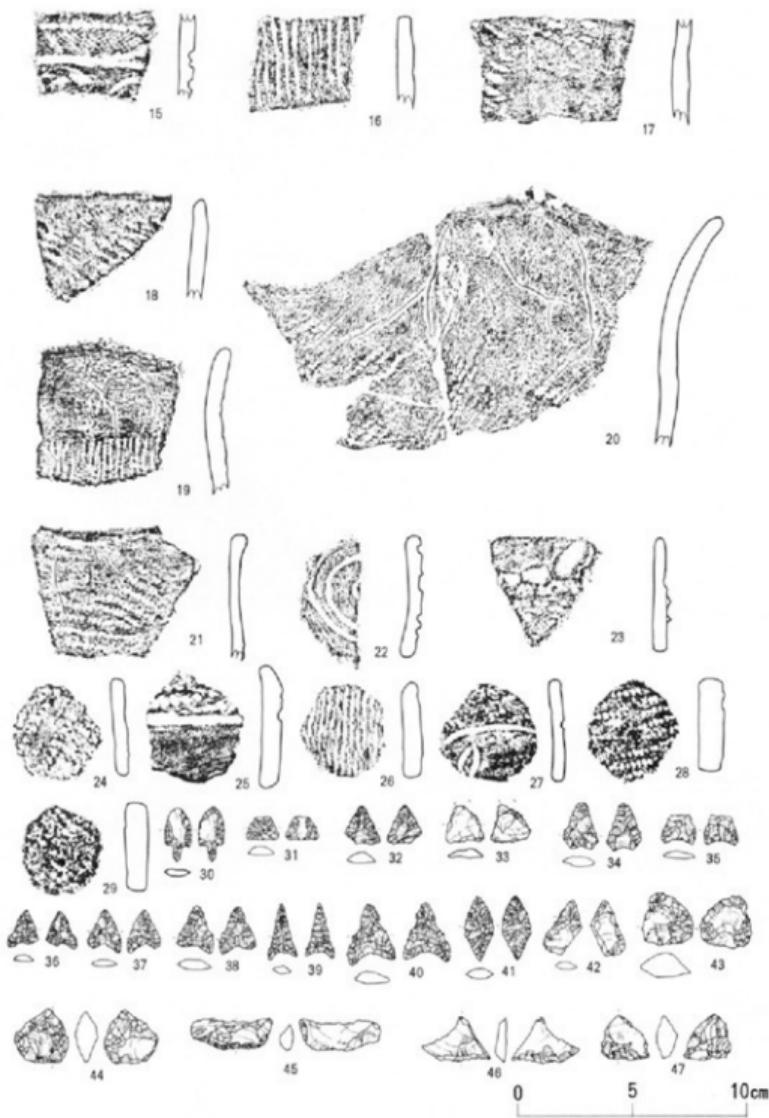
[遺物] (第36図・第37図・写真図版23.24)

埋土中より365点（うち底部15点）出土した。いずれも細片のため器形を知り得る資料はない。25点を図示した。

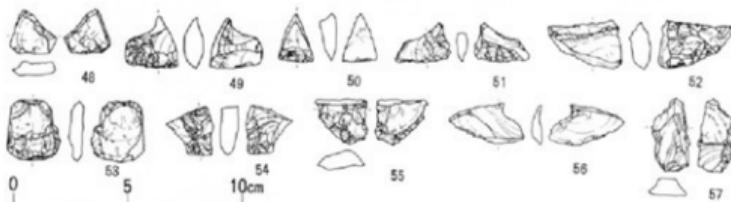
1・2は繩文時代中期後葉のものである。1は口縁部資料である。口縁は波状口縁をなし、口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、口縁でわずかに外反し、口唇には内削ぎがみられる。文様は、波状部直下に孔が設けられ、孔をとり巻くように二列の弧状の刺突文列が巡る。この刺突文列には、口縁に平行する二列の刺突文列が連結している。体部には曲線文が画かれ、LRLの複節斜縫文が充填されている。2は体部資料である。沈線と充填縫文により曲線文が画かれる。



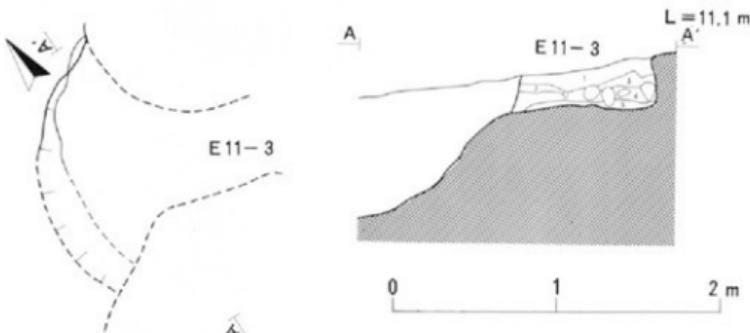
第32図 E11-2 ピット出土遺物



第33図 E11-2 ピット出土遺物



第34図 E 11-2 ピット出土遺物



第35図 E 11-3 ピット

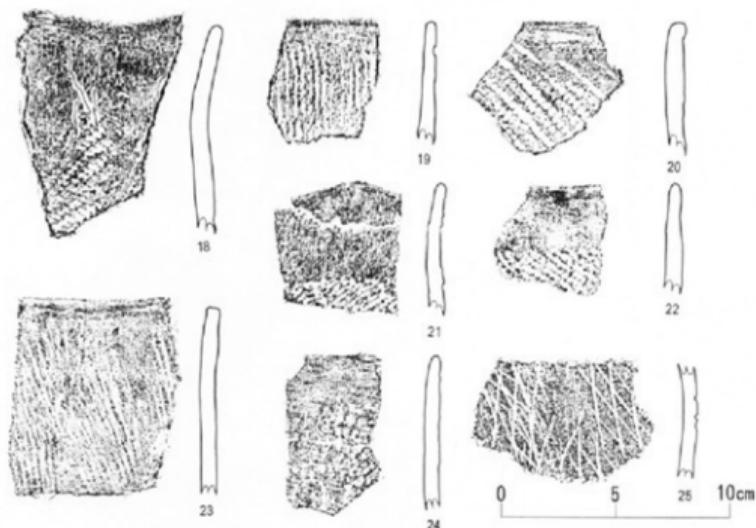
第13表 E 11-3 ピット

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10Y R3/5にぶい 黄褐色	地土、炭化物なし。土質片有り。粘性なし。固くしまる。まさを含む。	4	10Y R3/6にぶい 黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
2	10Y R3/4にぶい 黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。	5	10Y R6/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
3	10Y R3/5にぶい 黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。			

3～15は細文時代後期前葉のものである。3～5は刺突・刻みの施された隆線を有するものである。3・4は口縁部資料である。ともに口縁は波状を呈し、口縁部は外傾ぎみに立ち上がる。波頂部直下に二条の隆線が施文され、3では二個単位の刻み目が、4では連続する刻み目が施文されている。5は体部資料である。隆線と沈線により文様が意匠される。6は細片ではあるが連鎖状浮線文を有するものである。7・8は口縁に平行する隆線を有するものである。ともに口縁は波状口縁をなし、口縁部は7では若干内反し、8は外傾する。波頂部直下にボタ



第36図 E 11-3 ピット出土遺物



第37図 E 11-3 ピット出土遺物

ン状の貼付文を有し、口縁に平行する降線が連結する。8では降線に刺突が施されている。体部に展開する文様は沈線によって施文され、沈線はボタン状の貼付文より垂下するが、モチーフは細片のため不明である。9～15は体部資料である。沈線により文様を意匠するもので、9・12～15では、充填・磨消絆文が行なわれる。

16は高台付鉢の底部資料である。高台の高さは1cm程である。厚さは1cm程で体部と比較すると厚く作り出されている。体部は外傾ぎみに立ち上がり、L Rの単節斜絆文が縦位に施文される。磨滅が著しい。

17～25は地文以外に文様を持たないものである。17～24は口縁部資料である。口縁は21・22では波状口縁をなし、他は平縁をなす。口縁部は、17・18・22では外反し、他は外傾する。

17では折り返し口縁を有し、折り返し部には絆文が施文されている。概して口縁部に無文帶を有するものが多くみられ、地文の施文は頸部下に行なわれている。25は体部資料である。網目状の撚糸文を有している。

E 11-4 ピット (第31図第12表・写真図版6-6)

E 11・F 11グリットの地山面において検出した。E 11-2 ピットによって切られ北壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフ拉斯コ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で55cmを測る。埋土は6層からなり自然堆積である。

[遺物] (第38図・第39図・写真図版24)

出土した遺物は、土器・土製品・石器がある。

(土器・土製品) (第38図・第39図1)

土器は、埋土中より土器片375点（うち底部12点）が出土した。14点を図示した。

1～4は縄文時代中期後葉のものである。1・3は口縁部資料である。口縁は平縁をなし、外傾する。文様は1では降線により、3では沈線による。2・4は体部資料である。2は降沈線により曲線文が、4では点列と沈線により文様が画かれている。

5～7は縄文時代後期前葉のものである。5・7は口縁部資料である。5は口縁は波状口縁をなし、口縁部は頸部で一度締まり外反し橋状の把手を有している。この橋状把手は波頂部直下に設けられ、把手状には盲孔と「の」の字状の文様を有している。口縁部は無文であるが、口縁部に平行して一条の沈線が巡り、橋状把手に連結する。7は口縁は波状口縁をなし、口縁部は外傾する。数条の沈線により曲線文が口唇部直下まで意匠される。磨滅が著しい。

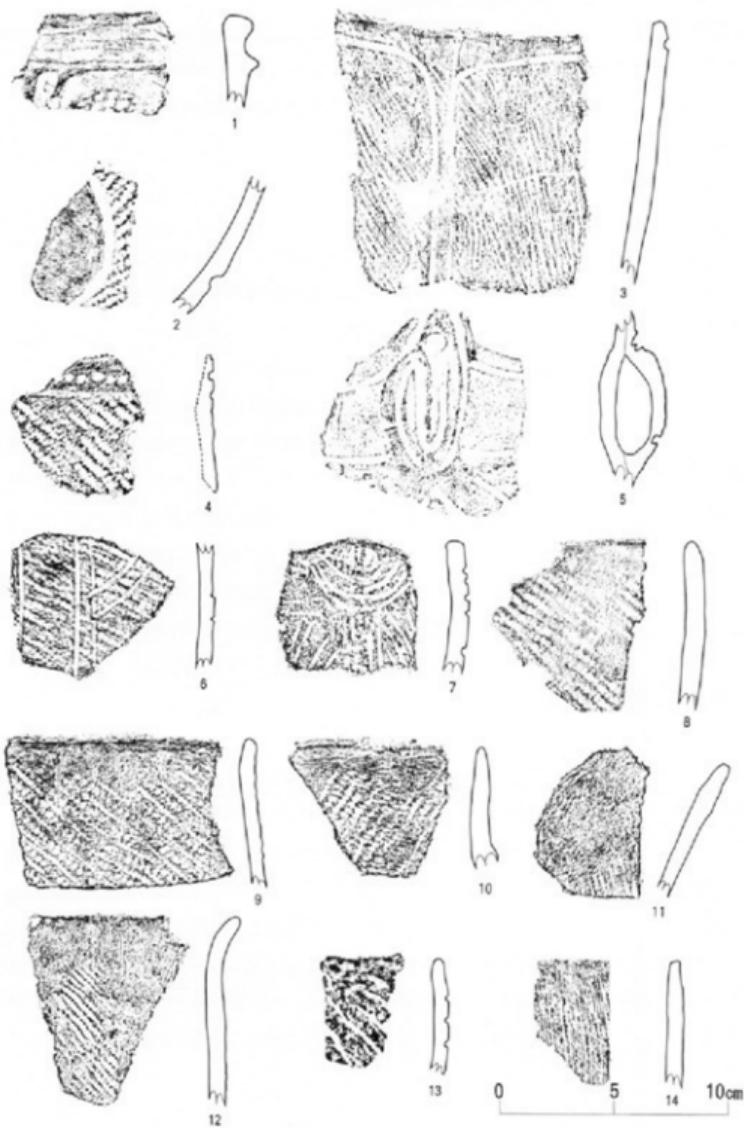
8～14は、地文以外に文様を持たないもので、すべて口縁部資料である。口縁は、8・13では波状口縁をなし、他は平縁をなす。口縁部は、8は若干内反し、12は外反し、他は外傾している。地文は、8～12では単節の斜縄文を、13では撚糸文を、14では櫛引きによる。

土製品は、土製円盤1点が出土した。

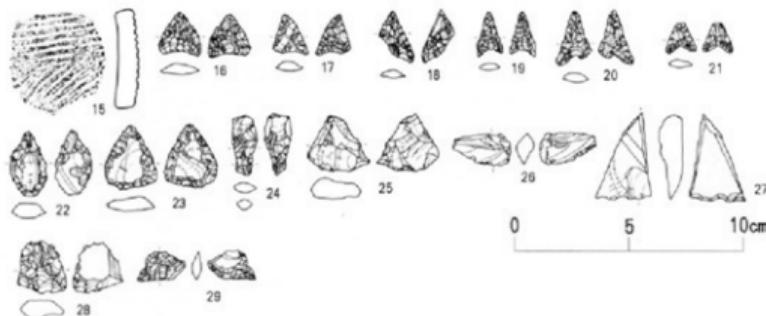
(石器) (第39図16～29)

出土した石器は、石鎌・尖頭器・石錐・不定形石器がある。

16～21は基部に抉りを有する石鎌である。鎌身は、16は正三角形状をなし、他は二等辺三角形状をなす。側縁形状は16・17が外弧、18・19は直線状、20は内弧である。抉りは18・19は弱く、他は比較的強い。22・23は基部が円基の尖頭器である。鎌身は二等辺三角形状をなす。側縁は外弧である。ともに両面に一次剥離痕を残す。24は石錐である。錐先部は欠損し、基部のみが残存する。基部と錐部の境界は不明瞭である。25～29は不定形石器である。25～27は一刃に片刃の刃部を有するものである。刃部は25は曲線状、26・27は直線状である。28・29は二刃に刃部を有するものである。刃部は28が片刃、29が両刃で、ともに刃部は直線的に作り出されている。



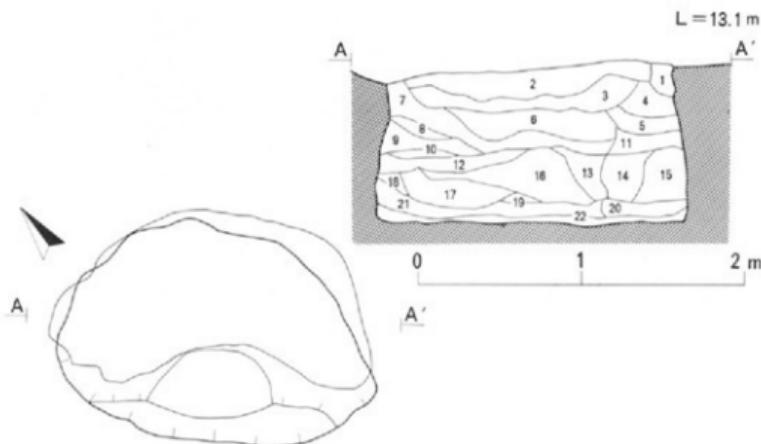
第38図 E11-4 ピット出土遺物



第39図 E 11-4 ピット出土遺物

G 11-1 ピット（第40図・第14表・写真図版 6-8）

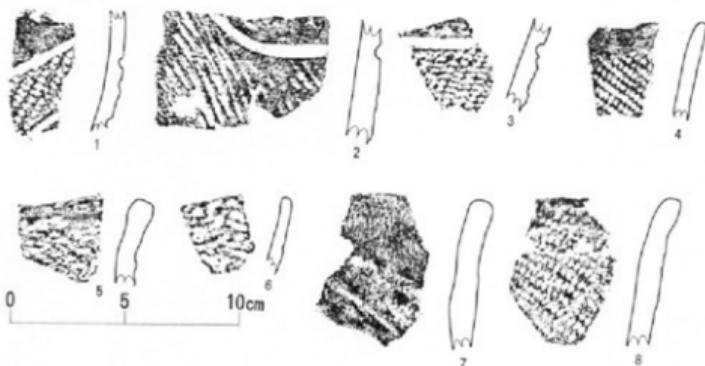
F 11・G 11 グリットの地山面において検出した。G 12-1 ピットから南へ 0.5 m 離れた地点にある。平面形は開口部は楕円形を呈しているが、底面形は南壁の地山中の大型の自然隙を避けるように三日月状に作り出している。断面形は、開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部では長軸 197 cm 土・単軸 130 cm で、底部は長軸 197 cm 土・単軸 78 cm 土で、深さは北壁最深部で 119 cm を測る。埋土は自然堆積である。



第40図 G 11-1 ピット

第14表 G11-1 ピット

番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	10YR6/5明黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや重い。	12	10YR5/4に近い 黄褐色	焼化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。
2	10YR4/3褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。	13	10YR3/4暗褐色	焼土なし。焼化物を微量含む。粘性なし。やや重くしまる。まさを少量含む。
3	10YR3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。	14	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重くしまる。まさを少量含む。
4	10YR5/5黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。	15	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。
5	10YR4/3褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。	16	10YR3/3暗褐色	焼土有り。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。
6	10YR3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。	17	10YR5/4に近い 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや重くしまる。まさを多量含む。
7	10YR4/3褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重くしまる。まさを多量含む。	18	10YR5/4に近い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。
8	10YR4/5褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。	19	10YR4/3に近い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重くしまる。まさを少量含む。
9	10YR5/5黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを少量含む。	20	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。
10	10YR4/3褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軽い。まさを多量含む。	21	10YR5/4に近い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重くしまる。まさを少量含む。
11	10YR4/3褐色	燒土有り。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重い。まさを多量含む。	22	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや重くしまる。まさを多量含む。



第41図 G11-1 ピット出土遺物

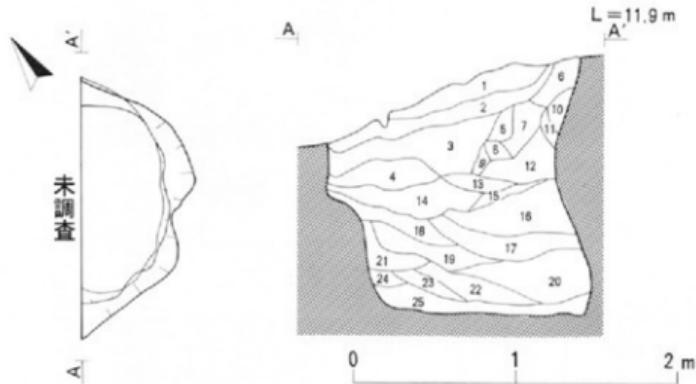
[遺物] (第41図・写真図版25)

埋土中より土器片97点（うち底部1点）が出土した。8点を図示した。1～3は体部資料である。沈線および磨消繩文により文様を意匠している。4～8は粗製の土器の口縁部片である。口縁は平縁をなし、口縁部は4・6は外傾し、他は若干外反している。原体は4～6・8は単節の斜繩文を施文しており、7は無文である。6では口縁部直下まで原体が施文される。

B12-1 ピット (第42図・第15表・写真図版7-2)

B12・B13グリッドの地山面において検出した。B12-2ピットより北へ0.5mの地点に位置する。西側半分が未発掘区へと広がり、形状は不明である。断面形は、南壁では中位で段を有するものの開口部から底部にかけてほぼ垂直に立ち上がり、北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、北壁最深部で146cm土を測る。埋土は26層からなり、下位は自然堆積であるが上位は人為的な堆積である。

遺物は、土器片14点が出土したが、細片のため割愛した。



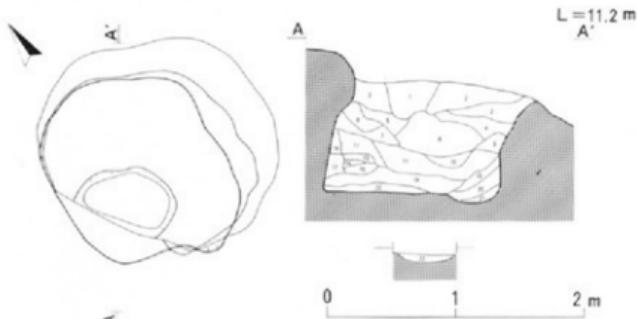
第42図 B12-1 ピット

第15表 B12-1 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R4/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。燒、土器片有り。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	14	10Y R5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
2	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	15	10Y R5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
3	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	16	10Y R4/4に近い 黃褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
4	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	17	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
5	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	18	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
6	10Y R4/6褐色	燒土なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	19	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
7	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	20	10Y R5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
8	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	21	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
9	10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。	22	10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
10	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	23	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
11	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	24	10Y R5/4に近い 黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
12	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	25	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
13	10Y R4/4褐色				

B12-2 ピット (第43図・第16表・写真図版7-3, 4)

B12グリットの地山面において検出した。C12-1ピットの西側に隣接する。形状は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の西壁寄りに開口部径長軸79cm±・短軸37cm±、底部径長軸68cm±・短軸31cm±、深さ8cm±の梢円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径168cm±・底部径190cm±で、深さは東壁最深部で111cm±を測る。埋土は22層からなり人為的な堆積である。



第43図 B12-2 ピット

第16表 B12-2 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	13	10Y R5/4にびい 黄褐色	地土、耕作物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	14	10Y R6/6明黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。
3	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	15	10Y R4/6褐色	地土、耕作物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
4	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	16	10Y R5/6黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
5	10Y R5/6黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを少量含む。	17	10Y R3/4暗褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを少量含む。	18	10Y R3/3暗褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R4/6褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	19	10Y R4/6褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R5/6黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 まさを多量含む。	20	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	21	10Y R4/3にびい 黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
10	10Y R4/4褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	22	10Y R6/6明黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
11	10Y R3/4暗褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	23	10Y R5/6黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
12	10Y R5/6黄褐色	地土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。			

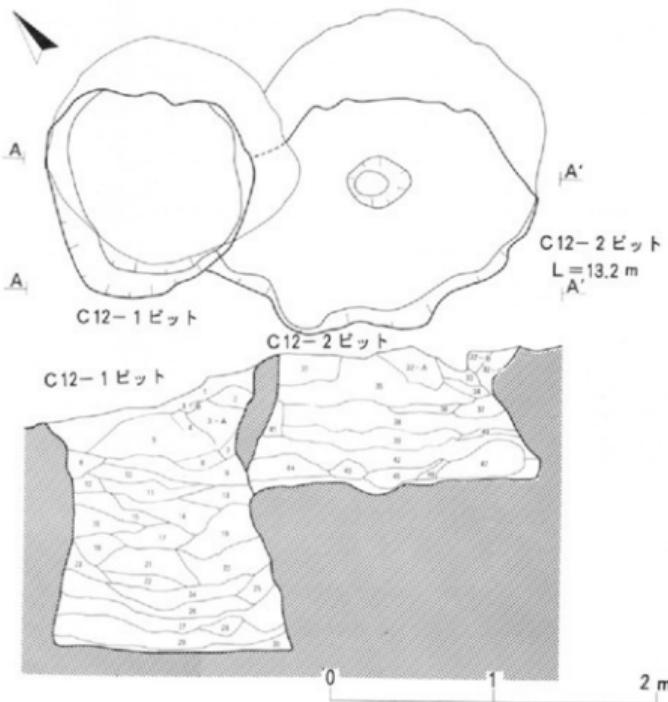
[遺物] (第44図・写真図版25)

埋土中より土器片31点(うち底部1点)が出土した。4点を図示した。1は深鉢の体部片である。斜縞文(R L) 施文後に沈線により曲線文を書き、磨消縞文が施される。2は平縦深鉢の口縁部片である。頸部で「く」の字状に内側に屈曲する。屈曲部上位には竹管による点列が、下位には指頭圧痕が横位に拡がる。3・4は刻みの施された隆線を有するものである。3は深



第44図 B12-2 ピット出土遺物

鉢の体部片である。隆線施文後、斜縞文（L R）を充満している。4は平縞深鉢の口縁部片である。口縁は複合口縁をなし、外傾する。頸部には口縁に沿って断面が三角形状の隆線が巡り、複合口縁と連結する。連結部からは、途中沈線に変わる刻みを施した隆線が体部に垂下し、その内側には断面三角形の沈線により文様が意匠され、斜縞文（L R）が施される。時期的には、1が縄文時代中期後葉～後期前葉、2～4は縄文時代後期前葉である。



第45図 C12-1・C12-2 ピット

第17表 C12-1, C12-2 ビット

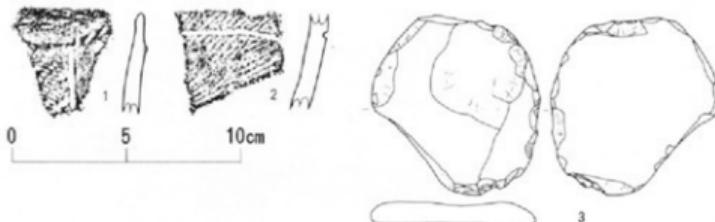
層番	土 色	備 考	層番	土 色	備 考
1	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	25	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R6/5明褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	26	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3-A	10Y R5/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	27	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3-B	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	28	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを多量含む。
4	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	29	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
5	10Y R3/3暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	30	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	31	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	32-A	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	32-B	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	32-C	10Y R6/5明黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
10	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	33	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
11	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	34	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
12	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	35	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
13	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	36	10Y R5/4に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
14	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	37	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
15	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	38	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
16	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	39	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
17	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	40	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
18	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	41	10Y R3/3暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
19	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	42	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
20	10Y R4/5褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	43	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
21	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	44	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
22	10Y R3/4暗褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	45	10Y R6/5明黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。固くしま る。粘土。
23	10Y R4/5褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	46	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
24	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	47	10Y R5/3に赤い 黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。固くしま る。粘土。
			48	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。

C12-1 ビット (第45図・第17表・写真図版 7-5, 6)

B12・C12 グリットの地山面において検出した。C12-2 ビットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径137cm±・底部径156cm±・深さは北壁最深部で157cm±を測る。埋土は3-2層からなり自然堆積である。

[遺物] (第46図・写真図版25)

出土した遺物は土器・石器がある。



第46図 C12-1 ピット出土遺物

土器は、埋土中より土器片56点（うち底部4点）が出土した。2点を図示した。1は平縁深鉢の口縁部片である。頸部に、刻みを有する隆線が巡り、口縁は途中屈折し立ち上がる。屈折部からは体部に沈線が垂下する。沈線は原体施文後に施されている。2は深鉢の体部片である。撚糸文施文後に、沈線により曲線文を画いている。

石器は、石製円盤1点が出土した。扁平な縫を打ち欠き円形にしたものである。両面に自然面を大きく残す。半分は欠損する。

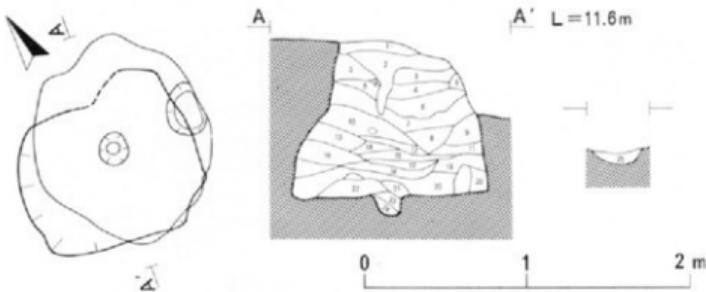
C12-2 ピット（第45図・第17表・写真図版7-7）

C12グリットの地山面において検出した。C12-1ピットによって西壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径長軸39cm±・短軸24cm±、底部径長軸21cm±・短軸14cm±、深さ8cm±の梢円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径211cm±・底部径220cm±で、深さは東壁最深部で76cm±である。埋土は20層からなり、上位は自然堆積であるが、底面付近には人為的な堆積と思われる粘土ブロックを有している。

遺物は、埋土中より土器片18点（うち底部2点）を得たが細片のため割愛した。

C12-3 ピット（第47図・第18表・写真図版8-1）

C12グリットの地山面において検出した。C12-4ピットと隣接する。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径21cm±・底部径8cm±・深さ15cm±の円形の小穴を一基、東壁寄りに開口部長軸33cm±・短軸22cm±、底部長軸22cm±・短軸15cm±、深さ12cm±の梢円形の小穴を有している。規模は、開口部径127cm±・底部径132cm±、深さは北壁最深部で110cm±を測る。埋土は24層からなり、部分的に人為的な堆積がみられる。遺物の出土は無い。



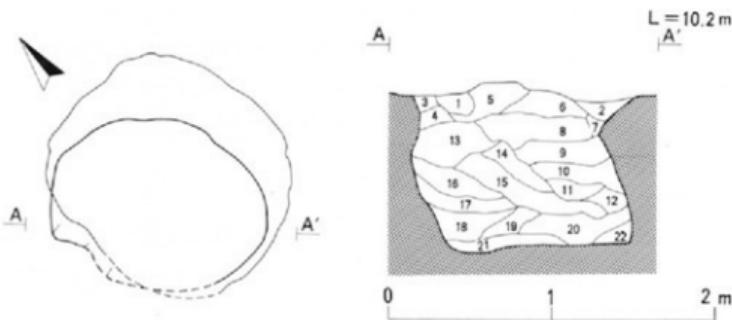
第47図 C12-3 ピット

第18表 C12-3 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR4/1褐色	燒土なし。炭化物を僅量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	14	10YR5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを多量含む。
2	7.5YR4褐色	燒土なし。炭化物を僅量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	15	10YR5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを多量含む。
3	10YR5/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	16	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを多量含む。
4	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	17	10YR5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを多量含む。
5	10YR5/1におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	18	10YR6/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。
6	10YR5/1におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。土器片有り。やや軟い。まさを少量含む。	19	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。地土なし。炭化物を微量含む。硬有り。
7	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	20	10YR4/3におい 黄褐色	粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
8	10YR3/6暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	21	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
9	10YR4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	22	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
10	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	23	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
11	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を僅量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	24	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
12	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	25	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。軟い。まさを少量含む。
13	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。			

C12-4 ピット (第48図・第19表・写真図版 8-2, 3)

C11・C12グリットの地山面において検出した。C12-3 ピットに隣接する。西側1/3程が崩落によって消滅している。平面形は円形を呈すると思われ、断面形は、西壁では若干傾斜しながら立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径135cm土・底部径152cm土で、深さは北壁最深部で147cm土を測る。埋土は22層からなり、自然堆積である。



第48図 C12-4 ピット

第19表 C12-4 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	12	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
2	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。	13	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
3	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	14	10Y R6/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
4	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。	15	10Y R6/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
5	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	16	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
6	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	17	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
7	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	18	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	19	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
9	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	20	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
10	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量混入する。	21	10Y R4/2灰黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
11	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	22	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。



第49図 C12-4 ピット出土遺物

[遺物] (第49図・写真図版25)

出土した遺物は、土器・石器がある。1・2は、粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は、外傾し、1では内削ぎが行なわれ、2では口唇が平坦に調整されている。口唇に沿って幅1cm程の無文帯を有し、その下位に斜綱文(L R)を施文している。3・4は深鉢の体部片である。3は複節の斜綱文(L R L)を、4は単節の斜綱文(L R)を施文している。5は尖頭器である。基部は平基をなし、鐵身は二等辺三角形状をなす。側縁は外弧である。

F 12-1 ピット (第50図・第20表・写真図版 8-4, 5)

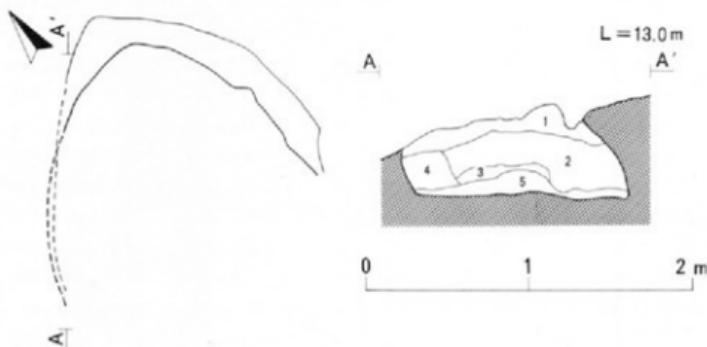
F 12 グリットの地山面において検出した。F 11 溝によって切られ、東壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフ拉斯コ状を呈している。規模は、深さは北壁最深部で91cmを測る。埋土は5層からなり、自然堆積である。

[遺物] (第51図)

出土遺物は土器・石器がある。

土器は、埋土中より土器片29点が出土した。1点を図示した。1は平縁の深鉢形土器の口縁部片である。口縁は若干外反する。口縁部は無文で、体部には沈線による曲線文と、指頭押圧文が施される。指頭押圧文には沈線が連結している。

石器は不定形石器1点が出土した。一辺に刃部を有し、片刃である。刃部は直線状に作り出されている。



第50図 F 12-1 ピット

第20表 F 12-1 ピット

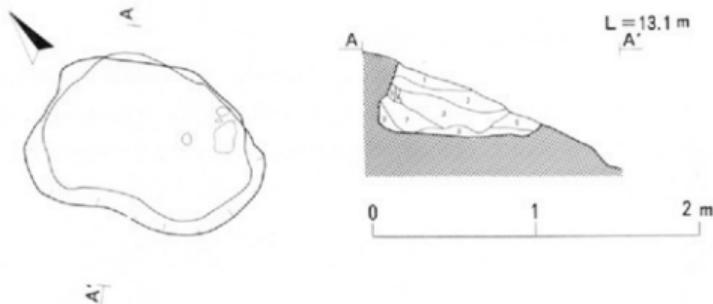
層番	土 色	備 考	層番	土 色	備 考
1	10Y R5/6黄褐色	地土。鉄化物なし。粘性なし。やや堅く。まさを多量含む。	4	10Y R5/4赤い黄褐色	る。まさを多量含む。地土。鉄化物なし。粘性なし。やや固く。
2	10Y R6/10に多い黄褐色	地土。鉄化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。	5	10Y R5/6黄褐色	しめる。まさを多量含む。地土。鉄化物なし。粘性なし。やや堅く。まさを多量含む。
3	10Y R5/6黄褐色	地土。鉄化物なし。粘性なし。固くしまる。			



第51図 F 12-1 ピット出土遺物

F 12-2 ピット (第52図・第21表・写真図版 8-6)

F 12 グリットの地山面において検出した。G 12-1 ピットの北側に隣接する。平面形は楕円形を呈し、断面形は、南西壁ではゆるやかに立ち上がり、北東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸149cm±・短軸93cm±、底部径長軸133cm±・短軸82cm±で、深さは北壁最深部で58cm±を測る。埋土は8層からなり、肩の堆積は自然堆積で部分的に壁の崩壊土がみられる。



第52図 F 12-2 ピット

第21表 F 12-2 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	6	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
2	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	7	10YR5/4にぶい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。固くしまる。まさを少量含む。
3	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	8	10YR5/3黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
4	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを少量含む。	9	10YR6/6明黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。
5	10YR6/6明黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。			



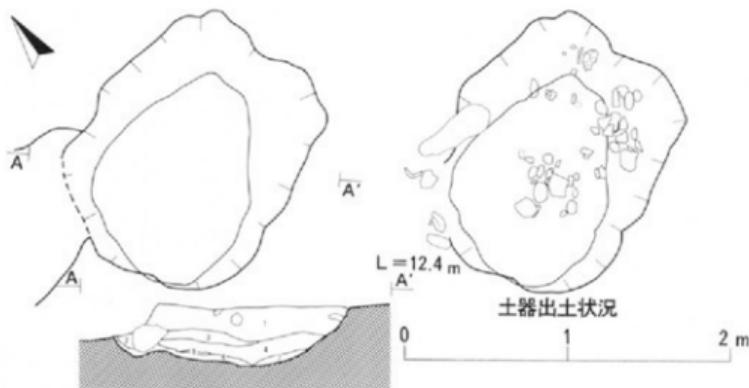
第53図 F 12-2 ピット出土遺物

〔遺物〕(第53図・写真図版25)

埋土中より土器片27点(うち底部1点)が出土した。4点を図示した。1は波状口縁の深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。頸部に、幅の広い沈線により曲線文が画かれる。2は深鉢の頸部片である。頸部には一条の断面が三角形の横位隆線が巡り、口縁部無文帯と体部地文部とを区画する。隆線には連続する刺突が施される。3は深鉢の体部片である。沈線と充填縫文により文様が画かれる。4は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。網目状捺糸文が施される。時期的には、1が縄文時代中期後葉、2・3が縄文時代後期前葉である。

G 12-1 ピット (第54図・写真図版8-7, 9-1)

F 11・F 12・G 12 グリットの地山面において検出した。F 11溝を切る。平面形は梢円形を呈し、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部径長軸175cm土・短軸125cm土、底部径長軸132cm土・短軸82cm土で、深さは東壁最深部で60cm土を測る。埋土は7層からなり、自然堆積である。



第54図 G 12-1 ピット

第22表 G 12-1 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	4	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
2	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。礫有り。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。	5	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。
3	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。礫、土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	6	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。
			7	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。

[遺物] (第55図・第56図・写真図版25.26)

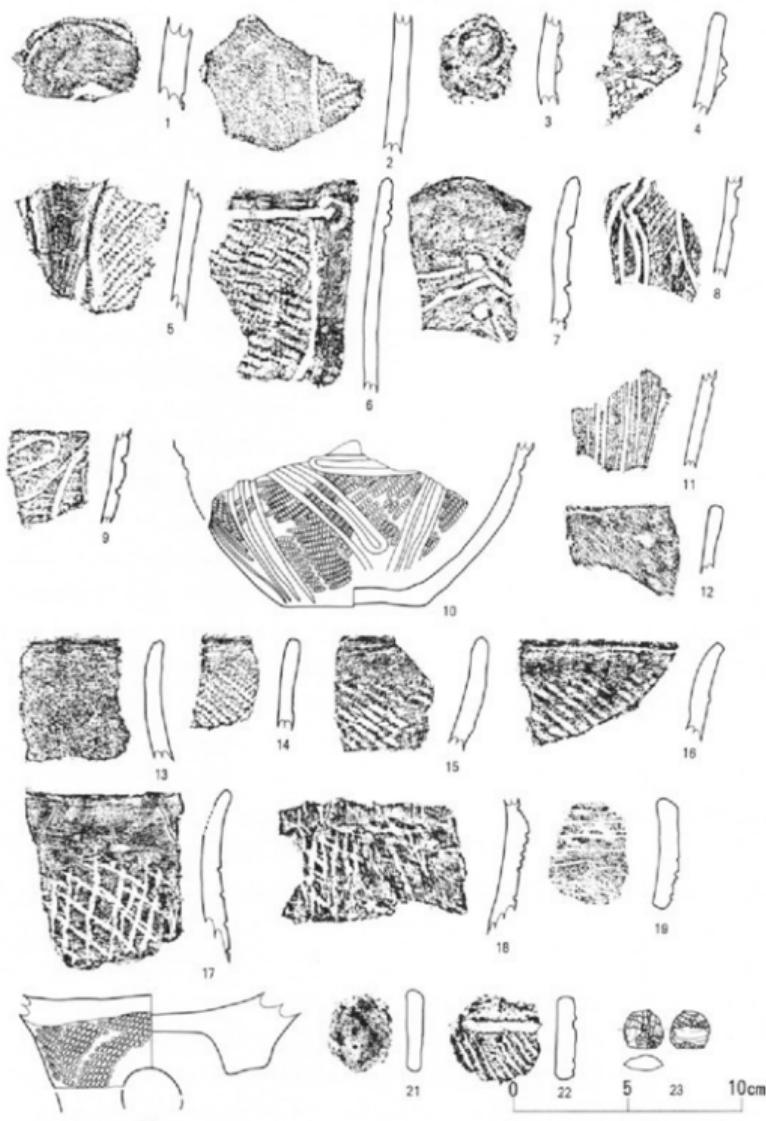
出土した遺物は、土器・土製品・石器がある。

(土器・土製品)

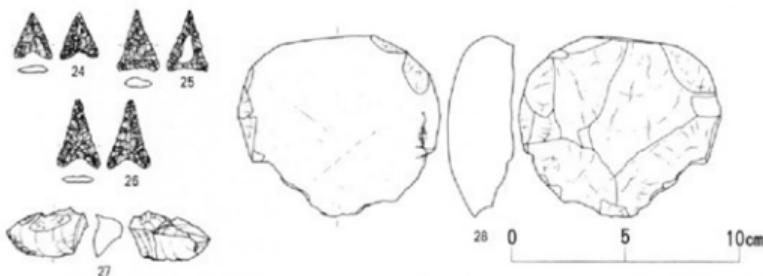
埋土中より土器片160点（うち底部2点）と、体部下半から底部にかけてのもの1点が出土した。18点を図示した。1・2は縄文時代中期後葉の深鉢の体部片である。沈線により文様を画いている。3～10は縄文時代後期前葉のものである。3は深鉢の体部片である。斜縄文（LR）施文後、ボタン状の貼付文を貼付している。4・5は隆線を有するものである。4は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文で、一条の連続した刺突を有する隆線が頸部に巡り、体部地文部とを区画している。地文は隆線施文後、斜縄文（LR）を施している。5は深鉢の体部片である。縦位に隆線が垂下し、隆線には部分的に刺突が施されている。隆線は原体施文後に施されている。6～10は沈線により文様を意匠するものである。6・7は波状口縁の深鉢の口縁部片である。口縁は、6は外傾、7は外反する。いずれも波状部直下に盲孔を有している。6では、一個の盲孔が施され、盲孔の回りを弧状の沈線が巡り、この弧状沈線は、口縁部無文帯と体部文様帯を区画する一条の横位沈線と連結する。連結部からは体部に縦位の沈線が垂下している。沈線は斜縄文（RL）施文後に施している。7は、縦位に盲孔が施されるものである。口縁部は無文で、盲孔より斜めに沈線が垂下する。8・9は深鉢の体部片である。8はS字状の沈線、9は細い沈線により曲線が施文される。10は浅鉢の体部下半から底部にかけてのものである。平行する三本の沈線により文様を、底部直上まで施している。文様は、斜縄文（RL・LR）を施文後に画いている。沈線間は磨消されてはいない。11は粗製深鉢の体部片である。櫛引きにより地文が画かれている。12～17は平縁深鉢の口縁部片である。口縁部は12・14・15は外傾し、17は内反し、13・16は外反する。12・14・15は口唇部を平坦に調整している。文様は、12・13は無文で、14～16は口縁部は無文で、頸部下に地文が施される。地文は14～15が斜縄文（LR）で、16は網目状撚糸文である。18は深鉢の体部片である。網目状撚糸文を施文している。19は高台部の破片である。脚部には径2.5cm程の穿孔を3箇所有している。20～22は土製円盤である。21は側縁を研磨しているが、他は打ち欠きのみにより整形している。

(石器)

出土した石器は、石鐵・礫石器・使用痕石器がある。石鐵は4点出土した。23は基部が平基をなすものである。先端部は欠損する。一面に一次剥離痕を大きく残す。24～26は、基部に抉りを有し、鐵身は二等辺三角形状を呈する。側縁は24が直線状で、25・26は内弧である。抉りは26は弱く、他は比較的強い。27はマイクロフレーリングを有するものである。28は礫石器である。刃部は片面のみに作りだされ、他の面には自然面を大きく残す。



第55図 G12-1 ピット出土遺物

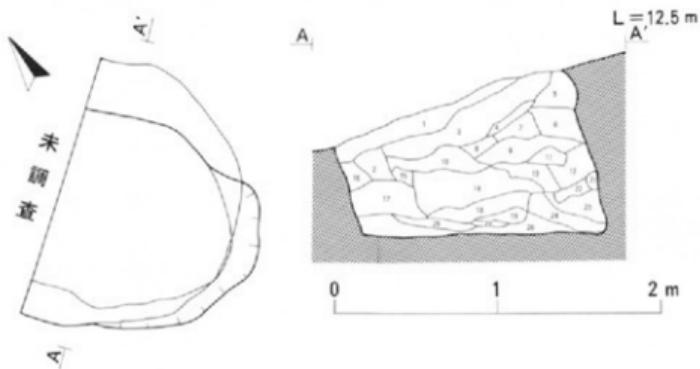


第56図 G12-1 ピット出土遺物

B13-1 ピット（第57図・第23表・写真図版9-2）

B13グリットの地山面において検出した。西側は未調査区へと広がる。平面形は不明で、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが南壁最深部で77cm±である。埋土は人為的な堆積である。

遺物は、埋土中より土器片5点（うち底部1点）が出土したが、細片のため割愛した。



第57図 B13-1 ピット

C13-1 ピット（第58図・第24表・写真図版9-3, 4）

C13・C14グリットの地山面において検出した。C13-2ピットによって南壁を切られる。平面形は楕円形を呈し、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ

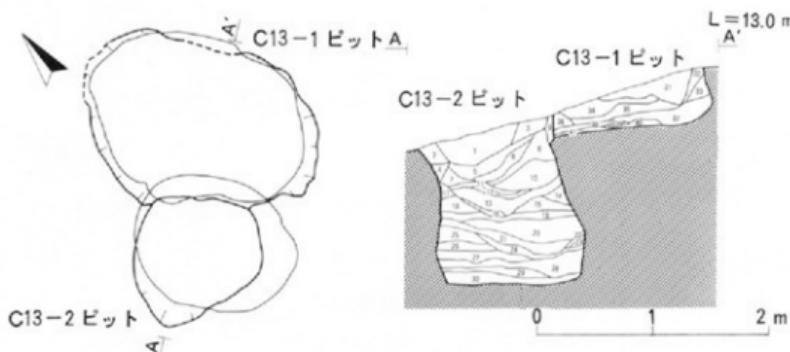
第23表 B13-1 ピット

番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	14	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R5/6暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	15	10Y R4/5褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	16	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
4	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	17	10Y R3/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
5	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	18	10Y R3/2黒褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	19	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	20	10Y R2/3黒褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	21	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	22	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
10	10Y R6/8明黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	23	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
11	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	24	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
12	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	25	10Y R2/3暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
13	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	26	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。

状を呈している。規模は、開口部径長軸224cm±・短軸145cm±、底部径長軸201cm±・短軸134cm±で、深さは南壁最深部で54cm±を測る。埋土は11層からなり自然堆積である。

[遺物] (第58図)

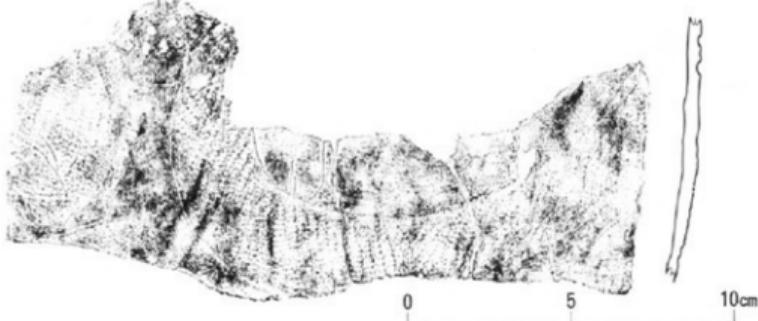
埋土中より、縄文時代中期後葉の深鉢の体部片1点を得た。沈線により曲線文が画かれ、斜綱文(R L)が充填されている。



第58図 C13-1・C13-2 ピット

第24表 C13-2 ピット C13-1 ピット

層No.	土 色	備 考	層No.	土 色	備 考
1	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	22	10Y R7/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
2	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	23	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
3	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	24	10Y R6/6にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
4	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	25	10Y R6/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
5	10Y R5/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	26	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含むG。
6	10Y R6/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	27	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
7	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	28	10Y R6/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
8	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	29	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
9	10Y R5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	30	10Y R6/8黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
10	10Y R6/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	31	10Y R5/5黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさが少額混入する。
11	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	32	10Y R6/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
12	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	33	10Y R5/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
13	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	34	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
14	10Y R6/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	35	10Y R5/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
15	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	36	10Y R5/5黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
16	10Y R6/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	37	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
17	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	38	10Y R3/4暗褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。固くしまる。まさを少量含む。
18	10Y R5/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	39	10Y R6/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
19	10Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	40	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
20	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	41	10Y R6/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
21	10Y R5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。			



第59図 C13-1 ピット出土遺物

C 13-2 ピット（第58図・第24表 写真図版9-5, 6）

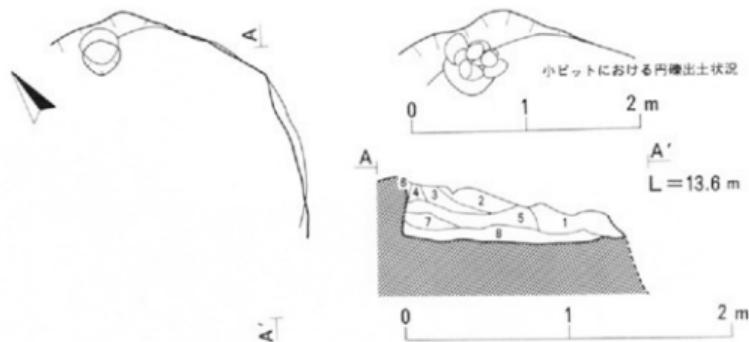
C 13 グリットの地山面において検出した。C 13-1 ピットの南側を切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径126cm土・底部径146cm土、深さは北壁最深部で150cm土を測る。埋土は30層からなり、自然堆積である。

〔遺物〕（第60図・写真図版26）

埋土中より土器片51点を得た。4点を図示した。1・2は縄文時代中期後葉のものである。1は波状口縁をなすと思われる深鉢の口縁部片である。幅の広い沈線によって文様が画かれる。2は深鉢の体部片である。沈線によって曲線文が画かれ、斜縄文（LR）が充填される。3・4は深鉢の体部片である。3は撚糸文、4は斜縄文（LR）が施される。



第60図 C 13-2 ピット出土遺物



第61図 D 13-1 ピット

D13-1 ピット (第61図・第25表・写真図版9-7)

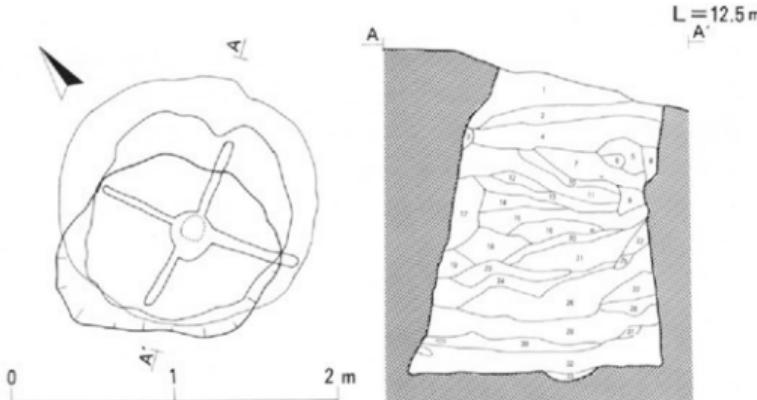
D13・D14・E13グリットの地山面において検出した。東壁のみが残存し、南壁はE13-1ピットによって切られる。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。北壁際に開口部径24cm土・底部径28cm土・深さ29cm土の小穴を一基有しており、小穴には9個の花崗岩の円礫、椭円礫が集積してあった。埋土は8層からなり自然堆積である。遺物は埋土中より土器片51点を得たが割愛した。

第25表 D13-1 ピット

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10Y R6/6黄褐色	焼土を少量含む。炭化物なし。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	6	10Y R6/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R6/5明黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	7	10Y R6/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
3	10Y R6/4におい黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	8	10Y R4/6褐色	焼土。炭化物なし。粘性有り。固くしまる。まさを少量含む。
4	10Y R4/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	9	10Y R5/4におい黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
5	10Y R6/5明黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。			

D13-2 ピット (第62図・第26表・写真図版9-8, 10-1)

D13グリットの地山面において検出した。C13-1ピットより南方向へ1mの地点に位置する。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面に十字状の溝と、開口部径25cm土・底部径15cm土・深さ12cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径141cm土・底部径163cm土で、深さは北壁最深部で193cm土を測る。埋土は38層からなり自然堆積である。



第62図 D13-2 ピット

第26表 D13-2 ピット

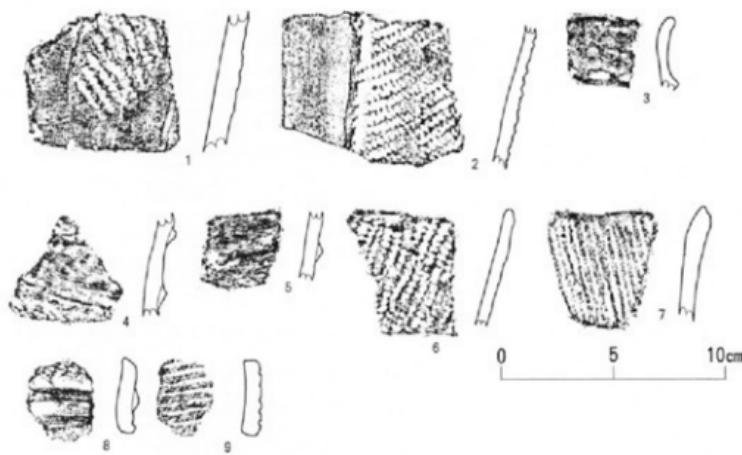
番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	10Y R5/8黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	17	10Y R3/6によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
2	10Y R5/4によい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	18	10Y R5/4によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
3	10Y R3/6によい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや圓く しまる。まさを少量含む。	19	10Y R3/6によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
4	10Y R4/6によい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	20	10Y R4/3によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
5	10Y R4/6によい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	21	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
6	10Y R5/8黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	22	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
7	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。やや秋い。まさを少量含 む。	23	10Y R5/4によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
8	10Y R5/4によい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	24	10Y R5/5明黃褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
9	10Y R5/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	25	10Y R7/1灰白色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。
10	10Y R5/4によい 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 まさを少量含む。	26	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
11	10Y R5/4によい 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。やや秋い。まさを少量含 む。	27	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
12	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。やや秋い。まさを少量含 む。	28	10Y R6/4によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
13	10Y R5/8黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。やや秋い。まさを少量含 む。	29	10Y R6/4によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
14	10Y R5/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。	30	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。やや秋い。まさを少量含 む。
15	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。	31	10Y R6/3によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
16	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。やや秋い。まさを少量含 む。	32	10Y R5/4によい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや秋い。まさを少量含む。
			33	10Y R6/3によい 黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。やや秋い。 まさを少量含む。

[遺物] (第63図 写真図版26)

遺物は土器・土製品がある。

埋土中より土器片78点（うち底部2点）を得た。7点を図示した。1は、深鉢の体部片である。非常に浅い沈線を縦位に施し、斜縞文（LR）を施文している。2～5は隆線を有するものである。2は深鉢の体部片である。縦位に隆線を施文し、隆線施文後に斜縞文（RL）を充填している。3は平縞深鉢の口縞部片である。口縞は外反する。隆線は頭部に横位に施文され、連続する刺突を有している。4・5は深鉢の体部片で、横位の隆線を有する。6は平縞の鉢の口縞部片、7は深鉢の口縞部片である。ともに口縞は外傾する。口唇部直下まで、6では斜縞文（LR）、7では撚糸文が施文されている。時期は1・2が縄文時代中期後葉、3～5が縄文時代後期前葉である。

土製品は土製円盤2点が出土している。8は縄文時代中期後葉の土器片を利用したものである。打ち欠きのみにより楕円形に整形している。9は入念な磨きにより楕円形に整形したものである。

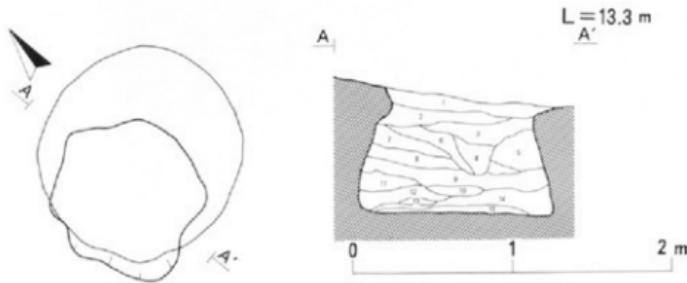


第63図 D13-2 ピット出土遺物

E 13-1 ピット（第64図・第27表・写真図版10-2, 3）

E 13グリットの地山面において検出した。D 13-1・E 13-2 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。

底面の中央に開口部径20cm±・底部径10cm±・深さ9cm±の小穴を一基有している。規模は、開口部径106cm±・底部径136cm±で、深さは北壁最深部で104cm±を測る。埋土は15層からなり、自然堆積である。



第64図 E 13-1 ピット

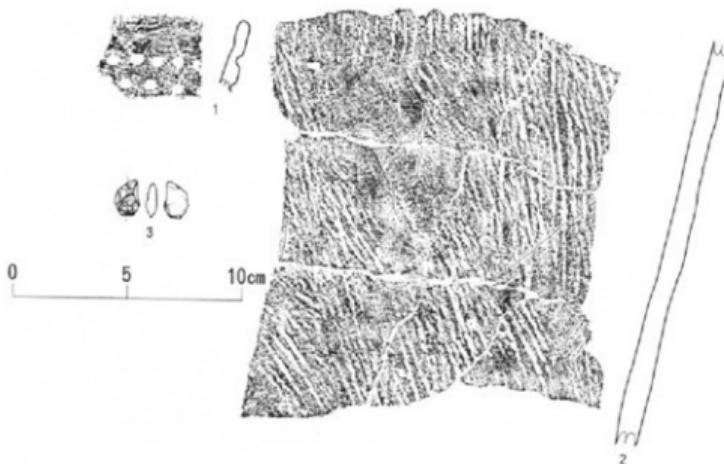
第27表 E 13-1 ピット

層No	土 色	備 考	層No	土 色	備 考
1	10Y R4/褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	9	10Y R5/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R4/褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	10	10Y R4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R4/褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 まさを含まない。	11	10Y R4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。
4	10Y R4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	12	10Y R4/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。
5	10Y R4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	13	10Y R4/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R5/6におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	14	10Y R4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R5/6におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	15	10Y R4/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
8	10Y R5/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。			

[遺物] (第65図)

出土した遺物は、土器・石器がある。

土器は埋土中より土器片39点（うち底部2点）を得た。2点を図示した。1は波状口縁をなすと思われる深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁に平行して三列の列点文が巡る。2は深鉢の体部片である。外傾ぎみに立ち上がり、撲糸文が施文されている。石器は一辺に刃部を有する不定形石器1点が出土した。刃は片刃で直線的に作り出されている。



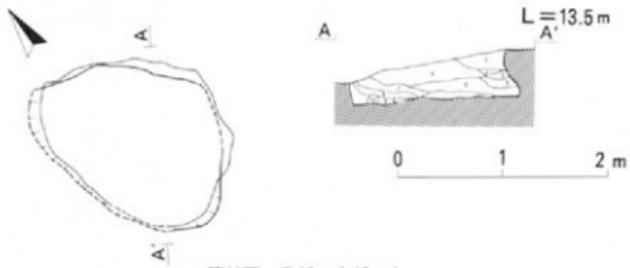
第65図 E 13-1 ピット出土遺物

E 13-2 ピット (第66図・第28表・写真図版10-4, 8)

E 13グリットの地山面において検出した。F 13-2ピットによって東壁を、E 13-1ピットによって西壁を切られる。平面形は楕円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸215cm土、底部径長軸200cm土・短軸132cm土で、深さは北壁最深部で58cm土を測る。埋土は11層からなり自然堆積である。

[遺物] (第67図・写真図版26)

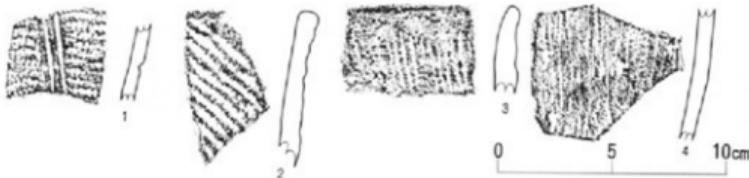
埋土中より土器片13点（うち底部1点）を得た。4点を図示した。1は深鉢の体部片である。斜縞文（L R）施文後、平行する三本の沈線を施文している。2・3は粗製の平縞深鉢の口縁部片である。ともに外傾する。地文は2では口唇直下まで斜縞文（R L）が、3では口縁部は無文で、頸部下に撫糸文が施文される。4は深鉢の体部片である。撫糸文が施文される。



第66図 E 13-2 ピット

第28表 E 13-2 ピット

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10Y R6/6明黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	7	10Y R6/6明黄褐色	まさを少量含む。 焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。
2	10Y R6/4黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	8	10Y R6/6明黄褐色	まさを少量含む。 焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。
3	10Y R7/3にぶい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 まさを少量含む。	9	10Y R7/4にぶい 黄褐色	まさを少量含む。 焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。
4	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを少量含む。	10	10Y R7/3にぶい 黄褐色	まさを少量含む。 焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。
5	10Y R5/8黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを少量含む。	11	10Y R7/4にぶい 黄褐色	まさを少量含む。 焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。
6	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。			



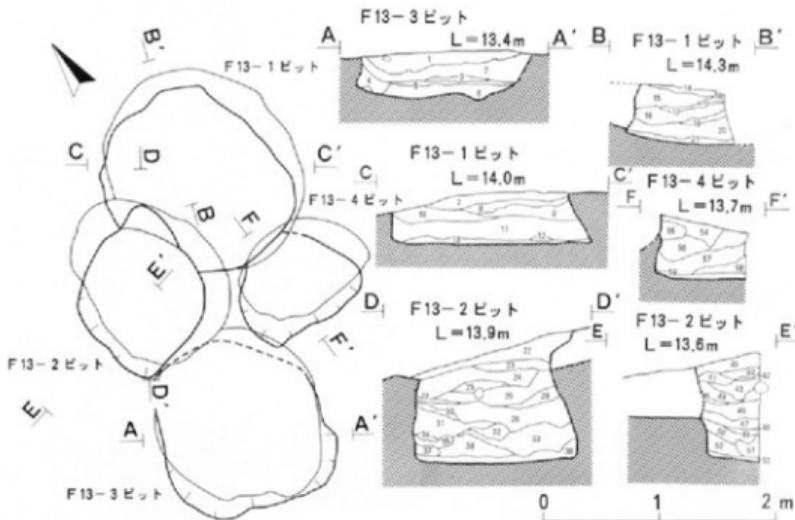
第67図 E 13-2 ピット出土遺物

F 13-1 ピット (第68図・第29表・写真図版10-5, 6)

E 13・E 14・F 13・F 14 グリットの地山面において検出した。F 13-2 ピットに西壁を切られ、F 14-3・F 13-4 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径175cm±・底部径190cm±で、深さは北壁最深部で55cm±を測る。埋土は7層からなり自然堆積である。

[遺物] (第69図・写真図版26)

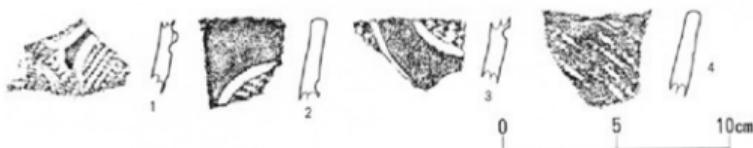
埋土中より土器片41点を得た。4点を図示した。1～3は縄文時代中期後葉のものである。1は深鉢の体部片である。斜縄文 (R L) 施文後、隆沈線により曲線文を画いている。2は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文で、体部に沈線による曲線文が画かれる。3は深鉢の体部片である。沈線と磨消縄文により曲線文が画かれる。4は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口唇直下まで斜縄文 (L R) が施文される。



第68図 F 13-1・F 13-2・F 13-3・F 13-4 ピット

第29表 F13-1・F13-2・F13-3・F13-4 ビット

番号	土 色	備 考	番号	土 色	備 考
1	2.5Y4/1オリーブ 褐色	燒土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。	31	10YR6/4にひい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含まない。
2	2.5Y4/6オリーブ 褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	32	10YR6/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	2.5Y4/1オリーブ 褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	33	10YR5/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含まない。
4	2.5Y6/3にひい黄 色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	34	10YR6/6明黄褐 色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
5	10YR4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	35	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
6	2.5Y8/4棕褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	36	10YR6/3にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
7	10YR6/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	37	10YR5/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
8	10YR5/4黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	38	10YR5/8黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
9	10YR5/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	39	10YR5/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
10	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	40	10YR6/4にひい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを微量含む。
11	10YR6/3にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。やや固く しまる。まさを少量含む。	41	10YR6/3にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
12	10YR6/3にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。やや固く しまる。まさを少量含む。	42	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
13	10YR6/6明黄褐 色	燒土、炭化物なし。粘性有り。やや固く しまる。まさを少量含む。	43	10YR5/4にひい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有 り。粘性なし。固くしまる。まさを微量 含む。
14	10YR4/3にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性有り。 やや固くしまる。まさを微量含む。	44	10YR6/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
15	10YR5/4にひい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。ま さを少量含む。	45	10YR7/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
16	10YR6/4にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。	46	10YR6/3にひい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを微量含む。
17	10YR6/3にひい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。ま さを微量含む。	47	10YR5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを微量含む。
18	10YR6/4にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。 軟い。まさを微量含む。	48	10YR7/4にひい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。
19	10YR5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。ま さを微量含む。	49	10YR6/6明黄褐 色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを微量含む。
20	10YR5/8黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性有り。 まさを微量含む。	50	10YR5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。
21	10YR5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを微量含む。	51	10YR8/3浅黄褐 色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。
22	10YR6/4にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。土器片有 り。粘性なし。やや固くしまる。まさを 含まない。	52	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
23	10YR4/4褐色	焼土、炭化物なし。土器片有り。粘性な し。やや固くしまる。まさを少量含む。	53	10YR6/6明黄褐 色	焼土、炭化物なし。粘性有り。固くしま る。まさを微量含む。
24	10YR5/4黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを含まない。	54	10YR6/4にひい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。
25	10YR5/4にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを含まない。	55	10YR7/3にひい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
26	10YR5/4にひい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含まない。	56	10YR6/4にひい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。
27	10YR4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含まない。	57	10YR6/6明黄褐 色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。
28	10YR5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含まない。	58	10YR6/4にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
29	10YR5/4にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含まない。	59	10YR6/6明黄褐 色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
30	10YR6/3にひい 黄褐色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含まない。			



第69図 F 13-1 ピット出土遺物

F 13-2 ピット（第68図・第29表・写真図版10-7, 8, 11-1）

E 13・F 13グリットの地山面において検出した。E 13-2・F 13-1ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径151cm土・底部径156cm土で、深さは北壁最深部で106cm土を測る。埋土は17層よりなり自然堆積である。

〔遺物〕（第70図・写真図版26）

出土した遺物は、土器・土製品がある。

土器は、埋土中より土器片42点を得た。4点を図示した。1・2は深鉢の体部片である。1は斜縞文（LR）、2は斜縞文（RL）施文後、沈線を施している。3は平縞深鉢の口縁部片である。口縁は外傾し、口唇は平坦に調整されている。口唇直下まで、斜縞文（RL）が施文される。4は深鉢の体部片である。斜縞文（LR）を施文している。

土製品は、土製円盤1点（5）が出土している。1／3が残存する。周縁は雑な磨きにより調整されている。



第70図 F 13-2 ピット出土遺物

F 13-3 ピット（第68図・第29表・写真図版11-2, 3）

F 12・F 13グリットの地山面において検出した。F 13-2ピットによって北壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径177cm土・底部径166cm土で、深さは北壁最深部で51cm土を測る。埋土は6層からなり自然堆積である。

[遺物] (第71図・写真図版26)

出土した遺物は、土器・石器がある。

土器は埋土中より土器片5点（うち底部1点）を得た。1点を図示した。1は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。

口縁は外傾し、口唇を平坦に調整してある。口縁部は無文 第71図 F13-3 ピット出土遺物で、頸部下に斜繩文（LR）が施される。石器は無茎の石鎚欠損品1点が出土した。基部に抉りを有し側縁は直線状である。

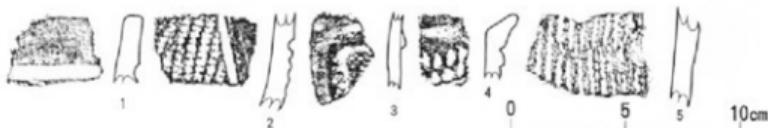


F 13-4 ピット (第68図・第29表・写真図版11-4, 5)

F 13グリットの地山面において検出した。F 13-1 ピットによって北壁の一部を切られ、G 13-1 ピットの西壁を切る。平面形は楕円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸111cm±、短軸75cm±、底部径長軸118cm±、短軸75cm±で、深さは北壁最深部で65cm±である。埋土は6層からなり自然堆積である。

[遺物] (第72図・写真図版26)

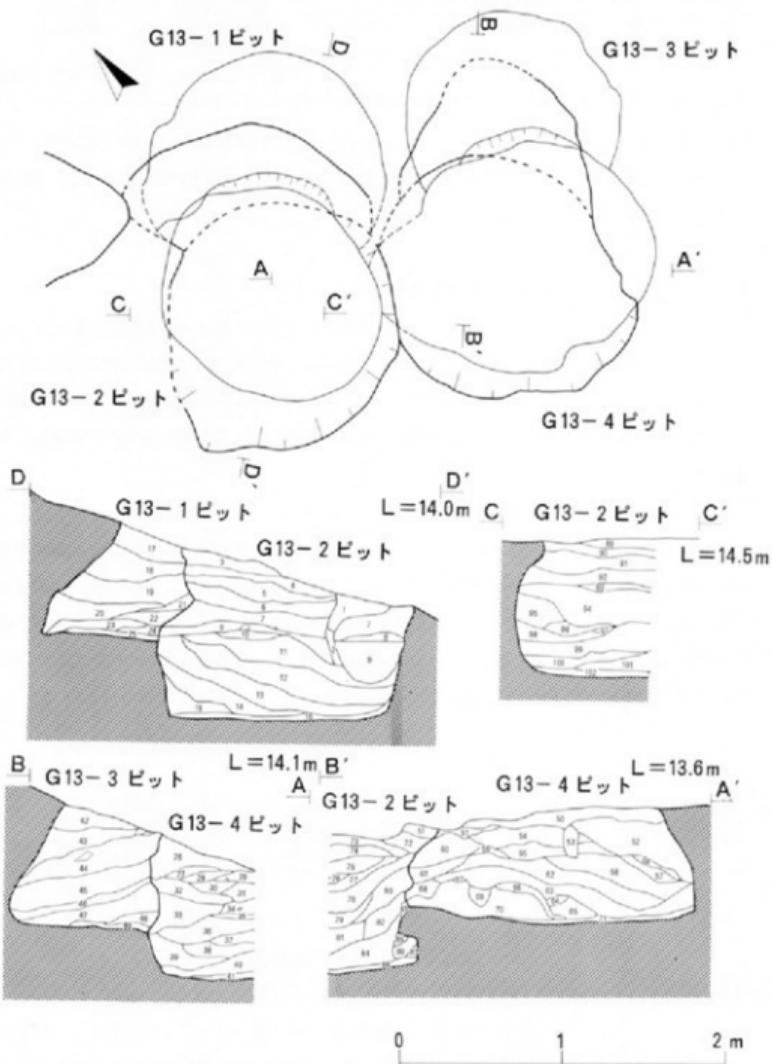
埋土中より土器片28点（うち底部1点）が出土した。5点を図示した。1・2は沈線により文様を画くものである。1は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾し、口唇は平坦に調整されている。2は深鉢の体部片である。磨削繩文が施される。3は深鉢の体部片で隆線を有するものである。隆線施文後に、斜繩文（RL）を充填している。4は平縁深鉢の口縁部片である。口縁で「く」の字状に屈折する。口縁部に刺突文列を有している。5は深鉢の体部片である。斜繩文（LR）が施される。



第72図 F13-4 ピット出土遺物

G 13-1 ピット (第73図・第30表・写真図版11-6)

F 13・G 13グリットの地山面において検出した。F 13-4・G 13-2 ピットによって切られ、北壁のみが残存する。形状は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが最深部で74cm±を測る。埋土は8層からなり自然堆積である。遺物は、埋土中より土器片5点が出土したが割愛した。



第73図 G13-1・G13-2・G13-3・G13-4 ピット

第30表 G13-1・G13-2・G13-3・G13-4 ピット

層No.	土 色	備 考	層No.	土 色	備 考
1	10Y R4/3褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを微量含む。	30	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R5/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを微量含む。	31	10Y R6/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを微量含む。	32	10Y R5/2灰黃褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。
4	10Y R6/3に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性有り。 軟い。まさを微量含む。	33	10Y R4/5に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。
5	10Y R6/3に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性有り。 軟い。まさを微量含む。	34	10Y R6/2灰黃褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。
6	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性有り。 軟い。まさを微量含む。	35	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
7	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。	36	10Y R6/3に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
8	10Y R6/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。	37	10Y R5/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R7/1灰白色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	38	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量混入する。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
10	10Y R7/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	39	10Y R5/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
11	10Y R7/2に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	40	10Y R7/2に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
12	10Y R6/2灰黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量摄入する。	41	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。 まさを含まない。
13	10Y R7/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	42	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
14	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。	43	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。 粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
15	10Y R7/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	44	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
16	10Y R6/6明黃褐色	焼土なし。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	45	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
17	10Y R5/6黃褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。	46	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
18	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。	47	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
19	10Y R5/5黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	48	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
20	10Y R5/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	49	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。 まさを少量含む。
21	10Y R5/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	50	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。硬有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
22	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	51	10Y R6/6明黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。 まさを少量含む。
23	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	52	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性あり。 やや固くしまる。まさを少量含む。
24	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	53	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
25	10Y R6/6明黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	54	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。 まさを少量含む。
26	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを微量含む。	55	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。 まさを少量含む。
27	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを微量含む。	56	10Y R5/6黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
28	10Y R6/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを微量含む。	57	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量混入する。粘性有り。 やや軟い。まさを少量含む。
29	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 軟い。まさを少量含む。	58	10Y R5/8黃褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。

層番	土色	備考	層番	土色	備考
59	10Y R6/8明黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軽い。 まさを少量含む。	83	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。軽い。 まさを少量含む。
60	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。	84	10Y R5/8黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。
61	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。	85	10Y R6/6明黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。や や固くしまる。まさを少量含む。
62	10Y R6/6明黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。	86	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土を少額含む。炭化物なし。粘性有り。 やや固くしまる。まさを少量含む。
63	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性有り。やや固く。 しまる。まさを少量含む。	87	10Y R7/3に付い 黄褐色	燒土を少量含む。炭化物なし。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。
64	10Y R6/6明黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 しまる。まさを少量含む。	88	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
65	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 しまる。まさを少量含む。	89	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土を微量含む。炭化物なし。粘性なし。 軽い。まさを微量含む。
66	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 しまる。まさを少量含む。	90	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを少量含む。
67	10Y R6/3に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	91	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを少量含む。
68	10Y R6/3に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	92	10Y R5/4に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有 り。粘性なし。まさを少量含む。
69	10Y R6/3に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	93	10Y R5/4に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを微量含む。
70	10Y R6/4に付い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。	94	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軽い。まさを微量含む。
71	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	95	10Y R6/6明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを微量含む。
72	10Y R6/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。	96	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを微量含む。
73	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を微量混入する。粘性 なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	97	10Y R7/3	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを微量含む。
74	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 しまる。まさを少量含む。	98	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを微量含む。
75	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	99	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軽い。 まさを微量含む。
76	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 しまる。まさを少量含む。	100	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 まさを少量含む。
77	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	101	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 まさを少量含む。
78	10Y R6/4に付い 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを少量含む。	102	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 まさを微量含む。
79	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固く。 しまる。まさを少量含む。			
80	10Y R5/4に付い 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。			
81	10Y R5/8黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。			
82	10Y R5/8黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。			

G 13-2 ピット (第73図・第30表・写真図版11-7, 12-1, 4)

F 13・G 13 グリットの地山面において検出した。G 13-1・G 13-4 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径155cm土・底部径148cm土で、深さは西壁最深部で86cm土を測る。埋土は17層よりなり自然堆積である。

〔遺物〕(第74図・写真図版26)

埋土中より土器片19点(底部1点)が出土した。1点を図示した。1は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文で、体部には沈線と磨消繩文により梢円形の文様が画かれる。



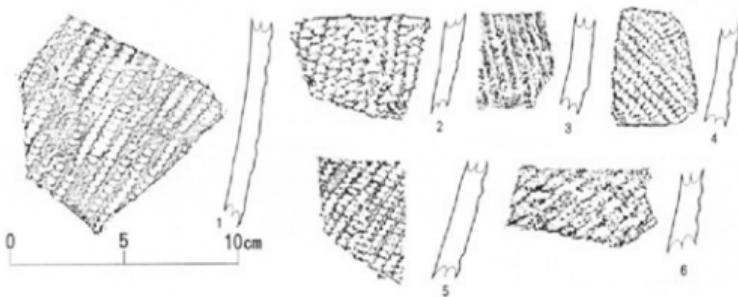
第74図 G13-2 ピット出土遺物

G13-3 ピット(第73図・第30表・写真図版12-2, 3)

G13グリットの地山面において検出した。C13-4ピットによって切られ東壁が残存する。形状は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが85cm土である。埋土は8層からなり自然堆積である。

〔遺物〕(第75図・写真図版26)

埋土中より土器片30点(うち底部1点)が出土した。6点を図示した。1~6は深鉢の体部片である。1・4~6は斜繩文(R L)、2は斜繩文(R L R)、3は撚糸文が施文される。



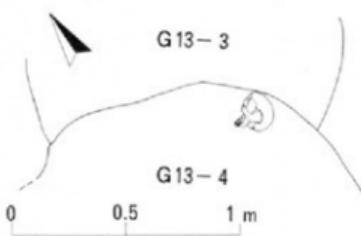
第75図 G13-3 ピット出土遺物

G13-4 ピット(第73図・第30表・写真図版12-2, 4, 5)

G13グリットの地山面において検出した。G13-2ピットによって切られ、G13-3ピットを切る。形状は円形を呈し、断面形は南壁では直壁状に立ち上がるが東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径149cm土・底部径169cm土で、深さは東壁最深部で90cm土を測る。埋土は、下位では人為的な堆積状況を示し、上位は自然堆積である。尚、下位において人骨が検出された。

[3号人骨] (第76図・写真図版12-6)

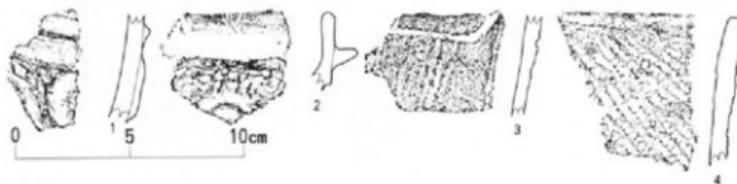
東壁寄りの、底面より23cm程上位において人骨を検出した。人骨は子供のもので、頭骨のみの埋葬で、下顎骨・胸・四肢骨は検出されていない。頭骨は左側面を下位に、顔面は南方向をむいて埋葬されていた。この人骨の左頭頂骨には人為的な損傷を受けた正三角形に近い円形の孔が認められた。詳細については付録を参照されたい。



第76図 G13-4 ピット3号人骨検出状況

[遺物] (第77図・写真図版26)

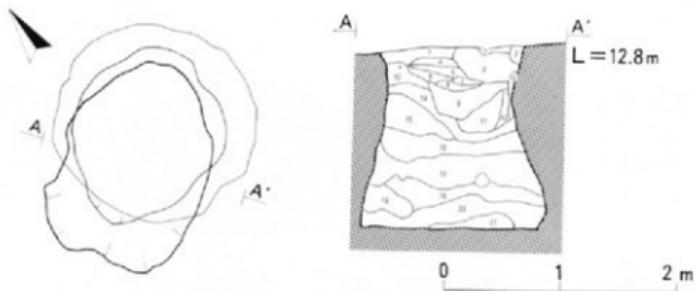
遺物は土器片35点（うち底部2点）が出土した。4点を図示した。1は深鉢の体部片である。隆線により曲線文が画かれる。2は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。頸部に横位の隆線が巡り、口縁部無文帯と区画する。3は深鉢の体部片である。沈線と磨消繩文により文様が意匠される。4は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口唇に沿って幅の狭い無文帯を有し、体部には斜柵文（R L）が施される。



第77図 G13-4 ピット出土遺物

C14-1ピット (第78図・第31表・写真図版12-7, 8)

B13・B14・C13・C14グリットの地山面において検出した。C13-1ピットの北側に隣接する。平面形は開口部は梢円形を呈し、底部は円形を呈している。断面形は、開口部より底部にかけて抉りのあるラスク状を呈している。規模は、開口部径長軸183cm±、短軸128cm±、底部径182cm±で、深さは南壁最深部で173cm±である。埋土は21層からなり、下位は自然堆積であるが上位は人為的な堆積である。



第78図 C14-1 ピット

第31表 C14-1 ピット

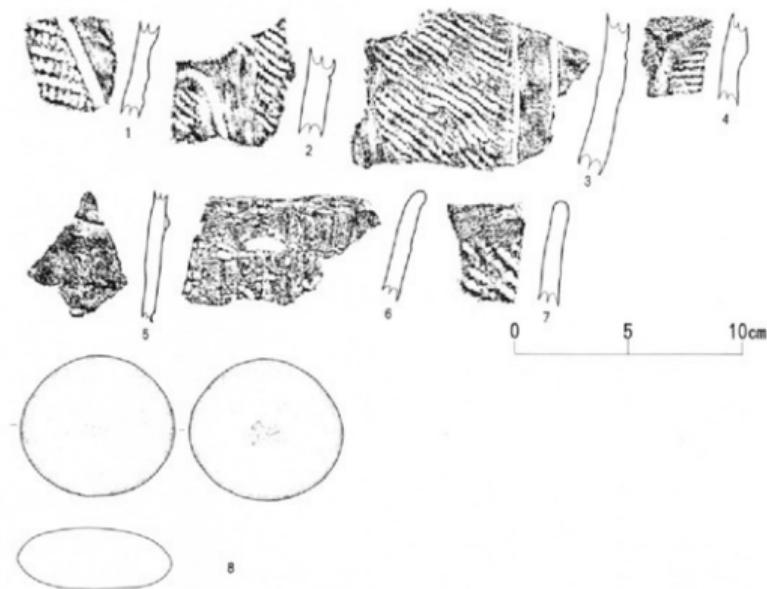
層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	12	7.5Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
2	10Y R5/4黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	13	7.5Y R5/4におい黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟くしまる。まさを少量含む。
3	7.5Y R4/3褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	14	7.5Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
4	7.5Y R5/4におい褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	15	7.5Y R4/3褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
5	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや軟い。まさを微量含む。	16	7.5Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
6	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	17	7.5Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
7	7.5Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	18	7.5Y R5/4におい褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
8	10Y R5/4におい褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	19	10Y R5/4におい黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
9	7.5Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	20	10Y R5/4におい黃褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。
10	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	21	10Y R5/4におい黃褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。
11	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。			

[遺物] (第79図・写真図版27)

出土した遺物は土器・石器がある。

土器は、埋土中より土器片が55点が出土した。7点を図示した。1～3は深鉢の体部片である。縦位沈線と磨消繩文により文様が意匠される。4・5は深鉢の体部片で、隆線を有するものである。5は断面三角形状の隆線を用いている。6・7は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。6は口唇直下まで斜繩文(LR)が、7は口縁部は無文で頸部下に斜繩文(RL)が施文される。

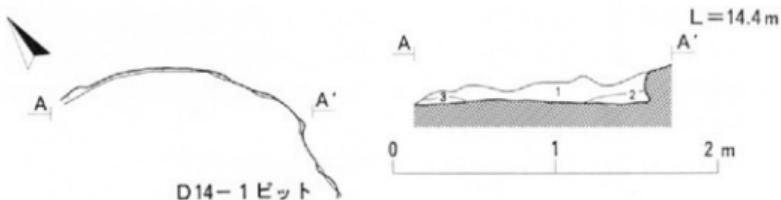
石器は、敲石一点が出土した。扁平な円盤の両面に使用痕を有する。



第79図 C14-1 ピット出土遺物

D14-1ピット（第80図・第32表・写真図版13-1, 2）

D14・D15グリットの地山面において検出した。東壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが東壁最深部で36cmを測る。埋土は、黄褐色土で3層からなり自然堆積である。遺物の出土はない。



第80図 D14-1 ピット

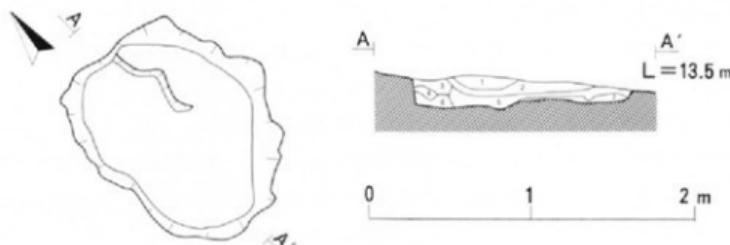
第32表 D14-1 ピット

層番	土色 色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R6/8明黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。	3	10Y R5/8黄褐色	まさを含む。 燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。
2	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。			

D14-2 ピット (第81図・第33表・写真図版13-3, 4)

C13・D13の地山面において検出した。C13-1ピットより東側へ0.6mの地点に位置する。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部の長軸146cm土・短軸97cm土、底部の長軸126cm土・短軸86cm土で、深さは北壁最深部で35cm土を測る。埋土は7層からなり、自然堆積である。

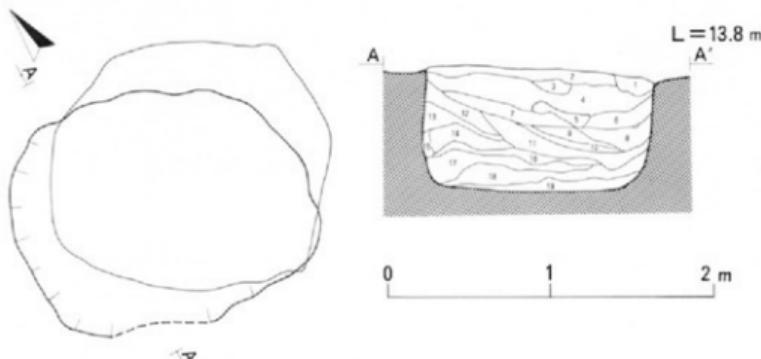
遺物の出土はない。



第81図 D14-2 ピット

第33表 D14-2 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	7.5Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟らか。 まさを含む。	5	10Y R5/6黄褐色	まさを含む。 燒土、炭化物なし。粘性有り。軟い。
2	7.5Y R4/6褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを含む。	6	10Y R6/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。
3	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを含む。	7	10Y R6/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。軟い。 まさを含む。
4	10Y R6/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。軟い。			



第82図 E14-1 ピット

第34表 E14-1 ピット

層番	土 色	備 考	層番	土 色	備 考
1	10Y R5/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含む。	11	10Y R6/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R4/4褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	12	10Y R6/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R3/3暗褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。	13	10Y R6/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを多量含む。
4	10Y R4/4褐色	地土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少量含む。	14	10Y R7/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
5	10Y R4/4褐色	地土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	15	10Y R5/8黄褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R5/6黃褐色	地土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 まさを少量含む。	16	10Y R6/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
7	10Y R6/6明黃褐色	地土なし。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを多量含む。	17	10Y R7/3に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性有り。やや軟い。 まさを多量含む。
8	10Y R5/6黃褐色	地土なし。炭化物を微量含む。土器片有 り。粘性なし。やや固くしまる。まさを 少量含む。	18	10Y R6/8黃褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。
9	10Y R6/6明黃褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	19	10Y R5/4に赤い 鐵褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを少量含む。
10	10Y R6/6明黃褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。			

E14-1 ピット (第82図・写真図版13-5, 6)

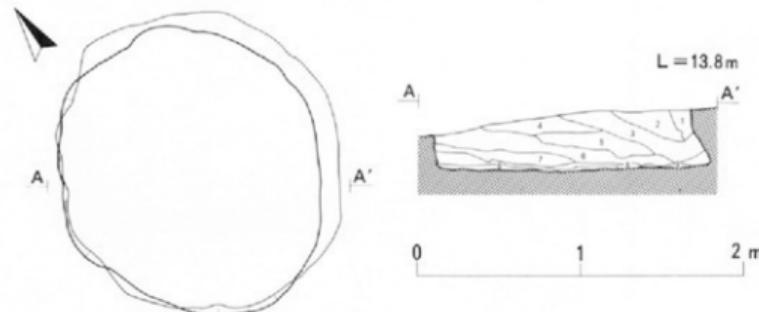
D14・E14グリッドの地山面において検出した。E14-2ピットの北側に隣接し、E15-2・D14-1ピットによって北壁が切られる。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状を呈し、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径192cm土・底部径180cm土で、深さは北壁最深部で112cm土を測る。埋土は19層からなり、自然堆積である。

[遺物] (第83図・写真図版27)

埋土中より土器片16点が出土した。1点を図示した。1は平縁深鉢の口縁である。口唇直下まで斜綱文 (LR) が施文される。



第83図 E14-1 ピット出土遺物



第84図 E14-2 ピット

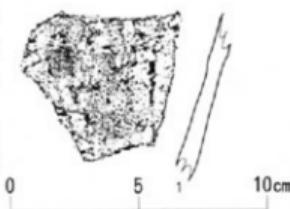
第35表 E 14-2 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	6	10YR5/6黄褐色	しまる。粘性なし。炭化物を微量含む。粘性なし。
2	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。	7	10YR4/6褐色	やや固くしまる。粘性なし。炭化物を微量含む。粘性なし。
3	10YR5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。	8	10YR4/6褐色	やや固くしまる。まさを少額含む。粘性なし。
4	10YR5/6黄褐色	焼土なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	9	10YR5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
5	10YR5/4にぶい				

E 14-2 ピット (第84図・写真図版13-7, 8)

E 13・E 14 グリットの地山面において検出した。E 14-1 ピットに隣接する。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径183cm土・底部径193cm土で、深さは北壁最深部で61cm土を測る。埋土は9層からなり自然堆積である。

[遺物] (第85図・写真図版27)



第85図 E 14-2 ピット出土遺物

埋土中より土器片30点（うち底部1点）が出土した。うち1点を図示した。1は粗製の深鉢の体部片である。燃りの弱い斜縞文（LR）が施される。

F 14-1 ピット (第86図・第36表・写真図版14-1, 3)

F 14 グリットにおいて検出した。東壁が若干F 14-2 ピットによって切られる。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁気味に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径23cm土・底部径8cm土・深さ8cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径123cm土・底部径115cm土で、深さは南壁最深部で54cm土を測る。埋土はすべて自然堆積である。東壁付近では、壁の崩落土がみられる。

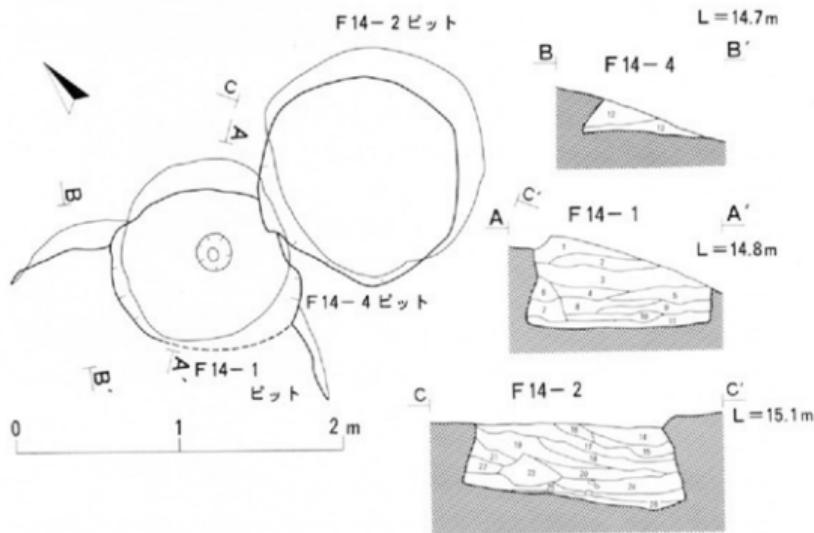
遺物の出土はない。

[1号人骨]

埋土上位において人骨の頭蓋冠の破片を検出したが、埋葬の可能性はない。

F 14-2 ピット (第86図・第36表・写真図版14-4, 5)

F 14・F 15 グリットにおいて検出した。F 14-1 ピットの東壁を若干切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径131cm土・底部径142cm土で、深さは北壁最深部で58cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄褐色土で13層からなる。層の堆積は、上位は自然堆積であるが、下位は人為的な堆積で、成人男性一体を検出している。



第86図 F14-1・F14-2・F14-4 ピット

第36表 F14-1・F14-2・F14-4 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR 6/6明黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	12	10YR 6/6明黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを多量含む。
2	10YR 5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	13	10YR 4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを少量含む。
3	10YR 5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。	14	10YR 5/4に bei 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
4	10YR 4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	15	10YR 5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
5	10YR 5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	16	10YR 6/3に bei 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含む。
6	10YR 4/3褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	17	10YR 5/4に bei 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
7	10YR 5/4に bei 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを含む。	18	10YR 5/4に bei 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
8	10YR 5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	19	10YR 6/3に bei 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
9	10YR 5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	20	10YR 6/4に bei 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
10	10YR 6/4に bei 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	21	10YR 6/4に bei 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。
11	10YR 5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む			

層番	土色	備考	層番	土色	備考
22	10Y R 6/3に赤い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	25	10Y R 7/3に赤い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟かい。まさを含む。
23	10Y R 7/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含む。	26	10Y R 6/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含む。
24	10Y R 6/6明黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。人骨、礫 有り。やや軟かい。まさを少量含む。			

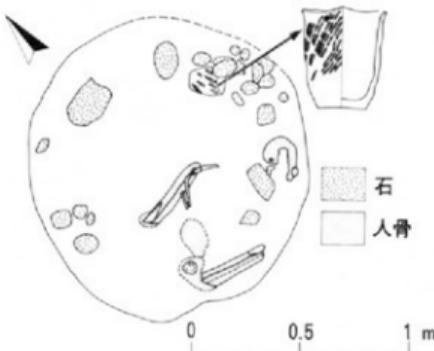
[人骨] (第87図)

底面の南壁寄りの地点において、若い男性と推定される成人の全身を検出した。

埋葬状態は、頭位を東方向にむけた屈葬うつ伏せの埋葬である。人骨上は地山の土で覆われており、埋葬目的にフラスコピットを掘ったものと思われる。解剖学的所見は付録を参照されたい。

[遺物] (第88図・写真図版27)

埋土中より土器片41点（うち底部1点）と、ほぼ完存の鉢1点が出土した。1・2は深鉢の体部片である。1は沈線と磨消繩文により、2は沈線により文様を意匠する。3・4は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は



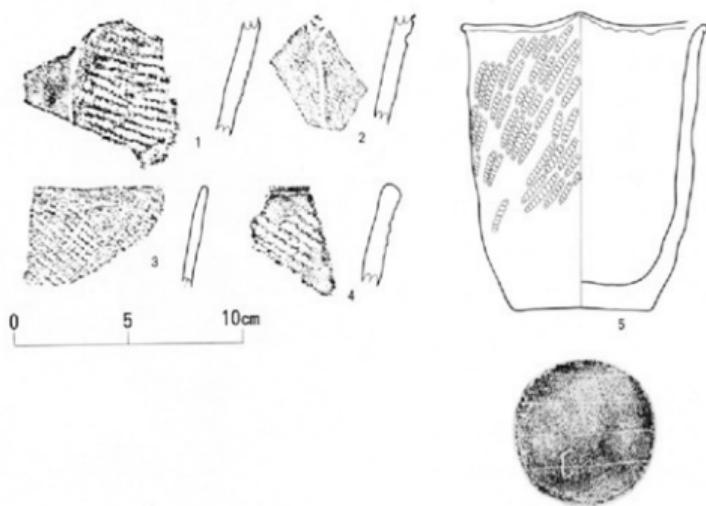
第87図 F 14-1 ピット 2号人骨検出状況

無文で、頸部下に斜繩文（L R）が施文される。5は、ほぼ完存の粗製の鉢である。口縁には1個あるいは2個の小突起を有し、若干であるが外側に折り返される。器形は、体部下半が丸みを帯び、中央付近より口縁にかけて外傾ぎみに立ち上がる。文様は斜繩文（R L）が口唇直下まで施文されている。底部外面には5枚の細長い葉脈の痕を残している。調整は、内面は入念に磨かれて仕上げが丁寧であるが、外面は、体部と底部の境目のみに調整が施され、地文部は原体を施文するのみである。胎土には少量の細砂を含み、外面はざらざらしている。

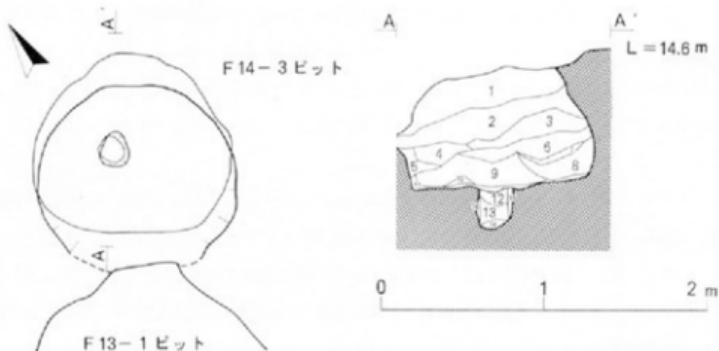
F 14-3 ピット (第89図・第37表・写真図版14-6, 7)

E 14・F 14グリットの地山面において検出した。F 13-1 ピットによって南壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径21cm土・底部径16cm土・深さ24cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径124cm土・底部径124cm土で、深さは北壁最深部で71cm土を測る。埋土は16層からなり自然堆積である。

埋土中より土器片12点（うち底部1点）を得た。細片のため割愛した。



第88図 F14-2 ピット出土遺物



第89図 F14-3 ピット出土遺物

第37表 F14-3 ピット

番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	10Y R5/4に赤い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを微量含む。	9	10Y R5/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。
2	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。	10	10Y R7/3に赤い 黄褐色	燒土なし。粘性なし。秋い。 まさを含む。
3	10Y R6/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。	11	10Y R6/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。固くしま る。まさを微量含む。
4	10Y R6/2灰黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。	12	10Y R5/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。 まさを微量含む。
5	10Y R6/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。まさを微 量含む。	13	10Y R5/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。 まさを微量含む。
6	10Y R6/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。	14	10Y R5/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性有り。秋い。 まさを微量含む。
7	10Y R5/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。 まさを微量含む。	15	10Y R7/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。 まさを含む。
8	10Y R6/4に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。 まさを微量含む。	16	10Y R7/3に赤い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。秋い。 まさを含む。

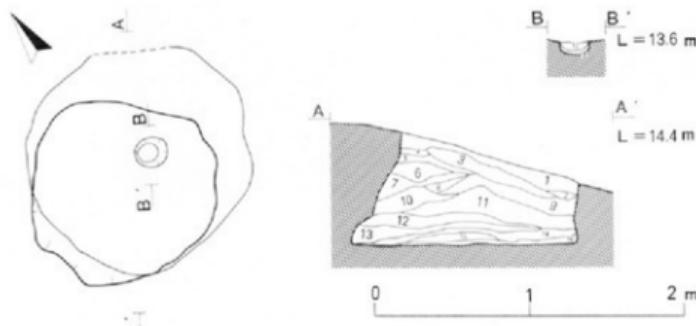
F14-4 ピット（第86図・第36表・写真図版14-2, 3）

F14グリットにおいて検出した。東壁の一部が残存するが、残存部はF14-1ピットによって切られる。平面形は不明で、断面形は底部にかけて抉りがみられフラスコ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で22cm土を測る。埋土は2層からなる。

遺物の出土はない。

F14-5 ピット（第90図・第38表・写真図版14-8, 15-1）

F13・F14・G13・G14グリットの地山面において検出した。G13-1ピットの東側に隣接する。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状に立ち上がるが、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径22cm土・底部径14cm土・深さ11cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径130cm土・底部径152cm土で、深さは北壁最深部で81cm土を測る。埋土は16層よりなり、自然堆積である。



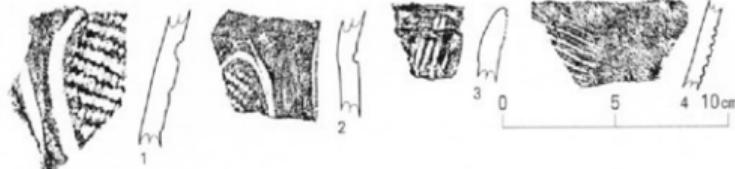
第90図 F14-5 ピット

第38表 F14-5 ピット

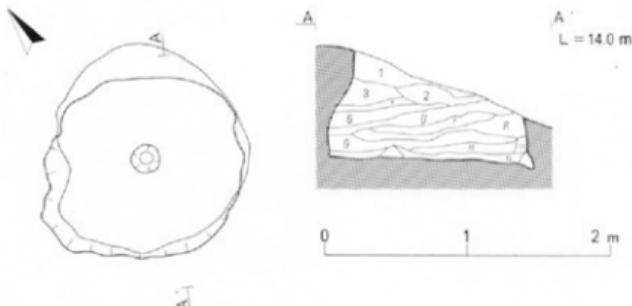
図番	土 色	備 考	図番	土 色	備 考
1	10Y R7/3にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	10	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。 固くしまる。まさを含む。
2	10Y R6/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを含む。	11	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。
3	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	12	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。 固くしまる。まさを含む。
4	10Y R6/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含む。	13	10Y R6/4にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。
5	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含む。	14	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。
6	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有 り。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	15	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを含む。
7	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含む。	16	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを含む。
8	10Y R4/3にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含む。	17	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物を少々含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少々含む。
9	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	18	10Y R5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。

[遺物] (第91図・写真図版27)

埋土中より土器片32点(うち底部1点)が出土した。4点を図示した。1・2は深鉢の体部片である。沈線により曲線形が画かれ、磨消網文が施されている。地文は斜網文(L R)が施文される。3は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口唇に沿って一条の沈線と隆線が巡るが、隆線は剥落している。口縁部には撚糸文が施文されるが、隆線は撚糸文を磨消せず、その上に直接張り付けている。4は深鉢の体部片である。撚糸文が施文される。



第91図 F14-5 ピット出土遺物



第92図 G14-1 ピット出土遺物

第39表 G14-1 ピット

層No	土 色	備 考	層No	土 色	備 考
1	10YR4/6褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを微量含む。	8	10YR6/8明黃褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含む。
2	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	9	10YR5/0黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含む。
3	10YR5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	10	10YR5/8黄褐色	燒土。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含む。
4	10YR5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	11	10YR4/4褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含む。
5	10YR5/4に bei 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを含む。	12	10YR5/4に bei 黄褐色	燒土。炭化物なし。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。
6	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。粘性なし。やや軟い。まさを含む。			
7	10YR4/6褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。まさを含む。			

G14-1 ピット（第92図・第39表・写真図版15-2）

G14グリットの地山面において検出した。東壁1／3程が未調査区へとひろがる。G13-3ピットの東側に隣接する。

平面形は円形を呈すると思われ、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径20cm±・底部径9cm±・深さ10cm±の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径147cm±・底部径148cm±で、深さは北壁最深部で74cm±を測る。埋土は12層からなり、すべて自然堆積である。

〔遺物〕（第93図・写真図版27）

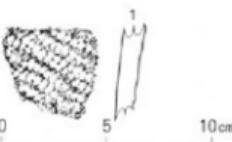
埋土中より土器片7点（うち底部1点）が出土した。1は深鉢の体部片である。斜綱文（LR）が施される。

G14-2 ピット（第94図・第40表・写真図版15-3,4）

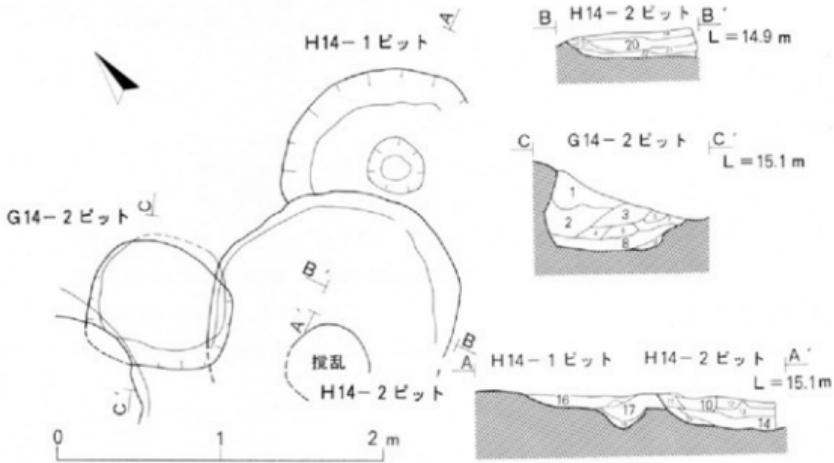
G14グリットの地山面にて検出した。H14-2ピットによって東壁を、G14-1ピットによって西壁を切られる。平面形は、円形を呈し、断面形は北東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径94cm±・底部径82cm±で、深さは東壁最深部で51.8cm±を測る。埋土は9層からなり、すべて人為的な堆積である。遺物の出土はない。

G14-3 ピット（第95図・第41表・写真図版15-5,6）

G14グリットの地山面にて検出した。道路による削平のため攪乱が著しく、底面付近のみ半分ほどが残存する。G14-1ピットより北方向へ20cmの地点に位置する。平面形は円形を呈すると思われ、断面形は東側では開口部より底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。残存部の規模は、開口部径123cm±・底部径116cm±で、深さは北壁最深部で31.6cmを測る。埋土は6層からなり自然堆積である。遺物の出土はない。



第93図 G14-1ピット出土遺物



第94図 G14-2・H14-1・H14-2ピット

第40表 G14-2ピット H14-1ピット H14-2ピット

層No.	土色	備考	層No.	土色	備考
1	10Y R6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。軟い。ま さを多量含む。	12	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
2	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを多量含む。	13	10Y R6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを多量含む。
3	10Y R6/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを多量含む。	14	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを多量含む。
4	10Y R6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	15	10Y R4/4褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを多量含む。
5	10Y R7/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを含む。	16	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 まさを多量含む。まさを多量含む。
6	10Y R7/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを含む。	17	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。硬有り。 粘性なし。まさを多量含む。
7	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含む。	18	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを多量含む。
8	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	19	10Y R6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。硬有り。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
9	10Y R6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少量含む。	20	10Y R6/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
10	10Y R4/4褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを微量含む。	21	10Y R5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。
11	10Y R5/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを微量含む。	22	10Y R5/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。硬有り。 粘性なし。やや軟い。まさを微量含む。

H14-1 ピット (第94図・第40表・写真図版15-7, 16-1)

H14グリットの地山面において検出した。道路による削平により破壊が著しく、北壁の一部のみが残存する。南壁はH14-2ピットによって切られる。平面形は円形を呈していると思われ、断面形は皿状を呈している。底面の中央部に開口部径37cm±・底部径18cm±で、深さ10.8cm±の小穴を一基有している。規模は、残存部の開口部径126cm±・底部径93cm±で、深さは北壁最深部で11.3cm±を測る。埋土は3層からなり自然堆積である。

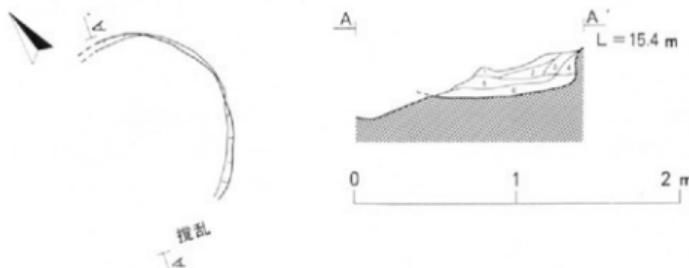
遺物の出土はない。

H14-2 ピット (第94図・第40表・写真図版15-7, 8, 16-1)

G14・H14グリットの地山面において検出した。道路による削平と、電柱による攪乱が著しく、底面付近のみ全体の半分程が残存する。H14-1ピット・G14-2ピットを切る。平面形は円形を呈していると思われ、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部径150cm±・底部径137cm±で、深さは北壁最深部で20.6cm±を測る。埋土は6層からなり自然堆積である。

〔遺物〕 (第96図・写真図版27)

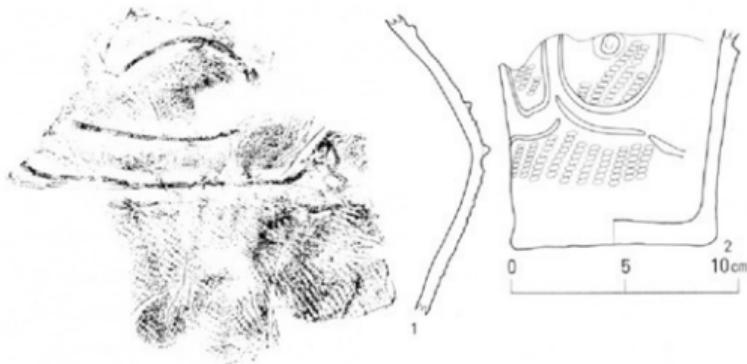
出土した遺物は、土器と動物遺存体がある。土器は埋土中より破片5点が出土した。2点を図示した。1は壺の体部片である。隆線と連鎖状浮線文により曲線文を画くものである。文様内は磨消繩文が施され朱が塗ってある。2は体部中央から底部にかけてのものである。沈線によって曲線文が画かれる。動物遺存体は、サメ目の椎骨1点・鹿角片1点と少量の種不明の骨片が出土している。



第95図 G14-3 ピット

第41表 G14-3 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R5/4に赤い。	燒土。粘性なし。粒性なし。やや堅く。	4	10Y R5/6黄褐色	燒土。粘性なし。粒性なし。やや堅く。
2	10Y R5/6黄褐色	燒土。粘性なし。粒性なし。やや堅く。	5	10Y R5/4に赤い。	燒土。粘性なし。粒性なし。やや堅く。
3	10Y R6/4に赤い。	燒土。粘性なし。粒性なし。やや堅く。また少しあげて。	6	10Y R5/4に赤い。	燒土。粘性なし。粒性なし。やや堅く。また少しあげて。



第96図 H14-2 ピット出土遺物

H14-3 ピット（第97図・第42表・写真図版16-2）

H14・I14グリットの地山面において検出した。H14-4 ピットより東側77cmの地点にある。道路による削平のため大部分が破壊され、底面付近のみが残存する。残存部の平面形は円形を呈し、断面形は北西壁では若干抉りのあるフラスコ状を呈し、フラスコ状のピットであったものと思われる。規模は開口部径144×136cm、底部径137×122cmで、深さは西壁最深部で34.4cmを測る。埋土は、人為的な堆積である。埋土中より人骨（7号・9号人骨）を検出した。

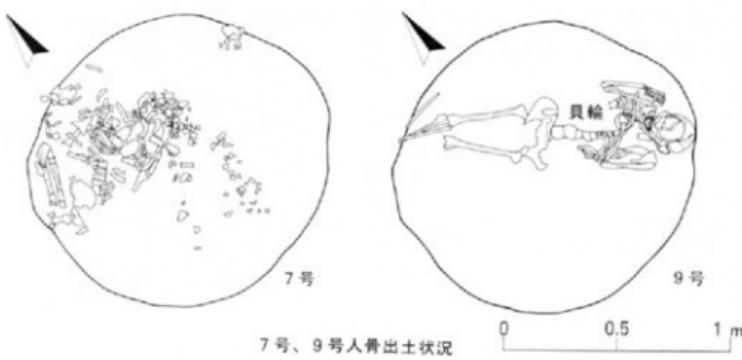
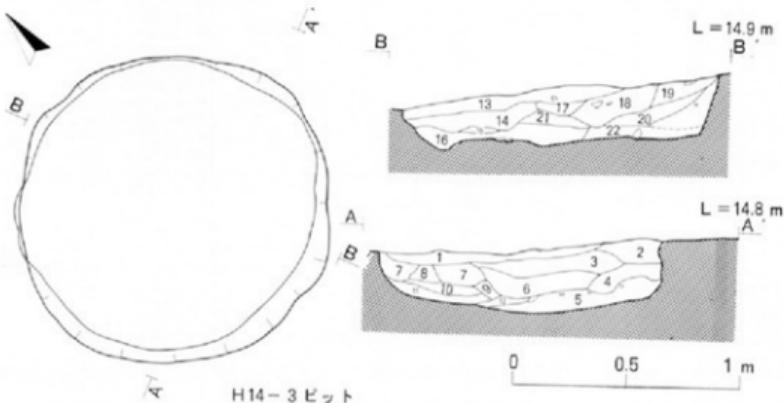
〔人骨〕

7号人骨（第97図）

H14-3 ピット検出面において検出した。道路による削平のため破損が著しく、人骨の一部は道路改修の際に入れられた碎石中に混入しているような状態であった。人骨は成人一体分が埋葬されたものと思われるが、攢乱のため解剖学的位置をとどめず、埋葬状態等不明である。

9号人骨（第97図・写真図版16-3）

ピット底面において検出した。足の指骨など、部分的に骨を欠くがほぼ完存である。左側脛骨は原位置をとどめず、7号人骨埋葬の際に攢乱をうけている可能性もある。保存は良好である。埋葬形態は、仰臥位の姿勢をとり、腕は曲げており、足は伸展している。後頭部は直接底面に触れず、若干顎を起こしている。体軸線の方向、N-54°-Wで、頭位は20°程左側に傾いている。副装品は貝輪2点があり、左側の腕に装着していた。



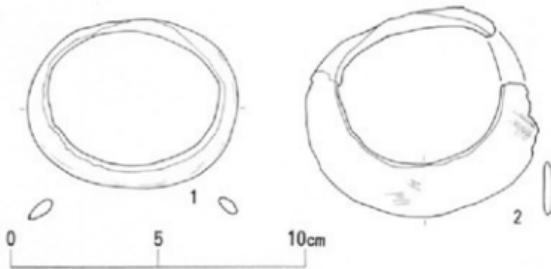
第97図 H14-3 ピット・7号・9号人骨検出状況

第42表 H14-3 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	13	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
2	10Y R5/4にぶい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	14	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
3	10Y R6/4にぶい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。	15	10Y R6/6明黃褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
4	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを微量含む。	16	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
5	10Y R6/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	17	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
6	10Y R6/6明黃褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	18	10Y R4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
7	10Y R5/4にぶい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	19	10Y R5/4にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
8	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	20	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
9	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。	21	10Y R7/4にぶい 黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
10	10Y R6/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。	22	10Y R5/4にぶい 黄褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを少量含む。
11	10Y R5/6黄褐色	焼土、炭化物なし。理有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。			
12	10Y R4/4褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。			

〔遺物〕(第98図・写真図版27)

遺物はベンケイガイ製と思われる貝輪2点のみが出土した。土器片の出土はない。ともに磨滅が著しい。1はほぼ完存のものである。表裏ともに入念に研磨している。計測値は外径の短径56.9mm・長径71.1mm、内径の短径40.1mm・長径57.9mm、幅10.9mm、厚さ5.3mm、重さ9.6gである。2は欠損品である。表裏ともに入念に研磨されているが、部分的に鉄剣を残す。計測値は幅21.0mm、厚さ4.4mm、重さ15.0である。



第98図 H14-3 ピット出土遺物

H14-4 ピット (第99図・第43表・写真図版16-4, 5, 6, 7)

H13・H14グリットの地山面において検出した。H14-5 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径137cm土、中位の径172cm土、底部径138cm土で、深さは東壁最深部で58.6cm土を測る。埋土は、

番号	土 色	備 考	番号	土 色	備 考
31	10Y R 5/4にぶい 黄褐色	焼上。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを多量含む。	36	10Y R 4/6褐色	焼上なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを多量含む。
32	10Y R 5/4にぶい 黄褐色	焼上。炭化物なし。粘性なし。軟い。ま さを多量含む。	37	10Y R 5/4にぶい 黄褐色	焼上なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを多量含む。
33	10Y R 4/4褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを多量含む。	38	10Y R 5/4にぶい 黄褐色	地土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを多量含む。
34	10Y R 5/4にぶい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを多量含む。	39	10Y R 5/4にぶい 黄褐色	地土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを多量含む。
35	10Y R 4/4褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを多量含む。	40	10Y R 5/2灰黃褐色	地土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを多量含む。

第44表-1

	体積(cc)	(A) 重量(g)	フルイに残った貝・石等の内訳(g)						複(実)率 B/A×100
			フルイに通った 貝・石等の重 量(g)	土礫片	石器	骨	骨角器	骨	
貝層1	7,800	11160	1959.4	4.2	8.1	2.5			245.5 169.1 17.6
貝層2	272,000	40545	6623.3	25	65.9	1.5	2.55	0.2	0.1 429.2 6098.85 16.3
貝層3	7,200	9935	2071.4	6.5	0.2	7.1	3.6	0.1	86.5 1967.4 20.8

第45表-2

種 ・ 部 位	魚類														鳥類			哺乳類							
	マイワシ			カタクチ イワシ		カツオ		マダイ						フサカサゴ科 の一種			アイヌ								
	腹	尾	腹	尾	腹	尾	前	歯	主上	口	角	方	角	前	主	擬	上	角	後	上	尾	鳥	種不明	種不明	シカ
層	椎	椎	椎	椎	椎	椎	前 粗	歯 粗	上 齶 粗	口 齒	角 骨	方 骨	角 骨	前 齶 粗	主 齒 骨	擬 齒 骨	上 齶 粗	角 骨	後 齶 粗	上 齶 粗	尾	鳥	口 骨	上 齶 大 齒	鹿 角 片
貝層1	1	1			1	1														1					
貝層2					2	1																			
貝層3			2																					1	
貝層外																									

第45表-3

	貝層1	貝層2	貝層3
カサガイ		1 (0.2%)	
カモガイ	1 (0.3%)		
タマキビガイ	3 (0.9%)		
イボニシ	1 (0.3%)	1 (0.2%)	
レイシガイ		1 (0.2%)	
巻貝 不明			1
ムラサキインコガイ	L 294 R 312(97.5%)	L 374 R 391(96.8%)	
エゾイガイ		L 1 (0.2%) R 1	
マガキ	3 (0.9%)	L 9 R 9 (2.2%)	2
アサリ			1

。() 内は各層における貝の構成率を表す。

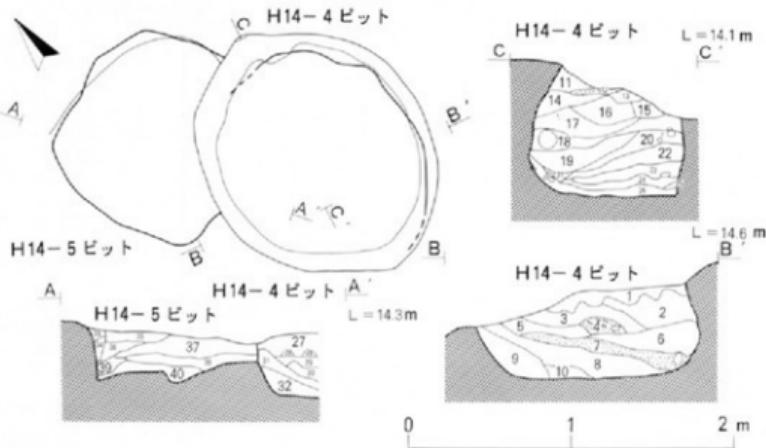
。二枚貝については、左右数の多い方を用いた。

下位では自然堆積状況を示すが、上位では人為的な堆積で、小規模な純貝層1層（貝層1）と混貝土層（貝層2）・微量に貝を含む層（貝層3）を検出している。尚、H14-4 ピット検出面より13cm程上位において、改葬の可能性のある人骨1体（12号人骨）を検出したが、H14-4 ピットと直接的な関連はないと思われる。

[貝層]

貝層1（第44表）

ブロック状に堆積するものである。埋土の上位において検出した。貝層の土はすべて持ち帰った。総重量11160g・総体積7800ccである。ムラサキインコ主体の純貝層で、出土した貝の94.



第99図 H14-4・H14-5 ピット

第43表 H14-4 ピット H14-5 ピット

剖面No	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR 3/4暗褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを多量含む。	16	10YR 6/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
2	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	17	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
3	10YR 4/2灰黃褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	18	10YR 4/3褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
4	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	19	10YR 5/6灰褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
5	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	20	10YR 4/4褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
6	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	21	10YR 4/6褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。硬有り。やや軟い。まさを含む。
7	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	22	10YR 5/6暗褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
8	10YR 6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。	23	10YR 6/6におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
9	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性有り。やや固くしまる。まさを含む。	24	10YR 4/6褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
10	10YR 6/4におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	25	10YR 6/6明黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。
11	10YR 5/3におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを多量含む。	26	10YR 4/4褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。硬有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
12	10YR 5/6暗褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	27	10YR 3/4暗褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。
13	10YR 4/4褐色	塊土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	28	10YR 5/4におい 暗褐色	塊土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
14	10YR 6/3におい 黄褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	29	10YR 4/2灰黃褐色	塊土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。
15	10YR 4/4褐色	塊土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	30	10YR 5/4におい 黄褐色	塊土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを多量含む。

8%占めている。骨は魚骨のみがみられ、マイワシ腹椎1・尾椎1、カタクチイワシ尾椎1、カツオ尾椎1、フサカサゴ科の一種の後側頭骨L1がある。

貝層2（第44表）

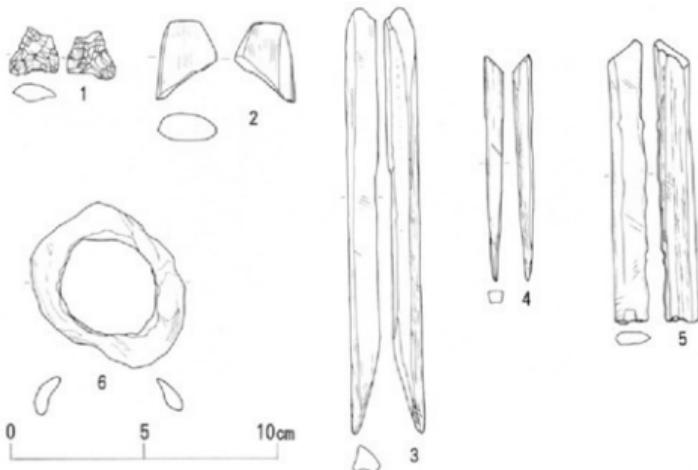
ブロック状に堆積するものである。埋土の中位において検出した。貝層の土はすべて持ち帰った。総重量40545g・總体積27200ccである。ムラサキインコ主体の混貝土層であるが、マガキの混入も少量みられる。貝の構成率は、ムラサキインコ95.7%・マガキ3.3%である。骨の出土はほとんど見られず、わずかにカタクチイワシの腹椎2・尾椎1が出土したのみである。

貝層3（第44表）

比較的広範に堆積する。埋土の下位において検出した。極微量の貝が混入する混貝土層である。層の一部を持ち帰り分析を行なった。持ち帰った土は重量9935g・体積7200ccである。貝は、マガキ・アサリを同定したが、個体数はマガキ2・アサリ1と少ない。他に齧歯類の上顎犬歯1・マイワシ尾椎2が出土している。

〔遺物〕（第100図・写真図版27）

出土した遺物は土器・石器・骨角器がある。土器は、埋土中より土器片52点（うち底部1点）が出土したが細片のため割愛した。石器は石鎚1点と磨製石斧1点が出土している。石鎚は基部に若干の抉りを有するものである。先端部は欠損する。2は磨製石斧である。刃部は欠損し、頭部のみが残存する。入念な面取りが施されている。3・4は刺突具である。ともに先端部の



第100図 H14-4 ピット出土遺物

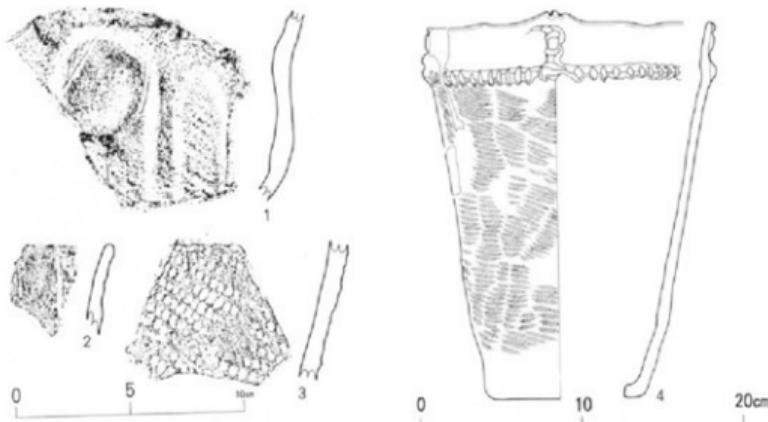
み入念に加工され、側縁の一面には、擦り切り痕を大きく残す。4では若干の打割痕を残している。5は骨針あるいは籠状骨器と思われるものである。先端部は欠損する。内面のみに擦痕を残す。6はマガキ製の貝輪である。自然面を大きく残し、外縁のみ丁寧に磨いている。計測値は、外径の短径52.2mm・長径63.1mm、内径の短径34.6mm、長径38.1mm、幅16mm、厚さ9.6mm、重さ21.6gである。

H14-5 ピット（第99図・第43表・写真図版16-6, 7）

G13・G14・H13・H14グリットの地山面において検出した。H14-4 ピットによって東側が切られる。平面形は円形を呈すると思われ、断面形は北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径114cm+、底部径133cm+、深さは北壁最深部で50.1cmを測る。

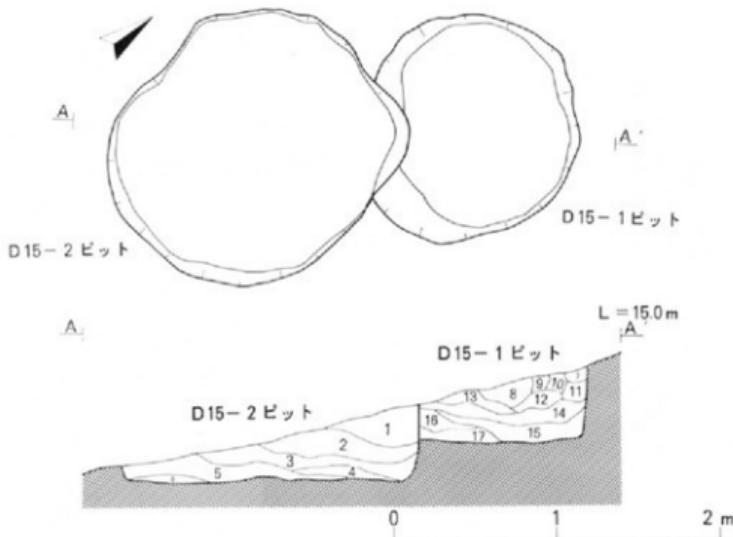
〔遺物〕（第101図・写真図版27）

埋土中より土器片15点（底部1点）と、ピット底面よりほぼ完形の深鉢1点が出土した。4点を図示した。1は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。器形は、胴部で膨らみ頸部で締まり、口縁は外反している。体部に幅の広い沈線と磨消繩文により渦巻き状の文様と、梢円文が画かれる。2は平縁の鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口唇より一条の沈線が垂下する。



第101図 H14-5 ピット出土遺物

3は深鉢の体部片である。斜縞文(R L)が施文される。4はほぼ完形の深鉢である。口縁は波状口縁をなし、波状部に二個の刻みを有している。口縁は、若干外反し、底部から外傾気味に立ち上がり、頸部で最大幅18cmを測る。文様は、頸部に刻みを有する隆線が一条巡り、体部地文部とを区画する。口縁部には、波状部直下に刻みを有する隆線が垂下しているのみで、他は無文である。体部には無節の斜縞文が施文され、底部には穿孔を有している。穿孔は径8×6.5cmで梢円形状をなす。高さは24cmである。



第102図 D15-1・D15-2ピット

第45表 D15-1ピット D15-2ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	2.5Y6/4に近い黄 色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。	10	10YR7/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。 まさを含む。
2	10YR4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	11	10YR7/4に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。
3	2.5Y7/4浅藍色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。	12	10YR6/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを含む。
4	2.5Y8/3浅褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含む。	13	10YR5/4黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片有 り。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
5	10YR6/4に近い 黃褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 固くしまる。まさを含む。	14	10YR6/4に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含む。
7	10YR6/6明黄褐 色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含む。	15	10YR6/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含む。
8	2.5Y6/4に近い黄 色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	16	10YR7/3に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。
9	10YR5/6黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含む。	17	10YR6/4に近い 黄褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含む。

D 15-1 ピット (第102図・第45表・写真図版17-1, 2)

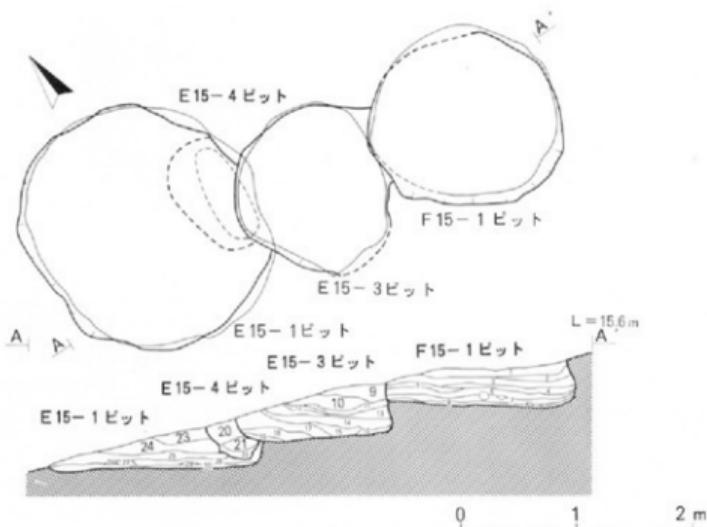
C 15・C 16・D 15・D 16 グリットの地山面において検出した。C 16-1 ピットより南へ2mの地点にある。D 15-2 ピットによって南壁が切られる。平面形は円形を呈し、断面形は北壁では直壁でビーカー状を呈している。規模は、開口部径146cm±・底部径125cm±で、深さは東壁最深部で51cm±を測る。埋土は、明黄褐色土・にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土で、16層からなり上位のものは人為的な堆積で、下位のものは自然堆積である。

埋土中より土器片3点を得た。細片のため割愛した。

D 15-2 ピット (第102図・第45表・写真図版17-1, 2)

C 15・D 15 グリットの地山面において検出した。D 15-1 ピットの南壁を切る。平面形は円形を呈し、断面形は底部付近でやや丸みを帯びる直壁でビーカー状を呈している。規模は、開口部径187cm±・底部径173cm±で、深さは東壁最深部で53cm±を測る。埋土は5層からなり、すべて自然堆積である。

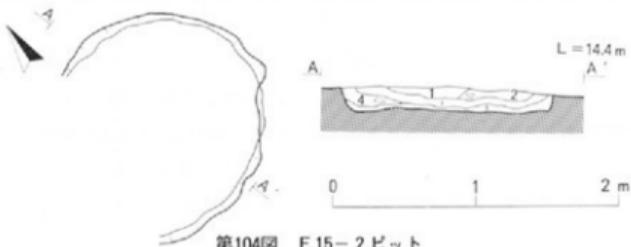
埋土中より土器片5点を得た。細片のため割愛した。



第103図 E 15-1・E 15-3・E 15-4・F 15-1 ピット

第46表 E15-1ピット E15-3ピット E15-4ピット F15-1ピット

層番	土 色	備 考	層番	土 色	備 考
1	10Y R5/4に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	16	10Y R5/4に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R5/5黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを少量含む。	17	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
3	10Y R5/5に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	18	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
4	10Y R5/6に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを少量含む。	19	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
5	10Y R5/6に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	20	10Y R7/2に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
6	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片、 磚瓦り。粘性なし。軟い。まさを含む。	21	10Y R7/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを多く含む。
7	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。土器片あり。粘性なし。 軟い。まさを少額含む。	22	10Y R7/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを多量含む。
8	10Y R5/5黄褐色	燒土。炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 やや固くしまる。まさを微量含む。	23	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
9	10Y R5/5に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	24	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。
10	10Y R5/6に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含まない。	25	10Y R6/4に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。
11	10Y R5/6に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含まない。	26	10Y R6/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。
12	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを含まない。	27	10Y R6/2灰黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。
13	10Y R5/8黄褐色	燒土。炭化物なし。磚瓦り。粘性なし。 やや軟い。まさを微量含む。	28	10Y R7/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。
14	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。	29	10Y R7/3に付い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。
15	10Y R4/6褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少額含む。	30	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを微量含む。



第104図 E15-2ピット

第47表 E15-2ピット

層番	土 色	備 考	層番	土 色	備 考
1	10Y R4/6褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや固く しまる。まさを少額含む。	4	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。磚瓦り。粘性なし。 やや軟い。まさを少額含む。
2	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。磚瓦り。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少額含む。	5	10Y R5/6黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。炭化物なし。まさを微量含む。
3	10Y R5/8黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを少額含む。			

E15-1ピット (第103図・第46表・写真図版17-3, 4, 5)

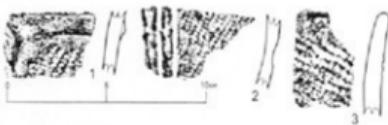
D15・D16・E15・E16グリットの地山面において検出した。E15-3ピットによって東壁が切られ、E15-4ピットによって埋土の一部を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径224cm土・底部径228cm土で、深さは北壁最深部で37cm土を測る。埋土は8層からなり自然堆積である。遺物の出土はない。

E 15-2 ピット（第104図・第47表・写真図版17-6, 7）

E 15・E 14・E 15 グリットの地山面において検出した。E 14-2 ピットの北壁を切る。平面形は西壁は消滅しているが円形を呈すると思われる。断面形は、北壁では緩やかに立ち上がり、南壁では直壁状に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径161cm土・底部径152cm土で、深さは北壁最深部で31cm土を測る。埋土は5層からなり自然堆積である。

[遺物]（第105図・写真図版27）

埋土中より土器片16点が出土した。3点を図示した。1・2は深鉢の体部片である。1は降線により、2は沈線により文様が画かれる。3は粗製の深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文で、体部に撚りの弱い斜縦文が施文される。



第105図 E 15-2 ピット出土遺物

E 15-3 ピット（第103図・第46表・写真図版17-8）

E 15・E 16 グリットの地山面にて検出した。E 15-1・E 15-4 ピットの東壁を切り、F 15-1 ピットによって東壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径155cm土・底部径155cm土で、深さは東壁最深部で37cm土を測る。埋土は11層からなり自然堆積である。

遺物は、埋土中より土器片24点（うち底部2点）を得たが、細片のため割愛した。

E 15-4 ピット（第103図・第46表・写真図版17-4）

E 15-1 ピットの埋土中において検出した。E 15-3 ピットによって切られる。平面形は不明で、断面形は皿状を呈している。規模は、深さが20cm土である。埋土は、にぶい黄橙色土で3層からなり自然堆積である。

遺物の出土はない。

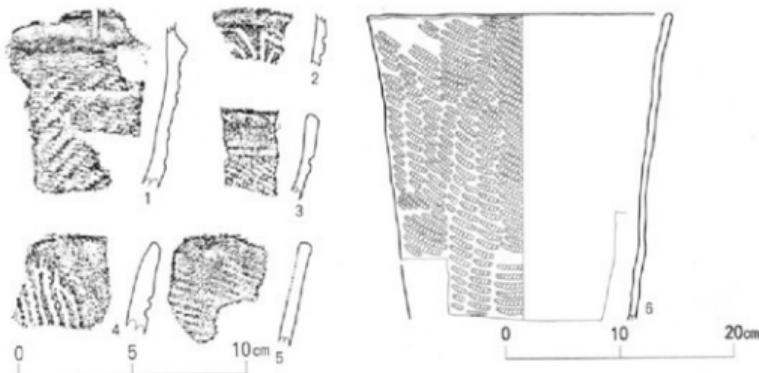
F 15-1 ピット（第103図・第46表・写真図版18-1, 2）

E 15・E 16・F 15・F 16 グリットの地山面において検出した。E 15-3 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状に立ち上がっているが、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径173cm土・底部径169

cm土で、深さは東壁最深部で45cm土を測る。埋土は8層からなり、自然堆積である。

[遺物] (第106図・写真図版28)

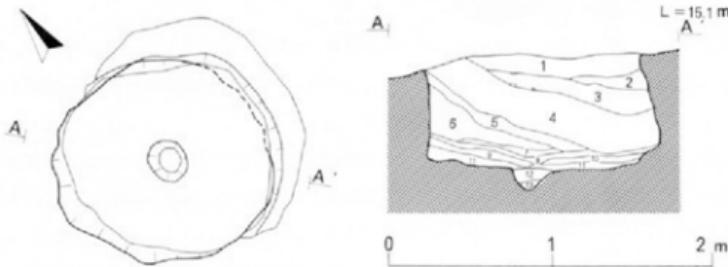
床面より土器片17点と、口縁部から体部にかけての資料1点が出土した。6点を図示した。1は深鉢の頸部から体部にかけてのものである。頸部に一条の横位隆線が巡り、無文部と地文部とを区画する。地文は斜綱文で、隆線施文後に充填されている。2は鉢の体部片である。沈線により幾何学的な文様が施文される。3は平縁の鉢の口縁部片である。口縁は内反する。頸部に一条の沈線が巡り、口縁部無文部と体部地文部とを区画する。地文は斜綱文(L R)が施文される。4・5は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。4は撚糸文・5は斜綱文(R L)が施文される。6は平縁深鉢の口縁から体部中央部付近にかけてのものである。器形は、体部から頸部にかけて外傾ぎみに立ち上がり、口縁部で若干外反する。地文は、口唇部直下まで斜綱文(R L)が施文される。焼成は良好で、胎土中に粗砂と金雲母を少量含んでいる。



第106図 F 15-1 ピット出土遺物

F 15-2 ピット (第107図・第48表・写真図版18-3, 4)

E 15・F 15 グリットの地山面において検出した。E 15-3 ピットの南側に隣接している。平面形は円形を呈し、断面形は、西壁ではほぼ直壁で、東壁では底部で段を有し開口部から中位下部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の段の状況から二基切りあって

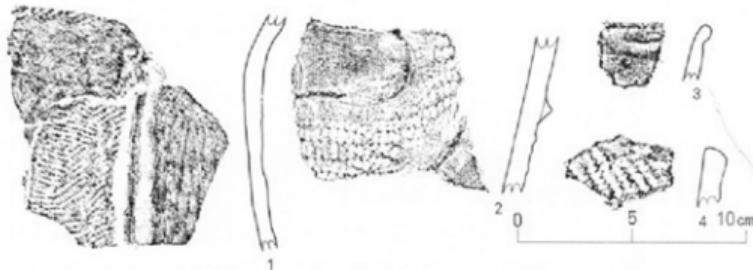


第107図 F15-2 ピット

第48表 F15-2 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10YR4/6褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。秋い。まさを微量含む。	7	10YR5/4におい 黄褐色	燒土なし。粘性なし。秋い。まさを多量含む。
2	10YR5/3におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。秋い。まさを微量含む。	8	10YR7/4におい 黄褐色	燒土なし。粘化物なし。粘性なし。秋い。まさを含む。
3	10YR5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。土器片有り。粘性なし。固くしまる。まさを微量含む。	9	10YR5/4黄褐色	燒土なし。粘化物なし。粘性なし。秋い。まさを多量含む。
4	10YR5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。秋い。まさを多量含む。	10	10YR6/3におい 黄褐色	燒土なし。粘化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
5	10YR5/3におい 黄褐色	燒土、炭化物なし。土器有り。粘性なし。秋い。まさを多量含む。	11	10YR4/6褐色	燒土なし。粘化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを微量含む。
6	10YR5/4におい 黄褐色	燒土なし。炭化物なし。粘性なし。秋い。まさを多量含む。	12	10YR6/3におい 黄褐色	燒土なし。粘性なし。秋い。まさを少量含む。
			13	10YR6/4におい 黄褐色	燒土なし。粘化物なし。粘性なし。秋い。まさを微量含む。

いるものと思われるが、ピット間の新旧関係は不明である。底面の中央部に開口部径27cm土・底部径15cm土・深さ14cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径141cm土・底部径136cm土で、深さは西壁最深部で51cmを測る。埋土は13層からなる。



第108図 F15-2 ピット出土遺物

〔遺物〕(第108図・写真図版28)

埋土中より土器片55点が出土した。4点を図示した。1・2は深鉢の体部片である。隆線により文様が意匠され、斜縞文(L R)が充填される。1は縦位の、2は曲線状の文様が画かれる。3・4は深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は3では無文で、4では口唇直下まで斜縞文(L R)が施文される。

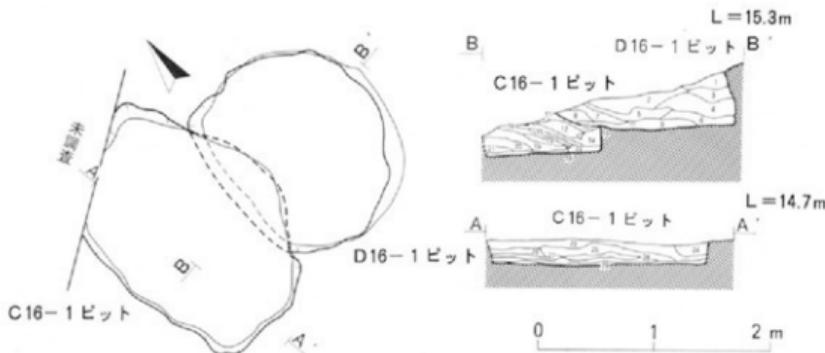
C 16-1 ピット (第109図・第49表・写真図版18-5, 6, 7)

C 16・D 16 グリットの地山面において検出した。D 15-1 ピットの北側に隣接し、D 16-1 ピットによって東壁が切られる。平面形は梢円形を呈し、北壁は未調査区へとひろがる。断面形は南壁では直壁しビーカー状を呈している。規模は、開口部径長軸242cm土・短軸155cm土、底部径長軸222cm土・短軸140cm土である。深さは、北壁最深部で38cm土を測る。埋土は7層からなり自然堆積である。

出土遺物はない。

D 16-1 ピット (第109図・第49表・写真図版18-6, 8)

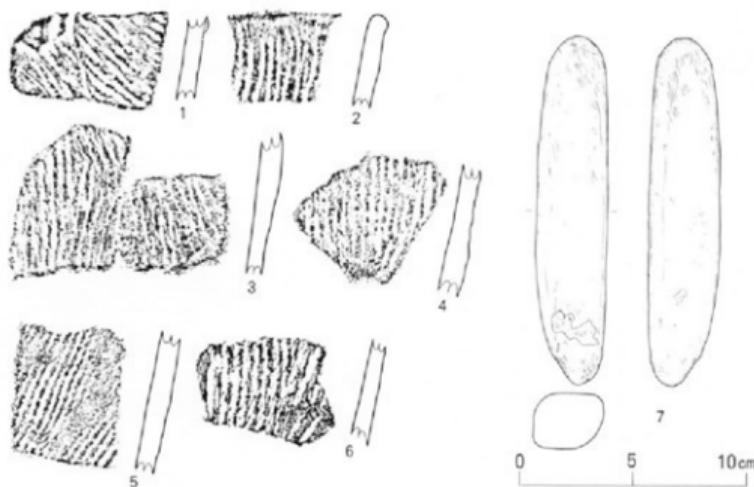
C 16・D 16・C 17・D 17 グリットの地山面において検出した。D 15-1 ピットから北東へ1m離れた地点に位置し、C 16-1 ピットの東壁を切る。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は、西壁では皿状を呈し、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径186cm土・底部径186cm土で、深さは、東壁最深部で46cm土である。埋土は9層からなり、すべて自然堆積である。



第109図 C 16-1・D 16-1 ピット

第49表 C16-1 ピット D16-1 ピット

番号	土 色	備 考	番号	土 色	備 考
1	10Y R6/3におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。	16	10Y R6/6明黄褐色 色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。
2	10Y R5/4におい 黄褐色	焼土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微細含む。	17	10Y R7/3におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。
3	10Y R6/6におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	18	10Y R7/3におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
4	10Y R7/3におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	19	10Y R6/5におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
5	10Y R4/6褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含まない。	20	10Y R7/4におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
6	10Y R6/6明黄褐色 色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	21	10Y R6/6明黄褐色 色	焼土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを含まない。
7	10Y R6/4におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	22	10Y R5/6明黄褐色 色	焼土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさを微量含む。
8	10Y R5/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。	23	10Y R5/6黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。
9	10Y R5/6黄褐色	焼土。炭化物なし。土器片有り。粘性なし。 まさを微量含む。	24	10Y R7/4におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。
10	10Y R5/4におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	25	10Y R6/6明黄褐色 色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
11	10Y R6/4におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを少量含む。	26	10Y R6/5明黄褐色 色	焼土。炭化物を微量含む。粘性なし。 軟い。まさを微量含む。
12	10Y R7/2におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを含む。	27	10Y R5/8黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを微量含む。
13	10Y R7/3におい 黄褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 軟い。まさを含む。	28	10Y R6/6明黄褐色 色	焼土。炭化物なし。粘性有り。やや固く まる。まさを含まない。
14	10Y R6/2灰黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさを多量含む。	29	10Y R6/3におい 黄褐色	焼土。炭化物なし。粘性なし。やや固く まる。まさを含む。
15	10Y R6/4におい 黄褐色	焼土を微量含む。炭化物なし。粘性なし。 軟い。まさを含む。			



110図 D16-1 ピット出土遺物

[遺物] (第110図・写真図版28)

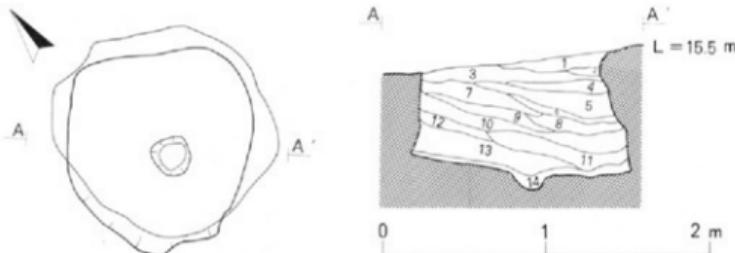
出土遺物は土器・石器がある。

土器は、埋土中より土器片40点（うち底部4点）を得た。6点を図示した。1は深鉢の体部片である。隆線と燃りの弱い斜縞文（LR）が施される。2は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文で、頸部下に燃糸文が施文される。3～6は深鉢の体部片である。ともに燃糸文が施文される。石器は、石棒1点が出土した。両面に打痕、擦痕を残す。

E 16-1 ピット (第111図・第50表・写真図版19-1, 2)

E 16グリットの地山面において検出した。D 17-1 ピットより南へ1.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は、西壁では開口部から中位にかけて直壁で、中位から底部にかけて若干抉りを有し、東壁では開口部直下で頸部状の張り出しがみられ、張り出しから底部にかけて抉りのあるフ拉斯コ状を呈している。底面の中央部付近に開口部径25cm土・底部径18cm土・深さ11cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径130cm土・底部径142cm土で、深さは西壁最深部で52cm土である。埋土は14層からなる。

遺物は、埋土中より土器片29点（うち底部1点）が出土したが、細片のため割愛した。



111図 E 16-1 ピット

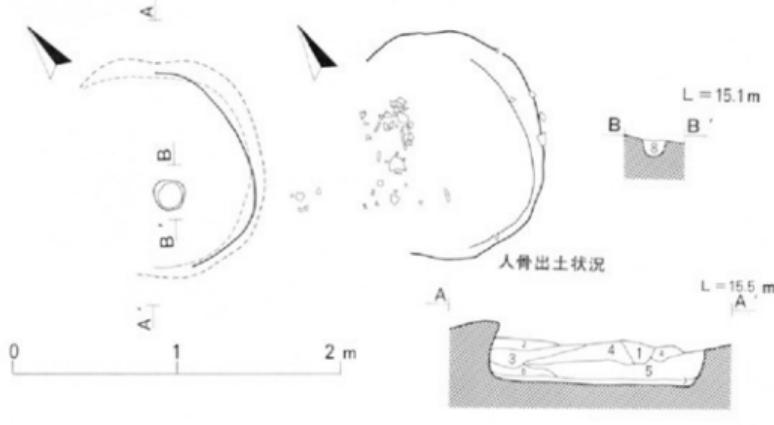
第50表 E 16-1 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを微量含む。	8	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含む。
2	10Y R6/4に近い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや軟い。 まさを微量含む。	9	10Y R6/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含む。
3	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含む。	10	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。硬有り。 粘性なし。やや軟い。まさを含む。
4	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含む。	11	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。硬有り。 粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
5	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。	12	10Y R6/3に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。
6	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含む。	13	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。
7	10Y R6/6明黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや軟い。まさを含む。	14	10Y R6/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を微量含む。粘性なし。 やや固くしまる。まさを含む。

D 17-1 ピット (第112図・第51表・写真図版19-3, 4, 5)

D 17・B 17 グリットの地山面において検出した。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径20cm±・底部径16cm±、深さ10cm±の小穴を一基有している。規模は、開口部径120cm±・底部径115cm±で、深さは南壁最深部で67cm±を測る。埋土は7層からなる。層の堆積は人為的な堆積と思われ、層と5層より人骨片を検出している。(4号人骨)

出土遺物はない。



112図 D 17-1 ピット及び4号人骨検出状況

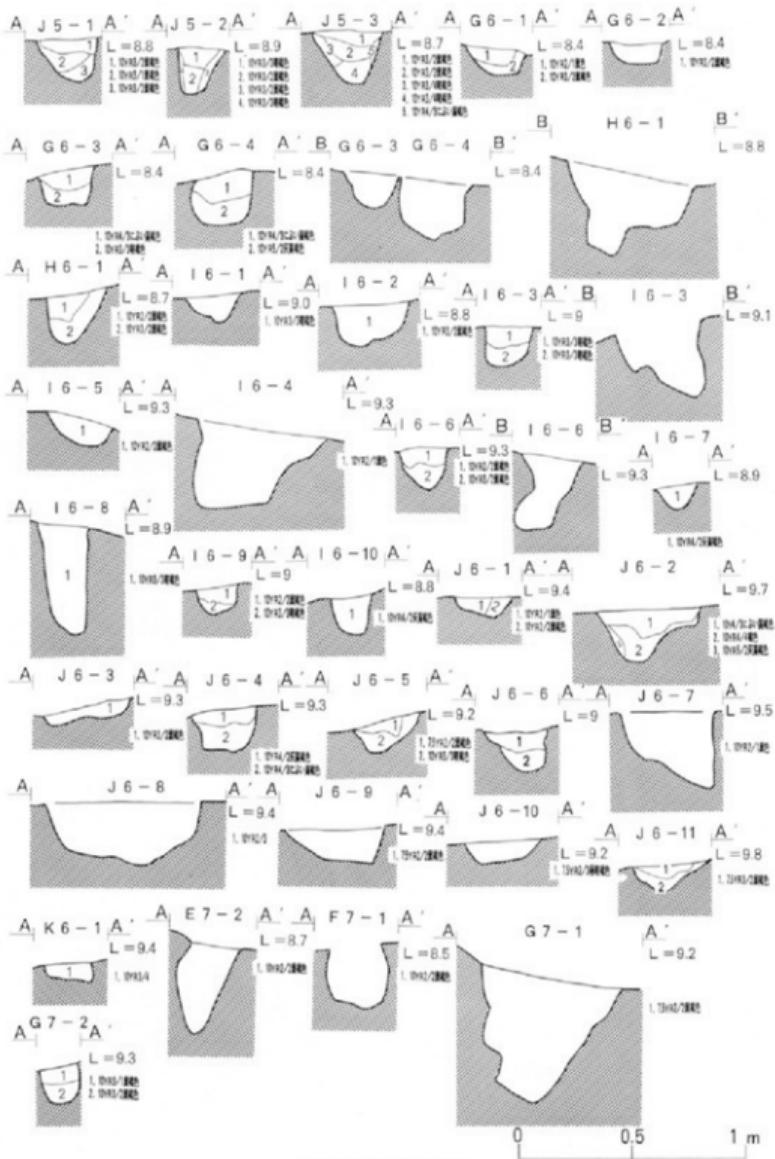
第51表 D 17-1 ピット

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R6/4に近い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。軟い。 まさきを含む。	5	10Y R4/3に近い 黄褐色	まさきを含む。 燒土なし。炭化物を少箇含む。粘性あり。 やや固くしまる。まさきを含む。
2	10Y R6/4に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を少箇含む。土器片有 り。粘性なし。軟い。まさきを含む。	6	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性有り。軟い。ま さきを含む。
3	10Y R5/4黄褐色	燒土。炭化物なし。土器片有り。粘性有 り。軟い。まさきを含む。	7	10Y R5/4に近い 黄褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。固くしま る。まさきを含む。
4	10Y R5/4黄褐色	燒土なし。炭化物を少箇含む。土器片・ 陶片有り。やや固くしまる。			

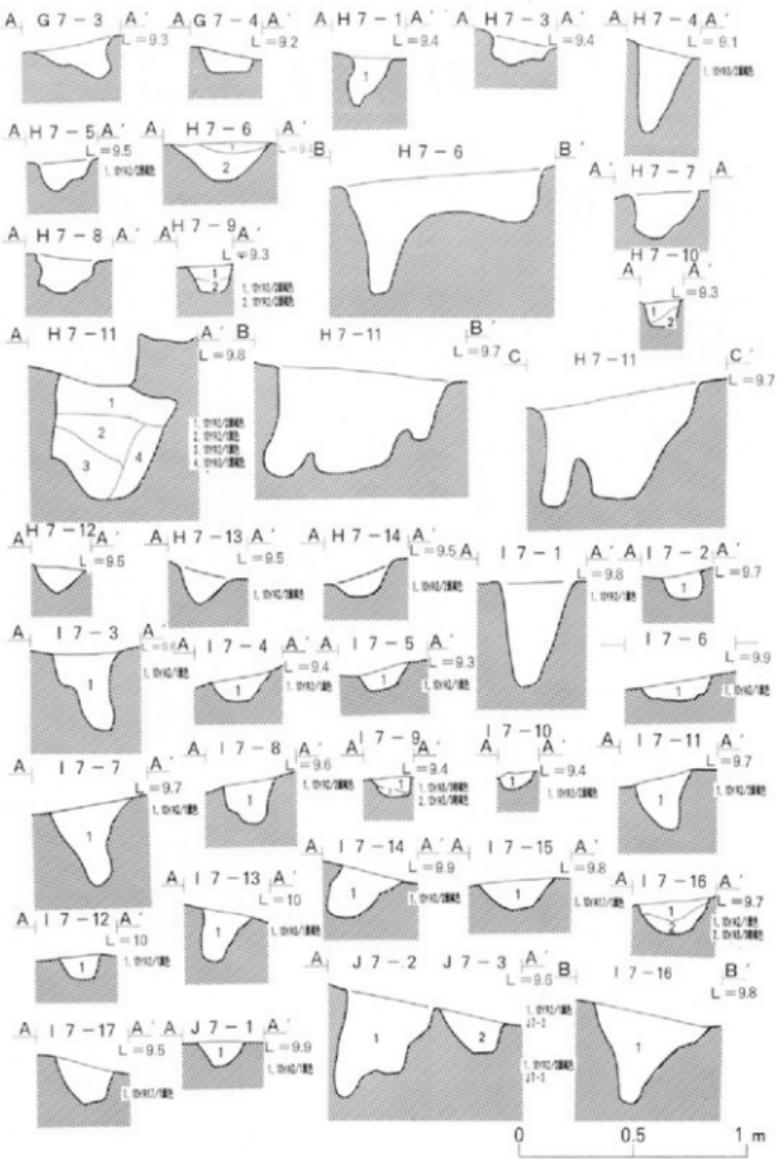
◎



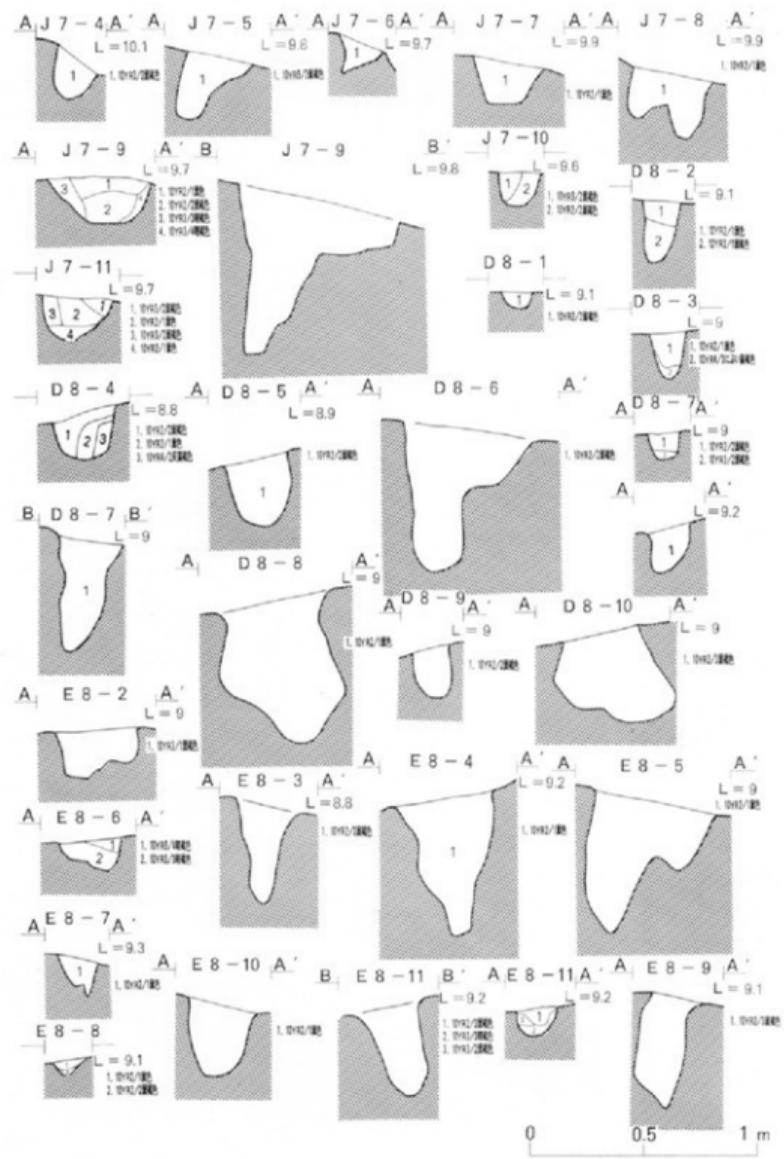
113図 柱穴状ピット群



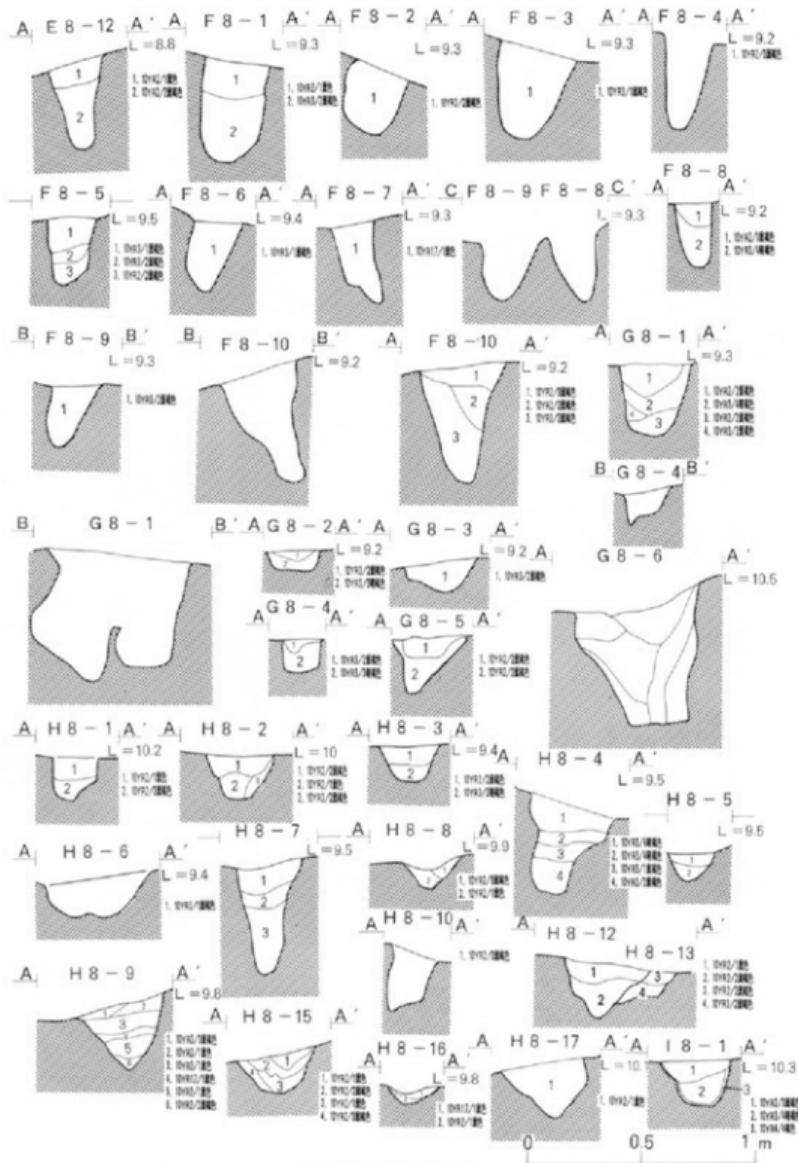
114図 柱穴状ビット



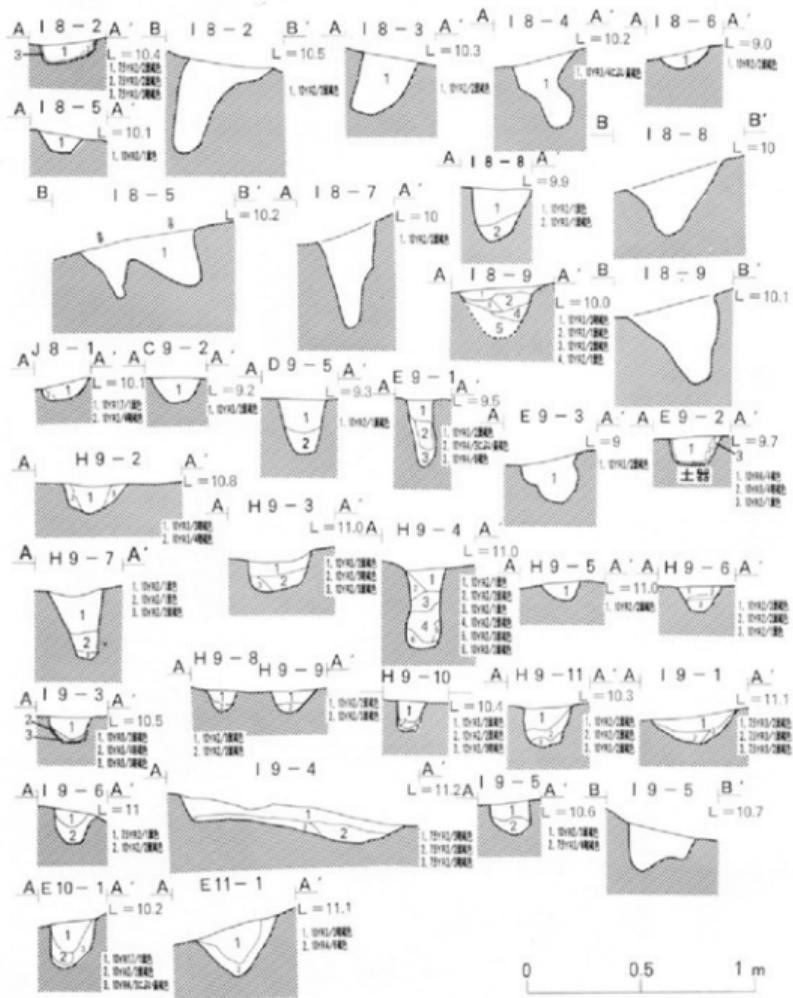
115図 柱穴状ビット



116図 柱穴状ビット



117図 柱穴状ビット



118図 柱穴状ビット

第52表 柱穴状ピット

ピットNO	平面形	開口部径	底部径	深さ	出土遺物	備考
J 5-1	楕円	37×22	16×14	20	繩文片16	
J 5-2	不整形	34×21	14×9	21		
J 5-3	円	32×29	15×10	24	繩文片14	
G 6-1	楕円	35×21	17×14	10	繩文片13	
G 6-2	楕円	28×22	22×8	15	繩文片10(1)	
G 6-3	楕円	28×24	18×13	20		
G 6-4	楕円	36×30	29×25	28	繩文片3	
H 6-1	楕円	57×32	14×13	44	繩文片13(1)	
H 6-2	楕円	39×32	25×20	17		
I 6-1	円	25×23	10×6	19	繩文片3(1),石鑿1	第120図31
I 6-2	楕円	35×30	13×11	28	繩文片5	
I 6-3	楕円	35×31	33×26	36	繩文片28	
I 6-4	不整形	68×26	39×8	36	繩文片89(1),石刃	第119図1・第120図47
I 6-5	不整形	38×28	17×12	16	繩文片14(1)	
I 6-6	楕円	30×24	16×14	35	繩文片21	
I 6-7	不整形	21×19	5×4	17		
I 6-8	円	25×25	18×12	53	繩文片6	
I 6-9	楕円	23×20	13×6	14		
I 6-10	不整形	30×19	12×11	21		
J 6-1	円	26×23	15×10	9	繩文片8	
J 6-2	不整形	49×40	23×8	29	繩文片17(1)	
J 6-3	不整形	54×37	13×10	31	繩文片12(1)	
J 6-4	不整形	41×28	21×17	21	繩文片10(1)	
J 6-5	円	33×30	17×16	18		
J 6-6	楕円	33×23	16×11	20		
J 6-7	不整形	40×26	22×5	37	繩文片19(1)	
J 6-8	円	69×61	56×47	32	繩文片40,石鑿1	第120図33
J 6-9	円	47×42	12×11	47	繩文片33(1)	第119図2
J 6-10	円	34×30	23×16	16	繩文片7	第120図3
J 6-11	不整形	58×28	12×10	30	繩文片6	
K 6-1	楕円	29×20	21×18	10		
E 7-2	楕円	25×20	6×4	48	繩文片7	
F 7-1	円	22×24	20×19	30	繩文片16	
G 7-1	不整形	64	25×24	74	繩文片209(9),尖頭器1	第119図4～8・第120図38
G 7-2	楕円	20×18	13×10	22		
G 7-3	楕円	34×24	11×6	19	繩文片13(1)	
G 7-4	不整形	24×21	17×12	12	繩文片3	
H 7-1	不整形	25×19	10×9	24	繩文片139(4)	
H 7-2	円	22×22	8×7	13	繩文片12	
H 7-3	不整形	27×22	12×7	18		
H 7-4	円	30×26	12×8	40	繩文片11	

第52表 柱穴状ビット

ビットNO	平面形	開口部径	底部径	深さ	出土遺物	備考
H 7-5	不整形	25×14	7×6	16	縄文片13	
H 7-6	不整形	86×40	10×8	58	縄文片38,石鏃1	第119図12・第120図32
H 7-7	不整形	35×25	9×7	24	縄文片12	
H 7-8	円	20×20	10×8	18	縄文片7	
H 7-9	椭円	20×19	11×8	18		
H 7-10	椭円	18×20	14×13	16		
H 7-11	不整形	85×50	32×20	58	縄文片113(1), 破石器1	第119図13・第120図50
H 7-12	不整形	27×22	10×9	24	縄文片6	
H 7-13	椭円	29×20	9×6	17	縄文片13,石刃1	第120図34
H 7-14	円	28×27	12×10	18	縄文片5	
I 7-1	不整形	36×34	21×20	50	縄文片32	
I 7-2	円	18×19	12×12	9	縄文片7	
I 7-3	椭円	36×29	17×16	34	縄文片14	
I 7-4	円	30×26	12×11	16	縄文片4	
I 7-5	円	23×23	10×10	14	縄文片2	
I 7-6	不整形	33×24	20×14	13	縄文片13	
I 7-7	不整形	41×25	7×6	39	縄文片67(2)	
I 7-8	円	23×22	9×7	24	縄文片13	
I 7-9	不整形	22×17	12×11	11	縄文片4	
I 7-10	円	18×17	12×8	10	縄文片5	
I 7-11	椭円	23×18	7×5	28	縄文片6	
I 7-12	椭円	26×19	13×9	13		
I 7-13	椭円	26×22	12×10	32	縄文片10	
I 7-14	椭円	29×25	14×12	37	縄文片12(1)	
I 7-15	椭円	32×27	15×14	17	縄文片8	
I 7-16	椭円	51×32	10×10	48	縄文片58,石錐1	第120図40
I 7-17	円	28×30	11×10	24	縄文片19(1)	
J 7-1	円	20×20	12×11	13		
J 7-2	椭円	45×39	6×6	52		
J 7-3	円	31×30	16×10	20		
J 7-4	椭円	21×18	15×10	26	縄文片4(2)	
J 7-5	椭円	31×24	10×9	31	縄文片4	
J 7-6	円	18×16	6×5	18		
J 7-7	椭円	34×29	16×13	23	縄文片3	
J 7-8	椭円	41×22	9×9	38	縄文片4	
J 7-9	不整形	75×45	8×8	72	縄文片115(2),石鏃1	第120図29
J 7-10	椭円	28×21	16×10	17	縄文片8	
J 7-11	半円	29×15	7×8	22	縄文片5	
D 8-1	椭円	18×15	17×12	10	縄文片3	
D 8-2	椭円	28×16	17×8	37	縄文片3	
D 8-3	椭円	25×19	15×8	22		

第52表 柱穴状ピット

ピットNO	平面形	開口部径	底部径	深さ	出土遺物	備考
D 8-4	椭円	40×29	28×22	39	縄文片4	
D 8-5	円	27×27	11×9	34	縄文片7	
D 8-6	不整形	65×55	17×13	72	縄文片65(1)	第120図23
D 8-7	椭円	28×17	20×11	54		
D 8-8	不整形	55×35	26×16	70	縄文片7	
D 8-9	円	18×16	9×8	24		
D 8-10	椭円	39×30	33×26	42	縄文片13(1)	
E 8-1	椭円	21×17	10×7	20	縄文片6,石器1,石刃1,他	第120図35・39・41~45
E 8-2	円	38×36	14×10	26	縄文片3	
E 8-3	不整形	39×24	5×4	47	縄文片4	
E 8-4	不整形	40×30	9×7	64	縄文片13	
E 8-5	不整形	54×35	26×10	66	縄文片38	
E 8-6	円	27×24	15×6	17		
E 8-7	椭円	22×18	5×5	20		
E 8-8	円	16×15	13×6	13		
E 8-9	不整形	29×24	6×5	56	縄文片13(2)	
E 8-10	不整形	29×25	9×8	38	縄文片3	
E 8-11	椭円	29×23	12×7	44		
E 8-12	椭円	29×24	9×8	44	縄文片13	
F 8-1	不整形	36×25	22×17	51	縄文片3	
F 8-2	円	25×22	19×15	40	縄文片2	
F 8-3	椭円	37×24	21×11	45	縄文片14	
F 8-4	椭円	25×18	11×7	43	縄文片6(1)	
F 8-5	不整形	33×23	14×13	40		
F 8-6	椭円	27×18	10×8	36		
F 8-7	円	22×19	10×6	36	縄文片7,石器1	第120図26
F 8-8	椭円	25×19	12×8	36	縄文片2	
F 8-9	椭円	32×24	12×8	38		
F 8-10	椭円	40×34	16×15	56	縄文片17(1)	
G 8-1	不整形	68×33	22×19	60	縄文片64(1),石器2	第119図30
G 8-2	不整形	23×20	19×14	14		
G 8-3	椭円	32×23	27×17	16	縄文片21	
G 8-4	椭円	22×20	15×4	20	縄文片6	
G 8-5	椭円	30×22	15×5	48		
G 8-6	不整形	61×56	33×25	62	縄文片120(1)	
H 8-1	椭円	36×21	9×8	33	縄文片30,石器1	第120図30
H 8-2	円	29×29	13×11	25	縄文片24(1)	
H 8-3	不整形	35×29	9×8	29	縄文片13(1)	
H 8-4	不整形	25×14	19×14	16	縄文片44(2),石器1	第120図25
H 8-5	円	22×19	11×6	18		
H 8-6	不整形	45×26	26×10	30	縄文片11	

第52表 柱穴状ピット

ピットNO	平面形	開口部径	底部径	深さ	出土遺物	備考
H 8-7	不整形	37×31	8×8	54	縄文片22	
H 8-8	楕円	33×26	9×6	33	縄文片25	
H 8-9	不整形	50×23	19×10	38	縄文片48(1)	
H 8-10	円	22×21	7×6	27		
H 8-11	円	21×21	14×8	13		
H 8-12	楕円	36×21	7×7	27	縄文片63(1)	
H 8-13	不整形	24×18	9×5	13	縄文片1,石刃1	第120図49
H 8-15	不整形	36	11×9	33	縄文片14(1)	
H 8-16	楕円	35×24	24×13	20	縄文片4	
H 8-17	不整形	34×20	8×7	30	縄文片9,石鏃1	第120図24
I 8-1	円	30×30	11×7	24	縄文片31	
I 8-2	不整形	37×26	9×9	43		
I 8-3	円	25×22	15×12	32		
I 8-4	楕円	31×27	17×10	37	縄文片3	
I 8-5 A	楕円	32×29	14×8	22	縄文片29(1)	
	B	31×27	7×4			
I 8-6	不整形	22×19	16×13	9	縄文片6	
I 8-7	不整形	35×13	11×10	52	縄文片16	
I 8-8	不整形	46×24	7×7	34	縄文片30(2)	
I 8-9	円	39×35	11×11	37	縄文片51	
J 8-1	不整形	20×21	14×8	9	縄文片4	
C 9-2	楕円	36×23	17×13	31		
D 9-5	円	29×18	18×14	28	縄文片3	
E 9-1	楕円	37×13	8×8	30		
E 9-2	不整形	54×13	16×12	17		
E 9-3	楕円	28×18	7×5	27		
H 9-2	不整形	30×26	19×15		縄文片1	
H 9-3	不整形	34×28	26×18	20	縄文片10	第119図14
H 9-4	不整形	20	11×9	37	縄文片21	
H 9-5	円	16×17	10×10	8	縄文片6	
H 9-6	円	23×21	12×9	23	縄文片19(6)	
H 9-7	不整形	32×16	10×8	36	縄文片14	
H 9-8	円	14×12	9×6	12	縄文片1	
H 9-9	円	18×16	9×6	14	縄文片11	
H 9-10	円	16×16	11×8	17		
H 9-11	円	19×18	15×13	18	縄文片5	
I 9-1	不整形	48×27	17×11	8	縄文片15(1)	
I 9-3	不整形	20×18	10×9	22	石鏃1	第120図27
I 9-4	不整形	103×85	86×84	64	縄文片29(7),石刃1,他	第19図5~19・第20図30~22・36~48
I 9-5	不整形	33×13	6×5	28	縄文片19	
I 9-6	円	19×17	7×7	16	縄文片10	
E 10-1	不整形	38×23	14×12	26		
E 11-1	不整形	46×42	23×15	47	縄文片7	

2 柱穴状ピット群（第113図～118図・第52表・写真図版21-1）

D 8・D 9・E 8・E 9・F 8・G 6・G 7・G 8・H 6・H 7・H 8・H 9・I 6・I 7・I 8・I 9・J 5・J 6・J 7グリットの3層上面において160基程の柱穴状ピットを検出している。柱穴状ピットは標高9m程の地点を、発掘区を横切るように分布する。規模は、開口部径20～50cm±・深さは20cm±のものが主体である。埋土は、2層に類似した土で、2層中からの掘り込みと思われる。柱穴状ピットは、列状を呈している箇所も見受けられるが、各ピット相互の関係は判然としない。各ピットの規模、形状は第52表を参照下さい。

〔遺物〕（第119図・第120図・写真図版28.29）

各ピットからの出土遺物の点数は、第52表に示したとおりである。ここでは比較的良好な資料のみを図示したが、大部分の細片は割愛している。

I 6-1 (31)

基部に抉りを有する無茎の石鎌1点が出土した。鎌身は二等辺三角形状をなし、側縁は直線状である。

I 6-4 (1・47)

土器・石器を図示した。1は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外反する。口縁部に無文帯を有し、体部には斜綱文（LR）が施文され、両者は原体の側面圧痕文により区画される。47は使用痕石器である。片面のみにマイクロフレーリングを有している。

J 6-8 (33)

基部に抉りを有する無茎の石鎌1点が出土した。鎌身は二等辺三角形状である。側縁は先端部より身部中央にかけて直線的で、身部中央から基部にかけて膨らみ外弧をえがく。抉りは深い。

J 6-9 (2)

2は平縁の鉢形土器の口縁部片である。口縁は外反している。文様は、平行沈線と磨消綱文により区画される。

J 6-10 (3)

3は波状口縁をなす粗製の深鉢の口縁部片である。波頂部に刻みを有している。体部上半は内反し、頸部で僅かに締まり、口縁は外反する。文様は、口縁部は無文で、体部に網目状撲糸

文が施文される。胎土に、粗砂と金雲母を多く含む。

G 7-1 (4~8・38)

土器・石器を図示した。4は波状口縁をなす鉢形土器の口縁部片である。波頂部は肥厚する。口縁は外傾する。口縁に沿って一条の沈線を有し、体部には斜繩文（L R）が施文される。5は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。平行する沈線により、横位沈線や菱形文が画かれる。6は深鉢の体部片である。沈線により曲線文が画かれる。7は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は若干外反している。口縁部は無文で、体部に斜繩文（L R・R L）が施文される。胎土に多量の粗砂を含んでいる。8は土製円盤である。比較的入念な研磨により整形している。38は基部が円基の尖頭器である。鍔身は二等辺三角形状をなし、側縁は外弧をえがく。一面に一次剥離痕を大きく残している。

H 7-1 (9~11)

9は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は頸部でくびれ外反している。口唇直下に一箇の刺突文を有し、刺突文から連鎖状の貼付文が垂下し、頸部に巡る隆線と連結する。11は深鉢の体部片である。斜繩文（L R）施文後に、沈線により曲線文を画いている。10は土製円盤である。打ち欠きにより整形し、部分的に研磨している。口唇部をそのまま利用している部分もみられる。

H 7-6 (12・32)

土器・石器を図示した。12は平縁の鉢形土器の口縁部片である。口縁は内反し、口唇は内側に肥厚している。口縁部に鱗状の貼付文を有している。磨滅が著しい。32は基部に抉りを有する無茎の石鍔である。鍔身は二等辺三角形状で、側縁は直線的である。抉りはやや強い。

H 7-11 (13・50)

土器・石器を図示した。13は鉢形土器の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部に隆線による区画文を有し、内側には沈線により長円文が画かれる。区画文の交点には上下に二箇竹管による刺突が施される。体部には沈線による曲線文が画かれる。50は不定形石器である。刃部は直線的で一边のみに作られ、片刃である。

H 7-13 (34)

基部に抉りを有する無茎の石鍔1点が出土した。鍔身は二等辺三角形状で、側縁は外弧をえ

がく。

I 7-16 (40)

つまみを有する石錐1点が出土した。錐部の断面形は菱形状を呈する。

J 7-9 (29)

基部に抉りを有する無茎の石鎌1点が出土した。鎌身は正三角形状で、側縁は外弧をえがく。抉りは強い。

D 8-6 (23)

23は橋状把手を有する口縁部から底部にかけての資料である。洞部で最大幅をはかり、頸部で一度締まり口縁は若干外反している。把手には「ひねり」が加えられ、沈線と刺突文列が画かれる。口縁部は無文で、刻みを有する隆線によって区画される。体部には、把手より垂下する沈線による「の」の字状の文様と、曲線文が画かれ、地文には網目状の撚糸文が施文される。

E 8-1 (35・39・41~45)

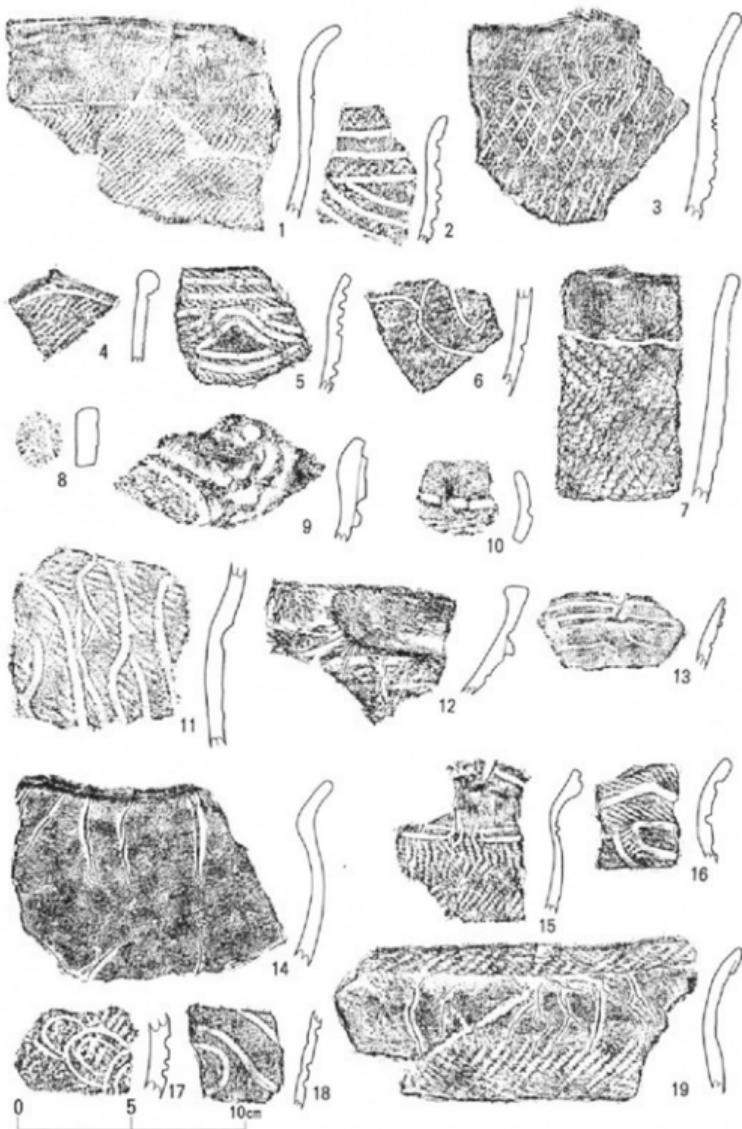
35は平基の石鎌である。鎌身は二等辺三角形状である。先端部は欠損する。39・45は石錐である。39はつまみを有するものである。錐部は長く作り出され、断面形は菱形である。45は三角形状の剥片を利用し、先端部を尖らしたものである。41~43は不定形石器である。41は三辺に刃部を有するものである。刃は両刃で直線的である。42は一辺に刃部を有するものである。刃は片刃で直線的である。43は二辺に刃部を有するものである。刃は片刃で、直線的に作られている。44は磨製石斧の剥片である。

F 8-7 (26)

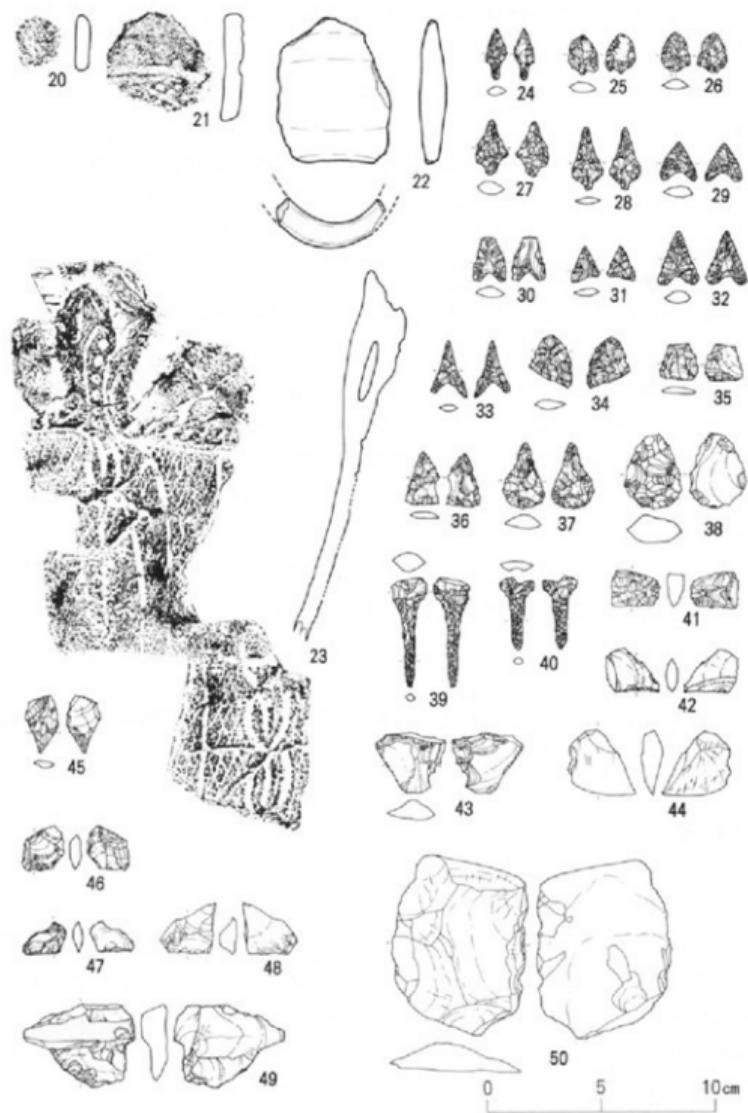
有茎石鎌1点が出土した。基部は抉れている。鎌身は二等辺三角形状を呈し、側縁は外弧である。茎部は欠損する。

G 8-1 (28・37)

石鎌2点が出土した。28は有茎の石鎌である。鎌身は二等辺三角形状を呈し、側縁は内弧である。基部は尖基をなし茎部は欠損する。37は基部が円基の無茎の石鎌である。鎌身は二等辺三角形状を呈し、側縁は先端部から身部中央にかけて直線状で、身部中央から基部にかけ膨らむものである。



119図 柱穴状ピット出土遺物



120図 柱穴状ピット出土遺物

H 8 - 1 (30)

基部に抉りを有する無茎の石鏃 1 点が出土した。先端部は欠損する。鏃身は二等辺三角形状をなし、抉りは強い。

H 8 - 4 (25)

有茎の石鏃 1 点が出土した。茎部は非常に小型のものがつく。鏃身は二等辺三角形状をなし、側縁は外弧をえがく。基部は抉れる。

H 8 - 13 (49)

不定形石器 1 点が出土した。刃部は一邊に作られ、片刃で直線的である。

H 8 - 17 (24)

有茎の石鏃 1 点が出土している。茎部は長く作り出されている。鏃身は二等辺三角形状をなし、側縁は若干であるが外弧をえがく。基部は平基をなす。

H 9 - 3 (14)

14は壺形土器の口縁部から体部上半にかけてのものである。口縁は平縁をなす。胸部で最大幅を計り、頸部でくびれ、口縁部は外反する。無文である。

I 9 - 3 (27)

有茎の石鏃 1 点が出土した。基部は尖基をなす。鏃身は二等辺三角形状をなし、側縁は内弧である。

I 9 - 4

出土した遺物は、土器・土製品・石器がある。

[土器] (15~19)

15・16は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。15は胸部が膨らみ、頸部で締まり、口縁は外反する。口唇部は外側に肥厚し、一条の沈線を有し、波頂部付近で途切れ、沈線の端部には刺突が施してある。口頸部は無文で、体部には斜繩文 (L R) が施文され、両者は横位沈線と、縦位の強状沈線により区画されている。16は口縁は外反し、平行する沈線と、充填繩文により曲線文が画かれる。17・18は深鉢の体部片である。沈線により曲線文が画かれる。19は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。口縁は、複合口縁をなし、外反している。複合部には斜繩文 (L

R) が施文される。口縁部は無文で、体部には斜繩文 (L R) が施文される。

[土製品] (20~22)

22は腕輪と思われるものである。断面形は長楕円形を呈し、中央部で最大幅13mmを計る。内外面とも無文である。20・21は土製円盤である。20は全周を、21は部分的に研磨している。

[石器] (36・46・48)

石鎌、不定石器、ピエス・エスキューが出土した。36は基部が平基をなす無基の石鎌である。鎌身は二等辺三角形状をなし、側縁は若干であるが外弧をえがく。両面に一次剥離痕を残している。46は不定形石器である。刃部は一辺に直線状に作られ、片刃である。48はピエス・エスキューである。両極剥離による一対の刃部を有している。裁断面はない。

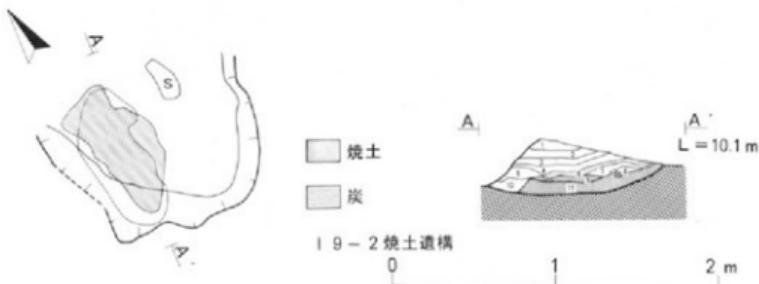
3 焼土遺構

I 9-2 焼土遺構 (第121図、第53表・写真図版21-7)

I 8・I 9グリットにおいて検出した。H 8溝によって北壁を切られる。平面形は不明で、断面形は皿状を呈している。規模は、深さが東壁最深部で23cmである。埋土は、暗褐色土・褐色土・黒褐色土・灰褐色土で11層よりなる。埋土中に多量の焼土・炭を含む層がみられ、地床炉と思われる。炉に伴う施設は検出できなかったが、焼けた花崗岩質の礫を一点検出している。

[遺物] (第122図・写真図版29)

埋土中より土器片123点（うち底部2点）が出土した。6点を図示した。1・2は平緩深鉢の口縁部片である。口縁は外反する。口縁部は無文で、体部に隆線と磨消繩文により曲線文が

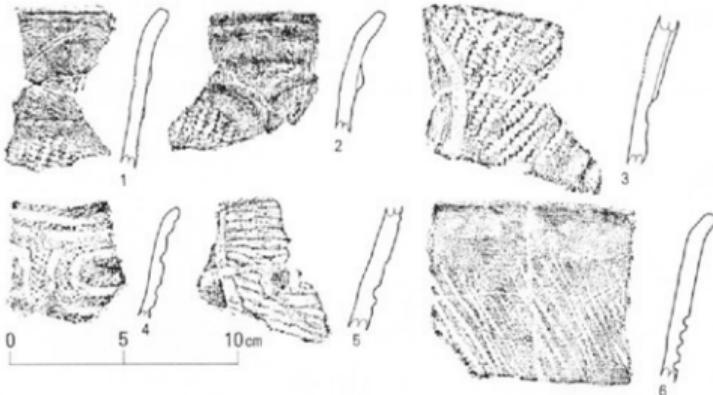


第121図 I 9-2 焼土遺構

画かれる。3は深鉢の体部片である。隆沈線により曲線文が画かれる。4は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は外反する。口縁に沿って二条の沈線が巡り、この沈線からは体部に沈線による曲線文が垂下している。5は深鉢の体部片である。沈線と磨消繩文により文様が画かれる。6は粗製の平縁深鉢の口縁部片である。体部は外傾気味に立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈折する。文様は、口縁部は無文で、体部に撫糸文が施文される。1～3は縄文時代中期の大木10式に、4は後期の十腰内I式に比定される。

第53表 I 9 - 2 ピット 燃土遺構

層No	土 色	備 考	層No	土 色	備 考
1	7.5YR3/2黒褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。やや固くしまる。まさを微量含む。	7	7.5YR4/2灰褐色	燒土なし。炭化物を少額含む。粘性有り。やや固くしまる。土器片有り。まさを少額含む。
2	7.5YR4/2灰褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。やや固くしまる。まさを微量含む。	8	7.5YR3/1暗褐色	燒土なし。炭化物を少額含む。土器片有り。粘性有り。やや固くしまる。まさを少額含む。
3	7.5YR4/2灰褐色	燒土なし。炭化物を多量含む。土器片有り。粘性有り。やや固くしまる。まさを微量含む。	9	7.5YR4/3褐色	燒土なし。炭化物を少額含む。土器片有り。粘性有り。まさを少額含む。
4	7.5YR4/2灰褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片・レキ有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを少額含む。	10	7.5YR3/2黒褐色	燒土なし。炭化物を少額含む。粘性有り。まさを少額含む。
5	7.5YR4/2灰褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。やや固くしまる。まさを少額含む。	11	7.5YR3/3暗褐色	燒土なし。炭化物を少額含む。粘性有り。まさを少額含む。
6	7.5YR2/1黒色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。やや固くしまる。土器片有り。まさを微量含む。			



122図 I 9 - 2 燃土遺構出土遺物

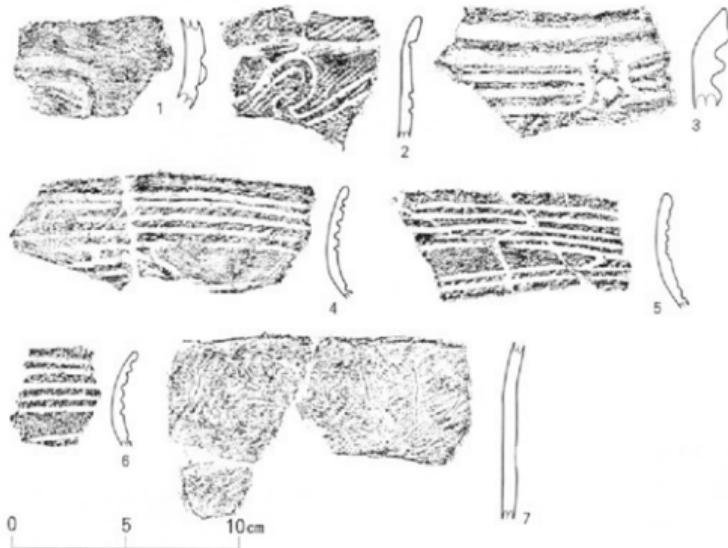
4 溝状遺構

H 6 溝（第124図-1、第54表・写真図版20-4）

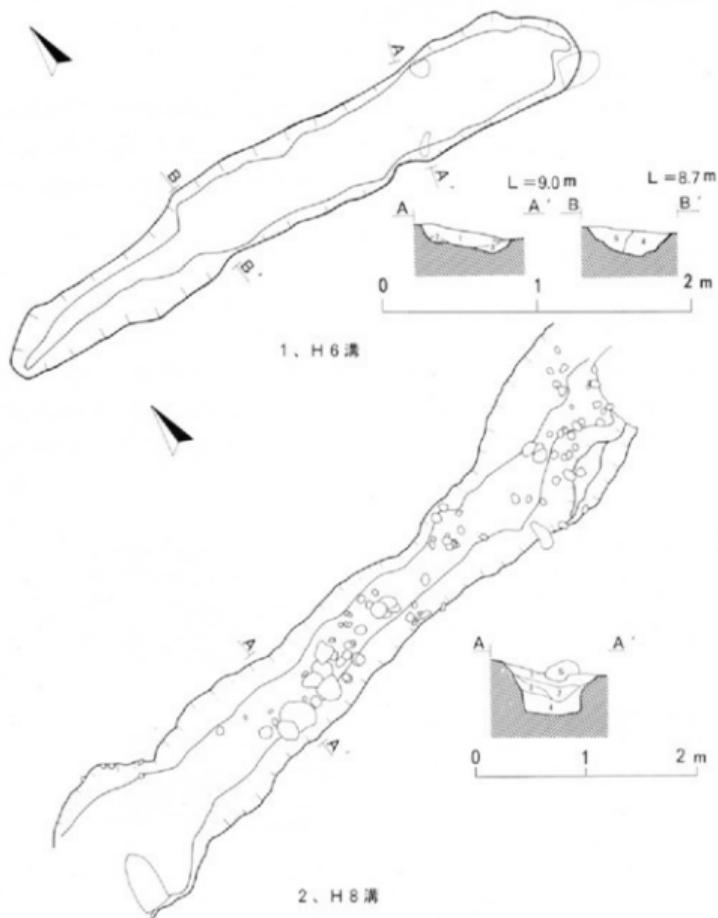
H 6・I 6 グリットのⅢ層上面において検出した。平面形は、長楕円形を呈し、断面形は船底状・皿状を呈している。長軸方向は、N-83°-Wで、ほぼ東西のラインに沿っている。規模は、開口部が421×66cm±、底部が411×53cm±で、深さは中央部付近で23cm±を測る。埋土は黒褐色で3層からなり自然堆積である。

〔遺物〕（第123図・写真図版29）

埋土中より土器片155点（うち底部6点）が出土した。7点を図示した。1は深鉢の体部片である。隆線によって曲線文が画かれる。2は波状口縁の深鉢の口縁部片である。口縁は複合口縁をなし、外傾気味に立ち上がり、口縁で若干外反する。複合部には斜繩文（LR）が充填される。体部には斜繩文（LR）施用後、平行する沈線により波頭状の文様が画かれる。複合部と体部文様部は一条の沈線により区画される。3～6は深鉢の口縁部片である。口縁に平行



第123図 H 6 溝出土遺物



第124図 H6溝・H8溝

第54表 H6溝

層No	土色	備考	H8溝		備考
			層No	土色	
1	7.5YR2/2黒褐色	礫土、炭化物なし。礫なし。粘性なし。今や固くしまる。まさを含む。	1	10YR3/4にない 褐色	礫土なし。炭化物を含む。礫有り。粘性なし。固くしまる。まさを含む。
2	7.5YR3/2黒褐色	礫土、炭化物なし。礫なし。粘性なし。今や固くしまる。まさを含む。	2	10YR4/4褐色	礫土なし。炭化物を含む。礫有り。粘性あり。やや軟い。まさを含む。
3	7.5YR3/2黒褐色	礫土、炭化物なし。粘性あり。やや固くしまる。まさを含む。	3	10YR4/4褐色	礫土なし。炭化物を含む。粘性あり。やや軟い。まさを含む。
4	10YR3/2黒褐色	礫土、炭化物なし。礫有り。粘性あり。今や固くしまる。まさを含む。	4	10YR3/3暗褐色	礫土なし。炭化物を含む。粘性あり。軟い。まさを含む。
5	10YR2/3黒褐色	礫土、炭化物なし。礫有り。粘性あり。今や固くしまる。まさを含む。			

る数条の沈線により文様を画くものである。3は波状口縁をなすものである。口縁は頸部で一度締まり外反する。波底部直下には左右対称をなす2条の弧条沈線が縦位に平行沈線と連結し、その間には二個の刺突が施される。4～6は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外反する。4は平行沈線が弧条の沈線により連結し、横位の楕円形の文様を意匠している。5は横位沈線より体部に斜めの平行沈線が施されるものである。沈線の連結部には弧状沈線が施される。7は深鉢の体部片である。斜縫文（LR）が施される。

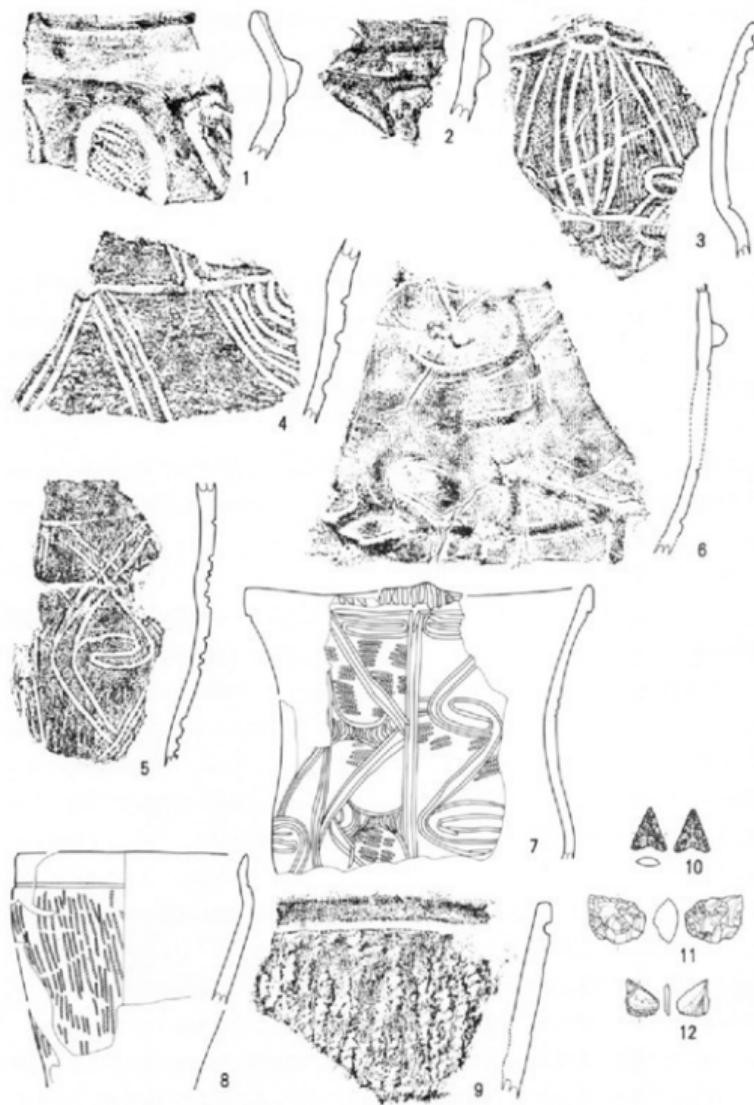
H 8 溝（第124図-2、第54表・写真図版20-2, 3）

G 8・H 8・H 9・I 8・I 9 グリットのⅢ層上面において検出した。平面形は直線状で、西側端部は不明瞭である。東側は未発掘区に拡がる。長軸方向はS-86°-Wで、ほぼ東西のラインに沿っている。規模は、残存部の開口部が 680×110 cmと、底部が 650×110 cmで、深さは最深部で60cmをはかる。埋土は、上位が人為的な堆積状況を示し列石が検出された。下位は自然堆積である。

列石は花崗岩質の礫を列状に配置したものである。攤乱により部分的に1.7m程が残存する。列石の指す方向の2.6m程離れた地点において、径80cm以上の大型の花崗岩礫を溝中において検出したが、列石との関連は不明である。

〔遺物〕（第125図）

出土した遺物は土器・石器がある。土器は9点を図示した。1・2は縄文時代中期の平縁深鉢の口縁部片である。1は口縁は内反し、2は外傾する。文様は1は口縁部は無文で、体部には刺突文と沈線により曲線文が画かれる。頸部には隆線が巡り、口縁部と体部とを区画している。2は隆線によって文様を意匠する。3～7は縄文時代後期のものである。3は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は頸部で締まり外反している。文様は、口唇部には口縁に沿って一条の沈線が巡り、波頂部直下には横位の沈線が施される。口縁部には数条単位の縦位の弧条沈線が施され、撚糸文が充填されている。4・5は深鉢の体部片である。平行する数条の沈線によって文様が意匠される。6は隆線・沈線・貼付文により文様を意匠するものである。隆線は幅1cm程度のもので、隆線に沿って平行する幅2～3mm程度の比較的深い沈線を施し曲線文を画いている。7は波状口縁をなす深鉢の口縁部から体部にかけてのものである。口縁部には長さの短い縦位の沈線が施され、体部には二条単位の沈線により曲線文が画かれる。8・9は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は8は頸部で締まり外反し、9は外傾している。ともに口縁部は無文で体部には斜縫文が施され、沈線によって口縁部無文帯と体部地文部とを区画する。石器は、埋土中より石鎚1点・尖頭器1点・石刃1点が、列石中より石皿の破片1点が出土した。10は無茎の石鎚である。基部に抉りを有し、鎚身は二等辺三角形状、側縁は直線状で、

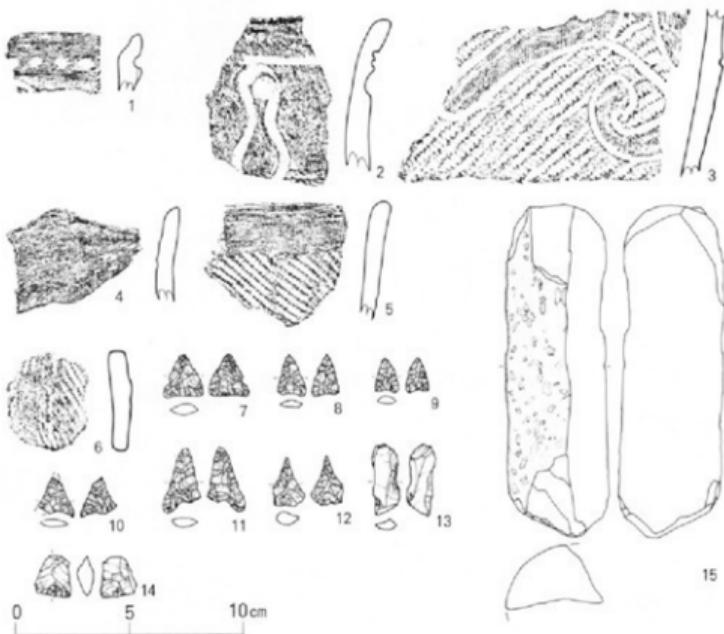


第125図 H8 溝出土遺物

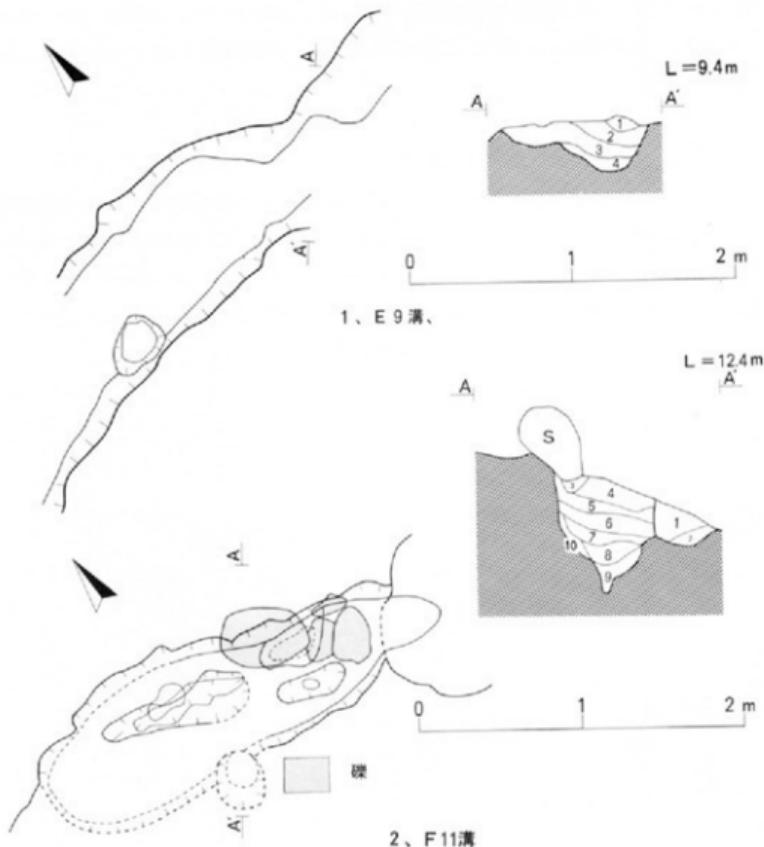
抉りはやや弱い。11は尖頭器である。基部は円基をなし、鐵身は二等辺三角形状、側線は外弧をえがく。12は石刃である。刃部は一邊のみで、片刃で、刃は直線的である。石皿の破片は細片のため割愛した。

E 9溝（第127図-1、第55表・写真図版20-1）

D 9・E 9・E 10グリットにて検出した。部分的に残存する。残存部の平面形は、直線状を呈し、断面形は船底状を呈している。長軸方向は、N-89°-Eで、ほぼ東西のラインに沿う。規模は、3.5m×1m程で、深さは最深部で20cm程である。南壁際に、橢円形状の小穴1基を検出した。小穴の規模は、開口部長軸38cm、短軸27cm、底部径長軸26cm、短軸21cm、深さは15cmである。埋土は4層からなり、自然堆積状況を示す。



第126図 E 9 溝出土遺物



第127図 E 9溝・F 11溝

第55表 E 9溝

層番	土色	備考	層番	土色	備考
1	10Y R4/6褐色	焼土なし。炭化物を少量含む。土器片あり。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	7	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を少額含む。土器片あり。粘性あり。やや固くしまる。まさを含む。
2	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	8	10Y R4/3に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を少額含む。土器片あり。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
3	10Y R4/3に赤い 黄褐色	焼土、炭化物なし。大きい礫有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	9	10Y R5/4に赤い 黄褐色	焼土なし。炭化物を少額含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。
4	10Y R4/6褐色	焼土、炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。	10	10Y R5/6黄褐色	焼土なし。炭化物を少額含む。粘性なし。まさを含む。
5	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を少額含む。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。			
6	10Y R4/4褐色	焼土なし。炭化物を少額含む。土器片あり。粘性なし。やや固くしまる。まさを含む。			

〔遺物〕(第126図・写真図版29)

土器・土製品・石器が埋土中より出土した。土器は5点を図示した。1は平縁の鉢の口縁部片である。口縁は「く」の字状に屈折する。2は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外反気味に立ち上がる。口縁部は無文で、一条の横位沈線が巡り、体部とを区画する。体部には沈線により縦位の曲線文が画かれる。3は深鉢の体部片である。沈線・磨消繩文により曲線文が画かれる。4・5は粗製の深鉢の口縁部片である。4は波状口縁、5は平縁をなす。ともに外傾気味に立ち上がる。土製品は土製円盤1点が出土した。(6)側縁は丁寧に研磨してあり、一辺が抉れる。石器は石鏃・尖頭器・石刃・石棒・石皿が出土した。7~11は石鏃である。7は基部が平基をなし、鏃身は正三角形状をなし、側縁は外弧をえがく。8~11は基部に抉りを有するものである。鏃身は二等辺三角形状をなし、側縁は8・9では外弧、10・11では内弧である。12は尖頭器である。基部は平基をなし、身部は二等辺三角形状で、側縁は内弧である。13・14は石刃である。ともに一边に刃部を有し片刃で、刃は直線状である。15は石棒の欠損品である。器表面に打痕と擦痕を有している。石皿は、破片が出土しているが図面は割愛した。

F 11 溝(第127図-2、第55表・写真図版19-6, 7, 8)

E 11・F 11・F 12グリットの地山面において検出した。東側をG 12-1 ピットにより、南壁を小ピットによって切られ、西側はE 11-3 ピットを切る。平面形は直線状を呈し、断面形は船底状である。長軸方向は、N-75°-Wである。残存部の規模は、開口部が295×100cm土、底部が310×80cm土で、深さは最深部で60cm程である。埋土は、下位は自然堆積であるが、上位は人為的な堆積で配石遺構を検出している。

配石遺構は、80×52cm、厚さ32cm程の花崗岩質の大型礫を、溝の上位に斜めに据えたもので、大型礫の下には、51×31cm、39×26cm、34×17cm程の礫が、平らに据えてあった。遺構の性格は不明である。

〔遺物〕(第128図、第129図・写真図版30)

出土した遺物は土器・土製品・石器がある。

〔土器・土製品〕

土器は、埋土中より土器片373点(底部7点)を得た。うち23点を図示した。1~4は繩文時代中期のものである。1は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。体部に沈線と磨消繩文により縦位の梢円文が画かれる。2~4は深鉢の頸部から体部にかけてのものである。2は頸部に横位沈線を、体部には指頭押圧文と沈線・磨消繩文により曲線文が画かれる。3は隆沈線と橋状把手を有するものである。橋状把手の左右の隆線上には竹管による刺突が施されている。4は幅の狭い沈線により曲線文を画く。曲線文の内部には斜繩文が施文される。

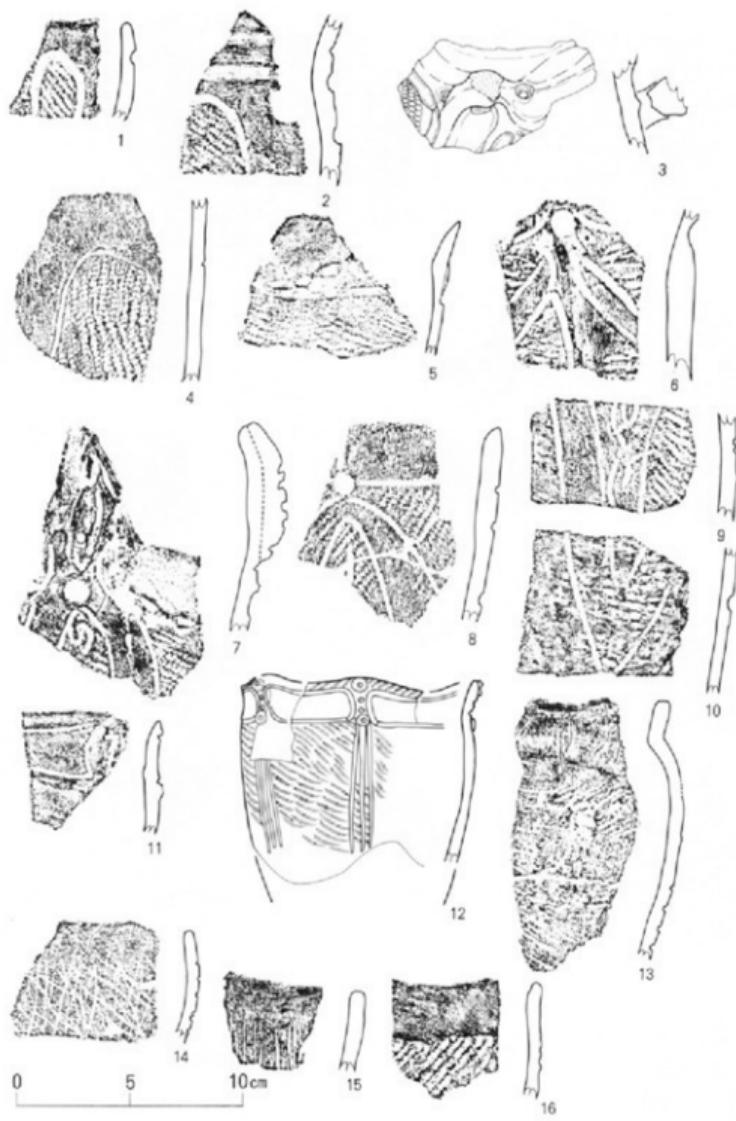
5～12は縄文時代後期のものである。5は深鉢の口縁部片である。口縁は頸部で一度締まり外反している。文様は、口縁部に刺突を有する鱗状の貼付文が施され、体部には擦りの弱い斜縄文（L R）が施文される。頸部には、口縁部文様帯と体部地文部を区画する横位の沈線が巡る。6～8は円形の盲孔を有するものである。6は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。波頂部直下に盲孔を有し、盲孔から口縁に沿って一条の沈線と、体部に垂下する隆線が施文されている。隆線からは体部に斜め沈線が施文され、連結部には縦位の弧状沈線が施される。隆線と沈線は、斜縄文（L R）施文後に施している。胎土には金雲母の混入が多く見られる。7は突起を有する深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。口縁部は無文で、頸部に横位の隆線が巡り、体部文様部とを区画する。隆線には斜め方向からの刺突が施され、突起と連結する。突起には「の」の字状の文様が画かれ、その内側には竹管による三個の刺突が施される。突起直下には盲孔が施文され、盲孔から沈線・磨消縄文による斜めの曲線文が体部に展開する。盲孔直下には「の」の字状の沈線を有する。8は平縁深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部は無文である。頸部には一条の沈線が巡り、体部とを区画する。この沈線には盲孔が連結する。体部には、盲孔を頂点とする曲線文が画かれ、その内側は磨消されている。9・10は深鉢の体部片である。沈線と充填縄文により曲線文を画く。9は「の」の字状の沈線を有し、胎土に多量の金雲母を含んでいる。11・12は口頸部に区画された無文帯を有するものである。11はゆるやかな波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。頸部には一条の隆線が巡り、隆線には刺突が施される。12は、ゆるやかな波状口縁をなす鉢の、口縁部から体部下間にかけてのものである。波頂部直下に、上下二個のボタン状貼付文を有する。体部には無節の斜縄文を施文後、三本単位の沈線が下位の貼付文より体部に垂下している。口縁部には回転の異なる斜縄文（L R）が施文される。

13～25は粗製の深鉢の口縁部片である。13～19は波状口縁をなすもので、17では波頂部に刻みを有している。口縁は、14では内反し、15・16は外傾し、13・17～19は頸部で一度締まり13・19は外傾、17・18は外反する。口縁部は無文で、体部に斜縄文（L R・R L）・網目状撚糸文・櫛引き文などが施文される。17では、頸部に一条の横位沈線が巡り、口縁部と体部を区画する。20～25は平縁をなすものである。22・24は口縁が外反し、他は外傾する。地文は斜縄文（L R・R L）と櫛引き文がある。21は胎土に金雲母を多く含んでいる。

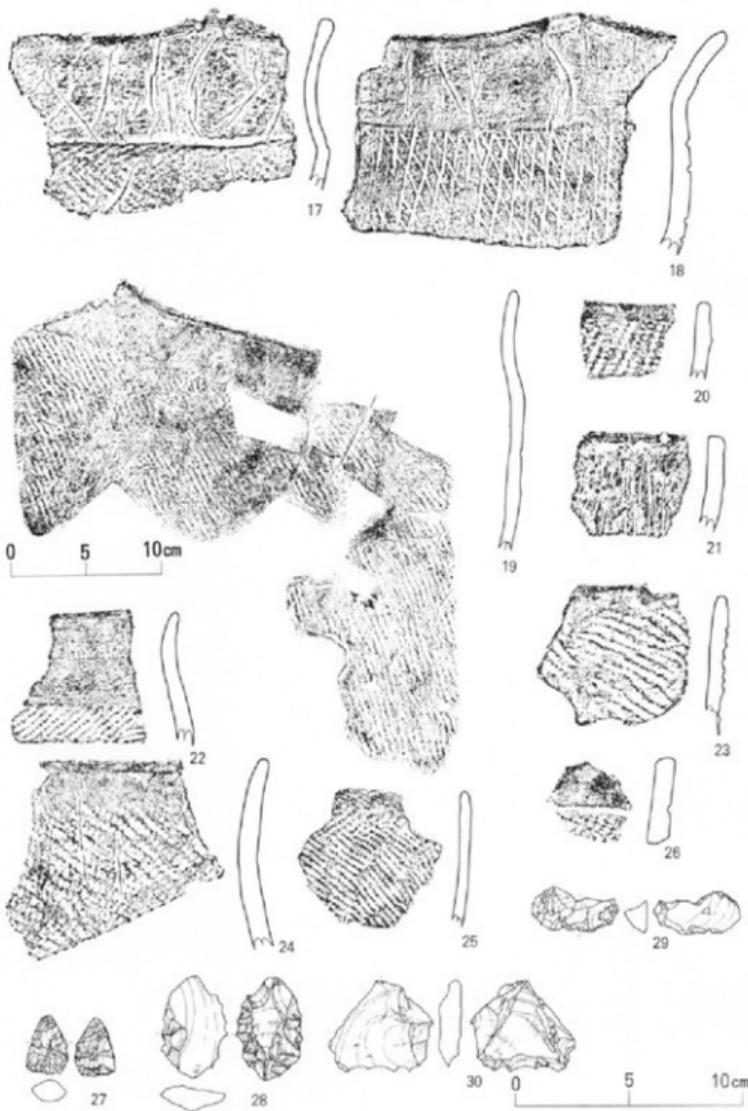
26は土製円盤である。土器片を打ち欠きにより整形し、部分的に研磨している。

〔石器〕

石器は尖頭器・石刃が出土した。27・28は尖頭器である。27は基部は平基をなし、28は尖基をなす。ともに身部は二等辺三角形状で、側縁は外弧である。29・30は石刃である。ともに一辺に刃部を有し、刃部は片刃で直線的に作り出されている。



第128図 F11溝出土遺物



第129図 F11溝出土遺物

I 13-1溝（第130図・第56表・写真図版20-5）

H13・I 13・I 14グリットにおいて検出した。I 13-1ピット・I 13-2溝によって切られる。残存部の平面形は直線状を呈し、断面形はV字状である。規模は、450×100cm土程で、深さは最深部で116cm程である。埋土は、人為的な堆積で、貝層を検出している。貝層は200番台の層名を用い、201層～211層（202層は欠番）・250層の11層があり、201層～211層では層の番号順に古くなり、250層は201層～206層よりは古いが、他の層との新旧関係は不明である。201層～206層は、I 13-1溝・I 13-2溝よりは新しい層であるが一応ここで説明する。

201層（第131図・第57表-1, 12, 14, 15）

総堆積7250cc、総重量10455g（注1）の混貝土層である。検出した貝層のうち最上位にある。45×50cm程の範囲で検出した。貝は同定したものが7種あり、出土総数は126点で、主体となるものはムラサキインコガイである。魚は、マイワシ・カタクチイワシ・サケ科の一種・マサバ等を同定しているが、いずれも最小個体数は1個体と少ない。他にムラサキウニの上生骨1点が出土した。

203層（第131図・第57表-2, 12, 14, 15）

総堆積2700cc、総重量3630gの混貝土層である。40×25cm程の範囲で検出した。貝は同定したものが6種あり総数は119点である。ムラサキインコガイ・エゾイガイの岩礁性二枚貝が全体の86.6%を占め、他に岩礁性巻貝5%、砂泥性二枚貝5%がある。魚はマイワシ・カタクチイワシ等5種を同定しているが、数は少ない。他にヘビ目の一一種の脊椎骨1点が出土している。

204層（第131図・第57表-5, 12, 14, 15）

総堆積14800cc、総重量21105gの混貝土層である。35×30cm程の範囲で検出した。貝は同定したものが7種あり、総数152点が出土し、ムラサキインコガイが全体の89.5%を占めている。魚は9種を同定したがいずれも最小個体数は1個体と少ない。他にチシマフジツボの嘴板8点、ムラサキウニの中生骨1点、ヘビ目の一一種の脊椎骨2点、ネズミ科の一一種の左右下顎切歯各1点、シカの右末節骨1点、イルカ科の一一種の脊椎骨1点がある。

〔遺物〕（第133図9・写真図版31）

骨鏃1点が出土した。先端部は欠損する。内面には擦り切り痕を大きく残している。

205層（第131図・第57表-3, 12, 14, 15）

総堆積11900cc、総重量16074gの混貝土層である。115×30cm程の範囲で検出した。貝は同定したものの7種があり、総数219点ある。ムラサキインコガイが全体の86.8%を占め、他にタマキビ等の岩礁性の巻貝が7.4%を占めている。魚は8種が出土しているが、数は少なく小型魚が多い。他にムラサキウニの顎骨2点、ヘビ目の一一種の脊椎骨1点、ネズミ科の一一種の右下

頸骨 1 点がある。

206層（第131図・第57表-4, 12, 14, 15）

混貝土層である。総堆積・総重量は不明。90×45cm程の範囲で検出した。貝の出土点数は不明である。魚は9種と比較的多種を同定しているが、数は少ない。小型の種が目立つ。他にヘビ目の一一種の脊椎骨 1 点、鹿角片 1 点が出土している。

[遺物]（第133図7・写真図版31）

7は骨針である。シカの中足骨を用いたもので、全体丁寧に研磨されている。基部には穿孔を 1 個有している。他に骨針 1 点が出土したが細片のため割愛した。

207層（第131図・第57表-8, 12, 14, 15）

総堆積13600cc、総重量20120gの混貝土層である。122×55cm程の範囲で検出した。貝は同定したもの10種があり、総数319点出土しており、岩礁性の二枚貝が全体の85.2%、岩礁性巻貝が10.8%を占めている。魚は11種同定しており、最少個体数はマイワシ・マダイが2個体、フサカサゴ科の一一種が3個体である。他にヘビ目の一一種の脊椎骨 2 点、イヌ科の一一種の右脛骨 1 点、イノシシ左肋骨 1 点等が出土している。

[遺物]（第132図1・第133図8・写真図版31）

1は壺の体部片である。隆線による区画文を有し、区画文の内側には沈線による横位梢円文が画かれている。8は刺突穴である。シカの右中足骨近位端をもちいたもので、内面のみ丁寧に研磨している。基部には穿孔を 1 個有する。

208層（第131図・第57表-9, 12, 14, 15）

総堆積19400cc、総重量30035gの混貝土層である。40×20cm程の範囲で検出した。貝は同定したものが10種あり、出土総数は1550点で、うちムラサキインコガイが1490点、全体の96.1%を占めている。魚は同定したものが14種と種類数が多い。最少個体数はフサカサゴ科の一一種とアイナメが2個体、マイワシが4個体で、他は1個体である。他にムラサキウニ・ヘビ目の一一種の脊椎骨 3 点・ネズミ科の一一種の右下顎骨 1 点・シカの右橈骨 1 点が出土した。

[遺物]（第132図2・第133図2・写真図版30）

第132図2は波状口縁をなす深鉢の口縁部片で、口縁は外反する。口縁部は無文で、体部には沈線と磨消細文により、波頂部直下に倒卵形の文様と、縦位のS字状の文様が画かれる。地文は網目状撚糸文が施文される。第133図2は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は内反する。口縁部は波頂部直下にボタン状の貼付文と、刺突を有する渦巻状の隆線を有するが、他は無文である。体部には斜め沈線と縦位のS字状の沈線と斜細文(L R)が施文される。口縁部と体部は、隆線によって区画され、隆線上には体部と地文と回転方向の異なる地文が施文される。2は完形の釣針である。軸頂部は鳥形、軸部はやや内側に湾曲し、断面形は方形である。

る。湾曲部は内縁ではU字状を、外縁ではV字状を呈している。針先部は、軸部とほぼ平行して作られ、内鑿を1個有している。他に釣針の軸部1点・鹿角未製品1点が出土したが細片のため割愛した。

209層（第131図・第57表-7, 12, 14, 15）

総堆積15000cc、総重量20945gの混土貝層である。70×25cmの範囲で検出した。貝は同定したもののが16種と種類数が多く、総数は693点である。主体となる貝はムラサキイシコガイ・イガイの岩礁性二枚貝が87.3%を、岩礁性巻貝が7.2%を占める。魚は15種を同定しているが最少個体数はそれぞれ1個体である。他にムラサキウニの中間骨1点、ヘビ目の一一種の脊椎骨21点、ネズミ科の一一種の右上顎切歯1点、イノシシの右上腕骨1点、シカの左大腿骨1点・右脛骨1点・左中節骨1点が出土しており、特にヘビ目の一一種の脊椎骨の出土が目立つ。

〔遺物〕（第132図3～5、第133図3, 5, 6, 10）

第132図3・4は平縁深鉢の口縁部片である。3は内反、4は外傾する。3では沈線と磨消繩文により、4では断面三角形状の隆線により文様が画かれる。5は深鉢の体部片である。2と同一個体と思われるものである。第133図3は鳥形の軸頂部を有する釣針である。軸部及び針先部は欠損する。焼けて黒色を呈している。5・6は刺突貝である。シカの中手・中足製のもので、5では全体を、6では部分的に研磨して作り出している。10は骨箇である。シカの左中手骨の近位端を用いている。先端には使用痕と思われる剥離痕を有している。調整は先端のみに行なわれており、側縁には擦り切り痕を大きく残している。他に釣針軸部1点が出土しているが、細片のため割愛した。

210層（第131図・第57表-10, 12, 14, 15）

総堆積20000cc、総重量28173gの混土土層である。110×20cm程の範囲で検出した。貝は同定したもの15種が有り、総数は580点である。主体となるのは岩礁性二枚貝で全体の88.6%で、岩礁性巻貝7%である。魚は11種を同定しており、マイワシ、マサバ、マダイが最少個体数2個体である。他にムラサキウニ、ヘビ目の一一種の脊椎骨5点、ネズミ科の一一種の左上顎切歯1点、リス科の一一種の右下顎切歯、イノシシの下顎門歯1点、鹿角片2点、イルカ科の一一種の脊椎骨1点がある。

〔遺物〕（第132図6）

6は深鉢の体部片である。沈線・刺突文・磨消繩文により曲線文が画かれる。

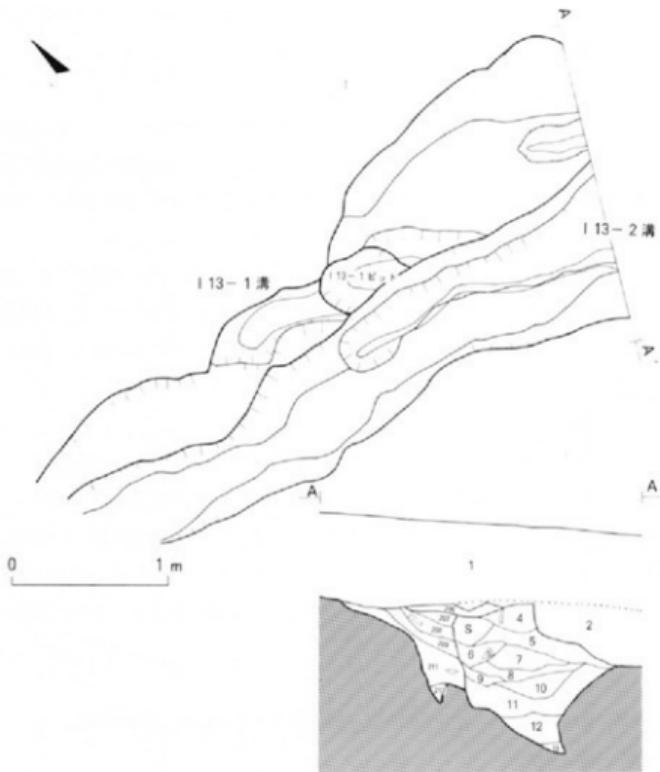
211層（第131図・第57表-11, 12, 14, 15）

総堆積25000cc、総重量37275gの混土土層である。範囲は不明である。貝は同定したもの12種があり、総数345点である。主体をなすのは岩礁性二枚貝83.5%、岩礁性巻貝9%である。魚は12種を同定しており、マダイ、フサカサゴ科の一一種が最少個体数2個体、マイワシが最少個

体数3個体である。他にムラサキウニ、ヘビ目の一一種の脊椎骨7点、ネズミ科の一一種の左下顎骨1点、ウサギ腰椎1点、シカ右末節骨1点、イルカ脊椎骨1点がある。

[遺物] (第132図7・第133図4)

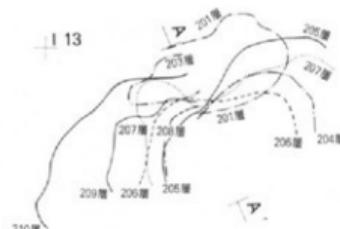
7は深鉢の体部片である。沈線と磨消繩文により曲線文が画かれる。4は釣針である。軸頂部から軸部にかけて残存する。軸頂部は鳥形を呈する。全体丁寧に研磨されている。断面形は梢円である。他に釣針の軸頂部1点が出土したが細片のため割愛した。



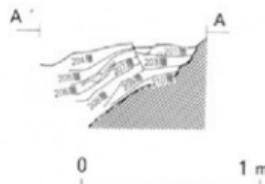
第130図 I 13-1、I 13-2溝、I 13-1ピット

第56表 I 13-1 I 13-2 測

番号	土色	備考	番号	土色	備考
1	道路碎石		10	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を含む。繊有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含まない。
2	10Y R3/3黒褐色	燒土なし。炭化物を含む。繊有り。粘性なし。固くしまる。まさを含まない。	11	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を含む。繊有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含まない。
4	10Y R3/3黒褐色	燒土なし。炭化物を含む。繊有り。粘性なし。固くしまる。まさを含まない。	12	10Y R3/4暗褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。やや固くしまる。まさを少量含む。
5	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を多量含む。繊有り。粘性なし。固くしまる。まさを含まない。	13	10Y R4/4褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
6	10Y R3/4暗褐色	燒土なし。炭化物を多量含む。繊有り。粘性なし。固くしまる。まさを含まない。	207	10Y R3/3黒褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
7	10Y R4/3に近い 黄褐色	燒土なし。炭化物を含む。繊有り。粘性あり。やや固くしまる。まさを含まない。	208	10Y R3/4暗褐色	燒土。炭化物なし。粘性なし。固くしまる。まさを少量含む。
8	10Y R4/4褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。繊有り。やや固くしまる。まさを含まない。	209	10Y R4/6褐色	燒土なし。炭化物を含む。粘性なし。固くしまる。まさを含まない。
9	10Y R5/6黄褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性有り。やや固くしまる。まさを含まない。	211	10Y R3/6暗褐色	燒土なし。炭化物を含む。繊有り。粘性なし。やや固くしまる。まさを含まない。
206			212	10Y R4/6褐色	燒土。炭化物なし。粘性少々有り。やや固くしまる。まさを含む。



貝層の拡がり



第131 貝層の拡がり

種 名	部位	歯	後 側 頭 骨	腹	尾	備 考	最 少 個 体 数
		L	R	椎 骨	椎 骨		
マイワシ		16	19			1	1
カタクチイワシ		2	3			1	1
サケ科の一種				椎骨片	1	1	1
マサバ		1	1			1	1
フサカサゴ科の一種	I					1	1
アイナメ		1	1	3		1	1

第57表-1 201層出土魚骨

種 名	部位	主	第一	腹	尾	部	最 少 個 体 数
		上 一 頭 骨 骨	椎 骨	椎 骨	尾 骨	部	
マイワシ		2	16	27	1	2	2
カタクチイワシ			2	1		1	1
マサバ			3	1		1	1
マダイ		1					1
アイナメ			3	1		1	1

第57表-2 203層出土魚骨

種 名	部 位	方 骨	前 蓋 骨	第 一 脊 椎	第 二 脊 椎	尾 椎	備 考		最 少 個 体 數
							L	R	
マイワシ				25	30				2
カタクチイワシ				3	1				1
サケ科の一種						椎骨片			1
マサバ				3	2				1
マアジ				1	1				1
マダイ		1	1						1
ウミタナゴ					1				1
アイナメ		1		1	1	3	14		1

第57表-3 205層出土魚骨

種 名	部 位	前 齒 骨	口 蓋 骨	第 一 脊 椎	第 二 脊 椎	尾 椎	備 考		最 少 個 体 數	
							R	L		
マイワシ				1		1	1	14	6	2
カタクチイワシ									2	1
サケ科の一種									椎骨片	3
カツオ							1			1
マサバ								3		1
マダイ		1	1							1
ウミタナゴ				1					1	1
フサカサゴ科の一種									1	1
アイナメ						1		4	4	1

第57表-4 206層出土魚骨

種 名	部 位	主 上 顎 骨	角 骨	方 骨	角 副 骨	舌 骨	第 一 脊 椎	第 二 脊 椎	尾 椎	備 考		最 少 個 体 數
										L	R	
マイワシ		1	1	1			22	20				1
カタクチイワシ						3						1
マグロ属								棘	1			1
ソウダガツオ科の一種						3						1
マサバ						1						1
ブリ							1					1
マダイ		1	1	1	1							1
フサカサゴ科の一種		1	1	1	1	1						1
アイナメ						1	3	1				1

第57表-5 204層出土魚骨

種 名	部 位	前 上 顎 骨	角 骨	口 蓋 骨	第 一 脊 椎	第 二 脊 椎	尾 椎	備 考		最 少 個 体 數	
								L	R		
サメ目の一種										椎骨片	2
マイワシ								2	8	8	2
カタクチイワシ								1	3	4	1
カサカサゴ科の一種								1	1		1
アイナメ							1	1	3	2	1

第57表-6 250層出土魚骨

種 名	部 位	前 上 顎 骨	角 骨	口 蓋 骨	第 一 脊 椎	第 二 脊 椎	尾 椎	備 考		最 少 個 体 數	
								L	R		
マイワシ								1	1	18	
カタクチイワシ								2	11	1	
サケ科の一種										椎骨片	1
マアナゴ											1
マグロ属						1					1
カツオ								4	3		1
ソウダガツオ								5	3		1
マサバ								2	4		1
マアジ								1			1
ブリ		1									1
マダイ		1	1	1	1	1	1	1			1
ウミタナゴ								1	1		1
フグ目の一一種										上顎歯 R	1
フサカサゴ科の一種								1	4		1
アイナメ		1							5	4	1

第57表-7 209層出土魚骨

部位 種 名	主 角 骨 L	副 角 骨 R	方 骨 L	主 齒 骨 R	副 齒 骨 L	第一 副 齒 骨 R	第二 副 齒 骨 L	尾 椎 骨 R	備 考		最少個體數
									頭 甲 骨 L	頭 甲 骨 R	
マイワシ						1	1	38	33		2
カタクチイワシ						1	12				1
サケ科の一種									椎骨片	1	
カワオ						1	1				1
ツリガラス科の一種						1	1				1
マサバ						2	3				1
マアジ						1					1
ブリ						1					1
マダイ						2	1	1			2
ツカサゴ科の一種	3	1				4	1				3
アイナメ						1	1	6	14		1

第57表-8 207層出土魚骨

部位 種 名	頭 甲 骨 L	角 骨 R	方 骨 L	舌 骨 R	副 角 骨 L	副 角 骨 R	第一 副 齒 骨 L	第一 副 齒 骨 R	第二 副 齒 骨 L	第二 副 齒 骨 R	尾 椎 骨 L	備 考		最少個體數
												備 考		
サメ目の一種							3	1				1	1	1
マイワシ							2	69	64			4		
カタクチイワシ							1	10	28			1		
サケ科の一種												椎骨片	1	
マグロ類												2	1	1
カワオ												1		1
ツリガラス科の一種												1		1
マサバ												4		1
ブリ												1		1
マダイ												1		1
スズギ												1		1
ウミタガ												2		1
ツカサゴ科の一種	1	2										2	5	2
アイナメ							1	1	1	1		8	17	2

第57表-9 208層出土魚骨

部位 種 名	頭 甲 骨 L	角 骨 R	方 骨 L	舌 骨 R	副 角 骨 L	副 角 骨 R	第一 副 齒 骨 L	第一 副 齒 骨 R	第二 副 齒 骨 L	第二 副 齒 骨 R	尾 椎 骨 L	備 考		最少個體數
												備 考		
マイワシ							1	2	122	19		2		
カタクチイワシ							2	1				1		
マグロ類							1					1		1
カワオ							1					1		1
マサバ							2	2				1		1
マアジ							1					2		1
ブリ							1					1		1
マダイ	1	1	1				2					5	3	1
ツリの一種												1		2
ツカサゴ科の一種	1						1	1	4	1		1		1
アイナメ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		4	15	1

第57表-10 210層出土魚骨

部位 種 名	頭 甲 骨 L	角 骨 R	方 骨 L	舌 骨 R	副 角 骨 L	副 角 骨 R	第一 副 齒 骨 L	第一 副 齒 骨 R	第二 副 齒 骨 L	第二 副 齒 骨 R	尾 椎 骨 L	備 考		最少個體數
												備 考		
マイワシ							3	3	32	0	1	1		
カタクチイワシ												1		1
マグロ類												1		1
カワオ												1		1
マサバ												5	3	1
マダイ												1		2
ウミタガ												1		1
ツカサゴ科の一種	1						2					1		1
アイナメ							1	1	1	1		4	15	1

第57表-11 211層出土魚骨

部位 層 名	脚足 動物	乳 類												備 考
		主 上 部 類 骨 L	角 骨 R	方 骨 L	舌 骨 R	副 角 骨 L	副 角 骨 R	第一 副 齒 骨 L	第一 副 齒 骨 R	第二 副 齒 骨 L	第二 副 齒 骨 R	尾 椎 骨 L	備 考	
201層														
202層														
204層	8	1	2	1	1									1
205層		2	1											1
206層			1											
207層	1	1	1	2	1	1	1	1	1					
208層		1	4	4	3	1								
209層		1	2	1	3			1		1	1			
210層		1	1	1	5	1	1	1	2					
211層		3	1	2	7	1	1	1	1					
250層	9	1	1	1										
第57表-12 貝層出土動物遺存体														

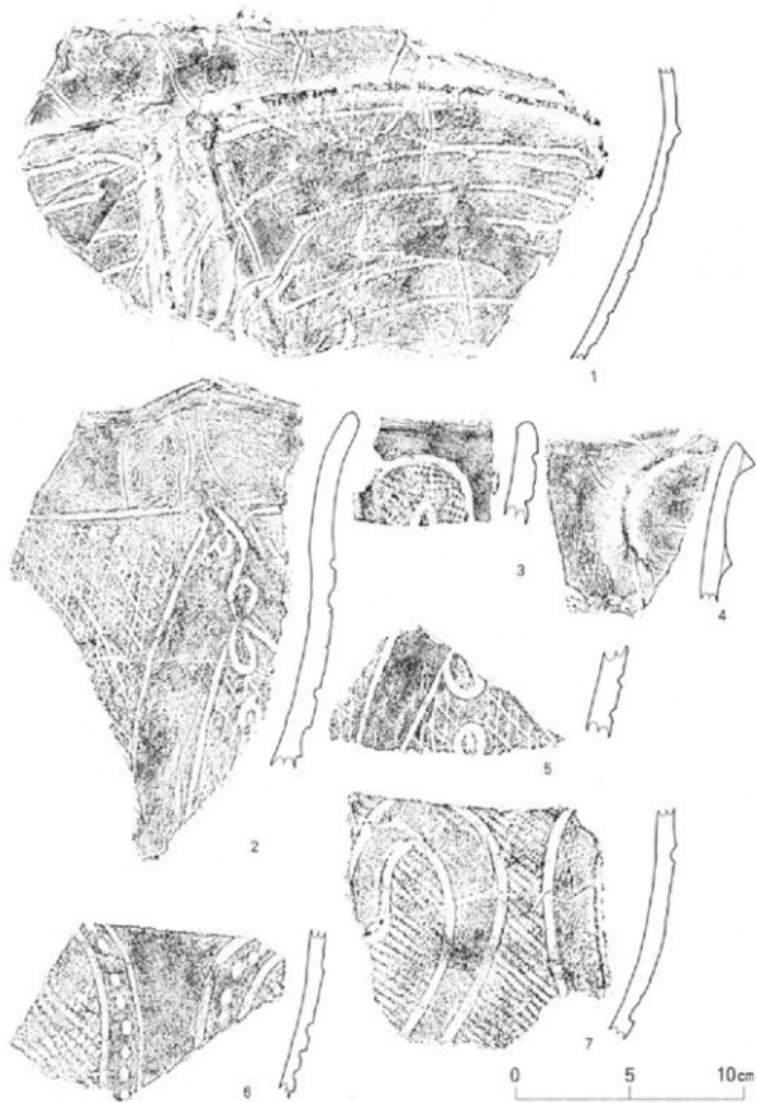
第57表-13 113-1 ピット出土魚骨

層名	層名	201層	203層	204層	205層	207層	208層	209層	210層	211層	250層
ヒザラガイ科の一属											3 (0.3)
クロアワビ										1 (0.3)	1 (0.3)
ユキノカサガイ	4 (3.1)	2 (1.7)		1 (0.5)	3 (0.9)	2 (0.1)	2 (0.3)	1 (0.2)	2 (0.2)	1 (0.6)	1 (0.2)
シロガイ											2 (0.3)
キサゴ								8 (1.4)	9 (2.6)	3 (0.5)	
クボガイ	1 (0.8)						6 (0.9)	8 (1.4)		16 (2.6)	
イシダタミガイ		1 (0.7)		1 (0.3)			1 (0.1)				
カワニナ								2 (0.3)	1 (0.3)		
タマキビ	5 (4.0)	3 (2.5)	2 (1.3)	10 (4.6)	17 (5.3)	12 (6.8)	23 (3.3)	12 (1.2)	2 (2.6)	13 (2.1)	
クロタマキビ				4 (1.8)	2 (0.6)	6 (0.4)	3 (0.1)	1 (0.2)	2 (0.6)	2 (0.3)	
ウニニナ				1 (0.5)	3 (0.9)	1 (0.06)	1 (0.1)				
ヒレガイ							1 (0.1)				
オオコウラクガイ							1 (0.1)				
イボニシ		1 (0.7)				2 (0.1)	8 (1.2)	4 (0.7)	5 (1.4)	5 (0.8)	
レイシガイ	1 (0.8)					3 (0.9)		1 (0.1)	1 (0.2)	2 (0.3)	
チザミギラ	1 (0.8)		1 (0.7)	1 (0.5)	6 (1.9)	7 (0.5)	6 (0.9)	1 (1.2)	2 (0.6)	2 (0.3)	
キセルガイ科の一属									1 (0.2)		
不明巻貝	4 (3.1)	4 (3.4)	4 (2.6)	5 (2.3)	2 (0.6)	14 (0.9)	12 (1.7)	6 (1.0)	12 (3.5)	7 (1.1)	
ムラサキコガエ	R 102 97 (81.0) (82.4)	83 (89.5) 99 (86.8) (82.4)	136 (86.5) 98 (86.8)	190 (84.3) 180 (84.3)	269 (84.3) 229 (84.3)	861 (49.1)	602 (53.6)	501 (49.0)	286 (27.0)	518 (52.8)	
エゾイガイ	R L (0.8)	1 (4.2)				3 (0.9)	1 (0.06)		10 (1.7)	1 (0.3)	6 (1.0) 4
イガイ	R L (0.7)					1 (0.2)	2 (0.4)	2 (0.5)	1 (0.3)	2 (1.0)	
マガキ							1 (0.1)	1 (0.2)		2 (0.3)	
コタマガイ										1 (0.2)	
アサリ	R L (6.3)	4 (5.0)	3 (3.9)	6 (3.2)	3 (3.1)	7 (3.1)	10 (0.8)	12 (3.3)	7 (3.3)	19 (9.9)	13 (4.3) 27 (20)
オオノガタ		126 (99.9%)	119 (100.1%)	152 (100.1%)	219 (99.7%)	319 (100.02%)	1550 (99.7%)	693 (100.1%)	580 (100.1%)	345 (100.1%)	626 (100.1%)
計								1 (0.1)			
※()内は各層における貝の構成率を示している。											
※二枚目は左右多いほうを用いた。											

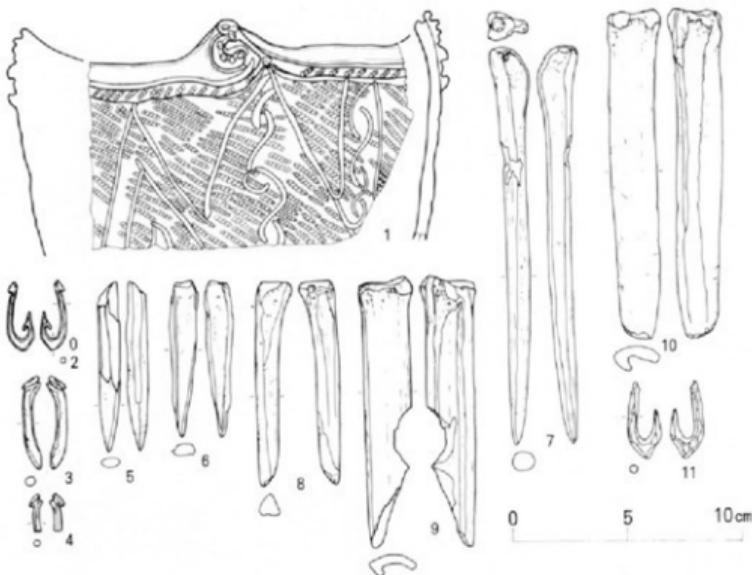
第57表-14 | 13-1 清出土貝

層名	層の性格	総体積(cc)	総重量(g)	5m×1m		1m×1m		フルイ 残 率				主な遺物
				フルイ上	フルイ下	フルイ上	フルイ下	土器	フレーク	石	骨	炭
201層	粗目土層	7250	10,455	214.0	1296.3	23.1	12.5	65.5	9.85	2,010	7.8	
203層	粗目土層	2700	3,630	115.5	470.7	44.4		17.9	4.6	0.2	1.9	50.3
204層	粗目土層	14,800	21,105	208.7	2442.5	47.05	0.9	82.6	9.6	0.1	1.7	27.6
205層	粗目土層	11,900	16,074	827.1	1942.5	402.5	11.0	206.9	54.4	0.6	5.95	173.4
206層	粗目土層	不明	不明	不明								
207層	粗目土層	13,600	20,120	2220.9	2520.4	171.2	26.8	1773.5	47.1	1.85	7.7	232.4
208層	粗目土層	19,400	30,035	1708.4	4102.3	286.3	19.6	1991.4	72.4	3.5	12.1	346.2
209層	粗目土層	15,000	20,945	2696.9	2447.8	350	9.5	1561.5	155.3	1.8	44.9	651.1
210層	粗目土層	20,000	28,173	3033.4	4717.1	303	17.1	2135.5	115.6	0.5	4.9	259.1
211層	粗目土層	25,000	37,275	3217.4	6054.4	291.1	12.5	2737.1	80.9	1.1	19.95	197
250層	粗目土層	19,000	29,621	2052.7	7880.4	219.1	31.5	1276.7	15.7	0.61	1.85	20.8

第57表-15 貝層フルイ分析結果



第132図 I 13-1 溝出土遺物



第133図 I13-1・I13-2溝出土骨角器

250層（第131図・第57表-6, 12, 14, 15）

総堆積19000cc、総重量29621gの混じ砂層である。範囲は60×47cm程である。貝は同定したもの17種があり、総数は626点である。主体をなすのは岩礁性二枚貝86.3%で、岩礁性巻貝7.6%がある。魚は5種が出土している。マイワシが最少個体数2個体で、他は1個体である。他にチシマフジツボ、アカフジツボ、ムラサキウニが出土した。

注1 乾燥時における重量である。出土遺物の重量も含める。

I13-1 ピット（第130図）

I13・I13グリットにおいてI13-1溝を切る小穴I13-1ピットを検出した。埋土中より貝層攪乱による動物遺存体が出土した。その概要は第57表-13に示したとおりである。規模は、I13-2溝による攪乱のため不明である。

I13-2溝（第130図・写真図版20-5, 6）

I13・I13グリットにおいて検出した。I13-1ピットを切る。平面形は直線状を呈し、断面形はV字状である。規模は、380×80cm土程で、深さは54cm程である。埋土は自然堆積状況

を示し9層からなる。埋土上位において成人男性の右側寛骨を検出したが（10号人骨）、埋葬の可能性は少ないと。

[遺物]（第133図11・写真図版31）

釣針1点を図示した。軸頂部の一部は欠損する。軸頂部には浅い溝を有している。軸部はほぼ直線状で断面は円形である。湾曲部は、内縁ではU字状を呈し、外縁ではV字状を呈している。針先部は軸部とほぼ平行に作り出されている。骨角器は他に鹿角加工品2点、骨鏃1点が出土したが細片のため割愛した。

5 人骨

ここでは遺構外において検出された人骨の出土状況について触れる。尚、解剖学的所見については付録を参照されたい。

6号人骨

G13グリットの攢乱層において頭蓋冠の破片を検出した。埋葬状態等不明である。

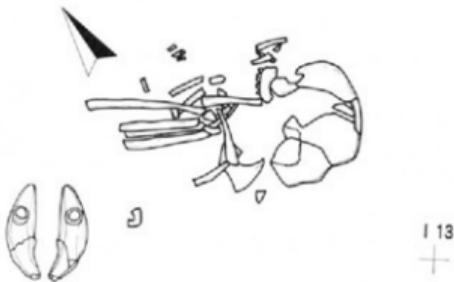
8号人骨

H14・I14グリットにおいて検出した。攢乱を受けており、大腿骨のみの出土で、埋葬状態等不明である。

12号人骨（第134図）

H14グリットにおいて検出した。再葬の可能性を有する成人男性で、頭蓋のほかに左右鎖骨・右肩甲骨・右上腕骨等があり、下肢骨の出土はない。顔面を北東方向に向け葬っていた。

[遺物]（第134図）



第134図 12号人骨及び出土骨角器

イヌ科の一種の右下頸犬歯の穿孔品1点が出土した。両面穿孔が施され、径4mm程の穴が開く。副葬品と思われる。

6 配石遺構

発掘区の下位、標高約9mの地点の2層中において帶状に広がる多量の礫の出土を見た。礫

は海蝕をうけた花崗岩質の円礫・楕円礫を主体とするもので、その数2tトック4台分に達する。整理期間の都度上出土した礫の半分ほどしか計測出来なかつたが、出土礫の半数は海蝕礫で占められている。海蝕礫は、遺跡の周辺からは産出せず、最低1km程離れた海岸線から搬入されたと考えられる。各礫にはレベル差があるものの、意図的に礫を帶状に集積したものと思われ、配石遺構として取り扱つた。また、この帶状の礫の拡がりの中には部分的に礫を集積させた箇所、列状に礫を配置したもの、弓矢状に礫を配置したもの、径1m以上の大型礫を据えたものなどが含まれ、多種類の配石で一群の配石を形成していたものと考えられる。ここでは、帶状の配石・列状の配石・弓矢状の配石・大型礫に区分をして説明を行なう。尚、出土遺物については、II層を配石群の層としてとらえ、II層中から出土のものは全て遺構内遺物として取り扱つた。

① 帯状の配石（第58表・写真図版3）

A 5～A 9グリットから、I 2～K 7グリット付近まで、幅10m・長さ30m程に弧状に拡がる帶状の配石である。ほぼ小穴群と同じ拡がりを示す。出土した礫のすべてを持ち帰り、その半分ほどを分析したが、礫の数は全体の半分で7401個、重量2622kgである。礫は花崗岩質の海蝕を受けた楕円礫・円礫が主体で全体の68.5%を占め、他は不定形の花崗岩礫が多い。また、礫の出土とともに膨大な量の遺物が出土しており、後述する資料の大部分は帶状の配石からの出土である。この帶状の礫の拡がりの西側には、幅4メートルほどの礫の空白域が弧状に接しておらず、空白域を挟んで西側には弓矢状の配石がある。

	個数	長軸cm	短軸cm	厚さcm	重さg
海蝕礫（楕円礫・円礫）	3684	8.15	6.30	3.98	353.39
海蝕礫（風化著しい。）	439	8.18	5.98	3.6	322.64
不定形の礫	3478	—	—	—	612.92
計	7401				

第58表 配石群出土礫

*長軸・短軸・厚さ・重さは平均値である。

② E 7集石（第135図・第59表・写真図版21-2, 3）

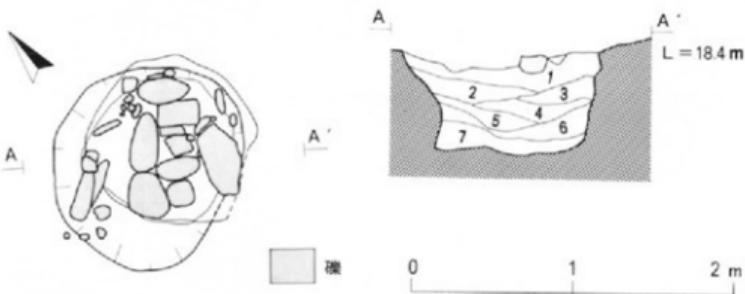
E 7グリットにおいて検出した。立石を中心に、長径2.5cm以上の大型の楕円形や長方形の礫を「コ」の字状に配置し、内側に、平坦面を有する長方形や正方形の礫を据えたものである。立石は、花崗岩質の扁平な礫で2.0cm程が露出する。内側に据えられた礫は、花崗岩質のもので、熱を受けぼろぼろになっているものもみられるが、周辺からは、炭や焼土の広がりは検出していない。

配石下から土坑一基を検出している。形状は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて

直壁状に立ち上がるピーカー状を呈している。規模は、開口部径125cm・底部径90cmで、深さは75cmを測る。埋土は、暗褐色土・黒褐色土・褐灰色土で7層よりなり、自然堆積である。埋土より骨片が数点出土しているが、種は不明である。

E 7集石及びビット

層No	土 色	備 考	層No	土 色	備 考
1	10YR3/1黒褐色	燒土、炭化物なし。土器片有り。粘性あり。やや軟い。まさを含む。	5	10YR4/2灰黃褐色	やや軟い。まさを含む。
2	10YR4/4褐色	燒土、炭化物なし。粘性なし。やや軟い。まさを含む。	6	10YR4/3に近い 黒褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。層あり。粘性あり。軟い。まさを含む。
3	10YR3/4褐褐色	燒土、炭化物なし。土器片・礫有り。粘性あり。やや軟い。まさを含む。	7	10YR4/3に近い 黒褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。土器片あり。粘性あり。軟い。まさを含む。
4	10YR3/3褐褐色	燒土なし。炭化物を少量含む。粘性あり。			



第135図 E 7集石

③ 列状の配石 (第136図-1)

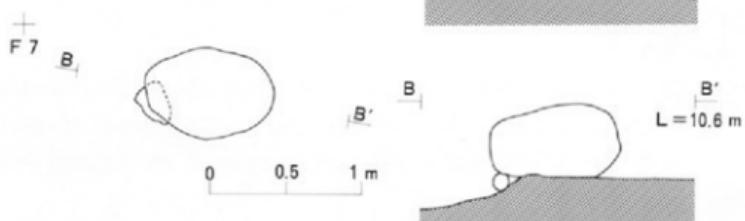
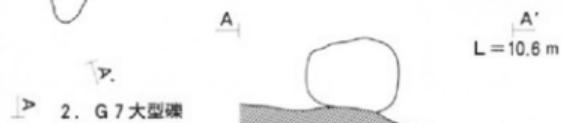
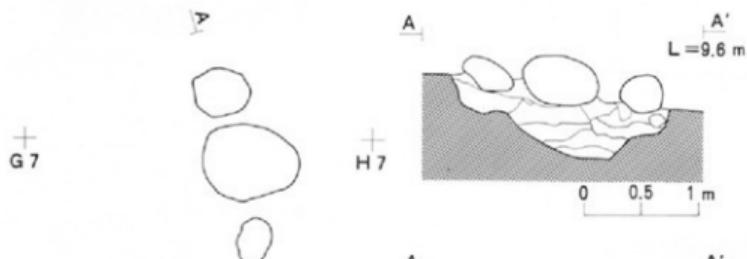
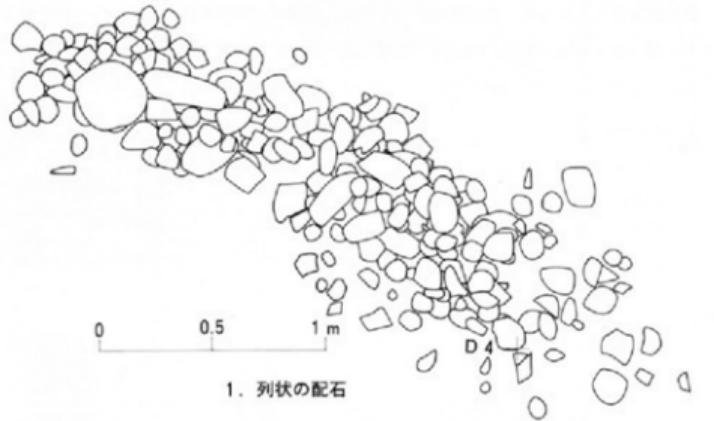
C 3・C 4・D 3・D 4グリットにおいて検出した。列状に石を配置したもので、長さ3.4m・幅1m程度である。主軸はN-24°-Wで西偏している。礫は花崗岩質の円礫と梢円礫を主体としている。

④ 大型礫

II層において7個の大型礫を検出した。いずれも搬入されたと思われるものである。地元住民からの現位置における埋め戻し保存の強い要望により、一部転落の危険性の少ない礫についてのみ幅20cm程のトレンチを入れ断面を観察したが、礫は移動せず、礫の下面は調査していない。

G 7大型礫 (第136図-2)

G 7・G 8グリットにおいて検出した。長径85cm・短径67cm・長径52cm・短径43cm・長径41cm・短径29cmの3個の礫を配置したものである。礫下に20cm幅のトレンチを入れてみたが、人



2. G 7 大型礫

0 0.5 1 m

3. E 9 大型礫

第136図 石列の配石. G 7 大型礫・E 9 大型礫

為的な掘り込みが観察され、ピット上位に礫を据えたものと思われる。礫はいずれも花崗岩質で、海蝕を受け丸みを帯びている。

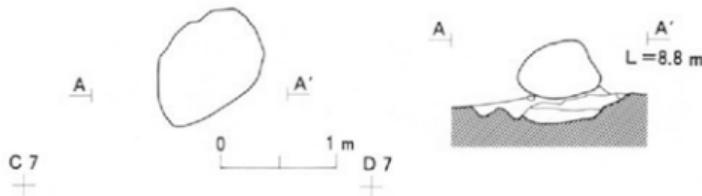
E 9 大型礫 (第136図-3・写真図版21-6)

E 9 グリットにおいて検出した。長径117cm・短径81cm・厚さ65cm程の大型の花崗岩の梢円礫を、斜面に平坦面を設け据えたものである。大型礫の下部には、幅40cm程の石を噛ませ、石の転落を防いでいる。

C 8 大型礫 (第137図)

C 8 グリットにおいて検出した。長径115cm・短径80cm・厚さ50cm程の花崗岩質の梢円礫である。礫下に幅20cm程のトレンチを入れてみたが、人為的な掘り込みが観察され、ピット上位に礫を据えたものである。

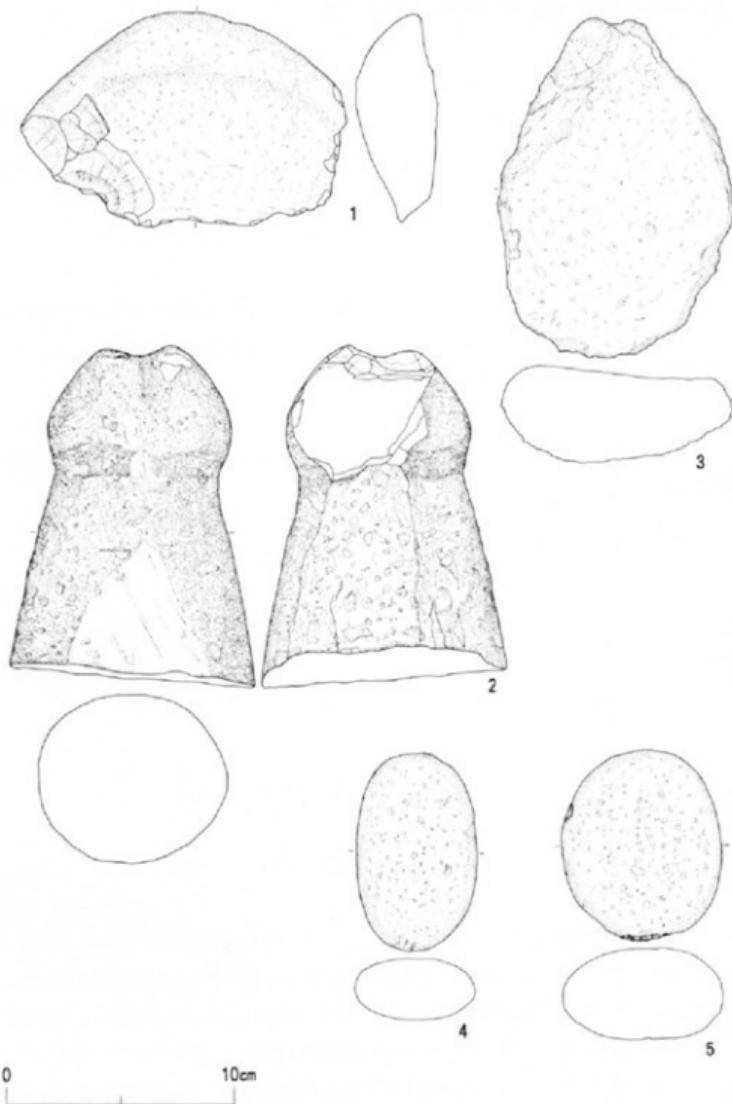
この他、H 3・I 6(2個)・H 6 グリットにおいて、花崗岩質の大型礫を検出している。



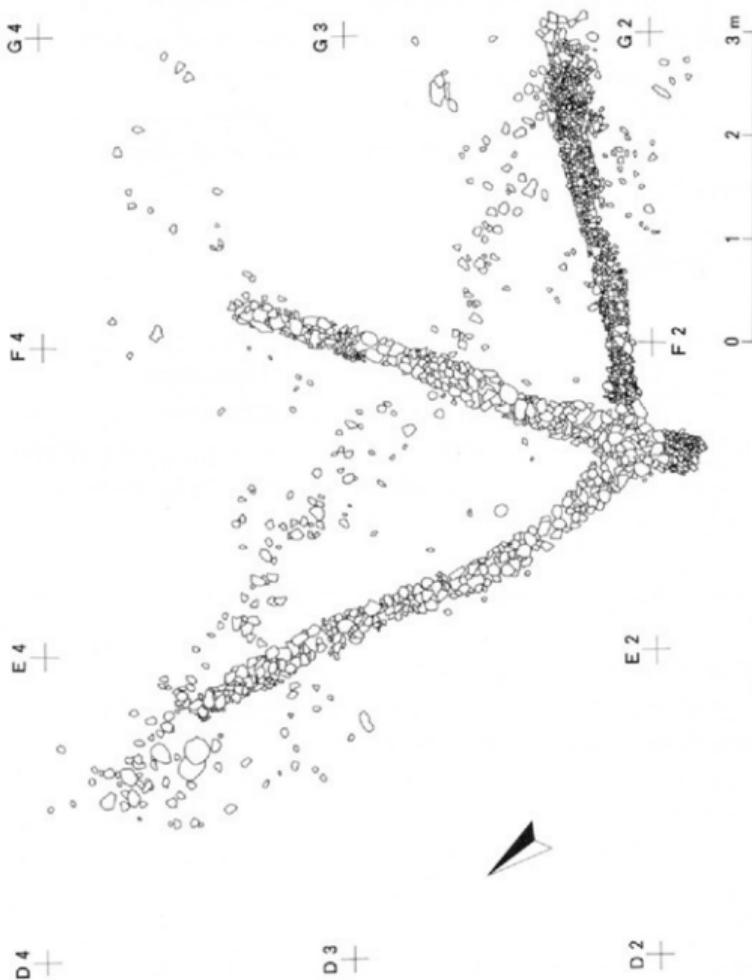
第137図 C 8 大型礫

⑤ 弓矢状の配石 (第139図、写真図版21-4, 5)

弓矢状あるいは矢印状の配石である。弓矢を想定しての説明が理解しやすいので、便宜上弓矢状の配石の用語を用いた。D 4・E 2・E 3・E 4・F 3・F 4・G 3 グリットの、標高約7.8mの地点において検出した。主軸は、N-55°-Eである。主軸の長さ4.85m、最大幅7.55m、右翼4.80m、左翼4.32mである。配石は、幅約60cm・深さ約24cmの船底状の溝の中に、花崗岩質の円礫・梢円礫や、碎石を埋め込み、弓矢状に配置したものである。弓の部分の右半分と弦に相当する部分は、海蝕を受けた円礫・梢円礫を主体とし、弓の左半分に相当する部分は磨滅を受けていない碎石で、矢に相当する部分は先端部が碎石、柄の部分は円礫・梢円礫と碎石の混合と、意図的に種類の異なる礫を各部位に配置して、弓矢状の形状を作り出している。



第138図 弓矢状配石出土石器



第139図 弓矢状配石 (折込み)

表面に露出した石の総数は1350個である。

[遺物] (第138図)

礫石器・石皿・石棒・敲石が、弓矢状配石を構成する隙中より発見されている。1は礫石器である。一辺のみに曲線状の片刃の刃部を比較的大きな剥離によって作り出している。他的一面には自然面を大きく残している。2は男根状の石棒の頭部である。ほぼ全面に打ち欠き痕を残しており、擦痕は部分的に認められるのみである。最頂部に十字状の溝を有している。3は石皿である。風化が著しく形状をとどめていないが、一面のみ磨かれている。4・5は敲石である。扁平な梢円形の花崗岩質の長軸方向の両端に、打撃によると思われる剥落を有するものである。

V 出土遺物

1 土器 (写真図版31~33)

調査によって出土した土器は、35×45×15cm程のダンボール箱200箱程である。時期的には縄文時代中期末葉・後前期葉・中葉のものがある。ここでは中期末葉のものを第I群、後前期葉のものを第II群、中葉のものを第III群として説明するが、紙面の都合上、粗製の土器は割愛した。また、II層出土のものを特に配石遺構の層出土のものとしてとらえ、遺構外の遺物とは別の図版において掲載した。

第I群 本群は縄文時代中期に属すると思われる土器群である。大木9式・10式のものが出土しているが量的には少ない。

第1類 (第144図1・2、第146図115~120)

大木9式に相当するもの。隆線による渦巻状の文様を有するもの(1・2・115~118)と、沈線による梢円形の文様を持つもの(119・120)がある。

第2類 (第140図1、第142図18・19、第144図3~7、第146図121~127、第147図128)

大木10式に相当するもの。沈線・隆線と磨消繩文により曲線文を画く。5・7・126では区画された文様内に刺突文を有し、128では頸部に横位の刺突文列を有している。125~127では曲線文の交点に鱗状の貼付文を有し、127では貼付文に刺突が施してある。

第II群 縄文時代後期初頭から前葉に属すると思われる土器群である。II層出土の土器の主体をなすものである。

第1類 (第142図16・17・21、第144図8~18、第147図129~149)

門前式あるいは門前式になる直前の土器を中心とし、連鎖状浮線文・中空把手を有する一群。立石遺跡第Ⅲ群第1類・第2類、崎山弁天遺跡第Ⅳ群第1類、八天遺跡第Ⅱ群第4類～第6類・第8類に相当する。

(A) 口縁部文様帯しかもたないもの (第142図21、第144図8～14、第147図129～140)

第147図133～137は刺突文列を有するもので、129～131は隆線に沿って刺突が施される。第142図21、第147図133～137は隆線に横方向からの刺突を有するもの、第144図8・9・11～14・第147図140は隆線に縦位の刺突文を、第144図10・第147図138・139は連鎖状沈線文を有するものである。

(B) 体部に文様帯を有するもの。(第140図2、第142図16・17、第144図15～18、第146図141～149)

第140図2・第142図16・17、第144図16、第147図146～149は中空把手を有するもので、18では把手に孔を有し、体部には連鎖状浮線文を有している。15・17は口縁部に突起を有し、突起には「の」の字状の文様が施されるものである。141～143は沈線と隆線による方形状の区画文を有するもので、142・143では隆線に横方向からの刺突が施される。144・145は連鎖状浮線文を有する。

第2類 (第140図3・4、第142図20、第144図19～21、第147図150～167)

体部に倒卵形の文様を有するもの。門前貝塚第Ⅱ群第2類、貝鳥貝塚第Ⅱ群第1類・第2類、立石遺跡第Ⅲ群第3類、八天遺跡第Ⅲ群第3類に相当するものである。

(A) 口縁に沿って隆線を有するもの。(第140図3・4、第144図19・20、第147図150～157)

19・20・150・151では隆線に刺突が施してあり、153・154・157では波頂部より体部に垂下するS字状の隆線を有する。152・154～156ではボタン状の貼付文を有する。

(B) 口縁に沿って沈線を有するもの。(第144図21、第147図158～162)

159～161は波頂部直下にS字状の文様を有する。162は沈線間に刺突が施されている。

第3類 (第147図163・164)

体部にボタン状の貼付文を有し、貼付文を起点とする曲線文を有するもの。曲線文は沈線と磨消綱文による。出土点数は少ない。

第4類 (第140図5、第142図24、第144図22～35、第147図165～第148図182)

口縁部に区画された文様帯を持つもの。

(A) 体部に文様帯を持たないもの。(第142図24、第144図22～29、第147図165～167)

口縁部文様帯は、沈線によって画かれるもの (第142図24、第144図22・23、第147図165) と、沈線・隆線・貼付文によるもの (第144図26・27、第147図166・167)、沈線・隆線によるもの (第144図24)、沈線・ボタン状貼付文によるもの (第144図25・28・29) とがある。166では波

頂部直下に上下二個のボタン状貼付文を有し、貼付文は2本の沈線によって結ばれ、沈線間に刺突が施してある。167では隆線に刺突が施してある。

(B) 体部に沈線による文様帯を持つもの。(第144図30~35、第140図5・第147図168・169、第148図170~173)

口縁部文様帶は、沈線によって画かれるもの(第140図5、第144図31~33、第147図168・170)、沈線・ボタン状貼付文によるもの(169・171)、沈線・隆線によるもの(第144図30、第148図172・173)、沈線・隆線・ボタン状貼付文によるもの(第144図34・35)とがある。体部文様は、170では方形状、171では曲線文が地文上に画かれる。5では磨消綱文によって曲線文が画かれている。

(C) 小破片のため体部文様帶の有無が不明のもの。(第148図174~182)

A・B同様、口縁部の文様帶が沈線によるもの(174~178)、沈線・ボタン状貼付文によるもの(179・180)、沈線・隆線によるもの(181・182)がある。178では沈線によってボタン状の文様が画かれ、181では隆線に刺突が施してある。

第5類(第144図36~39)

体部に波頭状の文様を有するものである。立石遺跡第一群第4類の一部、貝鳥貝塚第二群第4類の一部に類例を求めることができる。出土点数は少ない。

第6類(第140図6、第142図7~9、第142図22・23・25、第143図33、第144図40~第145図59、第148図183~195)

数条単位の平行沈線による区画文を文様の主体とするもの。関東地方に於ける堀内I式に近似し、立石遺跡第三群第4類、貝鳥貝塚第二群第3類、八天遺跡第三群第6類に類例を求めることができる。後述する第二群第7類土器とともに、本遺跡出土土器の主体をなすものである。

第7類(第141図10・11、第143図26~29・31、第145図59~83、第148図196~209)

東北地方北部の十腰内I式や大湯式に近似するものである。立石遺跡第三群第5類に類例を求めることができる。本遺跡出土土器の主体をなすものである。

第8類(第143図30、第158図210~212)

指頭および半截竹管による刺突文を多用するものである。三十稻場式に近似し、八天遺跡第二群第9類に類例を求めることができる。

第Ⅱ群 繩文時代後期中葉と思われるものを本群とした。出土点数は少ない。

第1類(第141図12、第143図34、第145図84~90、第149図213・214)

平行線による磨消繩文帯を有するもの。関東地方の加曾利B I式に近似し、立石遺跡第IV群第1類、貝鳥貝塚第III群第1類、崎山弁天遺跡第V群第1類、八天遺跡第IV群第2類に類例を求めることが出来る。

第2類（第146図91、第149図215）

斜行沈線文を有するものである。関東地方の加曾利B 2式に近似し、貝鳥貝塚第III群第2類、崎山弁天第V群第2類、立石遺跡第IV群第2類に類例を求めることが出来る。出土点数は少ない。

第3類（第146図92～99、第149図216・217）

平行沈線により直線的・曲線的な磨消繩文帯を有するものである。立石遺跡第IV群第3類、貝鳥貝塚第III群第3類、八天遺跡第IV群第4類・5類、崎山弁天遺跡第V群第4類の一部に類例を求めることが出来る。

第4類（第141図14・15、第146図100～104、第149図218）

刺突文帯を有するものである。立石遺跡第IV群第3類の一部、崎山弁天遺跡第V群第4類の一部、八天遺跡第IV群第3類に類例を求めることが出来る。

第5類（第146図105～114、第149図219・220）

沈線に沿って刺突文列を有し、磨消繩文によって曲線的な文様を描くものである。立石遺跡第IV群第4類、八天遺跡第IV群第6類、崎山弁天遺跡第V群第5類に類例を求めることが出来る。

2 土製品（第149図221～237・写真図版33）

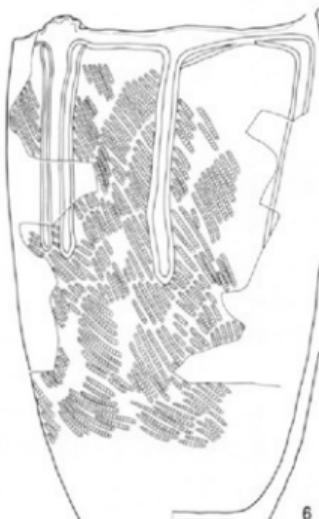
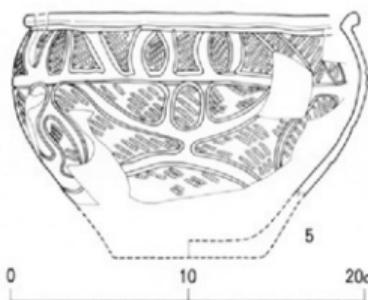
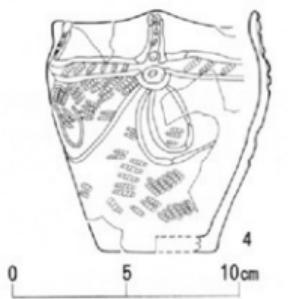
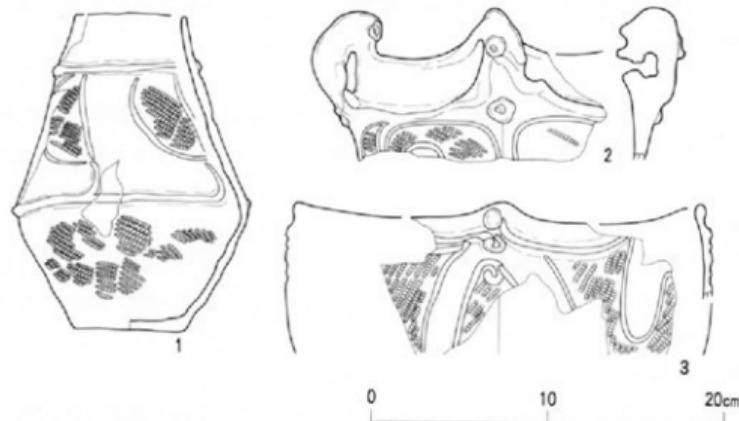
出土した土製品は土偶・土版・皿状土製品・舞形土製品・耳飾・腕輪がある。2層及び2層外からの出土点数は以下の通りである。

2層出土土製品

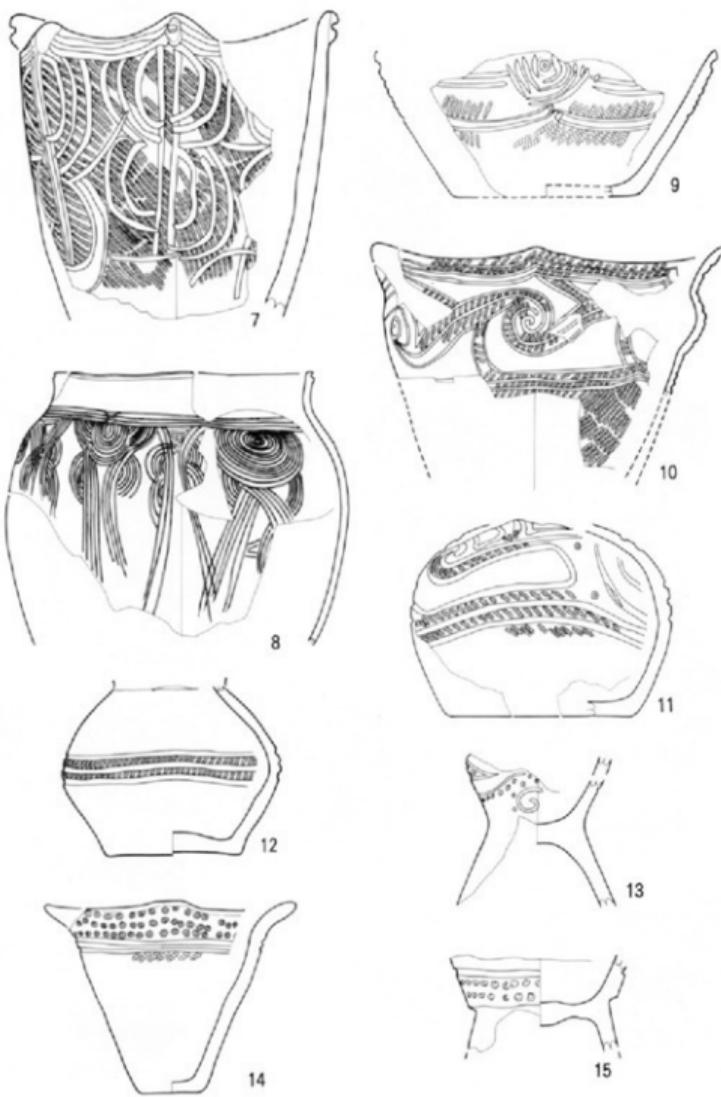
土偶は18点出土した。頭部1点、肩部5点、腕4点、胸部～脚部1点、腹部～脚部1点、胸部1点、腹部1点、脚部1点、足3点である。

2層外出土土製品

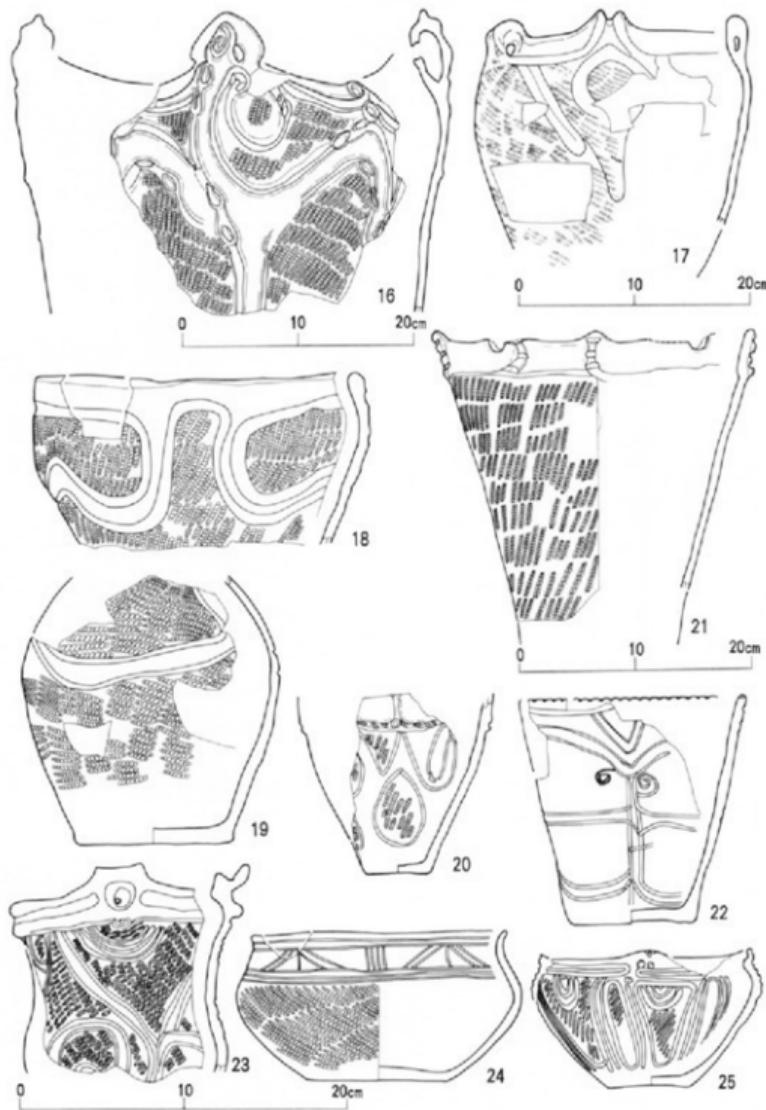
土偶は19点出土した。頭部1点・肩部1点・腕3点・肩部～胸部1点・胸部1点・腹部7点・脚部1点・足4点である。



第140図 II層出土土器



第141図 II層出土土器



第142図 Ⅲ層出土土器



第143図 Ⅱ層出土土器



第144図 Ⅲ層出土土器



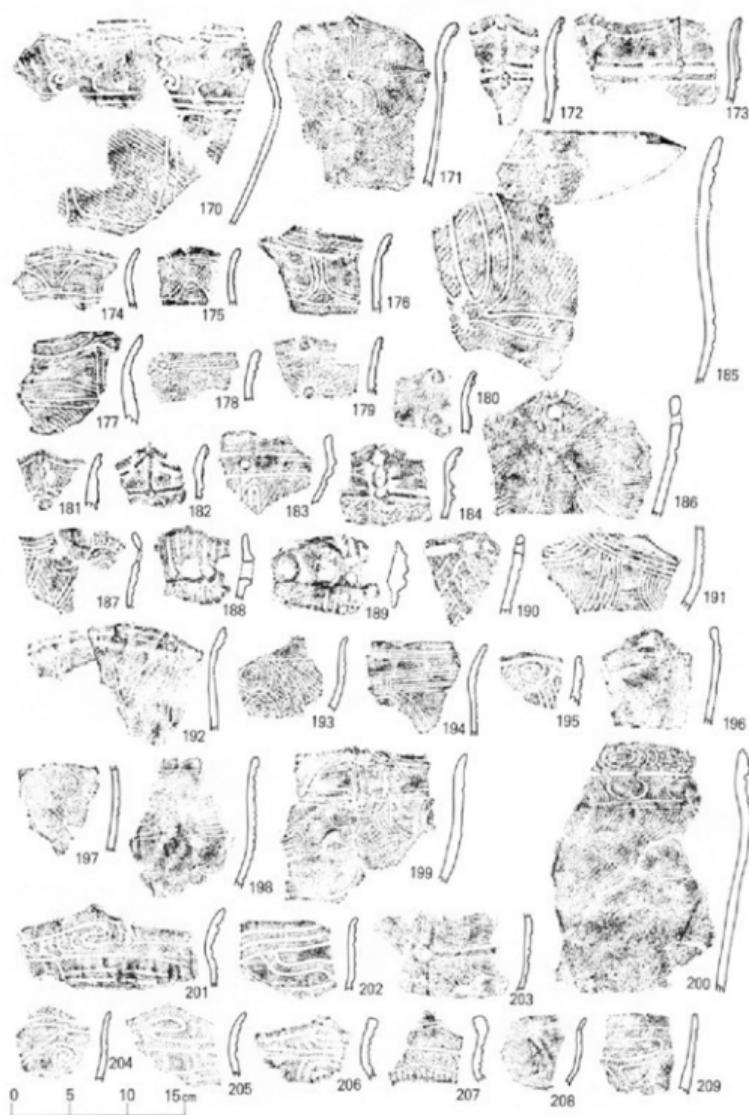
第145図 Ⅲ層出土土器



第146図 II層出土・II層出土土器



第147図 II層外出土土器



第148図 Ⅲ層出土土器



第149図 Ⅲ層出土土器、Ⅱ層・Ⅲ層出土土製品

3 石器

門前貝塚から出土した石器は、石鏃・尖頭器・石槍・石錐・石匙・不定形石器・石鍤・礫器・打製石斧・磨製石斧・磨石・凹石・敲石・石皿・石製円盤・石刀・石棒・石製品があり、出土総点数は6317点と膨大な量の出土をみた。(第60表) ここでは、紙面の都合上、すべての資料を掲載することはできないが、その概要についてのみ触れる。また、資料のすべては計測・石質鑑定等を行なってはいるが、ページ数の関係から割愛した。

第60表 出土石器一覧表

	遺構		I層等		II層		III層		合計	
	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)	点数	比率(%)
石 鏃	53	37.32	945	42.64	1091	48.02	765	45.32	2854	45.18
尖頭器	11	7.75	94	4.24	82	3.61	91	5.39	278	4.40
石 槍	0	0	1	0.05	0	0	0	0	1	0.12
石 錐	3	2.11	100	4.51	97	4.27	51	3.02	251	3.97
石 匙	1	0.70	11	0.50	18	0.79	8	0.47	38	0.60
不定形石器	44	30.99	963	43.01	815	35.87	646	38.27	2458	38.91
石 鍤	0	0	1	0.05	1	0.04	0	0	2	0.03
礫 器	6	4.23	10	0.45	19	0.84	17	1.01	52	0.82
打製石斧	0	0	1	0.05	5	0.22	3	0.18	9	0.14
磨製石斧	3	2.11	37	1.67	48	2.11	43	2.55	131	2.07
磨 石	6	4.23	15	0.68	15	0.66	9	0.53	45	0.71
凹 石	0	0	1	0.05	8	0.35	3	0.18	12	0.19
石 皿	2	1.41	3	0.14	9	0.40	3	0.18	17	0.27
石 盤	5	3.52	9	0.41	20	0.88	14	0.83	48	0.76
石製円盤	5	3.52	10	0.45	5	0.22	5	0.33	25	0.40
石 刀	0	0	1	0.05	1	0.04	0	0	2	0.03
石 棒	3	2.11	23	1.04	36	1.58	27	1.60	89	1.41
石 製品	0	0	1	0.05	2	0.09	2	0.12	5	0.08
計	142	100	2216	100.04	2272	99.99	1688	99.95	6,317	100.09

① 石鏃

总数2854点が出土した。出土石器の45.18%を占め、完存あるいはほぼ完存のものが1025点(出土石鏃の35.91%)である。出土層位は、遺構中のものが53点、I層中より945点、II層中より1091点、III層中より765点である。

ア、分類及び出土(第150図)

有茎鏃・無茎鏃・柳葉形の3つに大別し、有茎鏃・無茎鏃については、基部・身部・側縁形状等によりさらに細分を行ない、コンピューター入力の関係から2~4桁の数字によって特徴を表わすようにした。有茎鏃・無茎鏃の細分は以下の通りである。

有茎鐵（第154図1～48、写真図版34-1～97）

4桁の数字で分類している。千の位は基部の形状、百の位は身部、十の位は側縁、一の位は茎部の長さで、各単位における細分、及び細分された有茎鐵の各層ごとの出土は第150図・第61表に示した通りである。完存あるいは欠損品でも形状の想定できる石鐵422点は、63通りの類に細分され、このうち最も多く出土したものは、基部が凹基、身部は二等辺三角形、側縁は直線的、茎部は身部の長さより短く作り出されたもので（2221類）、出土点数は57点で全体の13.5%である。

第61表 有茎鐵分類表

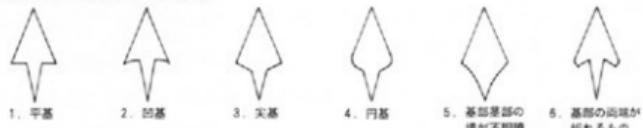
分類	出土層・点数	図版	分類		出土層・点数		図版	
			基部	側縁	身部	遺構	1層	2層
1 1 1 0	1 0 1 4 3 8	154-1-2, 154-2-3	3 1	1 3 0 2 1 0 3	1 0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	154-63	
1 1 1 3	3 0 0 1 3 4	154-3, 154-4	3 1	1 5 0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	154-34	
1 1 2 1	1 0 2 3 1 6	154-4-6	3 1	2 1 0 3 0 1 4	0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	154-35, 154-65	
1 1 2 3	0 0 1 0 1 1	154-5	3 1	3 1 0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	154-36-38, 154-71-73	
1 1 5 1	1 0 0 1 0 1	154-7, 154-6	3 1	5 1 0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	0 0 1 0 1	154-39-40	
1 2 1 1	1 1 1 1 6 10 43	154-8-11, 154-10-14	3 2	1 1 1 1 1 15 13	9 3 8	0 0 0 0 0 0 0	154-41-42, 154-78-79	
1 2 1 3	1 1 2 1 0 1 4	154-12, 154-15	3 2	1 3 0 2 4 2 4	0 0 2 4 2 8	0 0 0 0 0 0	154-43, 154-44	
1 2 2 1	1 0 1 0 1 5 3	154-13-15, 154-16-18	3 2	1 5 0 1 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-45-46, 154-84-85	
1 2 2 3	3 0 2 1 0 3 7	154-19	3 2	2 1 0 4 1 1 1	9 1 9	0 0 0 0 0 0 0	154-47-48	
1 2 2 4	4 0 0 1 0 1 1		3 2	2 2 0 3 0 0 3	0 0 0 0 0 3	0 0 0 0 0 3	154-49	
1 2 3 1	1 0 1 2 1 4 4	154-16	3 2	2 3 0 1 2 0 3	0 0 0 0 0 3	0 0 0 0 0 3	154-50	
1 2 4 5	5 0 0 1 0 1 1		3 2	2 4 0 0 1 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-51	
1 2 5 1	1 0 0 0 1 0 1		3 2	3 3 0 0 1 2 3	0 0 0 0 0 3	0 0 0 0 0 3	154-52	
2 1 1 1	1 0 4 8 5 17	154-17-19, 154-23-25	3 2	4 1 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-53	
2 1 1 3	3 0 3 0 5 8		4 1	1 1 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-54	
2 1 1 4	4 0 0 0 1 1		4 2	1 1 0 3 2 2 7	0 0 0 0 0 7	0 0 0 0 0 7	154-45-46, 154-88	
2 1 2 1	1 0 5 2 1 8	154-26	4 2	3 1 1 0 2 0 3	0 0 0 0 0 3	0 0 0 0 0 3	154-47	
2 1 2 4	4 0 1 0 0 1		4 2	4 1 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-48	
2 1 3 1	1 0 2 2 1 3	154-20, 154-27-28	4 2	5 1 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-49	
2 2 1 1	1 2 4 2 1 1 6	154-21-23, 154-29-40	5 1	1 1 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-50	
2 2 1 2	2 0 1 0 0 1		5 1	1 2 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-51	
2 2 1 3	3 1 3 2 0 6	154-24-25, 154-41	5 2	1 1 0 1 2 0 3	0 0 0 0 0 3	0 0 0 0 0 3	154-52-53	
2 2 2 1	1 0 2 3 2 1 5	154-26-28, 154-44-63	5 2	1 4 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-54	
2 2 2 2	2 0 0 0 1 1		5 2	2 1 0 2 0 0 2	0 0 0 0 0 2	0 0 0 0 0 2	154-55	
2 2 2 3	3 0 2 1 1 4	154-29, 154-54	5 2	2 2 0 1 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-56	
2 2 2 4	4 0 0 1 0 1	154-30, 154-55	5 2	2 3 0 1 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-57	
2 2 2 5	5 1 1 4 1 2 9	154-31-33, 154-56-60	5 2	4 1 0 1 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-58	
2 2 2 6	3 0 1 0 0 1		5 2	4 2 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-59	
2 2 3 4	4 0 0 0 1 1		6 2	2 1 0 0 2 1 3	0 0 0 0 0 3	0 0 0 0 0 3	154-60	
2 2 4 1	1 0 1 0 0 1		6 2	3 1 0 0 1 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-61	
3 1 1 1	0 1 1 2 4		6 2	3 1 0 0 1 0 1	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 0 1	154-62	
			計		9 132 177 104 422			

無茎鐵（第154図48～119、写真図版34-98～39-89）

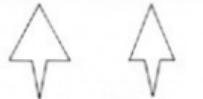
基部の形状により、平基・凹基・円基・尖基の4つに大別し、さらに平基・円基・尖基は2桁の数字により、凹基は3桁の数字によって分類している。平基・円基・尖基は十の位は身部の形状、一の位は側縁の形状、凹基は百の位は身部の形状、十の位は側縁の形状、一の位は抉りの深さを表わし、分類基準は第150図に、各類ごとの出土は、第62表から第65表によって表わした。最も多く出土したものは身部形状は二等辺三角形状、側縁は直線状、抉りは比較的強

有茎種分類図

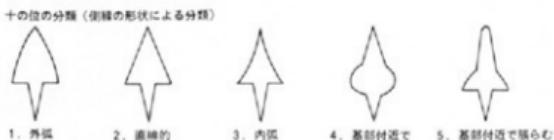
A. 千の位の分類（基部の形状による分類）



B. 百の位の分類（身部の形状による分類）



C. 十の位の分類（側縁の形状による分類）



D. 一の位の分類（基部の長さによる分類）

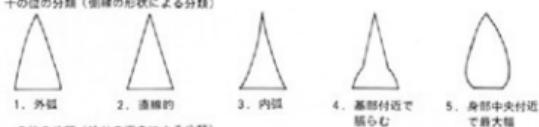


無茎種分類図

A. 百の位の分類（身部の形状による分類）



B. 十の位の分類（側縁の形状による分類）



C. 一の位の分類（挟りの深さによる分類）



第150図 石燃分類図

いもので(凹基盤222類)、210点の出土があり石鏡全体の7.3%、凹基盤の15.8%を占めている。

第62表 凹基盤分類表

分類				出土量・点数				図版			
身形	側鏡	基部	連鎖	I層	II層	III層	計				
1	1	2	1	2	1	1	5	4	7	写35-63~65、写35-80~94	
1	1	2	1	1	4	1	1	4	4	写35-66~68、写35-95~111	
1	1	3	0	0	1	1	2				
1	1	4	0	1	0	0	1				
1	2	2	1	5	1	2	9	2	7	写35-69~70、写35-112~123	
1	2	2	0	5	6	4	1	5		写35-71~72、写35-124~128	
1	2	3	0	0	1	0	1			写35-73、写35-129	
1	2	4	0	0	0	1	1				
1	3	1	0	1	3	2	6			写35-132	
1	3	2	0	1	1	0	2			写35-133	
1	3	4	0	1	0	0	1				
1	4	1	0	1	3	1	5			写35-135	
1	4	2	0	8	6	4	1	8		写35-74~75、写35-136~135	
1	4	3	0	1	0	0	1				
1	4	4	0	1	0	0	1				
1	5	1	0	0	1	0	1			写35-6	
1	5	2	0	1	0	0	1				
2	1	1	3	5	0	6	3	9	152	写35-76~78、写35-27~80	
2	1	2	2	4	9	7	2	5	173	写35-79~82、写35-81~144	
2	1	3	0	0	5	3	8			写35-83~84、写35-145~148	
2	1	4	0	3	1	2	6			写35-149	
2	2	1	0	3	6	4	0	10		写35-85~87、写37-4~40	
2	2	2	5	7	9	7	1	5	210	写35-88~91、写37-41~107	
2	2	3	0	7	9	3	1	9		写35-92、写37-108~114	
2	2	4	1	6	1	2	1	0		写37-115	
2	3	1	2	2	2	2	7	1	3	6	4
2	3	2	2	2	7	3	5	2	8	写35-93~94、写37-119~18~16	
2	3	3	0	0	3	2	5			写35-95~97、写38-17~47	
2	3	4	0	5	8	5	1	8		写35-98、写38-51~55	
2	4	1	0	2	5	2	7	4	7	写35-99、写38-58~81	
2	4	2	8	6	3	6	2	6	189	写35-100~103、写38-82~89~12	
2	4	3	0	0	5	1	6			写39-13~16	
2	4	4	0	1	0	0	1				
2	5	1	0	1	3	2	6			写35-104、写39-17~19	
2	5	2	0	0	4	4	8			写39-20~23	
3	1	1	0	1	0	1	1				
				427	503	364	1321				

その他の石鏡

上記以外の石鏡として、アメリカン石鏡2点(写真図版39-90)、基部に挟りを持つが基部の一方のみを長く作りだし左右不対称のもの3点(写真図版39-91)、柳葉型のもの9点(第154図120~123、写真図版39-94~96)が出土している。

イ、大きさと重さ

有基鏡・凹基鏡・平基鏡・円基鏡・尖基鏡の各タイプのなかで、比較的出土量の多いタイプの石鏡の長さと幅・重さの関係を示したのが第151図である。長さと幅では、有基鏡は長さ1.5~2.5cm・幅1~1.5cmに、凹基鏡は長さ1.5~2cm・幅1~1.5cm、平基鏡・円基鏡・尖基鏡は長

第63表 平基鏡分類表

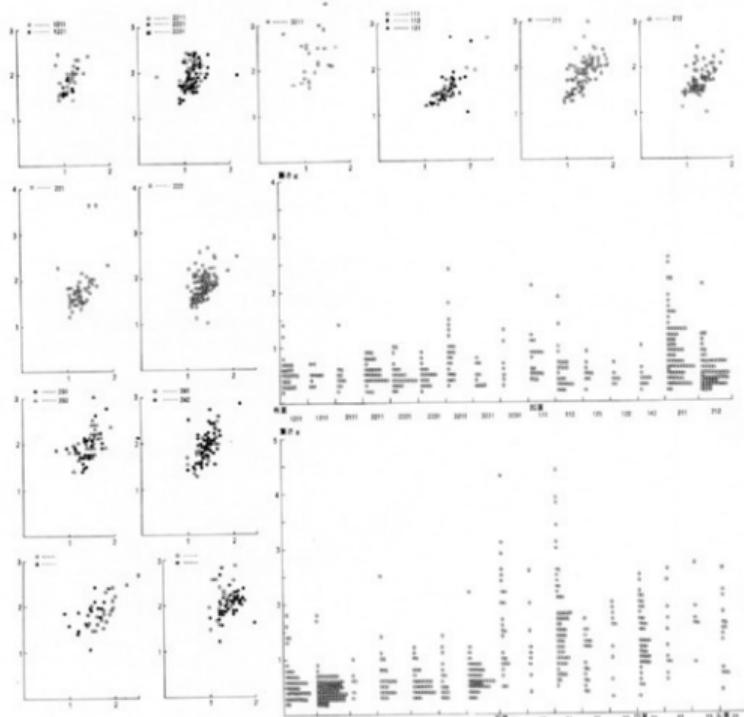
分類		出土量・点数				図版	
身形	側鏡	I層	II層	III層	計		
1	1	1	5	2	0	1	1
1	2	6	3	6	1	5	写34-49~51、写34-109~127
1	3	0	0	1	1		写34-52~53、写34-129~130
1	4	0	1	1	2		
2	1	3	3	4	2	109	写34-55~57、写35-2~29
2	2	1	4	1	6	4	写34-58~60、写35-31~44
2	3	2	6	8	1	6	写34-61~62、写35-46~51
2	4	5	3	2	1	10	写35-52~55
3	1	1	0	0	1		
		計	7	6	8	4	242

第64表 円基鏡分類表

分類		出土量・点数				図版	
身形	側鏡	I層	II層	III層	計		
1	0	7	3	3	13	写34-105~106、写3925~30	
1	2	0	5	2	0	7	写34-107、写38-31
1	4	0	1	1	2		写34-108、写38-32
2	1	0	23	24	22	79	写34-109~111、写39-39~40~43~60
2	2	0	4	4	6	14	写34-112~114、写39-63~68
2	3	0	4	5	4	13	写39-69~70
2	4	1	1	4	3	9	写39-71~72
		1	45	43	38	37	

第65表 尖基鏡分類表

分類		出土量・点数				図版	
身形	側鏡	I層	II層	III層	計		
1	1	0	2	5	3	10	写39-75~76
1	2	0	0	1	0	1	写34-115
1	3	0	0	0	1	1	
2	1	1	3	1	8	25	写34-116~118、写39-77~87
2	2	0	1	2	1	4	写34-119、写39-88~89
2	3	0	1	0	2	3	
2	4	0	0	1	0	1	
		1	7	2	15	45	



第151図 石鐵分類別長さ・幅・重さ相関図

さ1.5~2.5cm・幅1~2cmに集中している。重さは、有茎鐵・凹基鐵が0.5g、平基鐵・円基鐵・尖基鐵は1.5g前後に集中している。

ウ、石材

出土した石鐵の石材は、チャート・チャート質粘板岩・チャート質凝灰岩・赤色凝灰質チャート・赤色凝灰岩・泥質凝灰岩・粘板岩・凝灰質粘板岩・泥質細粒凝灰岩・硬質泥岩・細粒凝灰岩・流紋岩・流紋岩質細粒凝灰岩・玻璃質流紋岩の14種があり、各石材ごとの出土点数は第66

表に示した。このうち赤色凝灰岩が678点(全体の23.76%)、チャート580点(20.32%)、チャート質凝灰岩491点(17.20%)で、全体の61.28%を占めている。産地は、気仙地区一帯の古生層を産地とするもので占められ、特に本市の矢作町・横田町よりのものが1850点、全体の64.83%である。

エ、タール状付着物の見られる石鎚

石鎚にタール状の付着物が見られるものは9点あり、全体の0.32%と非常に少ない値を占めしている。付着物はアスファルトと考えられるが分析は行なっていない。

第66表 石質分類表

石 質	点 数	比 率
チャート質粘板岩	236	8.27
チャート	580	20.32
チャート質凝灰岩	491	17.20
赤色凝灰岩チャート	46	1.61
赤色凝灰岩	678	23.76
泥質凝灰岩	128	4.48
粘板岩	268	9.39
凝灰質粘板岩	216	7.57
泥質細粒凝灰岩	89	3.12
硬質泥岩	16	0.56
細粒凝灰岩	14	0.49
流紋岩	15	0.53
流紋岩質粗粒凝灰岩	51	1.79
玻璃質流紋岩	14	0.49
不明	12	0.42
計	2854	100%

② 尖頭器 (第154図-124~146、写真図版39-101~40-50)

総数267点が出土した。出土石器の4.32%を占め、出土は、遺構出土のものが11点、I層出土が94点、II層が82点、III層が91点である。

第67表 尖頭器分類表

基部	身部	側縁	底構	出土層・点数				図 版
				層	層	層	計	
1	1	1	1	8	3	5	17	図154-124~125、写真39-100~101
1	1	2	0	3	0	2	5	図154-126~127
1	2	1	2	19	17	26	64	図154-128~131、写真39-104~105
1	2	2	0	5	2	2	9	図154-132、写真40-6
1	2	3	0	1	1	0	2	図154-133~134、写真40-7
1	2	4	0	1	1	0	2	写真40-8
2	1	1	0	0	1	0	1	写真40-9
2	2	2	0	0	0	1	1	
2	2	3	0	0	0	1	1	
3	1	1	0	8	13	5	26	写真40-11~21
3	1	2	0	1	0	1	2	図154-135
3	2	1	5	22	29	18	74	図154-136~140、写真40-22~44
3	2	2	0	4	1	4	9	図154-141~143、写真40-45
3	2	3	0	1	0	1	2	
4	1	1	1	3	0	0	4	図154-144
4	2	1	1	3	4	3	11	図154-145、写真40-47~50
4	2	2	0	1	0	2	3	図154-146
計				10	80	72	71	233

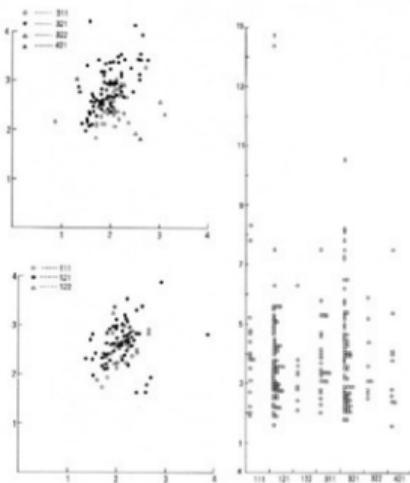
ア、分類及び出土 (第67表)

3桁の数字によって分類している。百の位は基部の形状で、1が平基、2は凹基、3が円基、4が尖基である。十の位・一の位は、それぞれ身部形状・側縁形状を表わしているが、細分については石鎚

の円基鎚・平基鎚と同様である。完存品は233点あり17通りの類に細分される。第67表は各類の層ごとの出土を表わしたものであるが、多く出土しているものは、基部が平基・身部が二等辺三角形状・側縁が外弧のもの(121類)が64点、基部が円基・身部が二等辺三角形状・側縁が外弧のもの(321類)が74点あり、分類可能尖頭器の59%を占めている。

イ、大きさ (第152図)

完存品の長さと幅・重さの関係を表わしたのが第152図である。長さは2~3.5cm、幅1.5~



第152図 尖頭器分類別長さ・幅・重さ相関図

2.5cmに、重さは2~5gに集中している。

ウ、石質（第68表）

出土した尖頭器の石材は、チャート・チャート質粘板岩・チャート質凝灰岩・赤色凝灰質チャート・粘板岩質チャート・赤色凝灰岩・泥質凝灰岩・粘板岩・凝灰質粘板岩・泥質細粒凝灰岩・硬質泥岩・凝灰岩・流紋岩質細粒凝灰岩・玻璃質流紋岩の14種がある。このうちチャート・チャート質凝灰岩・赤色凝灰岩・粘板岩・凝灰質粘板岩が多く出土しており、全体の83.45%を占めている。産地は気仙地区一帯の古生層のものである。

③ 石錐（第154図-147~159、写真図版40-51~41-13）

総数251点が出土した。出土石器の3.97%を占めている。出土は、遺構中より3点、I層中より90点、II層86点、III層43点である。

第69表石錐分類表

分類	出土箇・点数				図版	
	遺構	I層	II層	III層		
1類	1	2	1	3	6	図64-147~150、図40-51~59-83~87
2類	2	2	2	1	4	図154-151~153、図40-60~82
3類	0	4	7	4	2	図154-154~159、図40-88~92-94-13
計	3	9	6	4	22	

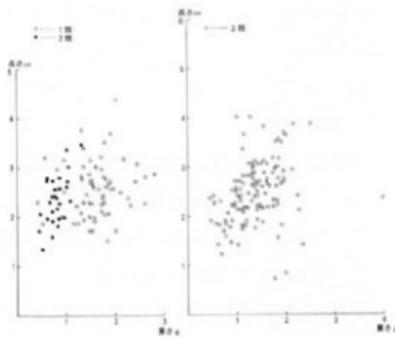
ア、分類及び出土

頭部と身部に区別されるもの（1類）、柳葉状を呈し頭部と身部の区別が無いもの（2

類) 頭部と身部からなるが区別が不明瞭なもの(3類)に分類している。1類は61点、2類は44点、3類は117点出土している。

イ、大きさ(第153図)

長さと幅の関係を示したのが第153図である。1類は長さ1.5~3cm・幅1~2cm、2類が長さ1.5~3cm・幅0.5~1cm、3類が長さ1.5~3cm・幅0.5~2cmに集中している。



第153図 石錐分類別長さ・幅相關図

第70表 石錐石質分類表

石質	点数	比率
チャート質粘板岩	21	1. 69
チャート	23	15. 54
チャート質凝灰岩	63	8. 37
粘板岩質チャート	1	25. 10
赤色粘板岩	21	16. 33
粘板岩	3	9. 16
粘板岩	39	8. 37
凝灰岩粘板岩	41	6. 37
粘板岩粘凝灰岩	7	0. 80
硬質泥岩	4	2. 79
流紋岩質粘板岩	16	2. 79
細粒凝灰岩	2	0. 40
玻璃質流紋岩	7	1. 20
不明	4	1. 59
計	251	100. 4

ウ、石質

出土した石錐の石材は、チャート・チャート質粘板岩・チャート質凝灰岩・粘板岩質チャート・赤色凝灰岩・泥質凝灰岩・粘板岩・凝灰岩粘板岩・泥質細粒凝灰岩・硬質泥岩・流紋岩質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩・玻璃質流紋岩の13種がある。このうちチャート質凝灰岩・粘板岩・凝灰岩質粘板岩が多く出土しており、全体の56. 97%を占めている。産地は気仙地区一帯の古生層のものである。

7 石匙(第154図-160~155図-168、写真図版41-14~24)

出土した石匙は38点で、全体の0. 6%と非常に少ない値を示している。出土は、遺構中より1点、I層中より11点、II層中より18点、III層中より8点である。

分類は3桁の数字によって分類している。百の位が形態による分類で、1が横型、2が縦型、十の位は刃の形状による分類で、1が片刃、2が両刃、3が片刃・両刃のものをもつもの、一の位は刃の数

第71表 石匙分類表

形態	刃型	刃数	出土層・点数			図版
			遺構	I層	II層	
1	1	1	0	1	1	3
1	1	3	0	0	1	1
1	2	2	0	0	1	0
1	2	3	0	1	1	0
1	3	3	0	0	1	0
2	1	1	0	0	1	2
2	1	2	1	3	6	2
2	1	3	0	0	1	0
2	2	2	0	2	3	0
2	2	3	0	0	1	0
2	3	2	0	1	1	1
計		1	8	18	6	34

で、1が一様刃に刃部を持つもの、2が二刃、3が三刃に刃を持つもので、12通りに細分され

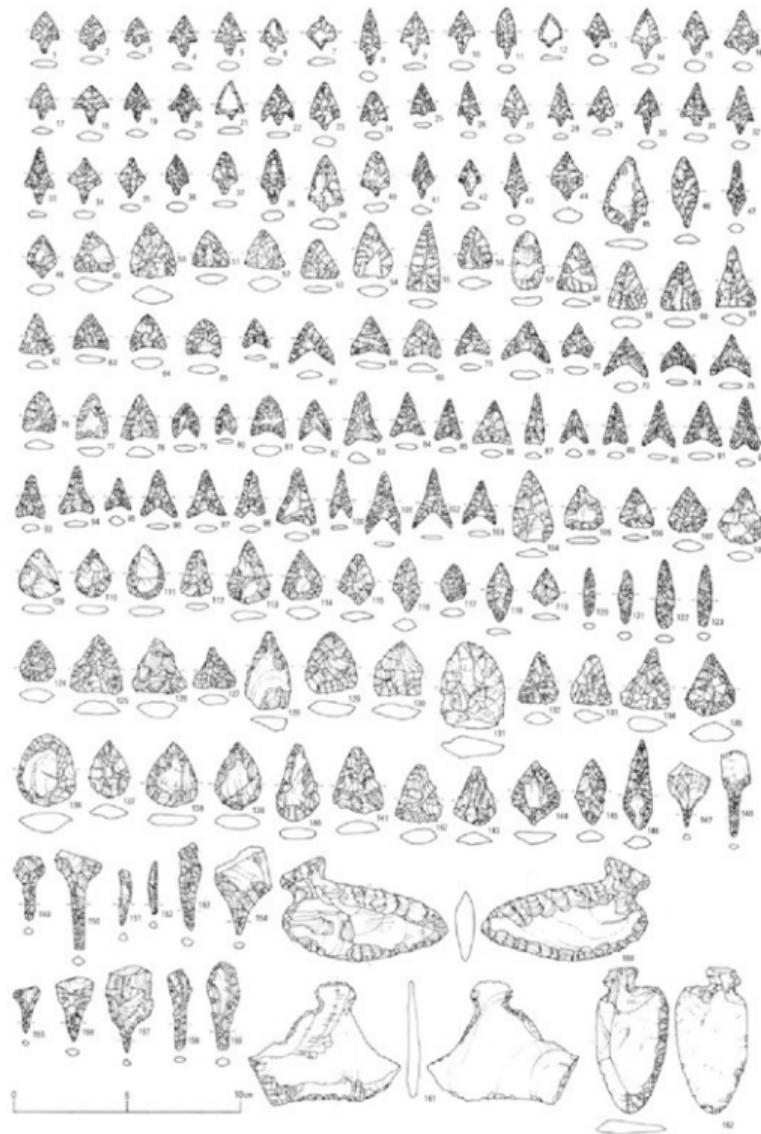
る。最も多く出土したものは、縦型のもので、二辺に刃部を持ち、刃部が片刃のもので12点出土している。

8 不定形石器

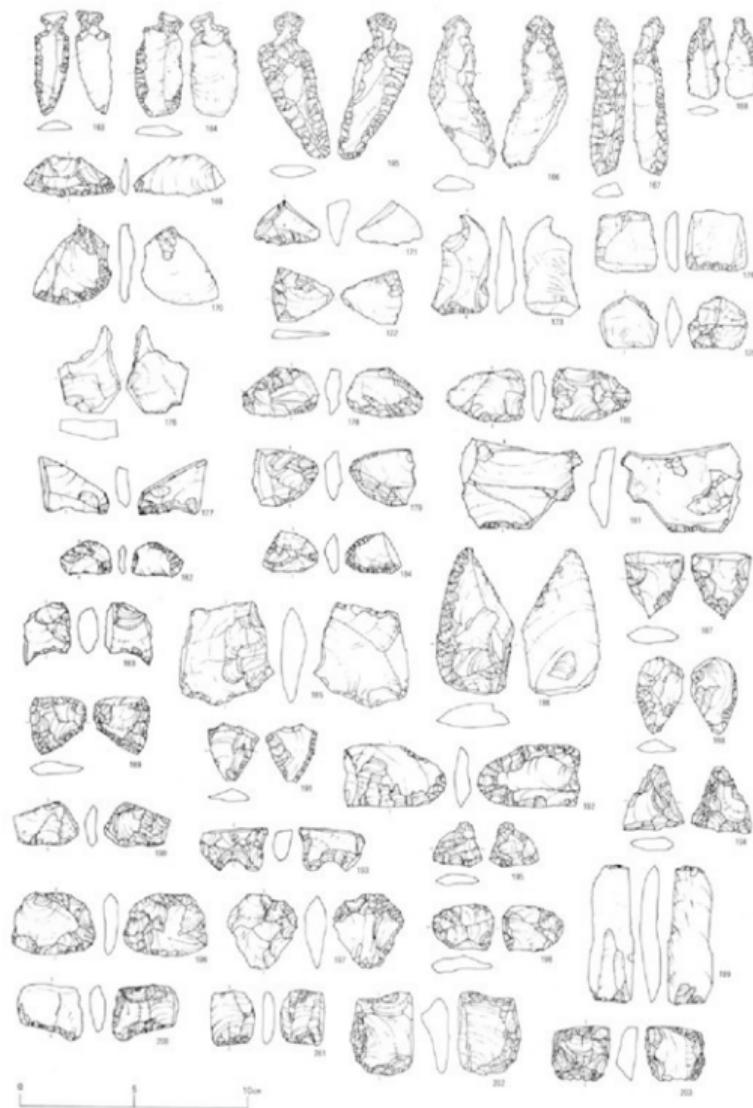
2458点出土している。刃部の数、形状により7つに分類している。

- 1類 一邊に刃部を有するもの。1414点出土している。片刃のもの（第155図169～177、写真図版41-25～42-39）が865点と、両刃のもの（第155図178～183、写真図版42-40～43-8）が549点出土している。
- 2類 二辺に刃部を有するもの。635点出土している。二辺とも片刃のもの（第155図179～186、写真図版43-9～67）が243点、両刃のもの（第155図187～190、写真図版43-68～44-10）が248点、一邊が片刃で他の一邊が両刃のもの（第155図191～193、写真図版44-11～57）が144点出土している。
- 3類 三辺に刃部を有するもの。98点出土している。三辺とも片刃のもの（写真図版44-58～64）が31点、三辺とも両刃のもの（第155図195～196、写真図版44-65～77）が34点、二辺が片刃で他の一邊が両刃のもの（第155図197・198、写真図版44-78～87）が19点、二辺が両刃で他の一邊が片刃のもの（写真図版44-88～94）が14点出土している。
- 4類 全周に刃部を有するもの。33点出土している。刃が片刃のもの（写真図版44-95）が5点、両刃のもの（写真図版44-96～108）が28点出土している。
- 5類 一邊に打撃痕を有し、対となる辺に刃部あるいはマイクロフレーリングを有するもの。30点出土している。刃部を有するもの（第155図199、写真図版44-109～112）が18点、マイクロフレーリングを有するもの（写真図版44-113～118）が12点出土している。
- 6類 両極削離によるもの。74点出土している。一对の刃部を有し截断面をもつもの（写真図版44-119～125）が30点、一对の刃部を有し截断面をもたないもの（第155図200～202、写真図版44-126～45-3）が32点、二対の刃部を有し截断面をもたないもの（第155図203、写真図版45-6～9）が4点出土している。
- 7類 マイクロフレーリングを有するもの。127点出土した。（写真図版45-10～36）

このほか、門前貝塚からは石槍1点・石鎌2点・打製石斧9点（写真図版45-46・47）・磨製石斧131点（写真図版45-42～45、75～46-22）・磨石45点（写真図版46-23・24）・凹石12点（写真図版47-11）・敲石17点（写真図版46-31）・石皿48点（写真図版46-25・26・29・30・32）・石製円盤25点・石刀2点・石棒89点（写真図版46-27・28・47-1～10）・石製品5点が出土しているが、紙面の都合上割愛した。



第154図 出土石器



第155図 出土石器

VI まとめ

- 1 検出された遺構はフラスコ型ピット62基、皿型ピット9基、ビーカー型ピット5基、溝5条、柱穴状ピット168基、配石遺構1群、埋甕遺構1基である。時期的には縄文時代中期から後期にかけてのものと推定されるが、時期が確定された遺構は少ない。
- 2 フラスコ型ピットは、底面における小穴の有無によって、小穴を有するもの（A類）と、小穴の無いもの（B類）の二つに大別される。Aは22基、Bは40基検出されている。小穴を有するものは、さらに底面の中央部に小穴を一基有するもの（a）と、壁寄りに一基から三基の小穴を有するもの（b）、底面中央部と壁寄りに一基の小穴を有するもの（c）、底面中央部に小穴と十字状の溝を有するもの（d）の四つに分類が可能である。aは14基、bは5基、cは1基、dは1基検出している。A類は海拔10mと15m周辺に列状に配置されていた。
- 3 フラスコ型ピットは墓壙としても利用されており、G13-4ピットより子供の頭骨のみが、F14-1ピットよりうつ伏せ状態の成人男性が、H14-3ピットより成人2体などが検出されている。
- 3 柱穴状ピットはⅢ層上面の標高9mの地点で検出した。発掘区を横切るように168基分布している。埋土は、Ⅱ層に類似した土で、Ⅱ層中からの掘り込みと思われる。フラスコ状のピットなどの大型のピット群と配石群とを区画するための、何らかの施設があったものと思われるが、柱穴状ピット相互の関係は不明である。
- 4 配石遺構は、幅27m・長さ30mの範囲に、2tトラック4台分にもおよぶ花崗岩質の円礫や梢円礫を帶状に集中させたものである。この帶状の礫の広がりには、特に、幅10m・長さ30mの範囲に礫を集中させた箇所もみられる。また、中には、斜面に平坦や溝を作出し、その上に径1m以上の大型礫を据えたものや、部分的に礫を集積させたもの、列状に礫を配置したもの、弓矢状を呈するものなど、多種類の配石で構成されている。
- 5 弓矢状の配石は、幅約60cm・深さ約24cmの溝の中に、花崗岩質の円礫・梢円礫や、碎石を埋め込み、弓矢状に配置したものである。弓の部分の右半分と弦に相当する部分は円礫・梢円礫で、弓の左半分に相当する部分は碎石で、矢に相当する部分は先端部が碎石、柄

に相当する部分は円礫・梢円礫と碎石の混合と、意図的に種類の異なる礫を各部位に配置して、弓矢状の形状を作り出し、特殊な形状を示すものである。

- 6 大型礫は、Ⅲ層上面において 7 個検出している。いずれも花崗岩質で、径 1 m 近い大型のものである。うち、1 個は斜面に平坦面を設け据えたもので、1 個は溝の上に据えており、他のものは土壤上に据えたものである。
- 7 焼土遺構は 1 基検出した。地床炉と思われるが、炉に伴う施設は検出できなかった。
- 8 発見された遺物は、土器・土製品・石器・骨角器・動物遺存体・植物遺存体がある。
- 9 土器は、中型コンテナ 100 箱程出土している。時期的には大木 10 式から加曾利 B 2 式並行にかけてのもので、量的には十腰内 I 式や大湯式に近似するものが多く出土している。
- 10 出土した土製品は、土偶・土版・皿状土製品・鐸形土製品・耳飾り・腕輪・土製円盤がある。
- 11 出土した石器は 6317 点ある。石器の器種ごとの点数は、石鎚 2854 点・尖頭器 278 点・石槍 1 点・石錐 251 点・石匙 38 点・不定形石器 2458 点・石鍤 2 点・礫器 52 点・打製石斧 9 点・磨製石斧 131 点・磨石 45 点・凹石 12 点・敲石 17 点・石皿 48 点・石製円盤 25 点・石刀 2 点・石棒 89 点・石製品 5 点である。石鎚・不定形石器が多く、石匙が少ないのが特徴である。
- 12 骨角器は、釣針 8 点・骨箆 22 点・角棒 3 点・骨針 10 点・装身具 4 点・器種不明品 6 点が出土した。



門前貝塚遺跡全景（西より）



調査区遠景（89年90年調査分南より）

写真図版 1



1. 調査前（89年度、90年度調査分西より）



2. 調査前（91年調査分南より）



3. 調査前（91年度調査分北より）



4. 調査風景



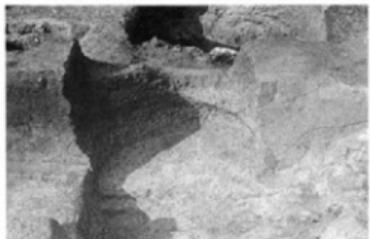
5. 調査風景

写真図版 2

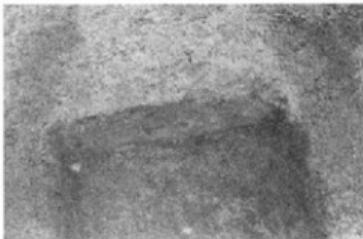


遺構検出状況

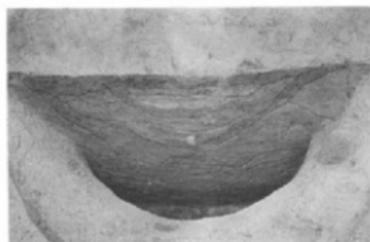
写真図版 3



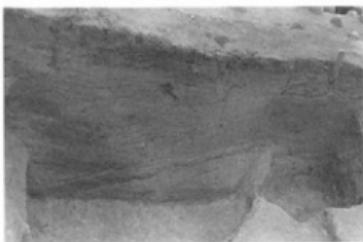
1. D 8-11ピット完掘



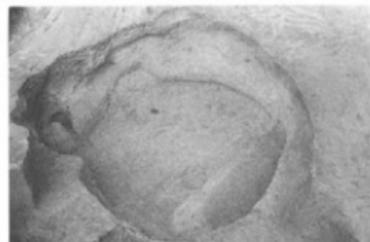
2. H 8-14ピット半掘



3. C 9-1ピット完掘



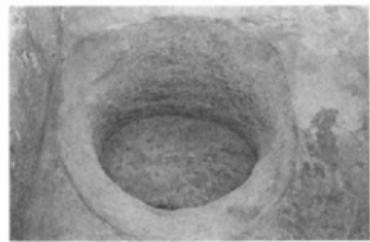
4. F 9-1ピット・F 9-2ピット切り合い



5. F 9-1ピット完掘



6. H 9-1ピット半掘



7. H 9-1ピット完掘



8. A 10-1ピット半掘

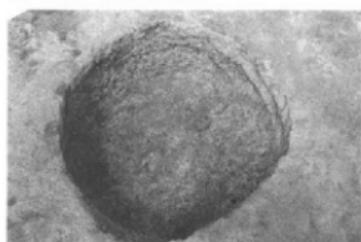
写真図版 4



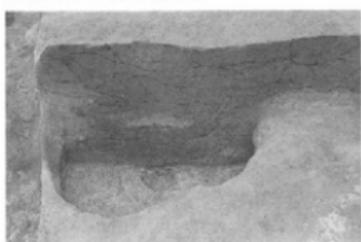
1. B10-1 ピット半掘



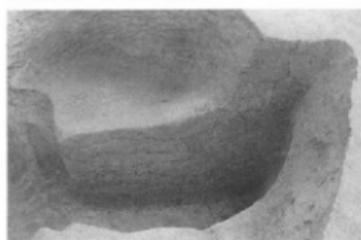
2. B10-1 ピット完掘



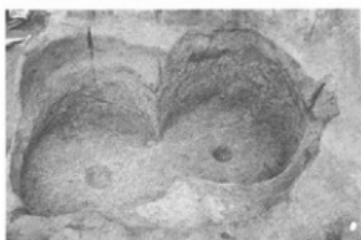
3. C10-1 ピット完掘



4. D10-1, D10-4 ピット半掘



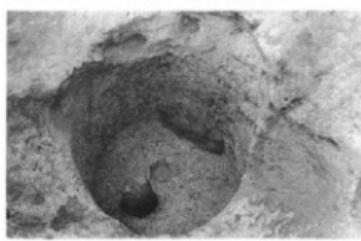
5. D10-2, D10-4 ピット半掘



6. D10-1～D10-4 ピット完掘

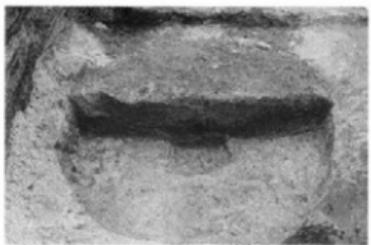


7. B11-1 ピット半掘

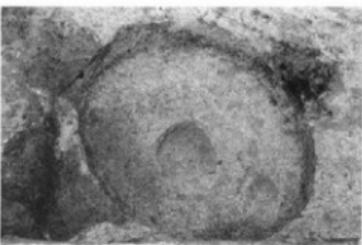


8. C11-1 ピット完掘

写真図版 5



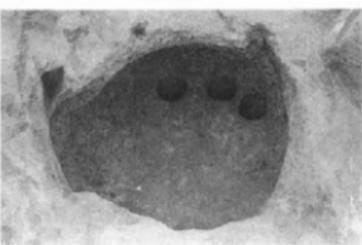
1. C11-2 ピット半掘



2. C11-2 ピット完掘



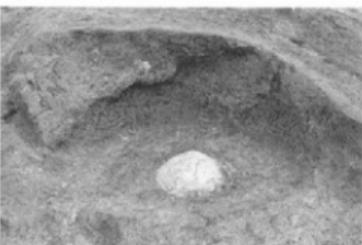
3. D11-1 ピット半掘



4. D11-1 ピット完掘



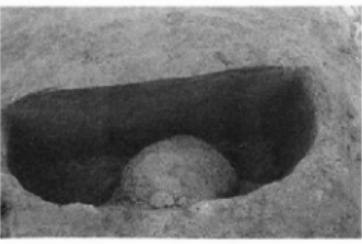
5. E11-2 ピット半掘



6. E11-2. E11-4 ピット完掘

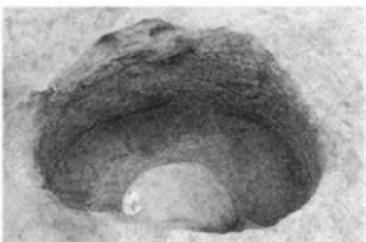


7. E11-3 ピット完掘



8. G11-1 ピット半掘

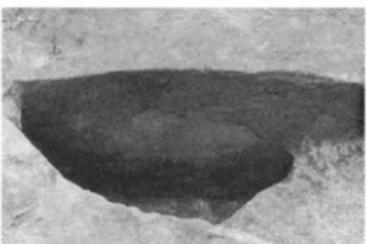
写真図版 6



1. G11-1 ピット完掘



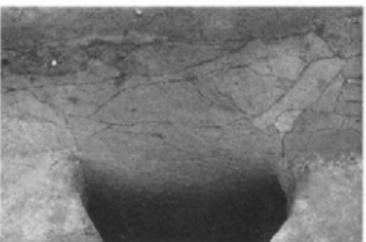
2. B12-1 ピット半掘



3. B12-2 ピット半掘



4. B12-2 ピット完掘



5. C12-1 ピット半掘

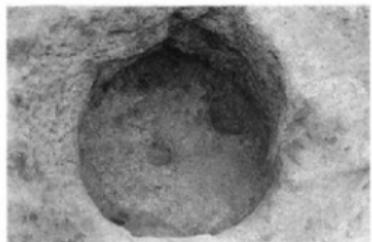


6. C12-1 ピット完掘



7. C12-2 ピット完掘

写真図版 7



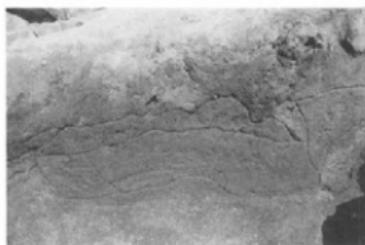
1. C12-3 ピット完掘



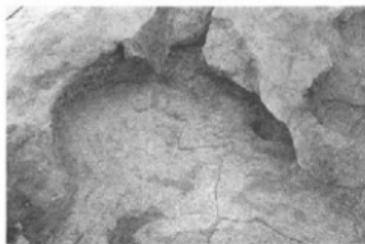
2. C12-4 ピット半掘



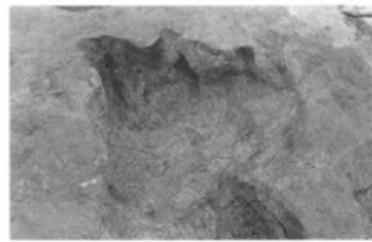
3. C12-4 ピット完掘



4. F12-1 ピット半掘



5. F12-1 ピット完掘

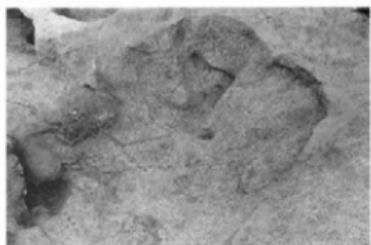


6. F12-2 ピット完掘



7. G12-1 ピット半掘

写真図版 8



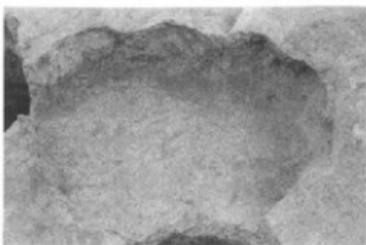
1. G12-1 ピット完掘



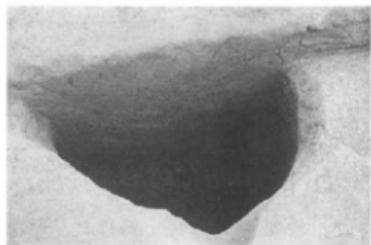
2. B13-1 ピット半掘



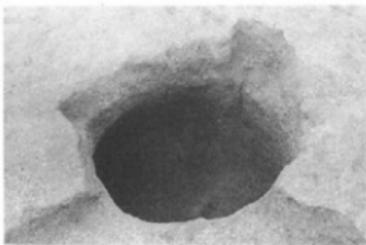
3. C13-1 ピット半掘



4. C13-1 ピット完掘



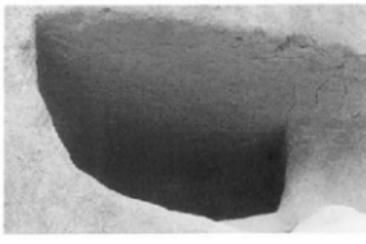
5. C13-2 ピット半掘



6. C13-2 ピット完掘



7. D13-1 ピット完掘



8. D13-2 ピット半掘

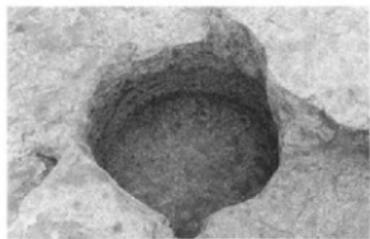
写真図版 9



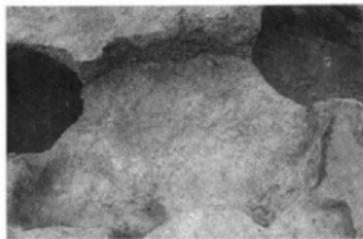
1. D 13-2 ピット完掘



2. E 13-1 ピット半掘



3. E 13-1 ピット完掘



4. E 13-2 ピット完掘



5. F 13-1 ピット半掘



6. F 13-1 ピット完掘



7. F 13-2 ピット半掘



8. E 13-2. F 13-2 ピット切り合い

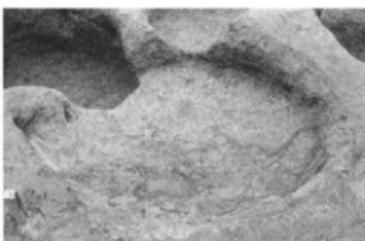
写真図版10



1. F13-2 ピット完掘



2. F13-3 ピット半掘



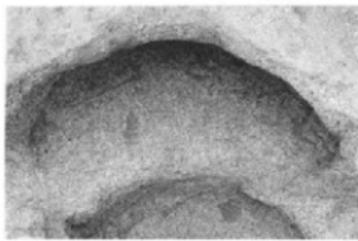
3. F13-3 ピット完掘



4. F13-4 ピット半掘



5. F13-4 ピット完掘

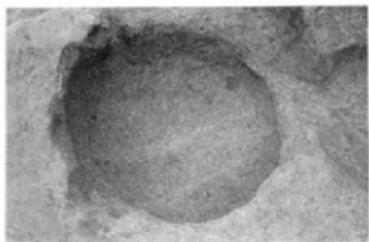


6. G13-1 ピット完掘

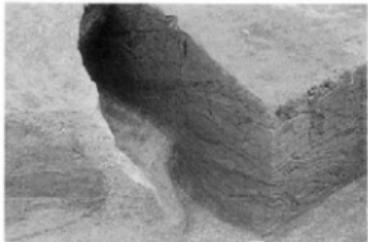


7. G13-2 ピット半掘

写真図版11



1. G13-2 ピット完掘



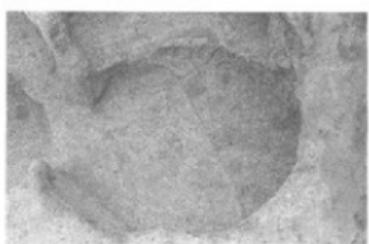
2. G13-3. G13-4 ピット切り合い



3. G13-3 ピット完掘



4. G13-2. G13-4 ピット切り合い



5. G13-4 ピット完掘



6. G13-4 ピット人骨



7. C14-1 ピット半掘

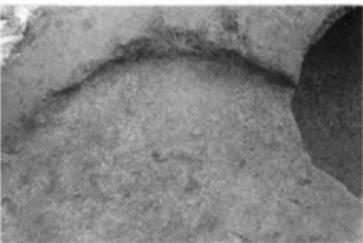


8. C14-1 ピット完掘

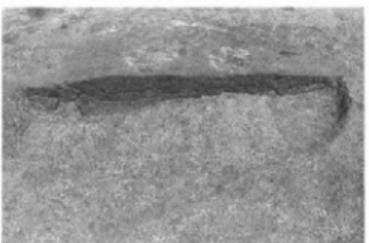
写真図版12



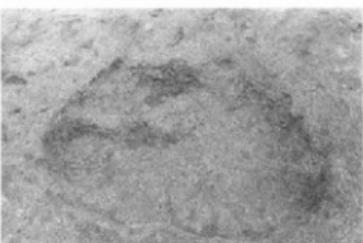
1. D14-1 ピット半掘



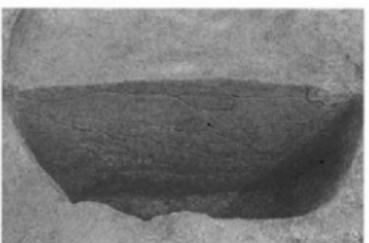
2. D14-1 ピット完掘



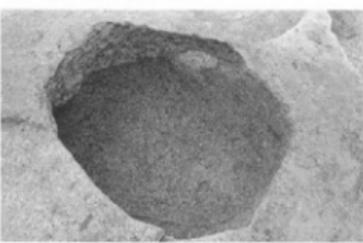
3. D14-2 ピット半掘



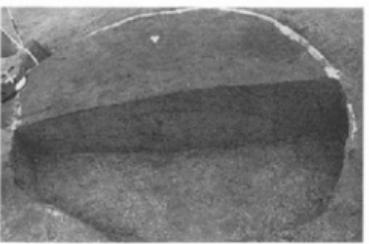
4. D14-2 ピット完掘



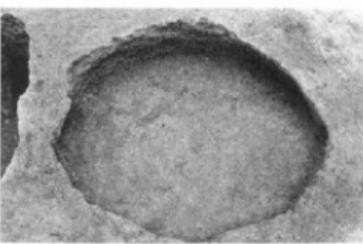
5. E14-1 ピット半掘



6. E14-1 ピット完掘



7. E14-2 ピット半掘

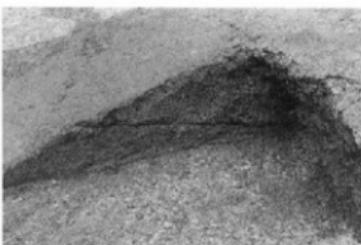


8. E14-2 ピット完掘

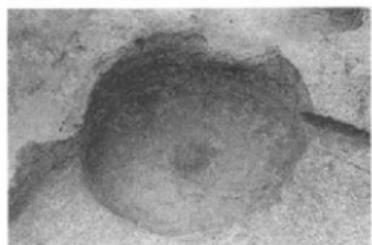
写真図版13



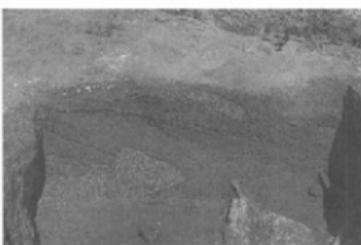
1. F14-1 ピット半掘



2. F14-4 ピット半掘



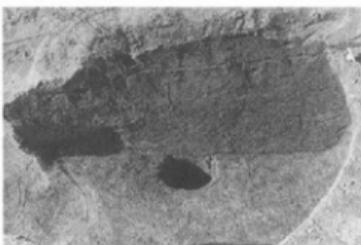
3. F14-1, F14-4 ピット完掘



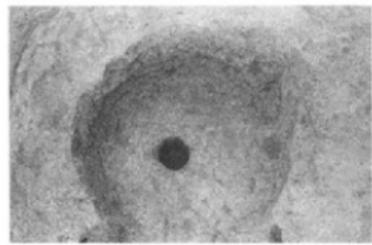
4. F14-2 ピット半掘



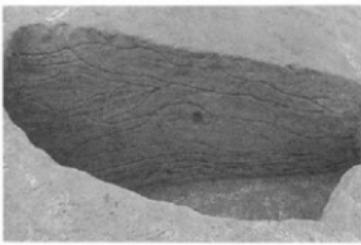
5. F14-2 ピット完掘



6. F14-3 ピット半掘

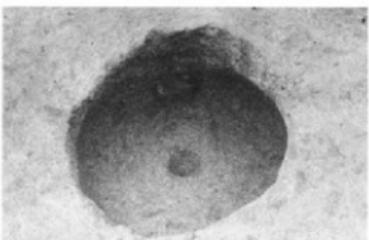


7. F14-3 ピット完掘

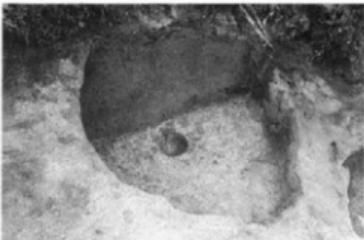


8. F14-5 ピット半掘

写真図版14



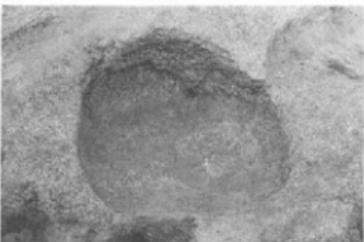
1. F14-5 ピット完掘



2. G14-1 ピット半掘



3. G14-2 ピット半掘



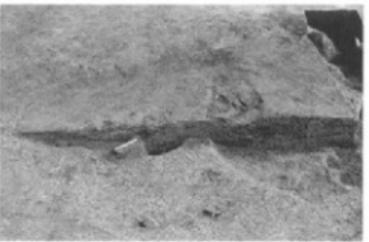
4. G14-2 ピット完掘



5. G14-3 ピット半掘



6. G14-3 ピット完掘

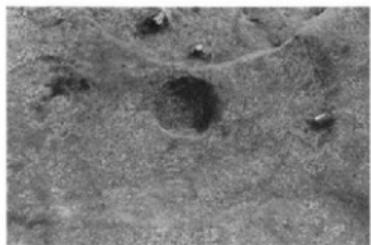


7. H14-1, H14-2 ピット半掘



8. H14-2 ピット半掘

写真図版15



1. H14-1, H14-2 ピット完掘



2. H14-3 ピット半掘



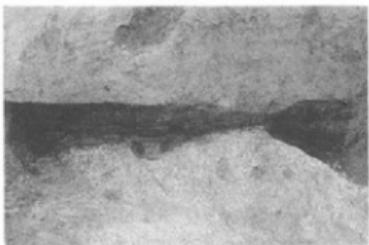
3. H14-3 ピット №7 №9 人骨



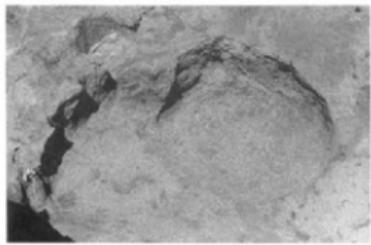
4. H14-4 ピット半掘



5. H14-4 ピット半掘



6. H14-4, H14-5 ピット半掘



7. H14-4, H14-5 ピット完掘

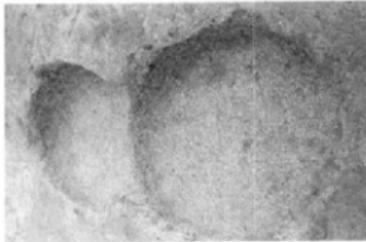


8. №12 人骨

写真図版16



1. D15-1. D15-2 ピット半掘



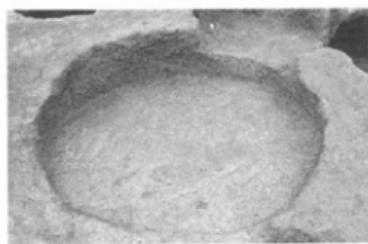
2. D15-1. D15-2 ピット完掘



3. E15-1 ピット半掘



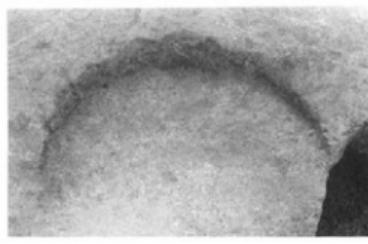
4. E15-1. E15-4 ピット半掘



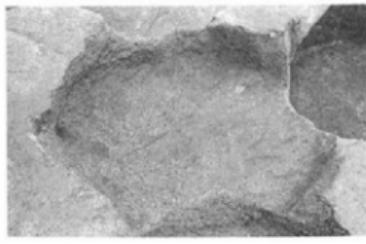
5. E15-1 ピット完掘



6. E15-2 ピット半掘



7. E15-2 ピット完掘



8. E15-3 ピット完掘

写真図版17



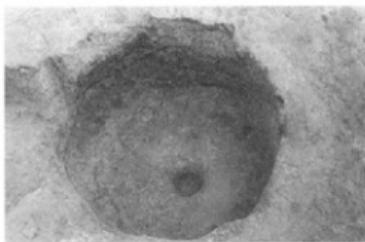
1. F 15-1 ピット半掘



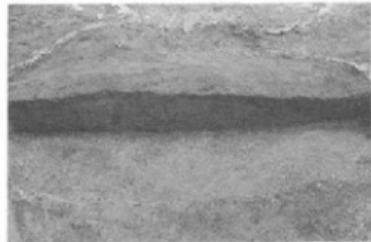
2. F 15-1 ピット完掘



3. F 15-2 ピット半掘



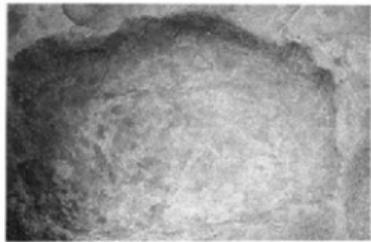
4. F 15-2 ピット完掘



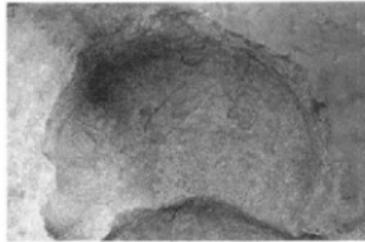
5. C 16-1 ピット半掘



6. C 16-1, D 16-1 ピット半掘

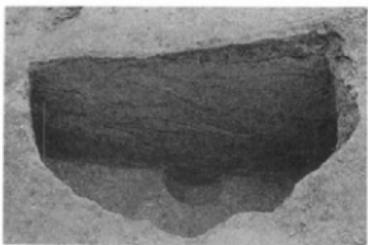


7. C 16-1 ピット完掘

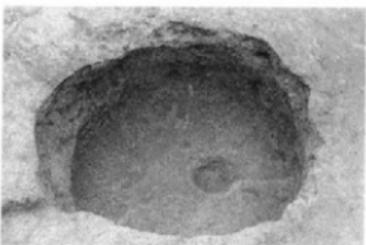


8. D 16-1 ピット完掘

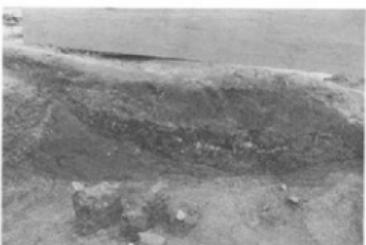
写真図版18



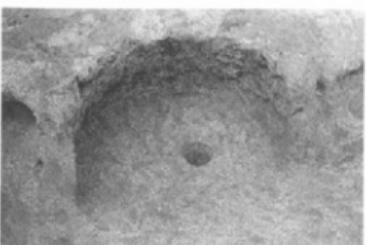
1. E16-1 ピット半掘



2. E16-1 ピット完掘



3. D17-1 ピット半掘



4. D17-1 ピット完掘



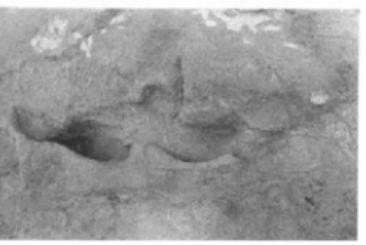
5. D17-1 ピット人骨



6. F11溝 大型礫 断面



7. F11溝 大型礫 平面



8. F11溝 完掘

写真図版19



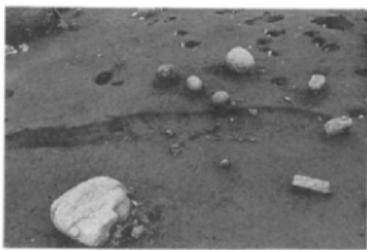
1. E 9 溝



2. H 8 溝



3. H 8 溝 列石



4. H 6 溝 半掘



5. I 13-1, I 13-2 溝 完掘



6. I 13-2 溝 半掘



7. 10号 人骨

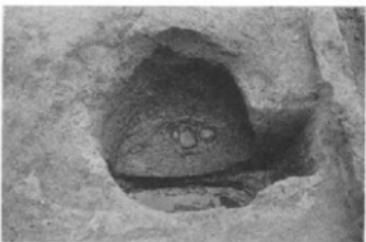
写真図版20



1. 柱穴状ビット郡



2. E 7 集石



3. E 7 集石（配石取り上げ後）



4. 弓矢状の配石検出状況



5. 弓矢状の配石（北より）

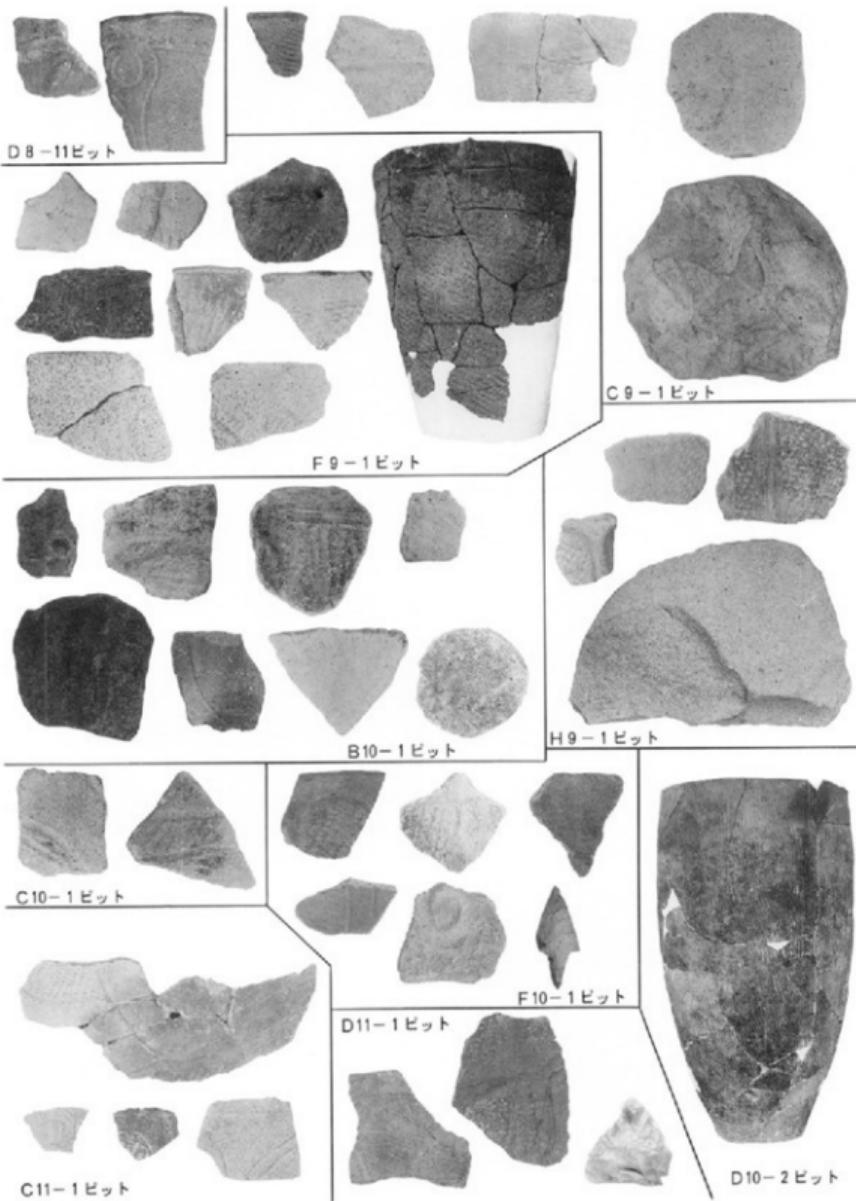


6. E 9 大型礫

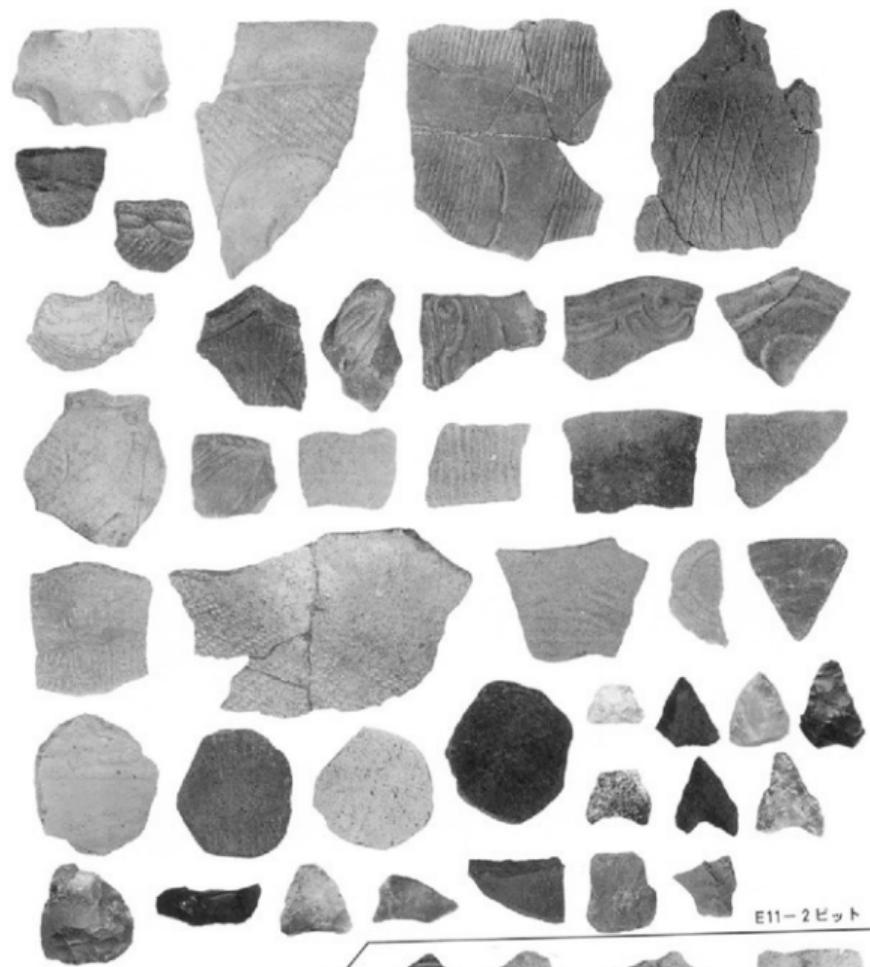


7. I 9-2 焼土遺構

写真図版21



写真図版22

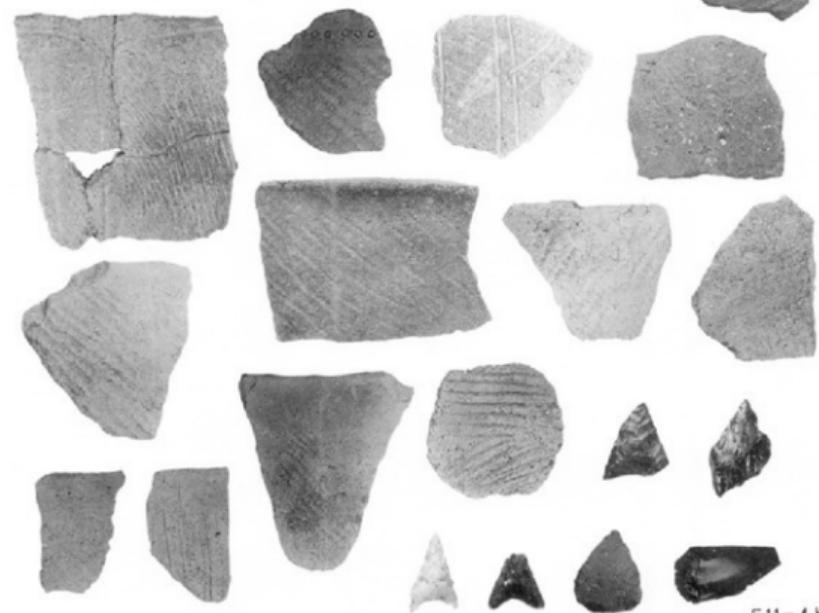
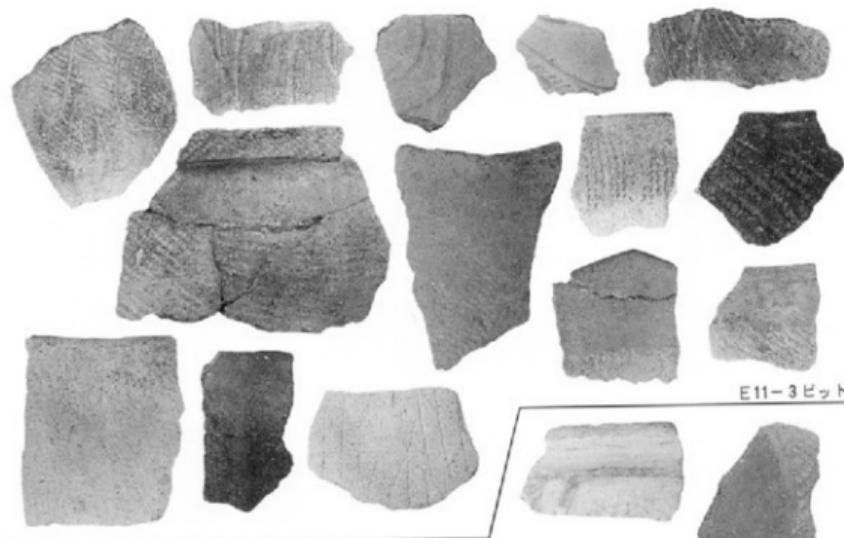


E11-2 ピット

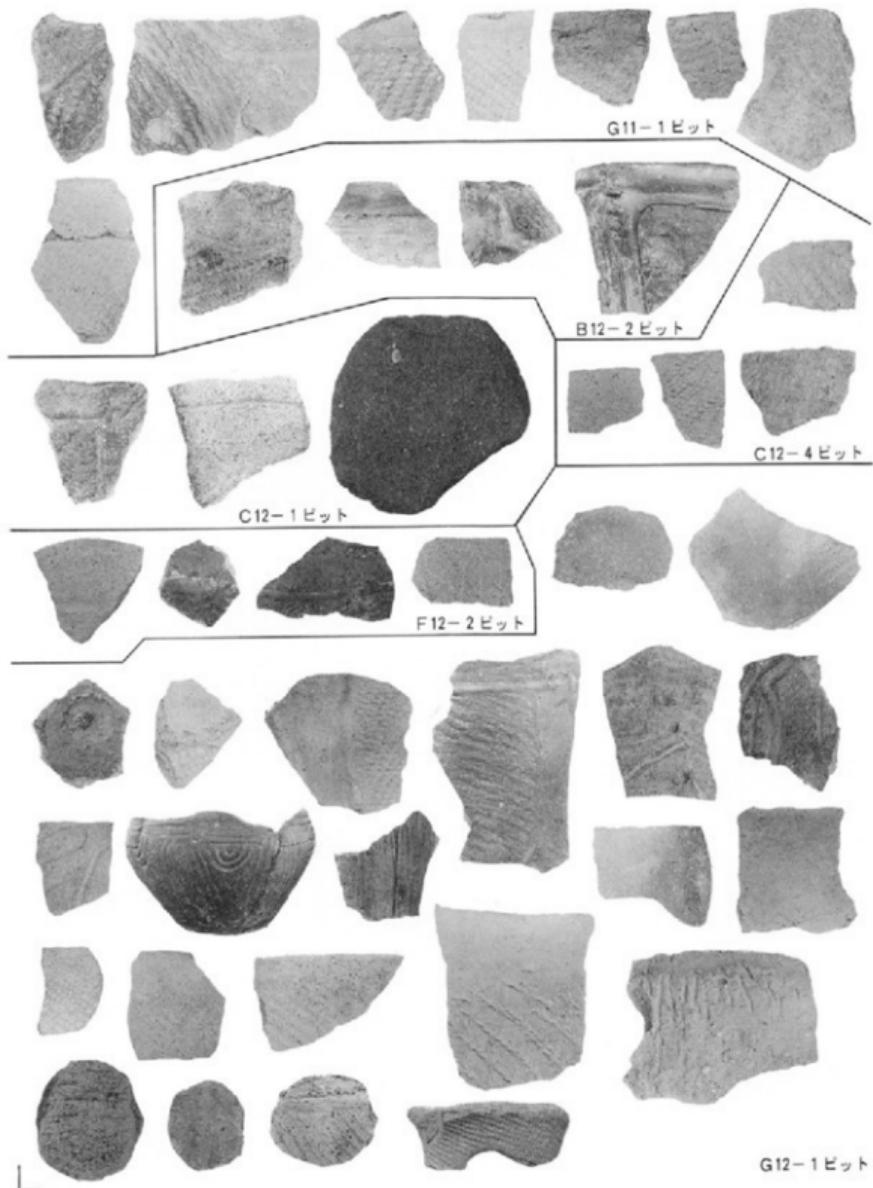


E11-3 ピット

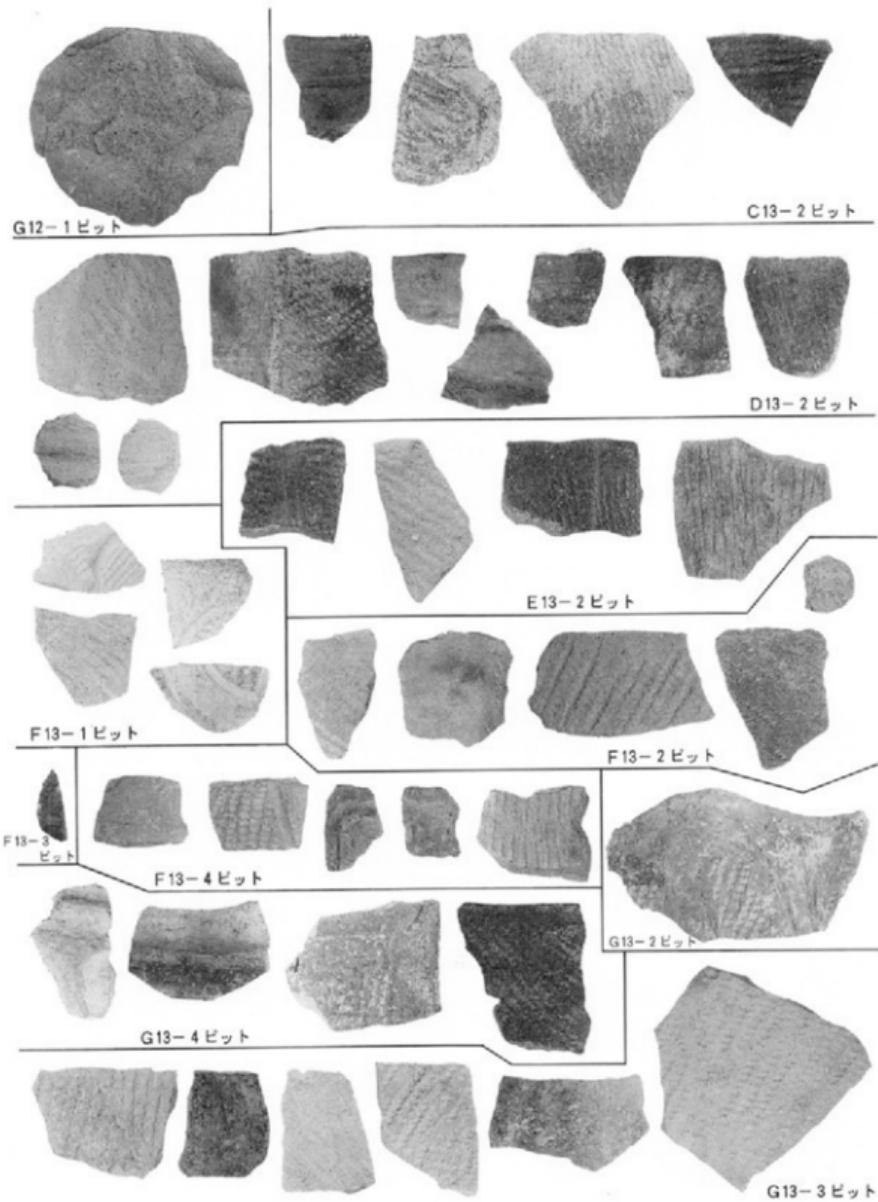
写真図版23



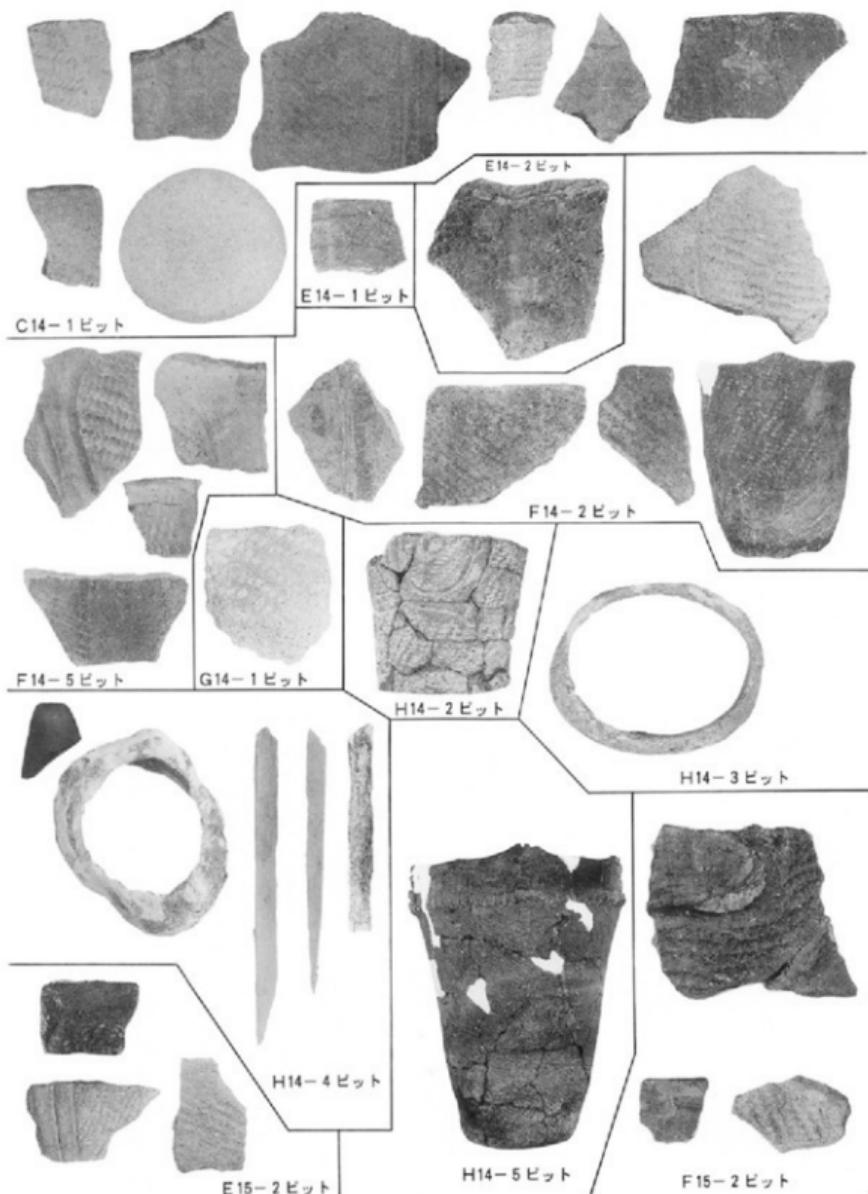
写真図版24



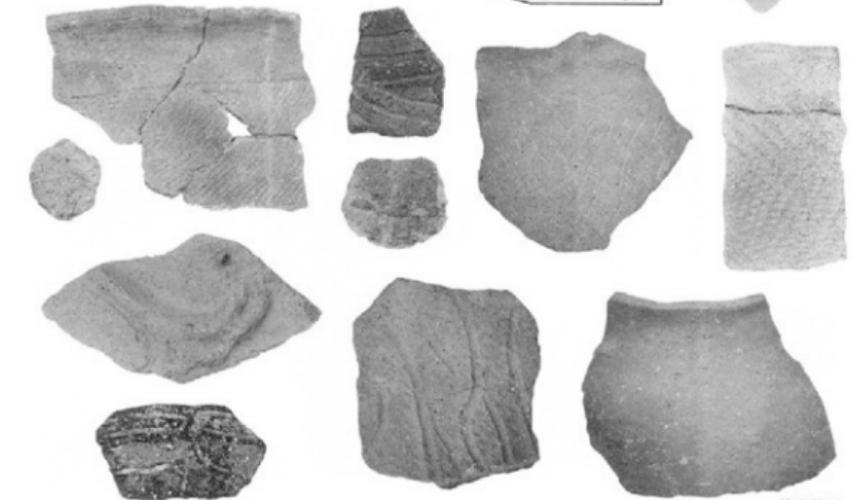
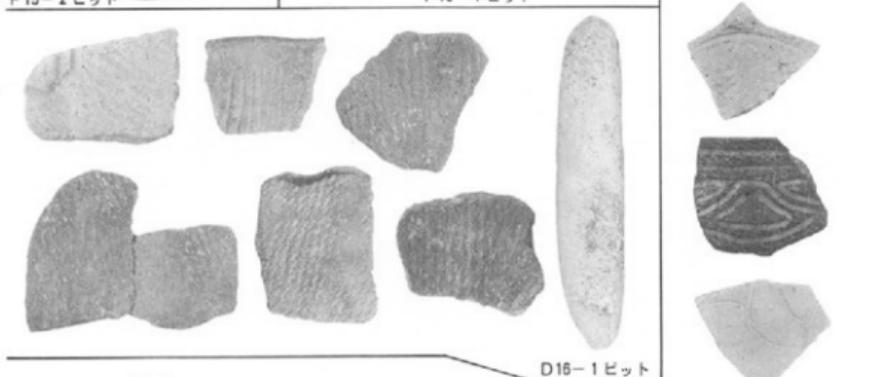
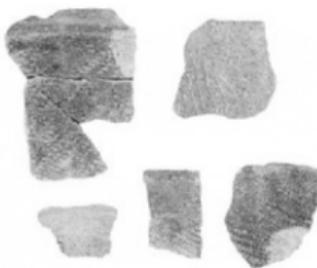
写真図版25



写真図版26



写真図版27



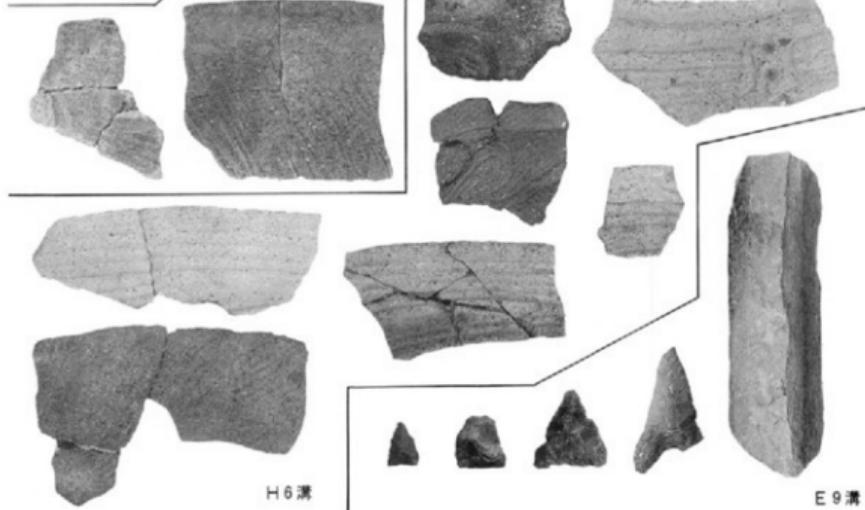
写真図版28



柱穴状ビット



I 9-2 土



E 9 溝

H 6 溝

写真図版29

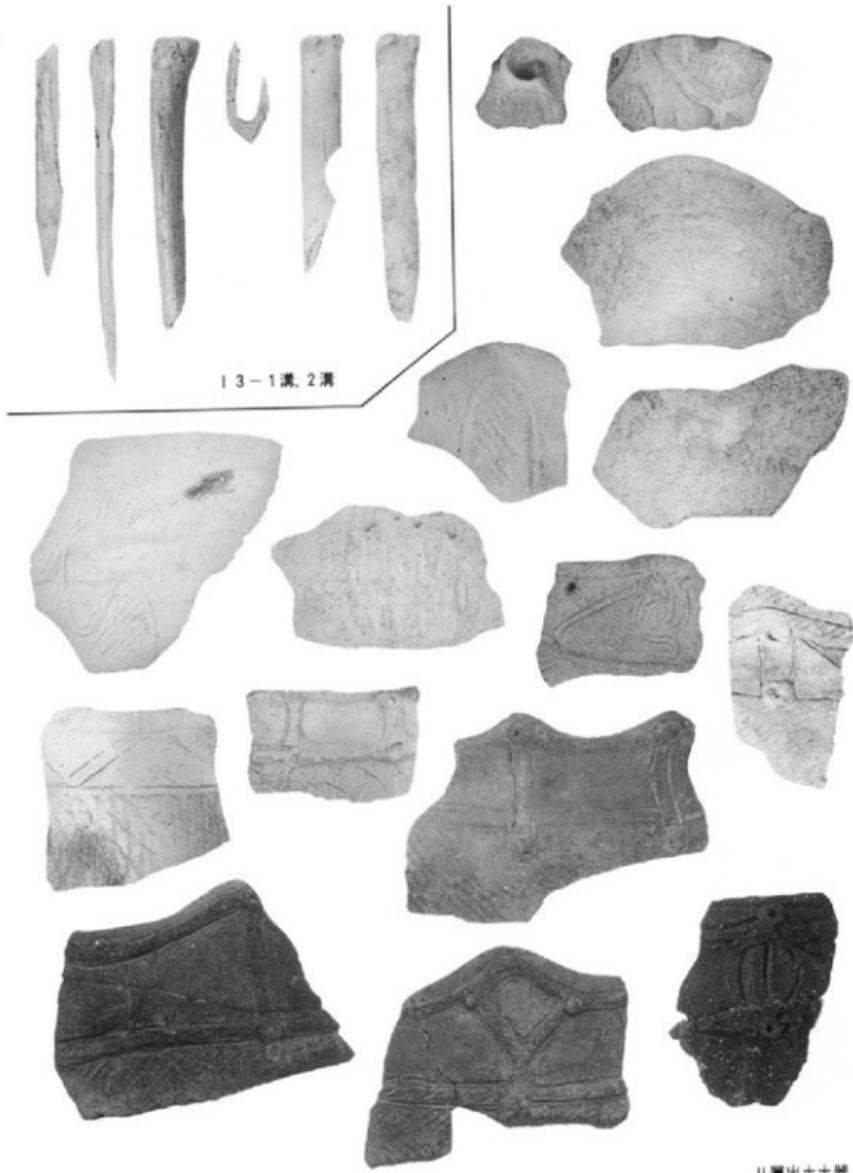


F11漢



I13-1漢

写真図版30

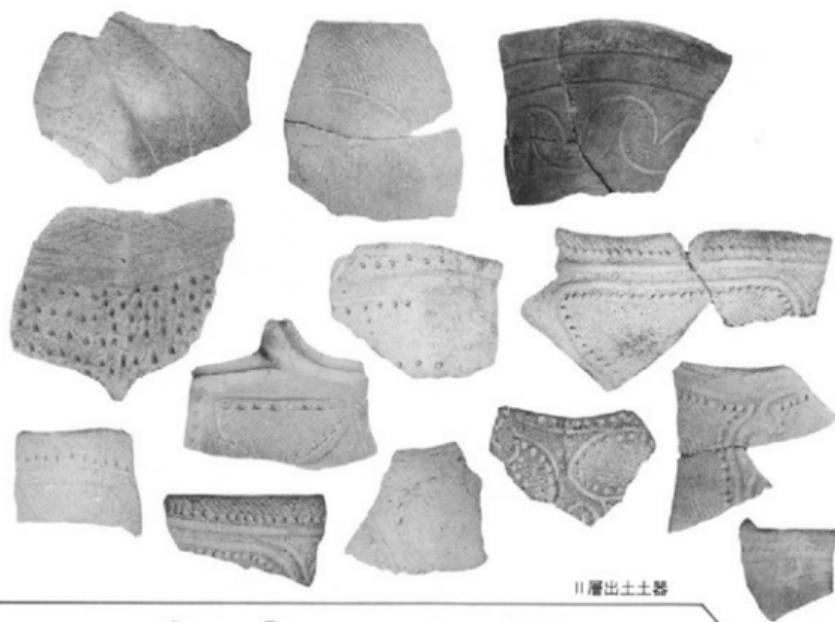


II層出土土器



II層出土土器

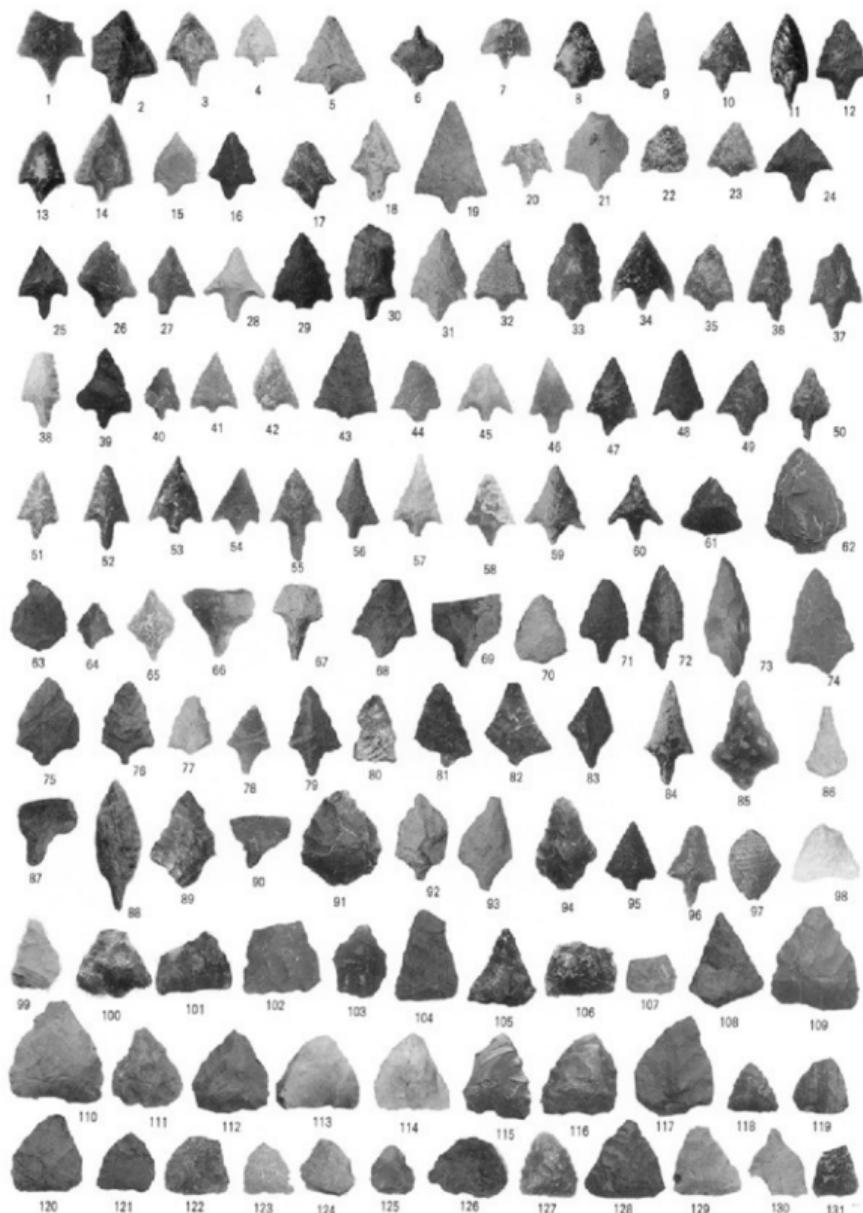
写真図版32



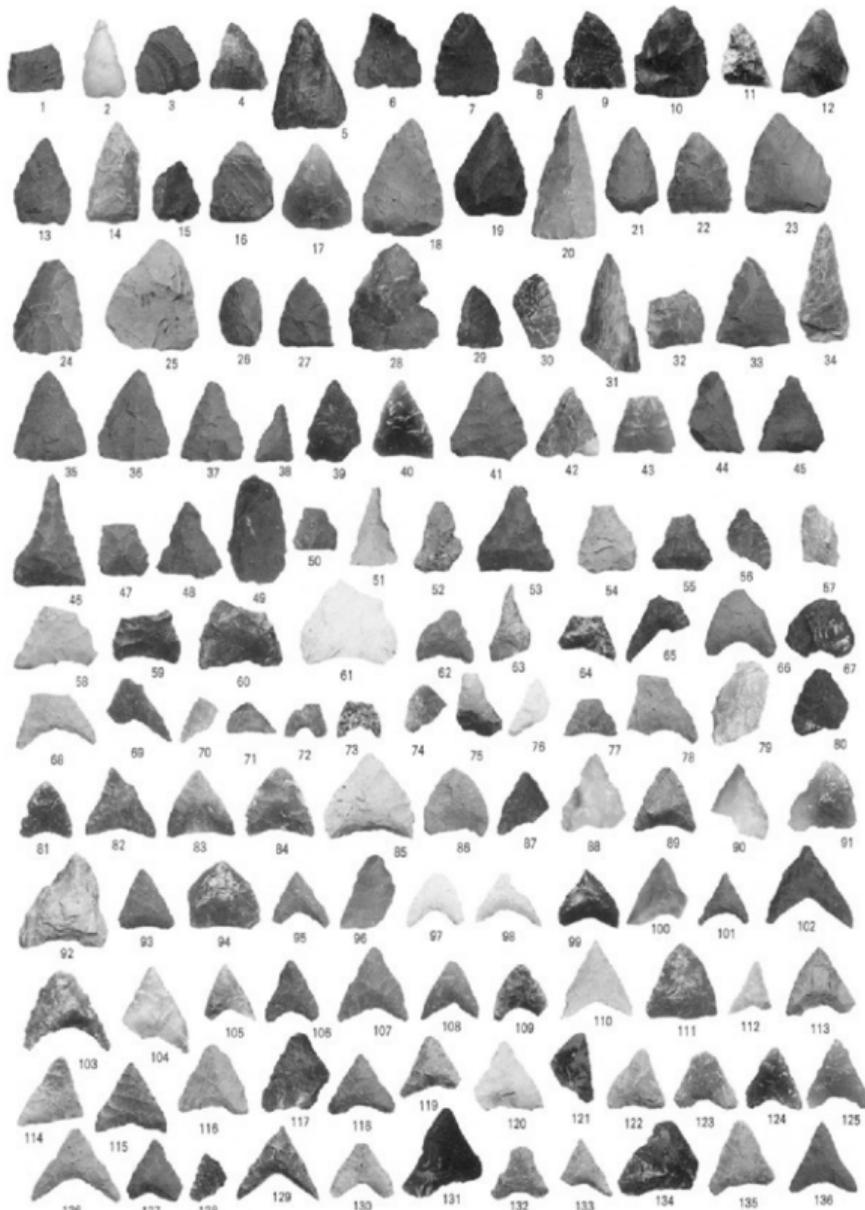
II層出土土器



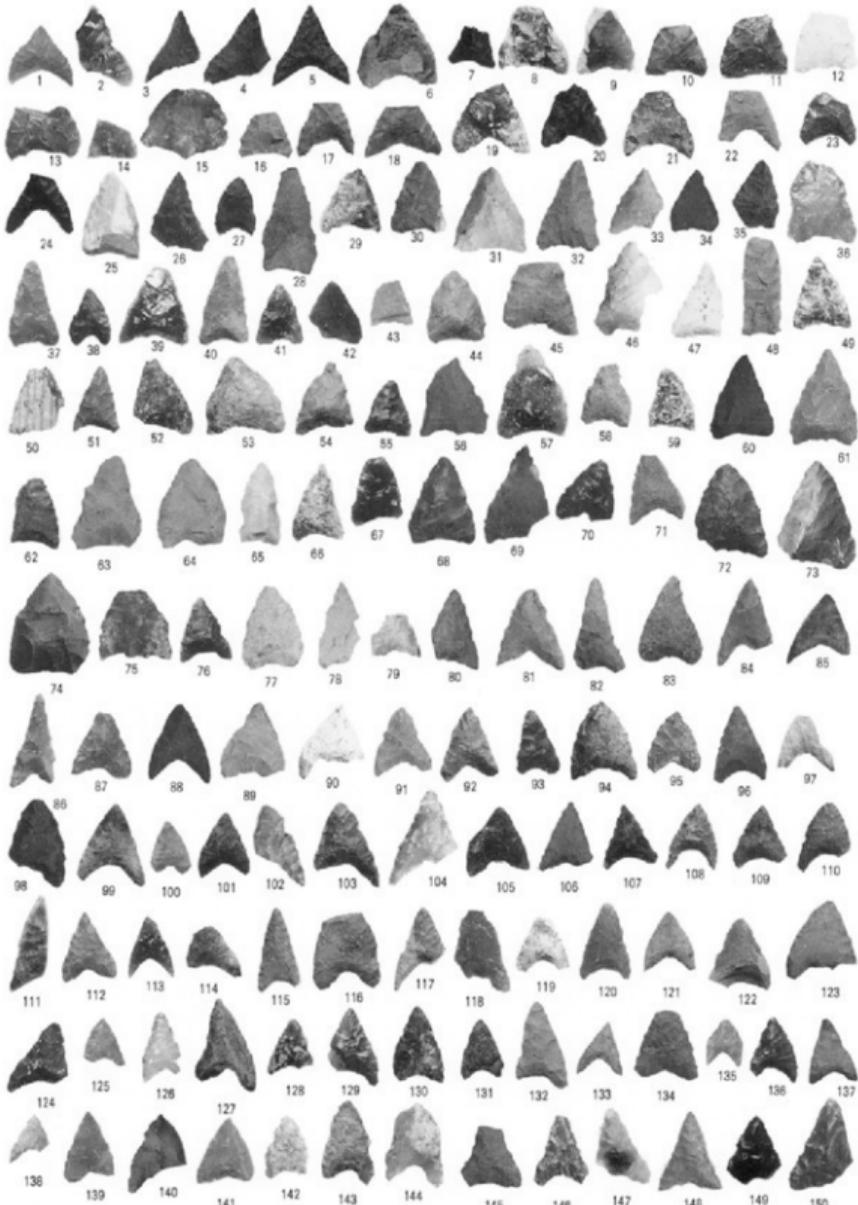
土製品



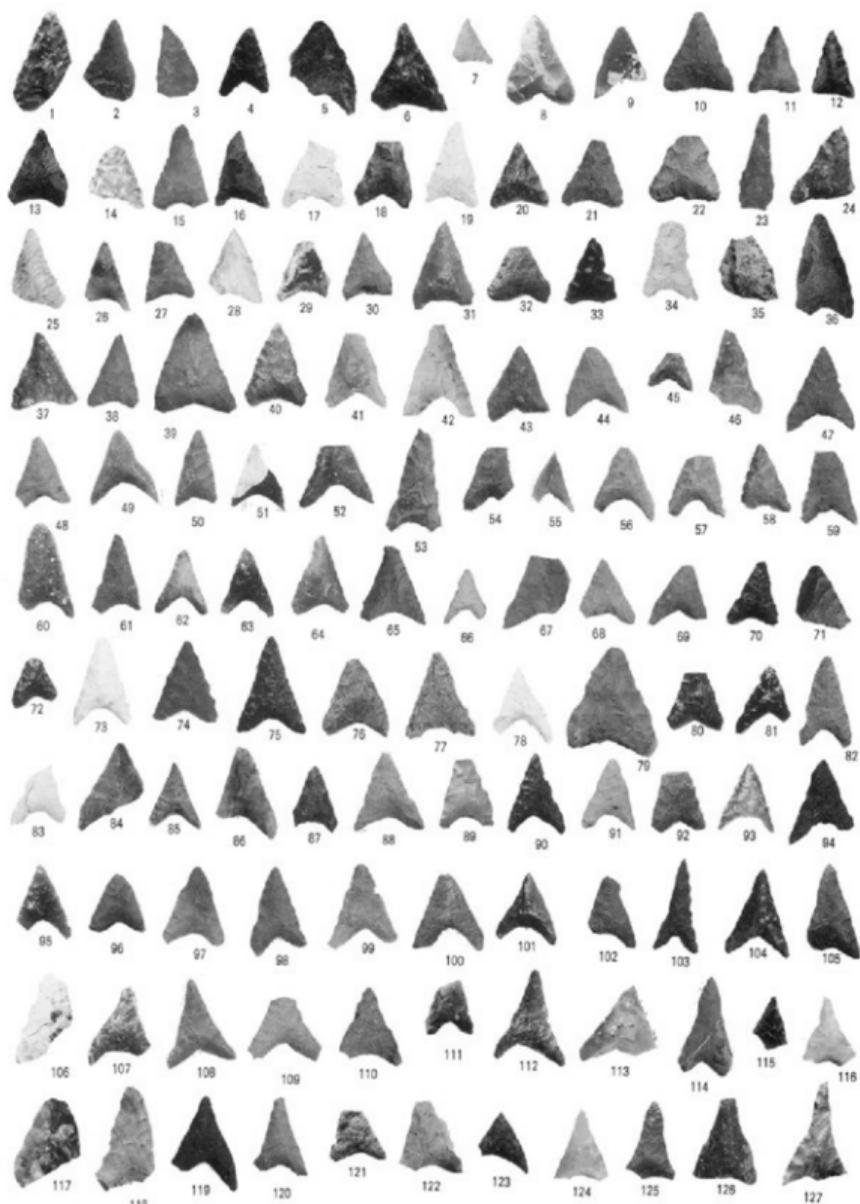
写真図版34



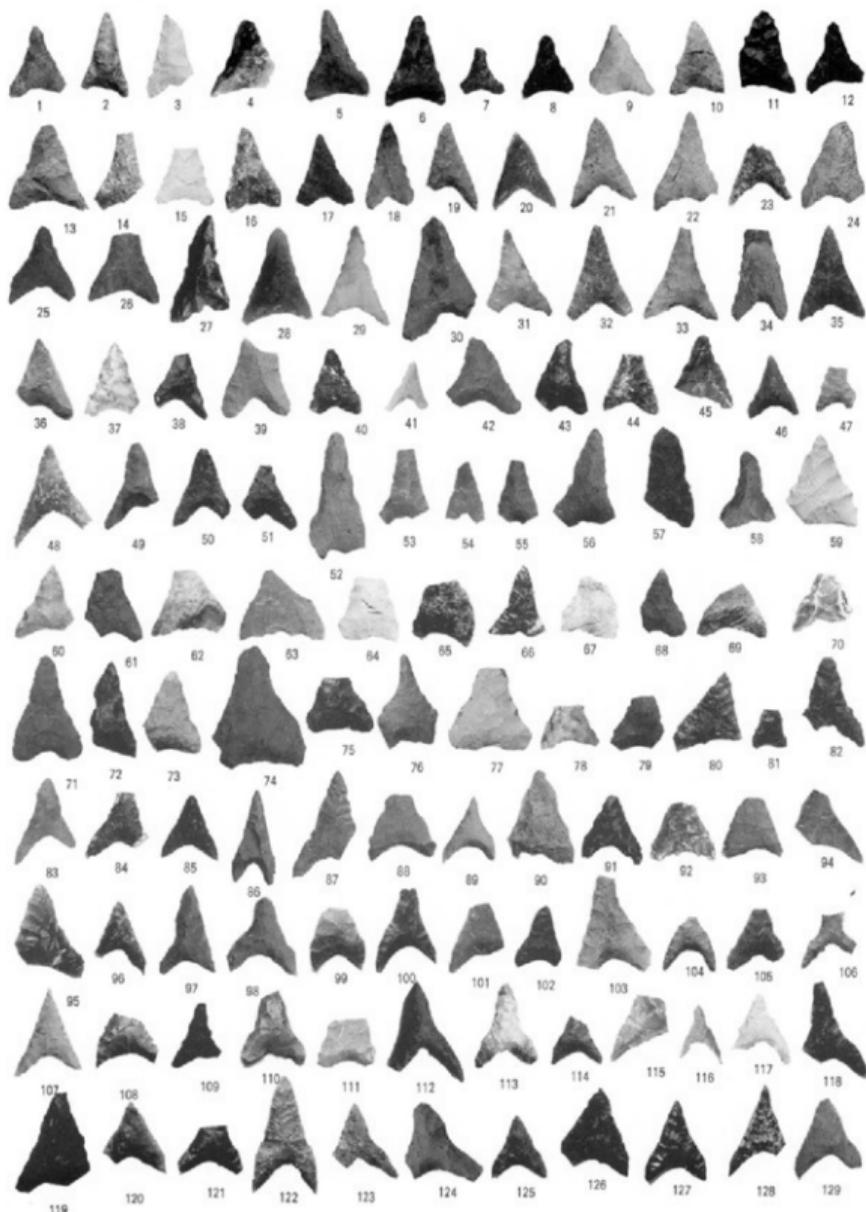
写真図版35



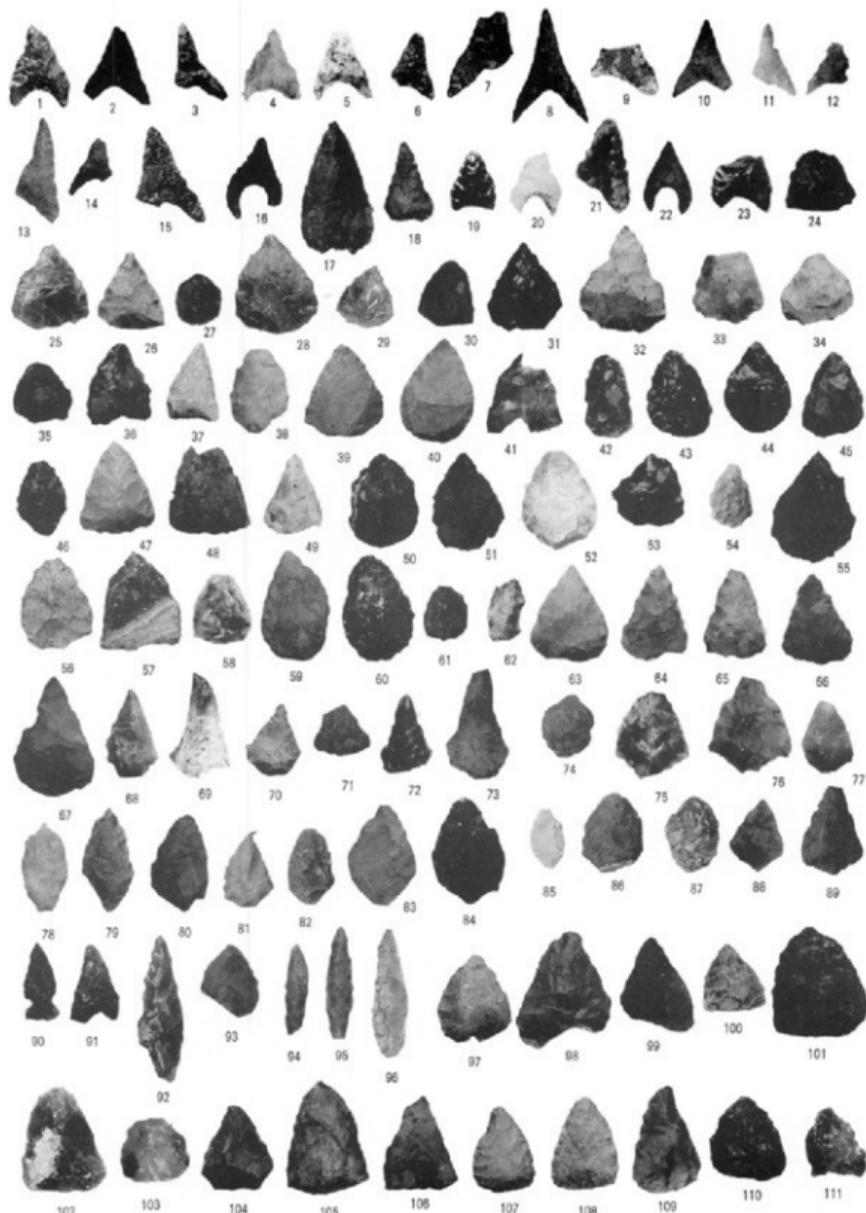
写真図版36



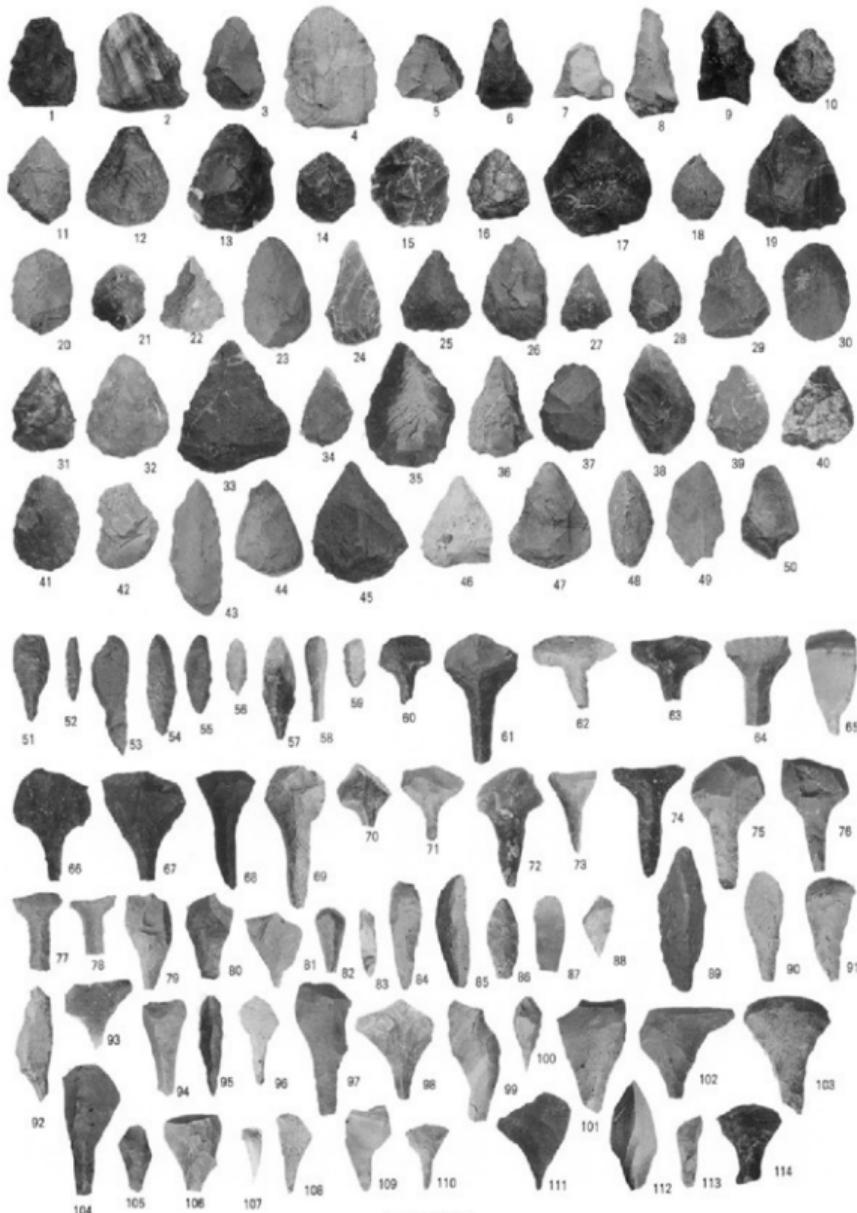
写真図版37



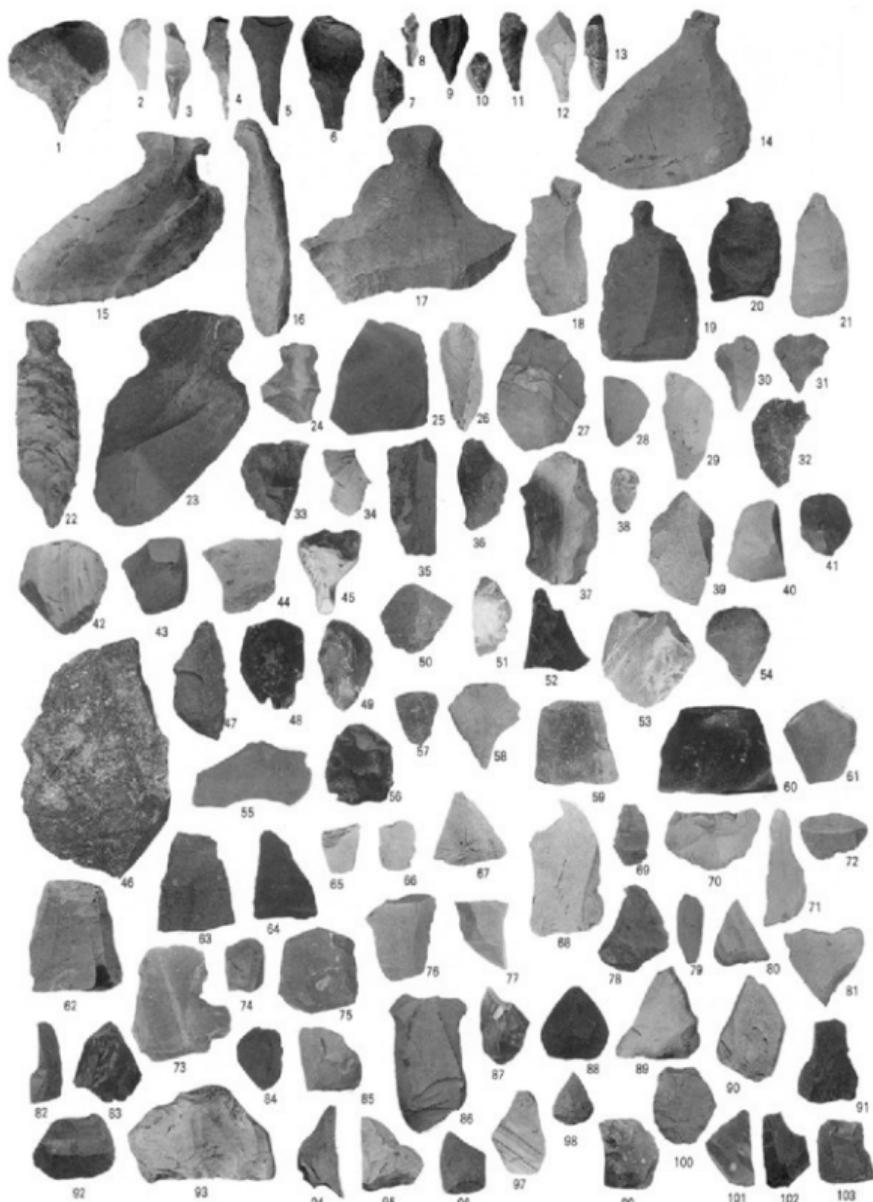
写真図版38



写真図版39



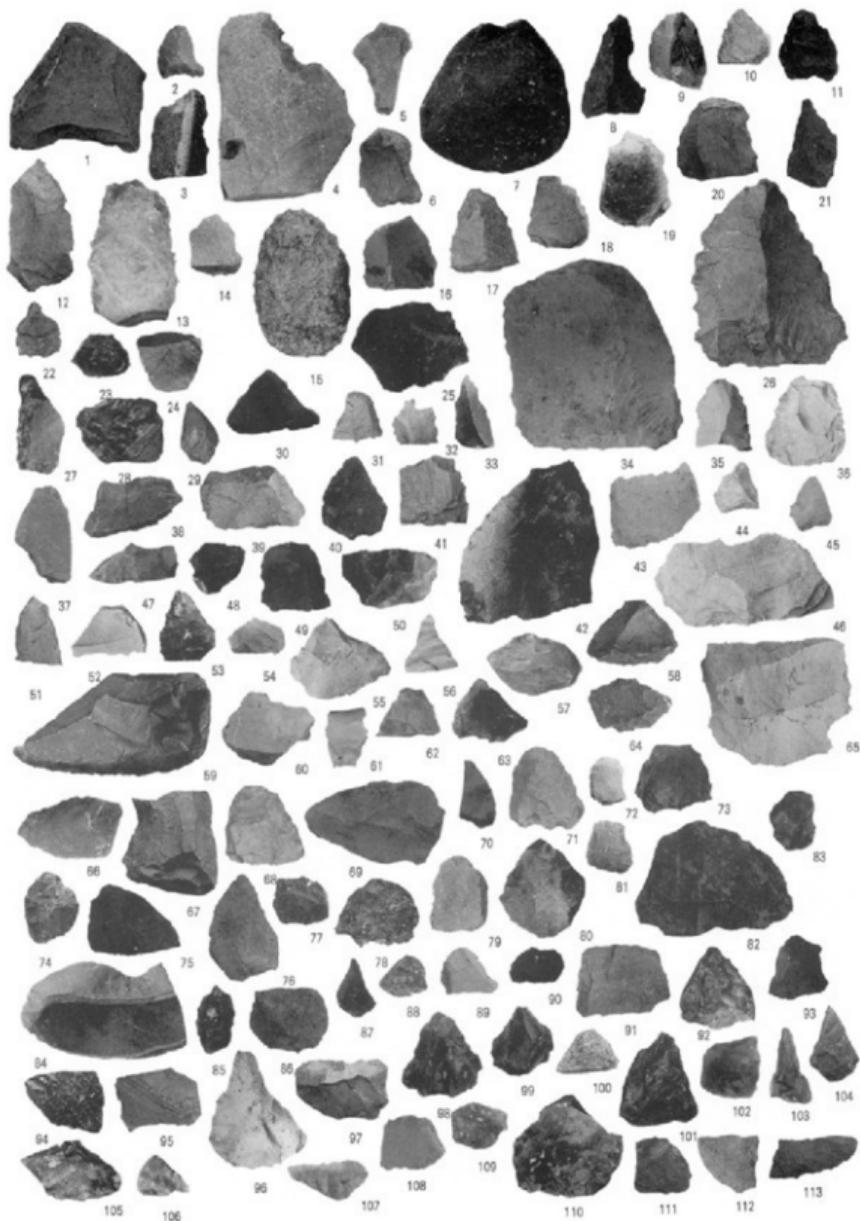
写真図版40



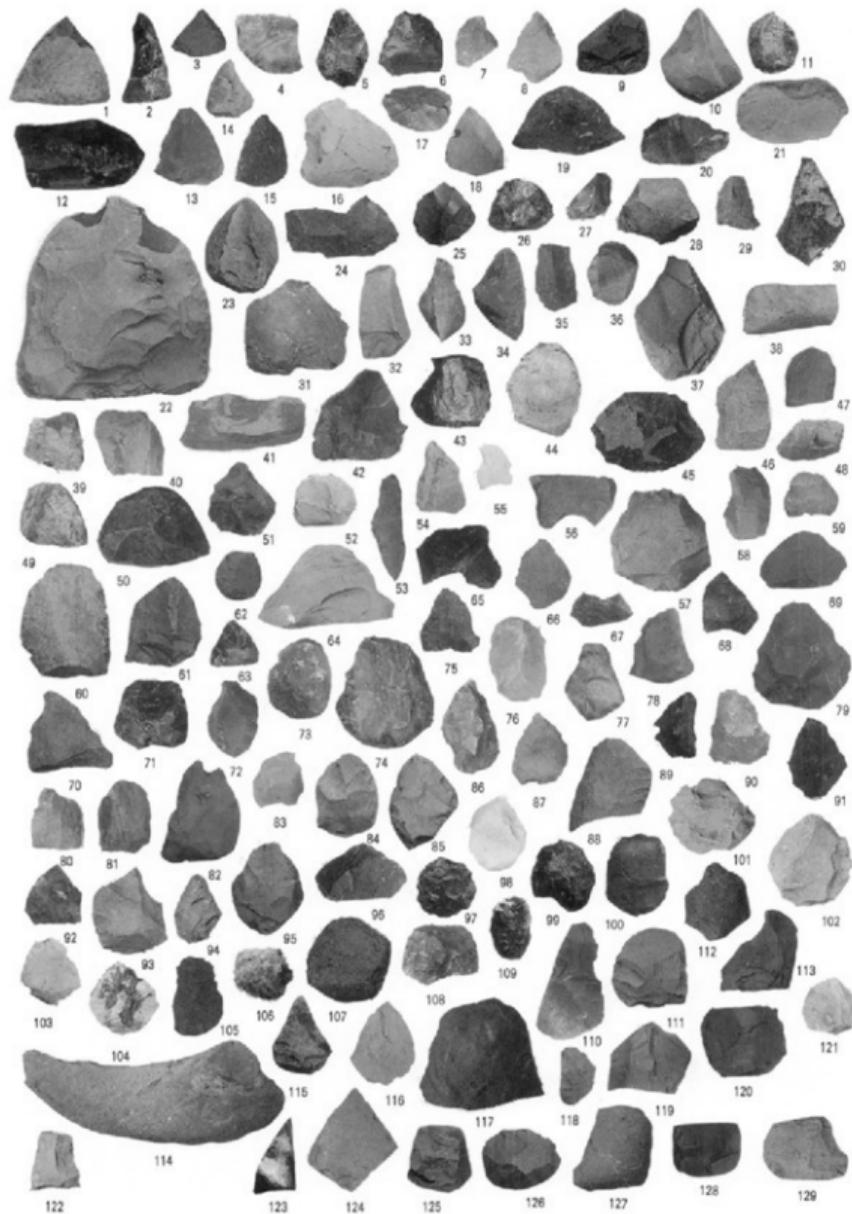
写真図版41



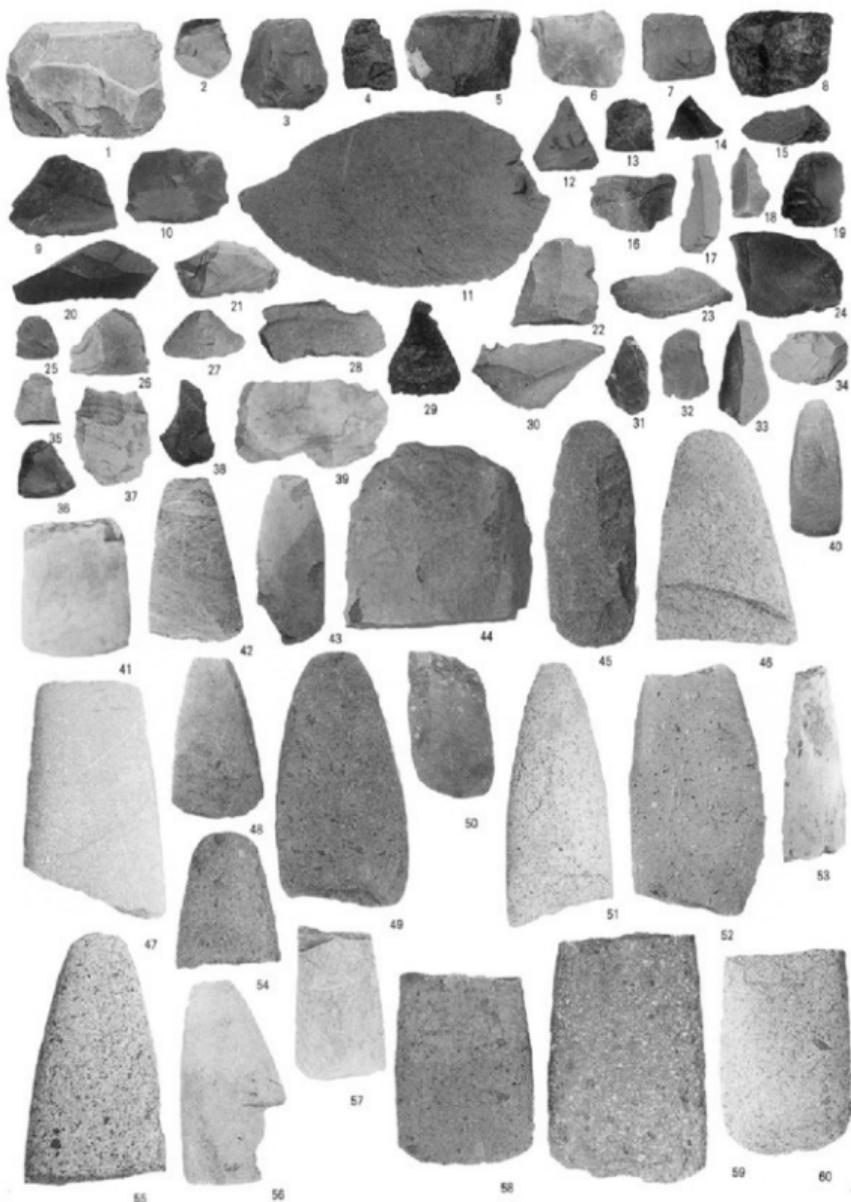
写真図版42



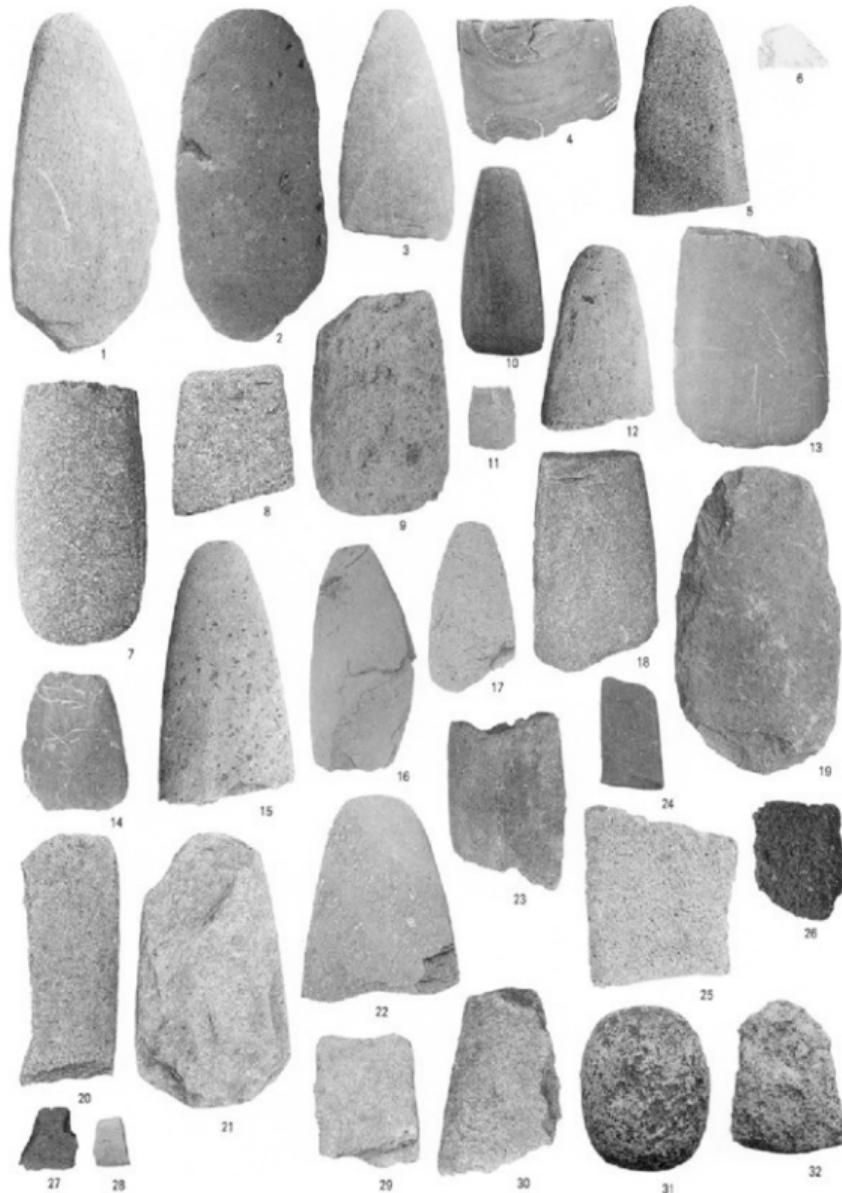
写真図版43



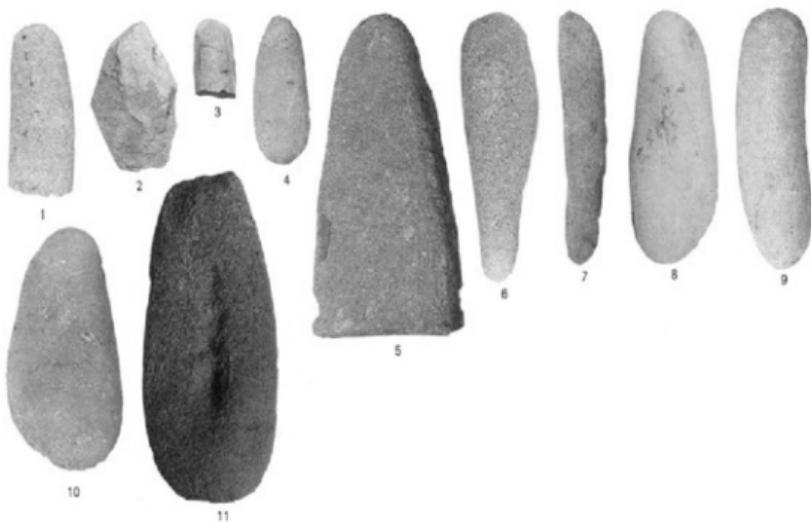
写真図版44



写真図版45



写真図版46



写真図版47

門前貝塚出土人骨 1990年度資料

岩手県門前貝塚出土の縄文時代人骨について

(札幌医科大学解剖教室 松村博文)
(現国立科学博物館人類研究部)

岩手県陸前高田市の門前貝塚において縄文時代中期から後期にかけての人骨が4体出土した。保存状態は良好とはいえないが、4体のうち、利器による損傷をうけたと推定される興味ある人骨1体が検出された。これらの人骨について人類学的観察と計測をおこなったのでその所見を報告する。なお頭蓋計測については Martin and Saller (1957)、頭蓋冠の厚さは Isida and Dodo (1990)、歯の計測は藤田 (1949) の各方法に従った。比較資料として、頭蓋計測値については百々 (1982) の東北縄文人の平均値を、頭蓋冠厚については Isida and Dodo (1990) の現代日本人と縄文人のデータを用いた。

所見

1号人骨 (F14-1 ピット)

前頭骨、頸頂骨および後頭骨の一部が残存する (写真1)。眉棱が比較的隆起していることや額が傾斜していることから男性と推定される。冠状縫合、矢状縫合およびラムダ縫合とも外板においては癒着はみられない。内板にも癒着は認められない。従って年齢は比較的若い成人と推定される。いづれの縫合も走行は単純である。インカ骨および縫合骨は認められない。前頭縫合はない。左頭頂骨に頭頂孔が認められる。右は不明である。

頭蓋冠の厚さは、ブレグマでは 6.2mm であり、現代日本人男性平均 6.3mm とほぼ同等で、縄文人男性平均 8.8mm よりは薄い。左頭頂結節では 6.9mm であり現代日本人男性平均 4.8mm よりは厚く、縄文人男性平均 6.5mm に近い。ラムダでの厚さは 7.0mm で、現代日本人男性平均 6.9mm とほぼ同等であり、縄文人男性平均 8.4mm よりかなり薄い。全体的に縄文人男性としては比較的薄い頭蓋冠であるといえる。

2号人骨（F14-2 ピット）

屈葬うつ伏せの状態で全身が出土した。しかし腐食が著しく、保存状態は極めて不良である。各部位の所見は以下のとおりである。

頭骨

保存されている頭骨の部位は前頭骨、頭頂骨、後頭骨および側頭骨の一部である（写真2a）。後頭骨の右半分は内板と板間層が腐食により欠失しており、外板のみが残存する。顎面部および底部は保存状態が悪く、原形をとどめていない。

性別と年齢の推定をおこなった結果、性別については、額が比較的傾斜しており、眉稜の隆起が強いことなどから男性と推定される。年齢は、矢状縫合、冠状縫合およびラムダ縫合とともに外板には癒着は認められないが、内板では矢状縫合に軽度の癒着がみられることから比較的若い成人と推定される。

形態の観察所見について述べる。前面観では前頭縫合が認められる。額は比較的狭く、前頭結節の発達は弱い。眉間に強く隆起している。鼻根部の陷入および眼窓状孔は破損のため観察不可能であった。上面観においては、頭頂孔が左頭頂骨に認められる。右側はない。側面観（写真2c）では、外耳孔は斜梢円形をしめす。外耳道骨瘤は認められない。後面観（写真2c）については、左側のみ観察可能であった。外後頭隆起は突起状に強く隆起している。インカ骨はない。縫合骨はラムダ縫合に2cm程度のものが一個認められる。縫合の形状は、前頭縫合、冠状縫合およびラムダ縫合とも鋸歯は少ないが、矢状縫合には比較的多い。走行はいづれの縫合とも単純である。底面観は破損のため観察不可能であった。

頭骨計測値については表1のとおりである。頭最大幅については頭蓋左側の計測値から推定をおこなった。東北縄文人男性の平均値と比較すると、頭蓋最大長（197mm）、頭蓋最大幅（154mm）ともに平均（183mm, 143mm）より大きく、この個体の頭蓋は比較的大きいといえる。頭蓋長幅示数（78.2）は平均（78.2）と同等であり、縄文人の平均的な頭形を示す。

頭蓋間の厚さは、ブレグマで8.5mmであり、現代日本人男性平均6.3mmよりは厚く、縄文人男性平均8.8mmに近い。左頭頂結節では6.2mmであり、現代日本人男性平均4.8mmよりは厚く、縄文人男性平均6.5mmと大差ない。ラムダでの厚さは8.0mmであり、現代日本人男性平均6.9mmより厚く、縄文人男性平均8.4mmとほぼ同等である。全体的にこの個体の頭蓋冠は現代日本人よりも厚く、縄文人の平均的な厚さをもつといえる。

表1. 頭蓋計測値および示数

M1. 頭蓋最大長	197mm	M10. 最大前頭幅	115mm
M2. Grabello-Inion	197mm	M20. 耳ブレグマ高	137mm
M2a. Nasion-Inion	191mm	M25. 正中矢状弧長	128mm
M3. Grabello-Lambda	193mm	M27. 正中矢状頭頂弧長	150mm
M8. 頭蓋最大幅	(154)mm	8/1 頭蓋長幅示数	78.2
		20/8 頭幅・耳ブレグマ高示数	89.0

下顎骨

腐食が著しく保存状態は極めて悪い(写真2d)。下顎枝、下顎下縁およびオトガイ部は残存していない。残存する部位の形質的特徴について述べると、頸舌骨筋線が明瞭であり、右頸舌骨筋神経溝骨橋および副オトガイ孔は形成されていない。

歯

残存するのは下顎の歯のみで、右側では第1小臼歯から第2大臼歯までであり、左側では第2小臼歯のみである。左第1大臼歯の歯槽は閉鎖している。第3大臼歯は、左右とも歯槽が開放しており、すでに萌出していたことを示す。咬耗は小臼歯ではBrokaの3度、大臼歯では2度であり、比較的若い個体にもかかわらず、咬耗がすすんでいる傾向が認められる。歯冠形態については、右の第1大臼歯の咬合面溝はY型であり、第2大臼歯ではX型である。第1大臼歯にプロトスタイルリッドは認められない。右の第1大臼歯および第2大臼歯とともに歯冠遠心部にかなり大きなカリエスが認められる。歯石沈着はみられない。抜歯の形跡は認められない。歯式と歯冠サイズは表2に示すとおりである。

表2. 歯式および歯冠サイズ

歯種	保存状態	歯冠サイズ			
		左	右	左	右
				近遠心径	頬舌径
下顎	中切歯	/	○		
	側切歯	/	○		

犬歯	○	○	
第1小臼歯	○	*	7.60mm
第2小臼歯	*	*	
第1大臼歯	×	*	10.70mm
第2大臼歯	+	*	10.38mm 10.55mm
第3大臼歯	○	○	

* : 残存している歯 ○ : 歯槽開放 × : 歯槽閉鎖 ／ : 頸骨の破損

四肢骨

上肢については左側のみ残存する。上腕骨、桡骨および尺骨ともに保存状態は不良であり、すべて細片化している。下肢骨については左右の大脛骨および脛骨が残存する。左大腿骨は骨幹の遠位半分のみ原形を保っている。ビラステルは比較的良好発達しており柱状性をしめす。他の骨は上肢骨と同じく細片化しており、形態学的観察は不可能であった。

3号人骨 (G13-4 ピット)

子供の頭骨のみが出土しており、下顎骨、胸および四肢骨は埋葬されいてない。保存状態は比較的良好であるが、右の側頭骨、蝶形骨と頬骨および後頭骨の右半分が欠失している(写真3a-d)。右後頭部は土圧による変形をうけている。

歯は上顎のみに残存する。萌出している歯は第1と第2乳臼歯および第1大臼歯である。切歯については保存されていないが、歯槽の開放から永久歯が萌出していたとみられる。第2大臼歯は左右とも萌出しつつある状態であり、犬歯および小臼歯は未萌出の状態である。歯の咬耗は乳臼歯についてはBrocaの2度程度であり、第1大臼歯には咬耗がほとんど認められない。以上の歯の萌出状態と咬耗から判断すると、この子供の年齢は9歳前後と推定される。性別については不明である。歯石沈着およびカリエスは認められない。それぞれの歯の歯冠計測値は表3に示されるとおりである。非計測的特徴について述べると、カラベリーの結節については第2乳臼歯および大臼歯ともに認められない。第2大臼歯の舌側遠心咬頭は小さく、Dahlbergの分類基準では(4)に相当する。頭蓋の特徴について述べる。眼窩上孔は左側にはあるが、右側はない。前頭縫合はない。冠状縫合、矢状縫合およびラムダ縫合とも鋸歯は比較的多い。縫合骨は左のラムダ縫合に認められる。インカ骨はない。ブテリオンは正常である。外耳孔は斜梢円形を呈する。舌下神経管二分はみられない。

この頭蓋について特筆すべきことは、左頭頂骨に正三角形に近い円形の孔が認められることである（写真4）。この孔は左頭頂結節のやや前方にあり、大きさは直径約25mmである。内板では孔を中心として放射状に亀裂を生じている。孔の周囲では内板が剥離しており、孔は内広がりの形状をしめす。孔の形状や放射状の亀裂を生じていることから判断すると、この損傷は人為的なものである可能性がある。もしそうであれば、孔の周囲には骨増殖の形跡は認められないで、治癒の傾向はないと考えられる。頭部に人為的損傷を受けた古人骨については鈴木（1938, 1956, 1975, 1989）により多数の例が報告されている。これらの報告のなかで、同心円状に内板が剥離し、内広がりの形状をしめす損傷孔については、頭骨が弾丸や槍その他の鉛器によって強力に打撃され、骨を貫通した際の斜入孔としての性状であるとしている。今回の例も同類の損傷であるとすれば、左後方から石斧などの石器あるいは木製か骨製の槍等による打撃を受けたものと推定される。

表3. 齒式および歯冠サイズ

歯種	保存状態		歯冠サイズ			
	左	右	左		右	
			近遠心径	頬舌径	近遠心径	頬舌径
上顎 中切歯	○	○				
側切歯	○	○				
乳犬歯	○	○				
犬歯	+	+	7.46mm	7.83mm		
第1 乳臼歯	○	*			6.85mm	9.18mm
第2 乳臼歯	○	*			8.56mm	9.98mm
第1 大臼歯	*	*	10.26mm	11.44mm	10.00mm	11.75mm
第2 大臼歯	+	+	9.32mm	11.90mm		11.40mm

* : 萌出している歯 + : 未萌出の歯 ○ : 歯槽開放

4号人骨（D17-1ピット）

頭蓋冠の破片が残存する。保存状態は極めて悪い。

総括

以上の4体の人骨についての年齢と性別は以下のとおりである。

1号人骨：若い成人男性 3号人骨：9歳前後の子供、性別不明

2号人骨：若い成人男性 4号人骨：年齢、性別とも不明

以上の4体のうち興味ある所見としては、3号人骨の子供の頭蓋に利器による損傷かと思われる孔が検出されたことである。頭蓋に同様な損傷孔のある縄文人については、愛知県の伊川津貝塚から1体（鈴木,1938）、保美貝塚から2体（鈴木,1938,1975）、また北海道の栄磯岩陰遺跡から1体（百々,1973）などが報告されているが、例数は少ない。今回門前貝塚から検出されたのは子供の頭蓋であり、このような例は希少であるといえる。損傷は槍あるいは石斧のような利器による強力な打撃による可能性が大きいが、このような利器の特定には、骨角器や石器などの遺物についてさらに詳細な検討が必要である。頭骨のみが埋葬されていたこともなんらかの特殊な状況を考える必要があると思われる。

文献

百々幸雄, 1973: 4.人骨. 栄磯岩陰遺跡発掘報告. 北海道島牧村教育委員会, 14-18.

百々幸雄, 1982: 東北地方縄文人男性の頭蓋計測. 人類学雑誌, 90(Suppl.): 119-128.

藤田恒太郎, 1949: 歯の計測規準について. 人類学雑誌, 61:27-32.

Isida,H. and Y.Dodo, 1990: Cranial thickness of modern and neolithic populations in Japan. Human Biology, 62:389-401.

Martin,R. and K.Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.G. Fischer, Stuttgart.

鈴木 尚, 1938: 日本石器時代人の利器による損傷について. 人類学雑誌, 53:315-347.

鈴木 尚, 1956: VII. 人骨の損傷. 日本人類学会編 (編集代表者 鈴木 尚), 鎌倉市材木座
発見の中世遺跡とその人骨. 岩波書店, 東京. 30-57.

鈴木 尚, 1975: 斗争により損傷された 3 個の古人骨. 人類学雑誌, 83:269-279.

鈴木 尚, 1989: 沼津市千本浜の首塚と関東地方の中世日本人頭骨. 人類学雑誌, 97:23-37.

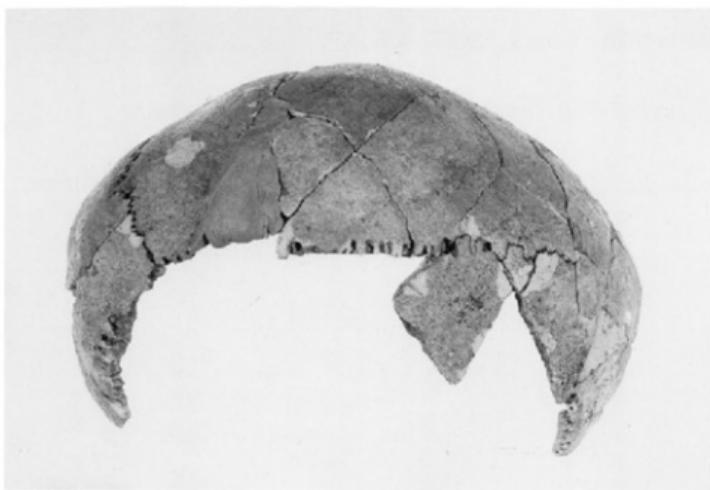


写真1 1号人骨 頭骨 上面観（写真右側が前）



写真2 a 2号人骨頭骨 上面観（写真左側が前）



写真2 b 左侧面観

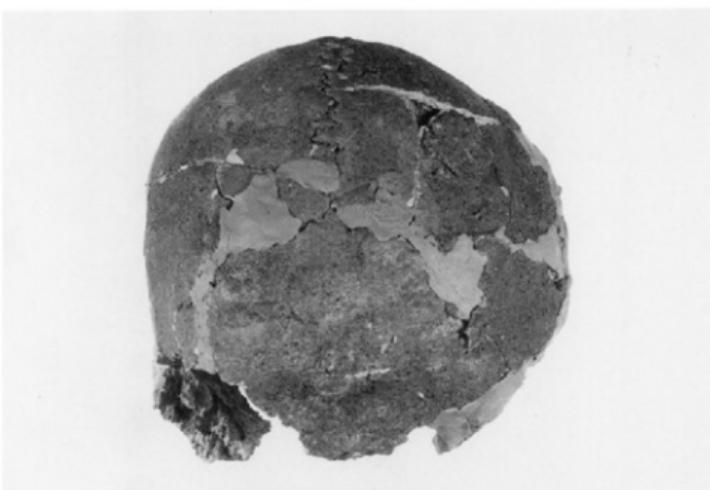


写真2 c 後面観



写真2 d 下頬骨



写真3 a 3号人骨頭骨 前面観



写真3 b 左側面観



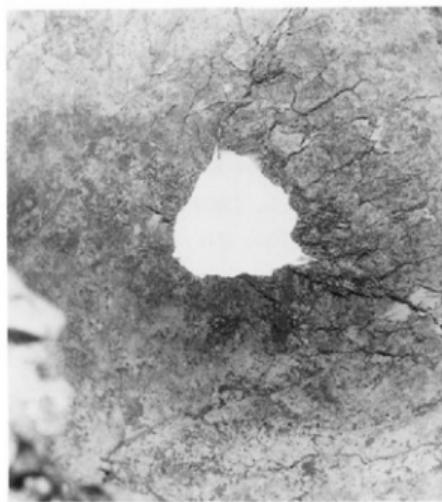
写真 3 c 上面観（写真左側が前）



写真 3 d 後面観



外 面 観



内 面 観

写真4 3号人骨頭蓋の損傷（写真下方が前）

門前貝塚出土人骨 1991年度資料

百々幸雄・木田雅彦・埴原恒彦

札幌医科大学解剖学教室

No.6人骨

頭頂骨と後頭骨の一部からなる頭蓋冠の破片である。全体の大きさと主縫合の癒合程度からみて、年齢は成年と判定される。性別は不明。骨の厚さは、ブレグマで7mm、ラムダで7mm、左頭頂結節で6mmで、いづれも繩文人女性平均(Ishida and Dodo,1990)をやや下回っている。

No.7人骨（繩文中期末～後期初頭）

小児の人骨である。性別は不明。

頭蓋は左上顎骨と左下顎骨のほか、多数の細片が残存する。歯は、上顎左犬歯、上顎左右第1、第2大臼歯、下顎左第1切歯、左右第2切歯、左第2大臼歯が保存される。歯の萌出状態から判断すると、年齢は14、15才程度と思われる(Brothwell, 1981)。

四肢骨は、右上腕骨、右桡骨および尺骨、右大腿骨、左右脛骨、右腓骨が比較的良好な状態で保存される。体幹骨はすべて細片と化している。

四肢骨の主な計測値は次のとおりである。上腕骨：5.中央最大径16mm, 6.中央最小径12mm。
大腿骨：6.中央矢状径25mm, 7.中央横径20mm。脛骨：8.中央最大径22mm, 9.中央横径15mm。

No.8人骨

成人男性のものと思われる右大腿骨骨体の近位部と左大腿骨骨体の遠位部の破片からなる。両破片ともきわめて骨質の厚い頑強な大腿骨で、同一個体のものとみなしてよさそうである。

No.9人骨（繩文中期末～後期初頭）

実測図にみるとおり、ほぼ全身骨格の揃う埋葬人骨である。成人男性とみなしてさしつかえない。

保存状態はかなり良好で、頭蓋のほか、四肢骨では、左右鎖骨、左右上腕骨、左右桡、尺骨、

左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨が残存する。体幹骨は第1、第2頸椎が比較的良好な状態で保存されるが、他はすべて細片と化している。

四肢骨は男性としては、かなり繊細であるが、頭蓋の大きさと形態からみて性別は明らかに男性である。

頭蓋（図版1）

頭頸蓋に著しい歪があるが、前頭部から顎面にかけてはほぼ正常である。計測値は表1に非計測的小変異の出現状態は表3に示した。この頭蓋には左右ともに外耳道骨腫がみられるが（図版2）、特に右側のものは強大で、右の外耳道は骨腫によりほぼ完全に閉塞されている。

歯の保存状態は次のとおりである。

△ M ₂	M ₁	△ P ₁	C	I ₁	I ₂		I ₁	△ C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	△	
△ M ₂	M ₁	P ₁	P ₂	C	I ₁	O	O	O	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃

○：空歯槽、△：歯槽吸収

上顎左第2切歯の歯槽吸収は人為的な抜歯によるものである（図版3）。歯冠の計測値と非計測的形質については、それぞれ表4と表5に示した。

四肢骨

四肢長骨の計測値は表6に示すとおりである。岩手県蝦島（貝島）貝塚人骨の平均値（山口、1983）と比べると、本人骨の四肢長骨は、男性としてはかなり細く、長さは著しく短い。大腿骨の柱状性、脛骨の扁平性も強くない。

右大腿骨最大長 367mmを用いてピアソンの式で身長を推定すると、150.3cmという値が得られる。蝦島貝塚人男性の平均推定身長が 159.8cmであるから、本人骨は縄文人としてもかなり小柄な男性であったと言える。

No.10人骨（縄文後期初頭）

右の寛骨のみが残存する。大きさと形態からみて、明らかに成人男性のものである。

No.12人骨（縄文後期初頭）

頭蓋のほか四肢骨では、左右鎖骨、右肩甲骨、右上腕骨、左右桡骨、左尺骨、手の骨が残存する。体幹骨では、頸椎5点と胸椎1点が保存される。下肢骨は1点も認められない。

頭蓋の大きさと形態からみて、年齢、性別は、成人男子とみなしてさしつかえない。

頭蓋（図版1）

脳頭蓋の右半部と顎面、右下頸骨が良好な状態で保存される。計測値は表2に、非計測的小変異の出現状態は表3に示した。この頭蓋も右側に軽度の外耳道骨腫がみられる。

歯の保存状態は次のとおりである。

M ₃ M ₂ M ₁ P ₃ P ₂ C I ₃ I ₁	I ₁ △ C P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ O
M ₃ M ₂ M ₁ P ₃ P ₂ C I ₃ I ₁	× × × × × × × ×

○：空歯槽、△：歯槽吸収、×：歯槽破損

上顎左第2切歯の歯槽吸収は人為的抜歯によるものである（図版3）。また、下顎右第3大臼歯にはう歯がみられる。歯冠の計測値と非計測的形質の出現状態は、それぞれ表4と表5に示した。

四肢骨

上肢骨しか残存しないが、その計測値は表6に示した。岩手県蝦島貝塚人骨の平均値（山口、1983）と比較すると、本人骨の上肢骨も平均値をやや下回るが、No.9人骨ほど細くはない。鎖骨、上腕骨、桡骨の骨体中央部の扁平性はかなり強い。

上腕骨、桡骨とも骨端を欠損するが、No. 9人骨のそれらと比較すると、明らかに本人骨の方が長いので、身長はNo.9人骨よりは高かったことは確実である。

考察

外耳道骨腫について

頭蓋が比較的良好な状態で保存されるNo.9とNo.12人骨には、ともに外耳道骨腫が認められた。特に、No.9人骨の右側の骨腫は強大である。

外耳道骨腫は、わが国では大船渡湾沿岸の石器時代人に多発することを長谷部（1924, 1925）が初めて報告した。その後この骨腫は、松島湾あるいは北海道の内浦湾沿岸の縄文人にもかなり高頻度で出現することが明らかにされた（百々、1972, 1981）。

大船渡湾に近接する門前貝塚の縄文人骨に外耳道骨腫が認められることに何ら不思議はないが、それでも、外耳道が保存されるわずか2例の頭蓋のいづれにも骨腫が認められ、しかもそのうちの1例は外耳道を完全に塞いでしまうほど巨大であることは特筆してよいであろう。

外耳道骨腫の成因については、潜水作業等に伴う外耳道の冷水刺激説が一般に信じられて

るが、(Kennedy, 1986)、本例もそれを支持する資料となろう。しかし、稀にではあるが、内陸部の遺跡から出土する古人骨にも外耳道骨腫が出現することがあるので、その成因を解明する研究は今後も続けていく必要があろう。

上顎第2切歯の片側性抜歯について

松島湾周辺の縄文中期末から後期初頭の遺跡において、上顎第2切歯1本のみを抜歯する風習が存在したことは、松本(1920, 1922)が初めて指摘したところである。その後、この様式の抜歯風習は関東地方等にも及んでいることが明らかにされ(長谷部, 1923)、最近では北海道にも波及していたことが明らかにされている(Dodo & Mitsuhashi, 1984)。北海道では、上顎第2切歯1本のみの抜歯様式しか確認されていないが、それも縄文後期後葉から晩期の人骨に限られていた。ごく最近になって、八雲町のコタン温泉遺跡から発見された縄文中期末から後期初頭にかけての人骨3体に、上顎第2切歯1本のみの抜歯が確認された(百々, 1992)。

渡辺(1966)は、上顎側切歯1本のみの抜歯を萌芽期の抜歯様式と規定し、主として東日本領域に分布していたとしている。門前貝塚の抜歯例2例も縄文中期末から後期初頭に編年されおり、時期的にも地域的にも問題はない。本例や前述した北海道八雲町の遺跡例も考えて合わせると、上顎側切歯1本のみの抜歯風習は、縄文中期末から後期初頭にかけて、北海道南部を含む東日本領域に広く分布していたと考えてよさそうである。

文献

- Brothwell,D.R.,1981 : Digging up Bones. Cornell Univ.Press, New York.
- 百々幸雄, 1972 : 北海道の古人骨にみられる外耳道骨腫. 人類学雑誌, 80 : 11-22.
- 百々幸雄, 1981 : 宮戸島里浜貝塚出土の縄文時代人頭蓋について. 人類学雑誌, 89 : 283-302.
- 百々幸雄, 1992 : 八雲コタン温泉遺跡における風習的抜歯について. 八雲コタン温泉遺跡発掘調査報告書(印刷中).
- Dodo,Y. and K.Mitsuhashi,1984 : The customary tooth evulsion among the Jomon people in Hokkaido. 北方文化研究, 16 : 111-124.
- 長谷部言人, 1923 : 石器時代人の抜歯について—第2. 人類学雑誌, 38 : 239-248.
- 長谷部言人, 1924 : 石器時代人に外聴道骨腫の見られること—附鼓上骨. 人類学雑誌, 39:1-9.
- 長谷部言人, 1925 : 鹿児島県大船渡湾附近の石器時代人に外聴道骨腫多し. 人類学雑誌, 40 : 321-326.
- Ishida,H. and Y. Dodo, 1990: Cranial thickness of modern and Neolithic populations i

- n Japan. Human Biology, 62:389-401.
- Kennedy.G.E.,1986 : The relationship between auditory exostosis and cold water: a latitudinal analysis. American Journal of Physical Anthropology,71:401-415.
- 松本彦七郎, 1920 : 2,3石器時代遺跡における抜歯風習の有無及び様式について. 人類学雑誌, 35 : 61-83。
- 松本彦七郎, 1922 : 2,3石器時代古式遺跡における抜歯風習について. 人類学雑誌, 37 : 243-254。
- 渡辺 誠, 1966 : 繩文文化における抜歯風習の研究. 古代学, 12 : 173-201.
- 山口 敏, 1983 : 岩手県花泉町蝦島（貝鳥）貝塚出土繩文時代人骨の体幹部肢骨について. 国立科学博物館専報, 16 : 201-222.

図版の説明

図版1.

No. 9 人骨（左）とNo.12 人骨（右）の頭蓋

図版2.

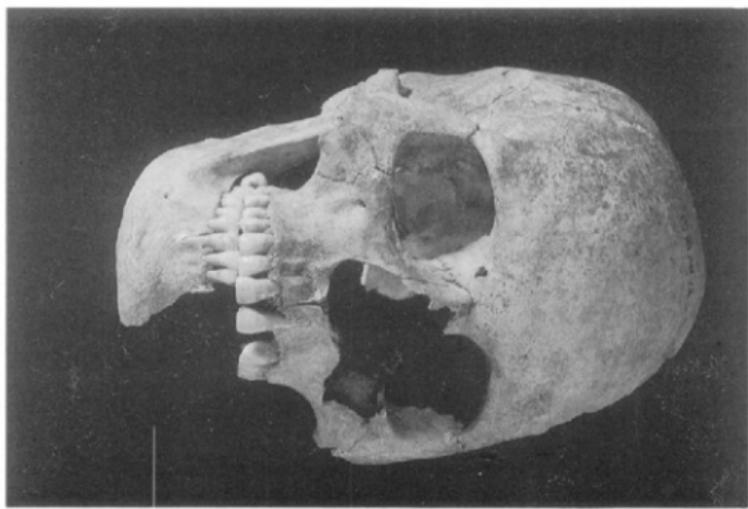
No. 9 人骨頭蓋に見られる外耳道骨腫

上：右側 下：左側

図版3.

上顎左第2切歯の抜歯

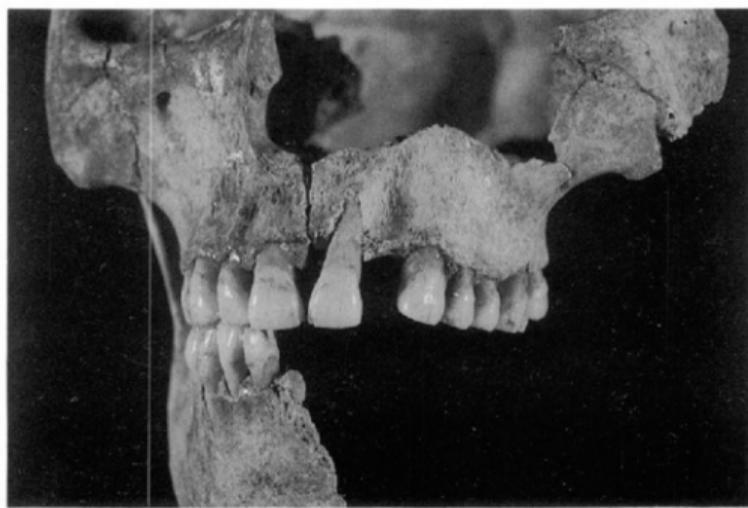
上：No. 9 人骨 下： No.12人骨



図版 1



図版 2



図版 3

表1. No.9人骨頭蓋計測値 (mm)

マルチンNo.	計測項目	
9.	最小前頭幅	98
10.	最大前頭幅	121
9:10		81.0
26.	正中矢状前頭弧長	120
29.	正中矢状前頭弦長	105
29:26		87.5
43.	上顎幅	(106)
44.	両眼窩幅	103
45.	頬骨弓幅	135
46.	中顎幅	(100)
48.	上顎高	59
48:45		43.7
48:46		(59.0)
55.	眼窩幅(右)	44
52.	眼窩高(〃)	34
52:51		77.3
54.	鼻幅	26
55.	鼻高	46
62.	口蓋長	43
63.	口蓋幅	35
63:62		81.4
69.	顎高	26
71.	下顎枝幅	36

表2. No.12人骨頭蓋計測値 (mm)

マルチンNo.	計測項目	
1.	最大長	167
9.	最小前頭幅	100
26.	正中矢状前頭弧長	113
27.	正中矢状頭頂弧長	125
29.	正中矢状前頭弦長	103
29:26		91.2
30.	正中矢状頭頂弦長	109
30:27		87.2
43.	上顎幅	106
44.	両眼窩幅	102
46.	中顎幅	(109)
48.	上顎高	61
48:46		(56.0)
51.	眼窩幅(右)	44
52.	眼窩高(“)	32
52:51		72.7
55.	鼻高	47
62.	口蓋長	47
63.	口蓋幅	38
63:62		80.9
69.	顎高	28
70.	下顎枝高(右)	57
71.	下顎枝幅(“)	36
71:70		63.2
	前頭弦長	97.4
	サブテンス	14.6
	前頭平坦示数	15.0

表3. No.9 および No.12人骨頭蓋の非計測的小変異

	No.9			No.12		
	右	中	左	右	中	左
1. 前頭縫合	—	—	—	—	—	—
2. 眼窩上神経溝 (10mm~)	—	—	—	—	✓	—
3. 眼窩上孔	—	—	—	—	—	—
4. 副眼窩下孔	—	—	—	—	✓	—
5. ラムダ小骨	—	—	—	—	—	—
6. 横後頭縫合痕跡 (10mm~)	—	✓	—	—	✓	—
7. アステリオン骨	✓	✓	—	—	✓	—
8. 頭頂切痕骨	—	—	✓	✓	✓	—
9. フュケ孔	—	+	—	—	✓	—
10. 卵円孔形成不全	✓	✓	—	—	✓	—
11. ヴェサリウス孔	✓	✓	—	—	✓	—
12. 腺棘孔	✓	✓	—	—	✓	—
13. 内側口蓋管	—	—	✓	—	—	—
14. 外耳道骨腫	+	+	+	+	✓	—
15. 鞍骨横縫合痕跡 (5mm~)	✓	—	—	+	✓	—
16. 副オトガイ孔	—	—	—	—	✓	—
17. 頸舌骨筋神経管	+	—	—	+	✓	—
18. 下顎隆起	+	+	+	+	✓	—
19. 矢状洞溝左変位		✓			+	
20. 口蓋隆起		+			+	

+ : 有, - : 無, ✓ : 不明

表4. 齒冠計測値 (mm)

	門前貝塚No.9人骨				門前貝塚No.12人骨			
	近遠心径		頬舌径		近遠心径		頬舌径	
	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎								
第1切歯	∨	7.76	6.99	7.06	8.67	8.53	7.45	7.46
2	6.02	∨	6.67	∨	6.45	∨	6.43	∨
犬歯	(7.63)	7.79	8.08	∨	7.60	(7.65)	7.94	7.96
第3小臼歯	6.42	6.37	9.42	9.33	6.96	6.42	9.60	9.71
4	∨	(5.05)	∨	∨	6.67	6.50	9.79	9.76
第1大臼歯	(9.58)	(9.46)	11.77	11.79	10.44	10.46	11.97	11.93
2	9.29	9.23	11.52	11.64	9.96	9.89	12.07	12.16
3	∨	∨	∨	∨	7.91	∨	9.58	∨
下顎								
第1切歯	∨	∨	∨	∨	5.20	∨	6.09	∨
2	(4.98)	∨	5.79	∨	5.89	∨	6.08	∨
犬歯	6.42	6.46	7.29	7.13	6.90	∨	7.33	∨
第3小臼歯	(6.48)	6.52	7.72	7.53	6.81	∨	7.98	∨
4	(5.99)	6.70	8.08	8.37	6.79	∨	8.38	∨
第1大臼歯	11.37	11.38	11.16	11.19	11.91	∨	11.97	∨
2	10.77	10.71	10.28	10.33	11.44	∨	10.82	∨
3	∨	10.32	∨	9.88	∨	∨	9.95	∨

表5 非計測的歯冠形質

	No.9		No.12	
	右	左	右	左
シャベル (U I 1)	∨	∨	+	+
深さ (mm)	∨	∨	0.90	0.92
ダブルシャベル				
(U I 1)	-	-	-	-
シャベル (U I 2)	+	∨	+	∨
介在結節 (UP 3)	-	-	-	-
カラベリ結節 (UM 1)	∨	-	∨	∨
ハイボコーン (UM 2)	+	+	+	+
第6咬頭 (LM 1)	-	-	-	∨
第7咬頭 (LM 1)	-	-	-	∨
屈曲隆線 (LM 1)	+	∨	-	∨
遠心トリゴニッド				
隆線 (LM 1)	-	∨	-	∨
プロトスタイリッド				
(LM 1)	-	-	-	∨
咬頭バターン (LM 2)	+5	∨	+5	∨
第6咬頭 (LM 2)	-	∨	-	∨

+ : 有, - : 無, ∨ : 不明

表6. No.9 および No.12人骨四肢骨計測値 (mm)

マルチンNo.	計測項目	No.9		No.12	
		右	左	右	左
鎖骨					
4.	中央垂直径	11	11	9	8
5.	中央矢状径	12	12	13	11
4:5		91.7	91.7	69.2	72.7
6.	中央周径	37	38	35	33
上腕骨					
5.	中央最大径	21	20	23	✓
6.	中央最小径	15	15	16	✓
6:5		71.4	75.0	69.6	✓
7.	骨体最小周径	55	55	56	✓
橈骨					
1.	最大長	✓	192	✓	✓
4.	骨体横径	16	15	15	15
5.	骨体矢状径	10	11	10	11
5:4		62.5	73.3	66.7	73.3
尺骨					
3.	骨体最小周径	33	33	✓	33
11.	骨体矢状径	13	14	✓	11
12.	骨体横径	15	15	✓	15
11:12		86.7	93.3	✓	73.3
大腿骨					
1.	最大長	367	✓	✓	✓
2.	自然位長	364	367	✓	✓
6.	中央矢状径	26	26	✓	✓
7.	中央横径	25	25	✓	✓
6:7		104.0	104.0	✓	✓
8.	中央周径	83	79	✓	✓
9'.	骨体上部最大径	29	28	✓	✓
10'.	骨体上部最小径	21	22	✓	✓
10':9'		72.4	78.6	✓	✓
脛骨					
8.	中央最大径	27	27	✓	✓
9'.	中央横径	19	19	✓	✓
9':8		70.4	70.4	✓	✓
10.	中央周径	74	73	✓	✓
10b.	骨体最小周径	65	65	✓	✓
腓骨					
2.	中央最大径	15	14	✓	✓
3.	中央最小径	11	12	✓	✓
3:2		73.3	85.7	✓	✓
4.	中央周径	42	43	✓	✓

門前貝塚出土人骨 (9号・12号)の歯について

(国立科学博物館・松村博文)

門前貝塚より2体の男性人骨が出土した。2体のうち9号人骨は縄文時代中期末から後期初頭、12号人骨は後期初頭に属するとされる。これら2体の人骨の歯について人類的記載と分析を試みたので、その結果を報告する。

所見

門前貝塚9号および12号人骨の残存する歯の歯種・歯冠計測値・非計測的形質を調査した。計測は藤田(1949)の方法に従った。非計測的形質のカテゴリーはMatsumura(1990)に掲載されている一連の著者の記載にもとづく。計測的な特徴については統計学分析を試みたので後述する。非計測的形質については特筆すべきというほどの特徴ではないが、12号人骨の上顎中切歯のシャベル形が比較的よく発達しており、舌側面での陥凹の深さは左右とも1mm前後を示し、縄文人の平均0.64mm(Matsumura,1990)を上回る。9号人骨の左右上顎第3大臼歯と右下顎第3大臼歯は欠如ないし未萌出の状態である。歯の咬耗は、9号人骨についてはBrocaの2ないし3度であり、12号人骨は1ないし2度である。従って年齢は9号が熟年期、12号が壮年期と推定される。両人骨とともに歯石およびカリエスは認められない。12号人骨の前歯には軽度のエナメル質減形成が認められ、幼少年期において飢餓あるいは病気などによる軽い栄養失調を経験したことが示唆される。なお、両人骨とともに風習的抜歯が左上顎側切歯に施されている。

統計学的分析結果

計測値にもとづく門前貝塚9号・12号人骨の東北地方縄文人や他地域の縄文人、近世アイヌならびに現代日本人との類似関係は、ベンローズの距離を算出することによって表した。これら比較集団についてはMatsumura(1989)に掲載されているデータを用いた。計測項目につ

いては、比較集団において資料数の少ない切歯と犬歯の計測項目を除き、小白歯と大臼歯の近遠心径と歯冠頬舌径を用いた。また9号人骨は上顎第2小臼歯を欠くので、この歯に関する項目も除外した。従って計算に用いたのは14項目である。

図1はペンローズの大きさ距離 (size distances) にもとづく集団間の関係を多次元尺度法によって示したものである。9号人骨の歯の大きさは縄文人としては平均的であり、特に小さな歯をもつ傾向を示す北海道や東北地方縄文人の特徴をもつ。12号人骨の歯は、縄文人としてはかなり大きく、現代日本人の平均的な大きさをも越える。

図2は歯の全体的なプロポーションにもとづく門前貝塚人骨の各集団との類似関係をペンローズの形態距離 (shape distances) で示したものである。9号人骨は縄文人全体や近世アイヌによく類似し、現代日本人には最も類似しない結果となった。12号人骨も同様の関係が示されたが、なかでも東北地方縄文人に最もよく類似することが明らかになった。

総括

門前貝塚出土の2体の男性人骨の歯について人類学的分析をおこなった結果、推定年齢は9号人骨が熟年、12号人骨が壮年であった。2体とも左上顎側切歯に抜歯が施されていた。12号人骨にはエナメル質減形成が認められ、成長初期の段階で、飢餓ないし病気などによる栄養失調を経験したことが示唆された。門前貝塚9号人骨の歯の大きさならびにプロポーションについては、縄文人としての特徴がよく示された。12号人骨の歯は上顎中切歯のシャベルがよく発達していることや全体的な歯の大きさがかなり大きいことなど、縄文人の平均的特徴からはやや外れた傾向が認められたが、プロポーションに関しては東北地方縄文人との強い類似性が示された。

文献

藤田恒太郎,1949:歯の計測規準について. 人類学雑誌,61:27-32.

Matsumura, H.,1989 : Geographical variation of dental measurements in the Jomon population. J. Anthropol. Soc. Nippon, 97:493-512.

Matsumura, H.,1990 : Geographical variation of dental characteristics in the Japanese of the Protohistoric Kofun period. J. Anthropol. Soc.Nippon, 98 : 439-449.

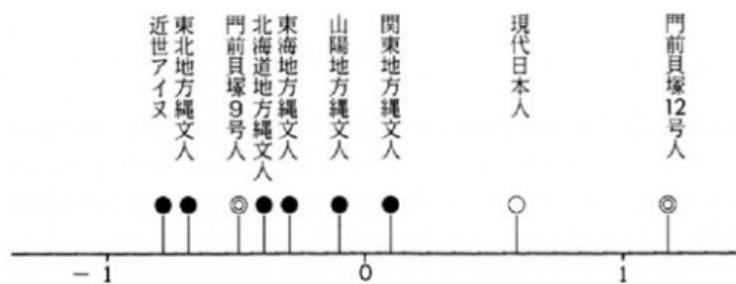
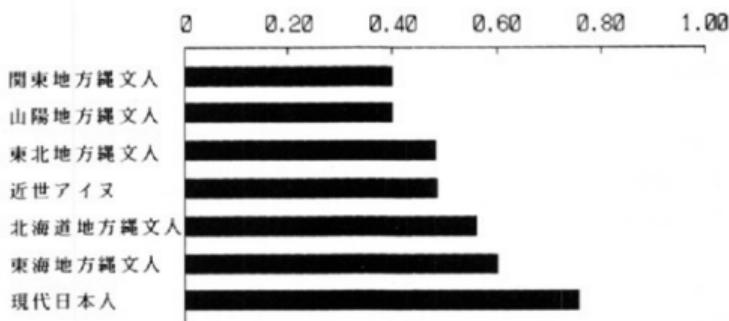


図1 ベンローズの大きさ距離にもとづく集団間の関係

門前貝塚9号人からのペンローズの形態距離



門前貝塚12号人からのペンローズの形態距離

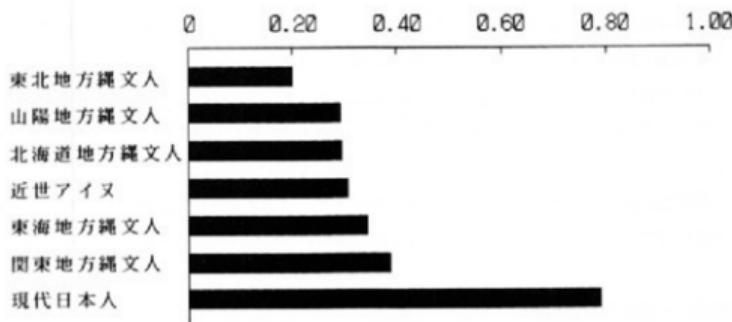


図2 門前貝塚人からのペンローズの形態距離

花粉分析・珪藻分析

花粉分析

I. 試料

- J-5 北壁セクション10層
- J-5 北壁セクション11層

II. 分析方法

処理方法

- 1) 各試料1kgをビーカーに入れ、蒸留水を加えてよくかき混ぜ、24時間放置した後、静かに容器を傾けて上澄みの液の半分を捨てる作業を1時間繰り返す。この操作によって、試料に含まれる粘土の微粒子を除去する。
- 2) 上澄み液が透明になったのち、沈殿物の水分を除去して50%弗化水素を加えて24時間ドライ内に放置する。この処理によって粘土中の珪酸分を除去する。
- 3) 弗化水素を除去したのち、3回蒸留水で試料を洗う。
- 4) 試料に酢酸を加え、湯煎により30分加熱したのち、酢酸を除去し、無水酢酸：硫酸の9:1液を加えるいわゆるアセトリシス法をおこない、試料中の繊維質を除去する。
- 5) 3回水洗いをしたのち、塩化亜鉛の飽和溶液（比重2）を加え、よく拡散させたのち、1分間に2000回転の速度で1時間遠心分離する。つぎに上に浮いた花粉をとり、3回水洗いする。
- 6) 最終的に残った試料にグリセリンゼリーを加えて、スライドグラスに滴下し、カバーグラスをのせてスライドを作成する。スライドは各試料について20枚に達した。

検鏡及び産出率の算定方法

作製した全スライドを400倍の光学顕微鏡で検鏡して、視野に出現するすべての化石花粉・胞子を同定した。産出率は花粉・胞子の総数を基数として%で表現してある。

III. 分析結果

1) J-5 北壁セクション10層

炭質物が非常に多く、花粉・胞子の産出はわずかである。検出された花粉は次の通りである。

樹木

Cryptomeria (スギ)	1	0.64%
Picea (トウヒ属)	2	1.29
Abies (モミ属)	5	3.23
Ulmus/Zelkoba (ニレ/ケヤキ属)	31	20.00
Betula (カバノキ属)	5	3.23
Alnus (ハンノキ属)	6	3.87
Quercus (コナラ属)	5	3.23
Pterocarya (サワグルミ属)	2	1.29
Eleagnus (グミ属)	1	0.64

草本類

Carduoideae (キク亜科)	59	38.06
Gramineae (イネ科)	3	1.94
Prantago (オオバコ属)	1	0.64
Humulus (カナムグラ属)	1	0.64
Cyperaceae (カヤツリグサ科)	1	0.64

シダ植物

Polypodiaceae (オシダ科)	32	20.65
----------------------	----	-------

計 155 99.96

2) J-5 北壁セクション11層

炭質物がきわめて多く、花粉・胞子で検出されたものはきわめてわずかである。

樹木花粉

Picea (トウヒ属)	6
Abies (モミ属)	2

草本類

Gramineae (イネ科)

5

シダ植物

Polypodiaceae (オシダ科)

2

IV. 考察

2試料に多数含まれている炭質物は、人による火の使用を示しているものと解釈される。2試料とも炭質物が多く、花粉の含有率はきわめて低い。第1回目の分析で花粉の含まれかたが少ないことがわかったので、1試料につき1kgという大量の試料を分析に供した。通常の分析では、10gもあれば数百個の花粉が含まれているのであるが、本試料は含有率がきわめて低いためこのように大量の試料を分析したのである。

花粉の含まれかたが少ないということは、花粉の堆積時に遺跡周辺が乾燥していたためと考えられる。花粉は酸化に弱いので、湿った所や水中に落下した場合にのみ、化石として保存されるからである。逆に考えると、わずかでも分解されずに残った花粉・胞子は、当遺跡周辺にたくさん生えていた可能性がある。

検出された花粉から古植生を復元することが可能なのは、J-5北壁セクション10層だけである。10層の堆積時には、遺跡背後の地域ではニレ属あるいはケヤキ属、ハンノキ属、コナラ属、カバノキ属、グミ属、サワグルミなどの広葉樹林が分布していたと推定される。針葉樹は山地や丘陵からの飛来花粉と考える。

一方、遺跡付近にはキク亜科やイネ科、カヤツリグサ科、オオバコ属、カナムグラ属、オシダ科などの草本やシダ植物が生えていたと推定される。花粉の形態からは属あるいは科のレベルまでしか同定できない。本遺跡が植生上ナクラス域の海浜にあることを考慮すれば、最も多く検出されたキク亜科は、ハマニガナ、イネ科はコウボウ、ハマニンニク、カヤツリグサ科はコウボウムギ、コウボウシバなどの塩生植物である可能性が高い(宮脇、1977)。

11層については、わずかに検出された針葉樹花粉は飛来したものと判断される。イネ科、オシダ科は遺跡付近に生えていた可能性がある。

珪藻分析

I. 試料

J-5 北壁セクション10層

J-5 北壁セクション11層

II. 分析方法

乾燥試料5gを300mlのビーカーに入れ、10%の過酸化水素水を加えて10分間煮沸した後、2時間放置して沈殿させてから上澄み液を捨て、再び蒸留水を加えて上澄み液が透明になるまでこれを繰り返す。最後に上澄み液を捨てて、沈殿残渣を18×18mmのカバーガラスに滴下乾燥させて、ブルーガラスでスライドグラス上に封入固定して、スライドを作成する。

検鏡は40倍対物レンズ（倍率400倍）の光学顕微鏡を用いてカバーガラスの全域を走査する。

III. 分析結果

2試料とも珪藻化石は全く認められなかった。

IV. 考察

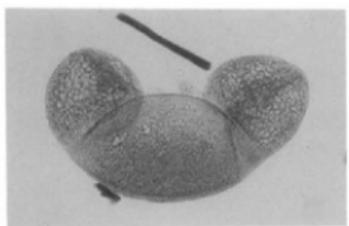
珪藻化石が全く入っていないことは、遺跡面への海水の流入がなかったことを示すものと解釈される。

引用文献

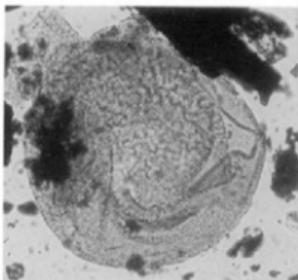
宮脇 昭編 (1977) 日本の植生. 学研, 535P

写真の説明

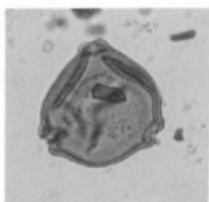
- | | | |
|--------|----------|----------|
| 1. | モミ属 | (本体63×μ) |
| 2. | トウヒ属 | (本体70×μ) |
| 3. | カバノキ属 | (26μ) |
| 4. | ニレ属/ケヤキ属 | (26μ) |
| 5. | サワグルミ属 | (30μ) |
| 6 a, b | キク亜科 | (34μ) |
| 7. | ヨモギ属 | (19μ) |
| 8. | オシダ科 | (30×20μ) |



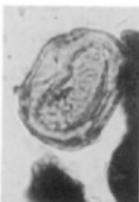
1



2



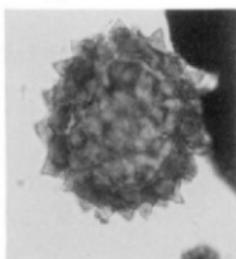
3



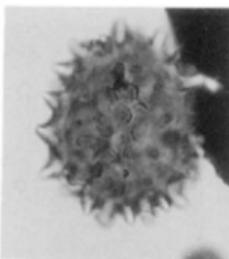
4



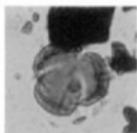
5



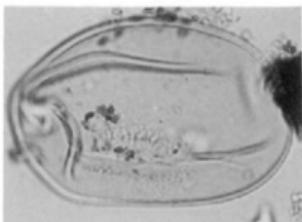
6 a



6 b



7



8

陸前高田市文化財調査報告第16集

門 前 具 塚

—県道広田半島線の改修に伴う緊急発掘—

発 行 日 1992年3月

編集・発行 陸前高田市教育委員会

岩手県陸前高田市高田町字館の冲110

TEL (0192) 54-2111

印 刷 (有) 高 田 活 版

岩手県陸前高田市高田町字馬場前114

TEL (0192) 55-2694



付図1 配石遺構群